

平成25年度
東海地震についての
県民意識調査

静岡県危機管理部危機情報課

東海地震についての県民意識調査

目 次

I 調査の概要と調査結果の要約

1 調査の概要

1-1	調査目的	1
1-2	調査内容	1
1-3	調査実施概要	2
1-4	標本構成	3
1-5	集計・分析におけるパターン分類の説明	4
1-6	摘要と標本誤差	5

2 調査結果の要約

2-1	東海地震について	6
2-2	日ごろの防災対策について	6
2-3	住宅の耐震補強について	7
2-4	自主防災組織・防災訓練について	8
2-5	東海地震が突然発生したときの行動について	8
2-6	警戒宣言が発せられたときの行動について	9
2-7	地震に関する情報について	10
2-8	東日本大震災以降の防災対策について	11

II 東海地震についての県民意識調査結果

1 東海地震について

1-1	東海地震への関心度	13
1-2	2～3年前に比べての関心度	16
1-3	東海地震発生メカニズムの認知と情報の入手先	19
1-4	東海地震による家屋の被害程度	23
1-5	東海地震発生時の津波の到達時間の認知	27
1-6	東海地震で想定される被害想定	30
1-7	東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法	31

2 日ごろの防災対策について

2-1	災害時に利用できる食料の備蓄日数	34
2-2	飲料水の備蓄日数	43
2-3	家具類の固定	51
2-4	ブロック塀・門柱などの安全点検	54
2-5	東海地震に備えての防災対策	55
2-6	指定避難地の認知	63

3	住宅の耐震補強について	
3-1	家屋の構造と耐震診断・耐震補強	65
3-2	プロジェクト“TOUKAI-O”の認知	68
3-3	耐震化に関する行政への要望	72
4	自主防災組織・防災訓練について	
4-1	町内会への加入	76
4-2	自主防災組織への加入と活動状況	77
4-3	自主防災組織の抱える課題	84
4-4	自主防災組織の活性化のための方策	86
4-5	地震防災訓練への参加状況	88
4-6	避難所で避難生活を送る場合の心配ごと	94
5	東海地震が突然発生したときの行動について	
5-1	地震が突然発生したときの行動	95
5-2	地震発生後の防災活動への参加	98
5-3	地震が突然発生したときの自分自身の安全性	101
5-4	地震が突然発生したときの避難行動	104
6	警戒宣言が発せられたときの行動について	
6-1	警戒宣言発令時の行動	107
6-2	避難該当地域であるかの認識	110
6-3	居宅で警戒宣言が発せられた場合の避難	111
7	地震に関する情報について	
7-1	東海地震に関連する情報体系の認知	114
7-2	東海地震予知の可能性	117
7-3	注意情報発表時の行動	119
7-4	注意情報発表時の行政への要望	121
7-5	津波警報改善の認知	123
7-6	特別警報の運用開始の認知	126
7-7	緊急地震速報についての認知	128
7-8	緊急地震速報入手時の行動	133
7-9	地震防災に必要な情報の入手状況	135
7-10	「自主防災」新聞の配布方法について	138
8	東日本大震災以降の防災対策について	
8-1	新たに実施した・今後1年間以内に実施する予定の準備や行動	140
8-2	今後の行政への要望	154
付	調査票（単純集計入り）	163

I 調査の概要と調査結果の要約

1 調査の概要

1-1 調査目的

静岡県民の東海地震に対する防災対策の実施状況や東海地震注意情報発表時及び警戒宣言発令時の対応・行動等を調査し、その意識の実態や経年的な変化等を把握することにより、地震防災に係る施策を検討するうえでの基礎資料を得るため。

1-2 調査内容

本調査の質問内容の概要は、以下のとおりである。詳細については巻末の「付 調査票」を参照。

- 1 東海地震について
- 2 日ごろの防災対策について
- 3 住宅の耐震補強について
- 4 自主防災組織・防災訓練について
- 5 東海地震が突然発生したときの行動について
- 6 警戒宣言が発せられたときの行動について
- 7 地震に関する情報について
- 8 東日本大震災以降の防災対策について

本調査は、以下の要領で実施した。

- (1) 母集団 県内に居住する満20～74歳の男女（抽出時点）
- (2) 標本数 2,000サンプル
- (3) 標本抽出 選挙人名簿より無作為2段抽出（平成25年9月1日現在）
※伊豆市・沼津市・富士宮市・長泉町、浜松市（中区・西区）、湖西市
は平成25年12月1日現在
- (4) 調査地域 賀茂地域（4市町）
…下田市、河津町、南伊豆町、西伊豆町
東部地域（13市町）
…沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、
裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、長泉町、小山町
中部地域（6市町）
…静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、川根本町
西部地域（7市町）
…浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市
以上30市町
- (5) 調査期間 平成25年12月6日～12月20日
- (6) 調査方法 郵送調査法
- (7) 回収状況

地域	標本数	回収数	回収率(%)
賀茂地域	81	33	40.7%
東部地域	602	301	50.0%
中部地域	618	301	48.7%
西部地域	699	369	52.8%
無回答	-	17	-
合計	2,000	1,021	51.1%

※但し、上記回収数は集計対象数。

- (8) 調査機関 (株)サーベイリサーチセンター 静岡事務所

1-4 標本構成

《性別》

	標本数	男性	女性	無回答
賀茂地域	33	12	21	0
東部地域	301	154	147	0
中部地域	301	138	163	0
西部地域	369	166	202	1
無回答	17	0	1	16
全体	1,021	470	534	17

《年代》

	標本数	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 歳 以上	無回答
賀茂地域	33	1	6	3	6	11	6	0
東部地域	301	24	36	58	64	98	21	0
中部地域	301	28	37	54	67	77	38	0
西部地域	369	37	51	64	73	97	45	2
無回答	17	0	0	0	0	1	0	16
全体	1,021	90	130	179	210	284	110	18

《職業》

	標本数	正社員	正社員以外	自営業	農林漁業	学生	無職	その他	無回答
賀茂地域	33	9	11	4	0	0	8	1	0
東部地域	301	110	53	37	7	9	80	5	0
中部地域	301	99	75	21	7	5	85	8	1
西部地域	369	126	85	30	6	6	104	10	2
無回答	17	0	0	0	0	0	1	0	16
全体	1,021	344	224	92	20	20	278	24	19

《居住年数》

	標本数	1 年未 満	1 ～ 10 年未 満	10 年 以上	無回答
賀茂地域	33	1	7	25	0
東部地域	301	7	52	241	1
中部地域	301	10	61	230	0
西部地域	369	13	94	261	1
無回答	17	0	0	1	16
全体	1,021	31	214	758	18

1-5 集計・分析におけるパターン分類の説明

「防災準備度」については、日ごろの防災対策の準備度に関連する質問を設定し、それぞれに得点を与えてスケール化し、パターン分類を行った。

パターン分類は、以下の通りである。

1	災害時に利用できる 食料の備蓄日数 問8	1 用意していない 0点 2 1日分 } 1点 3 2日分 } 4 3日分 } 2点 5 4日分 } 6 5日分 } 7 6日分 } 8 7日以上 }
2	飲料水の備蓄日数 問9	1 用意していない 0点 2 1日分 } 1点 3 2日分 } 4 3日分 } 2点 5 4日分 } 6 5日分 } 7 6日分 } 8 7日以上 }
3	家具類の固定 問10	1 大部分固定している 2点 2 一部固定している 1点 3 固定していない 0点
4	東海地震に備えての防災対策 問12	1~14の記入合計が 1~3個 ... 1点 4~7個 ... 2点 8~12個 ... 3点 13~14個 ... 4点 1~14の記入がない場合 } 0点 15 特に備えていない }
5	耐震診断の実施 問14-3	1 ある 1点 2 検討中 } 0点 3 ない }
6	自主防災組織への加入状況 問18	1 入っている 1点 2 入っていない } 0点 3 自主防災組織はない } 4 わからない }
7	地震防災訓練への参加状況 問21	1 参加した(1~3) 各1点 (計3点) 4 機会がなかった (訓練はなかった) } 0点 5 参加しなかった }
合 計		15点

上表の質問について、それぞれの回答の得点を加算し、防災準備度を次のように「高」「中」「低」に分類した。

- 得点合計が「11～15点」の者・・・防災準備度「高」
- 「6～10点」の者・・・防災準備度「中」
- 「0～5点」の者・・・防災準備度「低」

- (1) 図中の「N」は回答総数 (Number) を示し、「M. A.」は複数回答可 (Multi Answer) を、「F. A.」は自由回答 (Free Answer) を示す。
- (2) すべての集計は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても、100%にならず、1%の範囲で増減することがある。
- (3) 回答比率 (%) は、その設問の回答者数を基数 (N) として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超える。
- (4) 標本誤差 (サンプル誤差) はおおよそ下表のとおりである。

$$\varepsilon = 2 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ε : 標本誤差
 n : 標本の大きさ
 P : 回答比率

回答比率	基数	標本誤差	信頼範囲
10% (90%)	1,021	±1.9	8.1~11.9 (88.1~91.9)
20% (80%)	1,021	±2.5	17.5~22.5 (77.5~82.5)
30% (70%)	1,021	±2.9	27.1~32.9 (67.1~72.9)
40% (60%)	1,021	±3.1	36.9~43.1 (56.9~63.1)
50%	1,021	±3.1	46.9~53.1

この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答者が1,021人であり、その設問中の選択肢の回答率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.1である。」

- (5) 図中のグラフについては回答比率により、5%未満については表示していない箇所もある。
- (6) 選択肢において、「その他」の具体的記述欄に同じ内容の回答が多数あった場合は、グラフ中で新たな回答項目として整理し、比較している。

2 調査結果の要約

2-1 東海地震について

東海地震についての関心度については、「非常に関心がある」（52.7%）と「多少関心がある」（43.3%）を合わせた96.0%が関心を示している。「非常に関心がある」は、平成23年度調査（以下「前回」と表記する）より11.1ポイント下回っている。

2～3年前に比べての関心度の変化については、「2～3年前よりも関心を持つようになった」（64.1%）が前回より15.1ポイント下回っている。また、「変わらない」（31.9%）が前回より12.8ポイント上回っている。

東海地震発生のメカニズムについては、「よく知っている」（7.6%）と「ある程度知っている」（65.2%）を合わせた72.8%がメカニズムを認知している。女性（65.9%）より男性（80.4%）の認知率が高くなっている。

東海地震発生のメカニズムに関する知識の入手先については、「テレビ・ラジオ」（91.0%）が約9割を占め、次いで「新聞」（63.0%）、「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」（33.3%）、「雑誌・本」（16.3%）、「自主防災組織」（16.0%）の順となっている。「新聞」は年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られる。

東海地震による家屋の被害程度については、「家の一部が壊れる」（44.6%）と「家のほとんどが壊れる」（23.3%）を合わせた67.9%が何らかの被害があると予想している。

東海地震発生時の津波の到達時間の認知については、「地震発生直後～5分」（57.2%）が前回より15.8ポイント上回っている。

東海地震で想定される被害については、「延焼火災」（36.2%）が最も高く、「津波」（33.5%）、「山・がけ崩れ」（30.6%）、「液状化」（24.8%）の順となっている。

東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法については、「テレビによる報道」（65.8%）が6割を超えている。

2-2 日ごろの防災対策について

災害時に利用できる食料の備蓄については、「7日分」以上用意している家庭が6.7%、「3日分」以上用意している家庭が50.1%、「用意していない」家庭が17.0%で、平均備蓄日数は2.5日となっている。「3日分」以上の備蓄率を経年比較すると、10.5ポイント上回っている。

食料を7日以上用意していない理由については、「7日以上が必要とは知らなかったから」（22.0%）、「保管する場所がないから」（16.6%）、「費用がかかるから」（12.5%）の割合が高くなっている。

食料を7日以上備蓄していない人の食料確保の手段については、「避難所でもらう」（27.1%）、「考えていない」（21.1%）、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」（13.3%）の割合が高くなっている。

用意している食料については、「缶詰」（65.9%）、「乾麺（ラーメン・うどん・そば・パスタなど）」（65.1%）、「レトルト食品」（61.1%）、「乾パン」（42.6%）、「菓子」（42.5%）の順となっている。

飲料水の備蓄については、「7日分」以上用意している家庭が11.8%、「3日分」以上用意している家庭が49.9%、「備蓄していない」家庭が18.7%で、平均備蓄日数は2.7日と

なっている。「3日分」以上の備蓄率を経年比較すると前回より12.7ポイント上回っている。

飲料水を7日以上備蓄していない理由については、「保管する場所がないから」(30.9%)、「7日以上が必要とは知らなかったから」(23.9%)の割合が高くなっている。

飲料水を7日以上備蓄していない人の飲料水確保の手段については、「避難所でもらう」(31.6%)、「考えていない」(18.8%)、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」(15.4%)の割合が高くなっている。

飲料水の備蓄方法等で工夫していることについては、「ペットボトルを用意」、「定期的に交換(入替)している」、「分散して置いている」等の意見があった。

家具類の固定については、「大部分固定している」(17.8%)と「一部固定している」(51.3%)を合わせた69.1%が固定を実施している。

家具を固定していない理由については、「手間がかかるから」(20.8%)、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」(19.2%)の順となっている。

ブロック塀や門柱などの安全点検については、「点検した」が16.3%で、**点検結果**は72.9%が「安全」となっている。また、「点検していない」が32.1%、「ブロック塀や門柱などはない」が49.0%となっている。

ブロック塀や門柱を所有しながらも点検していない理由については、「点検方法が分からないから」(31.4%)が最も高く、次いで「点検しなくても大丈夫だと思うから」(17.7%)が主な理由としてあげられている。

東海地震に備えての防災対策については、「非常持出品を用意している」(57.2%)が最も高く、次いで「警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている」(37.9%)、「消火器などを用意している」(37.7%)、「風呂に水を入れている」(28.5%)の順となっている。

用意している非常持出品の品目については、「懐中電灯」(93.8%)が最も高く、次いで「携帯ラジオ」(70.7%)、「非常食」(66.4%)、「飲料水」(63.0%)、「リュックサック」(60.4%)の順となっており、平均準備品目数は9.9品となっている。

指定避難地の認知については、「どこが避難地であるか知っている」(89.2%)が9割近くとなっているが、居住年数別が、「1年未満」では71.0%と低くなっている。

2-3 住宅の耐震補強について

家屋の構造については、「木造住宅」(71.4%)が最も高く、次いで「鉄骨造住宅」(17.3%)、「鉄筋コンクリート造住宅」(9.1%)の順となっている。

「木造住宅」の建築時期については、「昭和56年5月以前」(32.1%)が約3割となっており、「昭和56年5月以前」に建築された木造住宅の**無料耐震診断の認知**については、「知っている」(67.9%)が7割近くを占めている。

「木造住宅」の耐震診断の実施の有無については、「ない」(68.4%)が7割近くとなっており、「ある」は26.1%である。**耐震診断を実施しない理由**については、「診断しても大地震の被害は避けられないと思うから」(36.9%)が最も高くなっている。

木造住宅の耐震診断の結果については、「補強が必要」(83.6%)が8割を超えており、**補強の実施の有無**については、「した」(51.0%)と「検討中」(19.6%)を合わせた70.6%が補強をすることに積極的である。

補強を行わない理由については、「費用がかかるから」(78.6%)が最も高くなっている。

プロジェクト“TOUKAI-0”の認知については、「内容までよく知っている」

(5.8%)と「一部知っている」(33.3%)を合わせた39.1%がある程度内容まで認知している。

プロジェクト“TOUKAI-0”の認知経路については、「県や市町の広報誌」(60.4%)が最も高く、次いで「新聞記事」(37.3%)と「テレビ・ラジオ」(35.8%)、「県や市町のパンフレット」(29.3%)の順となっている。

プロジェクト“TOUKAI-0”を知ってから行動については、「専門家による耐震診断を実施した」(10.0%)、「自宅の耐震補強工事を実施した」(8.0%)、「今の自宅を建て替えることにした」(8.0%)がそれぞれ1割程度であるのに対し、「自宅は木造住宅であり、耐震性は確保されていない(または明らかではない)が、特に何もしていない」(18.3%)が2割近くとなっている。

耐震化に関する行政への要望については、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」(47.7%)が最も高く、次いで「相談窓口の設置」(32.2%)、「なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット」(25.8%)の順となっている。

2-4 自主防災組織・防災訓練について

町内会への加入については、「入っている」(92.3%)が9割を超えている。

自主防災組織への加入については、「入っている」(73.8%)が約7割となっている一方、「わからない」が16.5%となっている。

自主防災組織の活動への参加については、「自主防災組織内で定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している」(57.0%)が半数を超えている。

自主防災組織の活動状況については、「活発である」と「まあまあ活発である」を合わせると62.3%となり、6割程度の人が地区の自主防災組織の活動が活発だと感じている。

自主防災組織の抱える課題については、「防災訓練の内容がマンネリ化している」(48.2%)や「限られた住民だけの活動となっている」(41.4%)が4割を超えている。

自主防災組織の活性化のための方策については、「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」(55.5%)が最も高く、次いで「自主防災組織が、消防団・近隣事業所・学校など他の機関との連携を進めるような施策を行う」(35.3%)、「自主防災組織の役員や指導者に対する教育を行う」(25.0%)の順となっている。

過去1年間における何らかの地震防災訓練への参加率は、65.5%となっており、性別で見ると、女性(62.0%)より男性(69.5%)の参加率が高くなっている。

地震防災訓練に参加しなかった理由については、「仕事や用事があったから」(60.5%)が最も高く、次いで「訓練実施を知らなかったから」(10.5%)、「参加の必要性を感じないから」(6.1%)、「面倒だったから」(5.7%)、「毎回同じ訓練内容だから」(5.1%)の順となっている。

避難所で避難生活を送る場合の心配ごとについては、心配あり(「非常に心配」+「ある程度心配」)の上位5項目は、『自分や家族が病気になったときの医療問題』(91.3%)、『トイレの問題』(89.6%)、『離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる』(88.6%)、『洗濯や入浴の問題』(84.8%)、『食料や水の問題』(84.7%)となっており、いずれも8割以上となっている。

2-5 東海地震が突然発生したときの行動について

地震が突然発生したときの行動でまず最初にすることは「テレビやラジオで正確な情報を得る」(44.7%)が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(21.5%)、

「家族の安否を確認する（災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等）」（11.5%）の順となっている。

次にすることについては「家族の安否を確認する（災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等）」（49.0%）が最も高く、次いで「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」（48.6%）、「テレビやラジオで正確な情報を得る」（39.2%）、「指定された避難先又は安全な場所へ避難する」（36.5%）、「家の中の整理や火の始末をする」（33.7%）の順となっている。

※突発地震時、警戒宣言発令時、注意情報発表時の行動比較は97ページを参照。

地震発生後の防災活動への参加については、「わからない」（47.4%）が最も高く、次いで「参加する」（40.9%）となっている。

参加意向のある地震発生後の防災活動については、「避難の呼びかけ、避難の誘導」（60.8%）が最も高く、次いで「火災発生時の初期消火」（59.8%）、「負傷者の応急手当・搬送」（50.2%）の順となっている。

地震が突然発生したときの自分自身の安全性については、「軽いけがぐらいはするかもしれない」（46.3%）が最も高く、次いで「死ぬ恐れもあると思う」（24.8%）、「まず無事だと思おう」（13.8%）、「大けがをする危険があると思う」（12.5%）の順となっている。

地震が突然発生したときの避難行動については、「市町が指定した避難地」（47.6%）が最も高く、次いで「避難しない」（29.5%）、「自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所」（18.0%）の順となっている。

避難する理由については、「自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」（32.3%）が最も高く、次いで「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」（29.3%）、「自宅の耐震性がないから（自宅が倒壊またはその危険があるから）」（22.0%）の順となっている。

地震発生後に避難を開始する時間については、「地震発生直後～5分」（48.7%）、「6～10分」（32.0%）、「わからない」（9.6%）、「11～20分」（4.4%）の順となっている。

避難するときの交通手段については、「徒歩」（78.9%）が最も高く8割近くを占めている。また、避難時に「自家用車」を使用すると答えた人は7.2%で、**自家用車で避難する理由**については、「子供や高齢者がいるから」（39.2%）が最も高くなっている。

2-6

警戒宣言が発せられたときの行動について

警戒宣言発令時の行動でまず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」（54.7%）が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」（11.3%）、「家族と電話で連絡をとる」（9.0%）の順となっている。

次にすることについては、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」（54.3%）が最も高く、次いで「家族と電話で連絡をとる」（43.6%）、「家の中の整理や火の始末をする」（40.5%）、「飲料水の用意や風呂に水をためる」（31.2%）の順となっている。

※突発地震時、警戒宣言発令時、注意情報発表時の行動比較は97ページを参照。

自宅が警戒宣言発令時に避難の必要な地域にあるかについては、「わからない」（36.9%）、「避難が必要な地域」（31.4%）、「避難する必要のない地域」（29.0%）の順となっている。また、**避難が必要となる理由**については、「自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」（62.9%）が最も高くなっている。

警戒宣言発令時の避難場所については、「市町で指定した避難地」（49.3%）が最も高く、次いで「自宅にいる」（38.4%）、「指定された避難地以外の安全な場所」（8.7%）

の順となっている。

避難するときの交通手段については、「徒歩」(83.7%)が最も高く8割以上を占めている。また、避難時に「自家用車」を使用すると答えた人は6.6%で、**自家用車で避難する理由**については、「避難地が遠いから」(35.0%)、「子供や高齢者がいるから」(35.0%)が最も高くなっている。

避難地における生活については、「体育館や学校校舎など屋内での生活になると思う」(61.6%)が最も高く、約6割となっている。

市町で指定した避難地へ避難しない理由については、「避難地自体が安全だと思わないから」(17.2%)、「高齢者や病人がいるから」(8.1%)などとなっている。

2-7

地震に関する情報について

東海地震に関連する情報体系の認知については、「情報名は知っているが内容までは知らない」(63.5%)が約6割となっている。

東海地震の予知の可能性については、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」(60.6%)が6割程度となっており、予知への期待はあまり高くない。経年比較で見ると、平成13年度の調査以降、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」と「予知は出来ないと思う」の割合が上昇傾向にある。

東海地震注意情報発表時の行動でまず最初にすることについては、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(59.1%)が最も高く、次いで「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」(9.3%)、「家族と電話で連絡をとる」(7.5%)の順となっている。

次にすることについては、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」(57.5%)が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(44.4%)、「家族と電話で連絡をとる」(44.0%)、「飲料水の用意や風呂に水をためる」(36.8%)の順となっている。

※ 突発地震時、警戒宣言発令時、注意情報発表時の行動比較は97ページを参照。

東海地震注意情報発表時の行政への要望については、「緊急物資(食料・飲料水・医薬品等)を準備してほしい」(47.3%)が最も高く、次いで「情報発表後に予想される社会的混乱(交通・通信・物価等)を防止してほしい」(44.7%)、「地震発生までの県民のとるべき行動の広報・啓発をしてほしい」(40.5%)の順となっている。

津波警報改善の認知については、「改善されたことは知っているが内容までは知らない」(58.8%)が最も高く、半数を超えている。

特別警報運用開始の認知については、「運用開始は知っているが発表基準の内容までは知らない」(56.5%)が最も高く、半数を超えている。

緊急地震速報の認知については、「名前も内容も知っている」(59.8%)が6割近くとなっている。

緊急地震速報の精度の誤差については、「知っている」(76.2%)が7割以上を超えており、「知らない」(20.7%)は2割程度となっている。

緊急地震速報を受け取った時の行動を考えたことがあるかについては、「考えたことがある」(73.3%)が7割を超え、「考えたことがない」(22.9%)を大きく上回っている。

緊急地震速報を入手時の行動については、「その場で身の安全を図る」(60.6%)が最も高く、次いで「火元を確認する」(27.3%)、「屋外へ避難する」(7.5%)、「何もしない」(1.6%)の順となっている。

地震防災に必要な情報の入手状況については24項目を「はい」「いいえ」で聞いたところ、「避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある」(77.8%)が前回よりも

27.5ポイント上昇し、「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」(77.6%)、「災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている」(75.0%)、「緊急速報メール(エリアメール)を知っている」(75.0%)、「町内の防災倉庫がある場所を知っている」(74.3%)、「市町が津波避難ビルの指定や、津波避難タワー・命山の建設をしていることを知っている」(68.0%)で6割以上となっている。

自主防災新聞の配布方法については、「全戸配布してほしい」(61.3%)が約6割となっている。

2-8 東日本大震災以降の防災対策について

震災後に新たに実施した防災対策としては、「食料・飲料水を備蓄した」(49.9%)が最も高く、次いで「非常持出品を用意した」(41.2%)が4割を超えている。

今後1年間以内にあらかじめ実施しようと考えている防災対策としては、「家族との連絡方法を決めた」(24.9%)が最も高く、次いで「非常持出品を用意した」(23.7%)、「家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた」(22.1%)、「食料・飲料水を備蓄した」(20.0%)などとなっている。

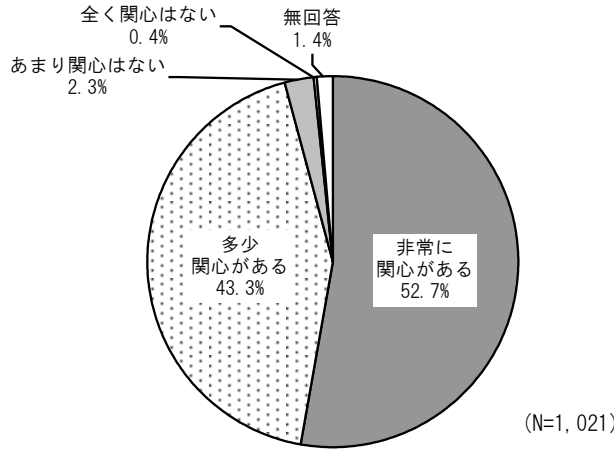
今後の行政への要望については「水・食料の備蓄の強化」(64.9%)が最も高く、次いで「地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備」(45.7%)、「避難通路の安全性確保(障害物撤去、夜間照明の設置など)」(35.5%)、「同報無線等による緊急時の情報伝達の強化」(34.2%)、「防災に関する情報提供の充実」(31.2%)、「ハザードマップの作成、配布」(30.6%)の順となっている。

II 東海地震についての県民意識調査結果

1 東海地震について

1-1 東海地震への関心度

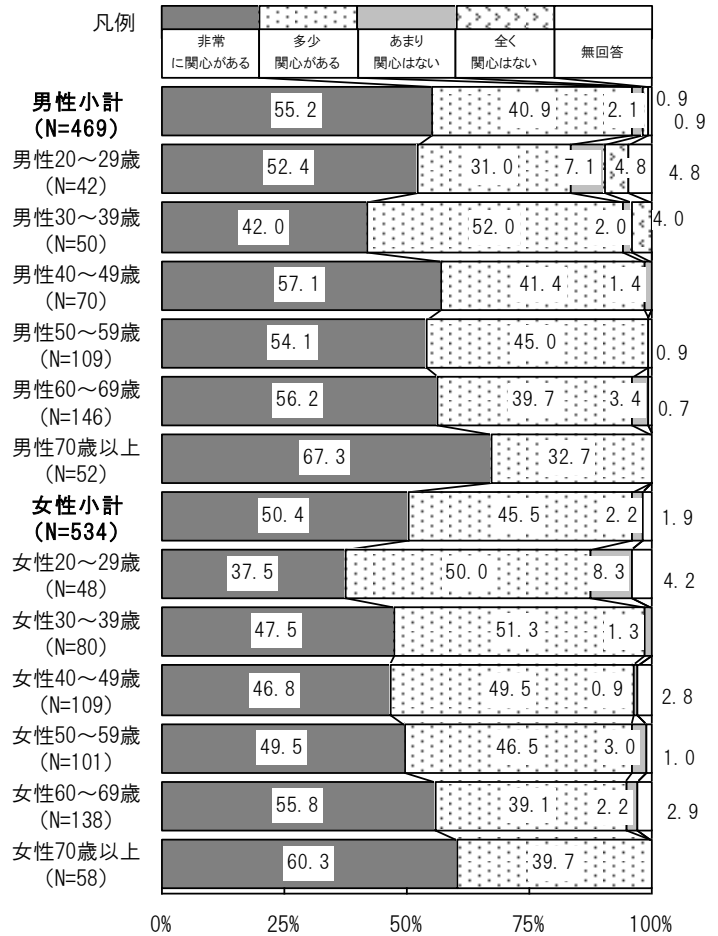
問1 あなたは現在、東海地震にどの程度の関心を持っていますか。



東海地震への関心度についてたずねたところ、「非常に関心がある」(52.7%)と「多少関心がある」(43.3%)を合わせた96.0%が関心を持っている。

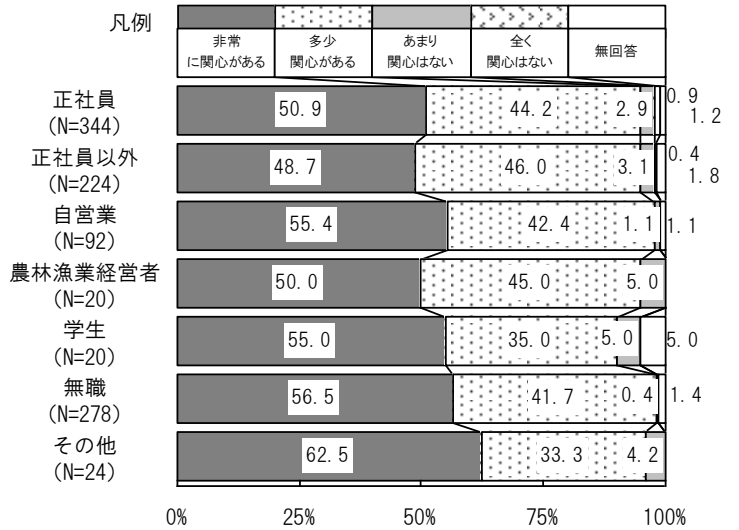
性・年代別でみると、「非常に関心がある」については、男性・女性とも『70歳以上』が最も高くなっている。一方、「あまり関心はない」と「全く関心はない」の合計は、男性・女性とも『20代』で他の年代に比べて高くなっている。

東海地震への関心度 <性・年代別>



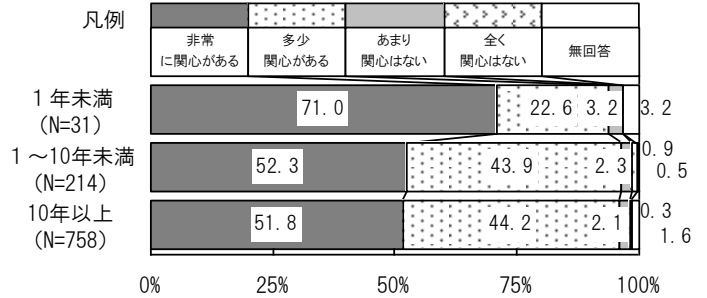
職業別でみると、いずれの職業でも「非常に
 関心がある」が最も高くなっている。

東海地震への関心度 <職業別>



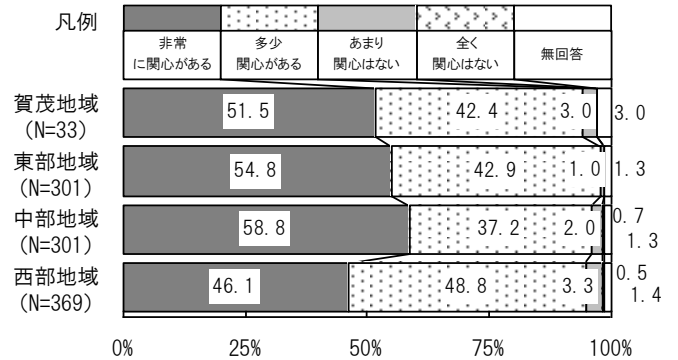
居住年数別でみると、「非常に関心がある」に
 ついては、いずれも半数を超えており、特に『1
 年未満』(71.0%)の関心が高い。

東海地震への関心度 <居住年数別>



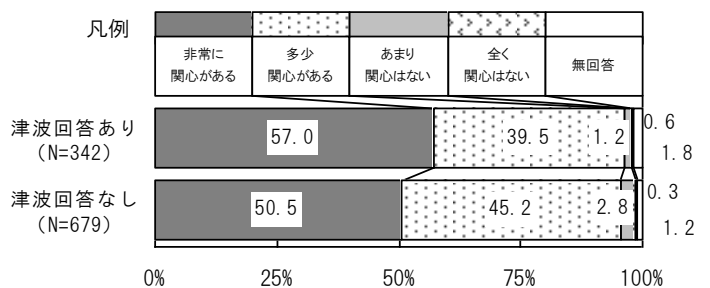
地域別でみると、「非常に関心がある」につい
 ては、最も高い『中部』(58.8%)と最も低い
 『西部』(46.1%)で12.7ポイントの差がある。

東海地震への関心度 <地域別>



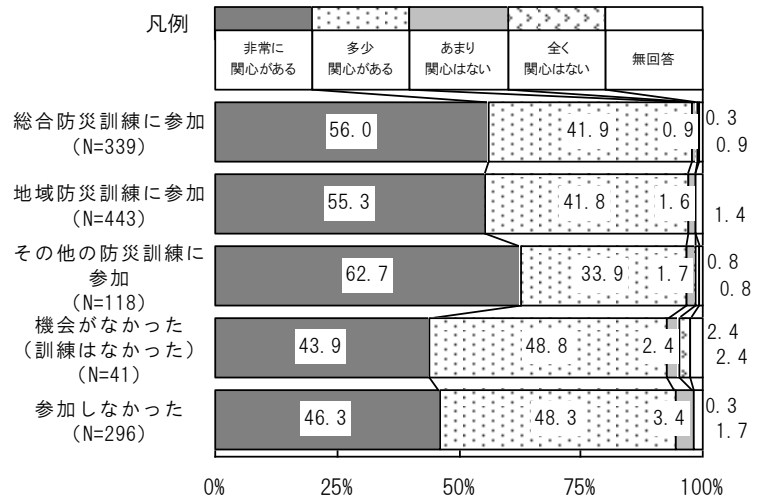
予想される被害が「津波」との回答者とそれ以
 外の回答者別でみると、「非常に関心がある」に
 ついては、『津波回答あり』、『津波回答なし』の
 いずれも半数を超えているが、『津波回答あり』
 が6.5ポイント高くなっている。

東海地震への関心度 <予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>



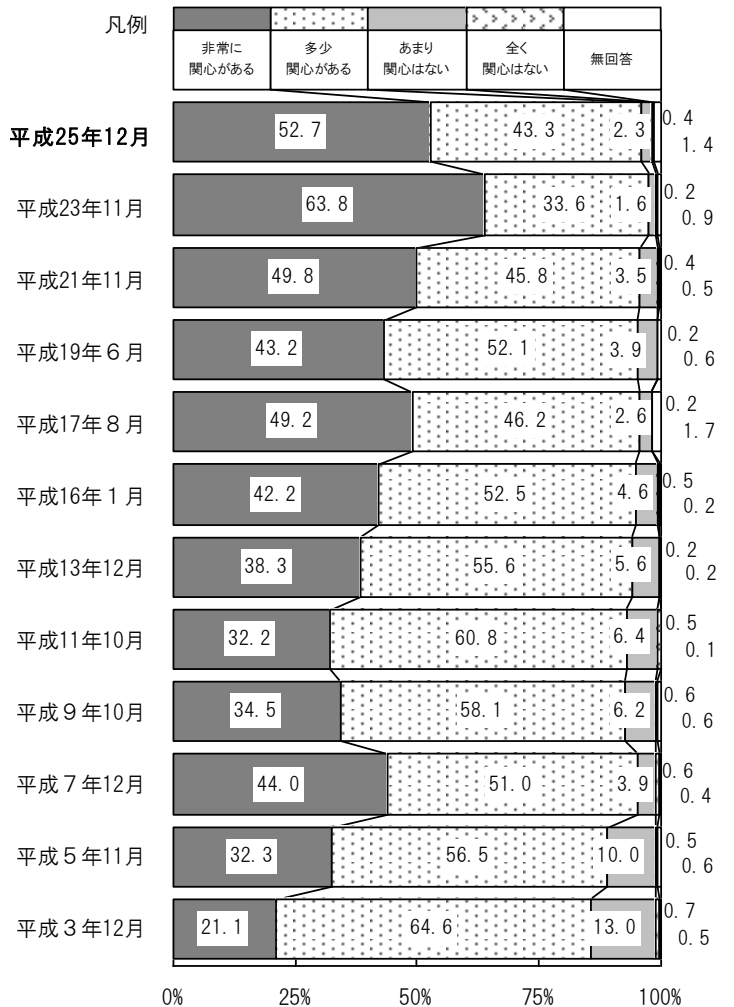
東海地震への関心度 ＜防災訓練参加状況別＞

防災訓練参加状況別にみると、「非常に関心がある」は、『総合防災訓練に参加』(56.0%)、『地域防災訓練に参加』(55.3%)、『その他の防災訓練に参加』(62.7%)で、いずれも半数を超えている。一方、訓練に『参加しなかった』(46.3%)、『機会がなかった(訓練はなかった)』(43.9%)は、いずれかの防災訓練に参加した人に比べ低くなっている。



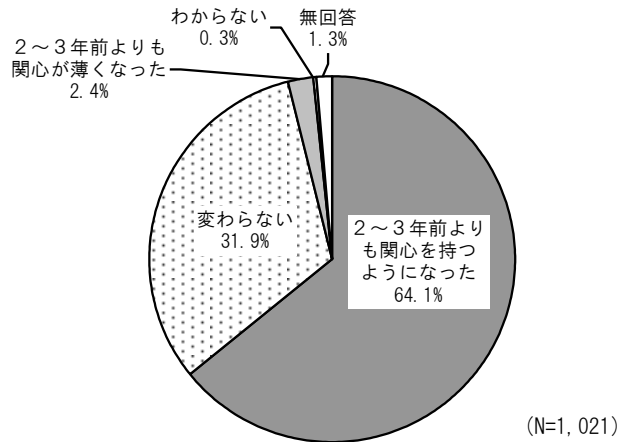
経年比較でみると、「非常に関心がある」は、東日本大震災が起きた前回調査(63.8%)に比べると、11.1ポイント下回っている。

東海地震への関心度 <経年比較>



1-2 2～3年前に比べての関心度

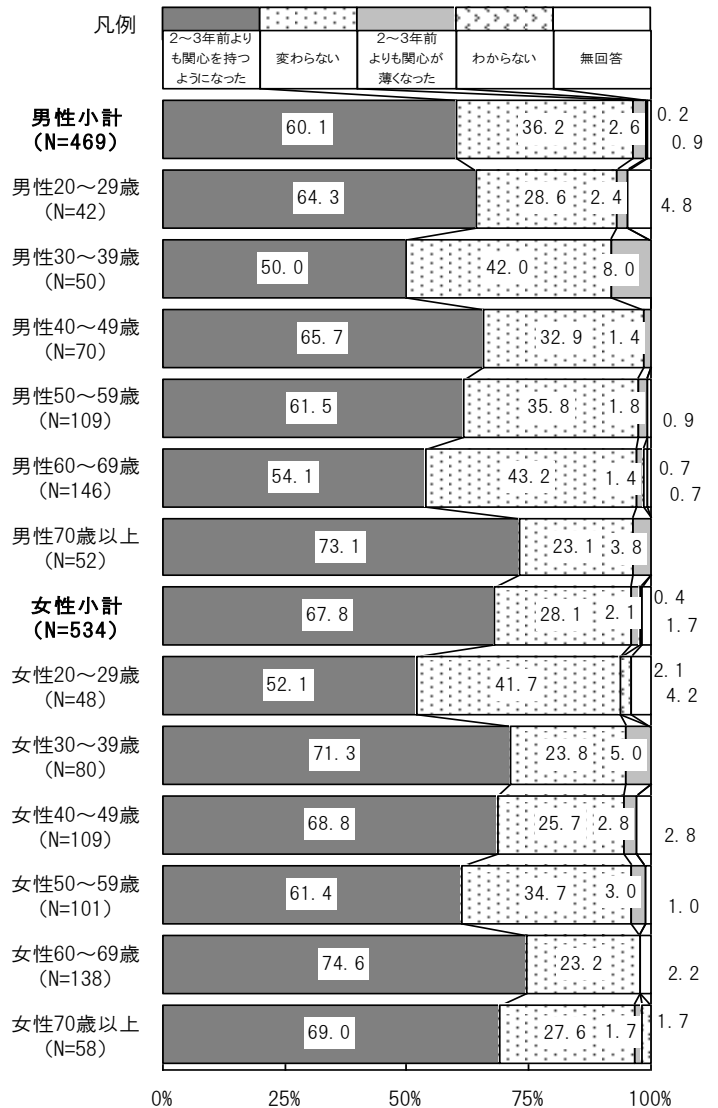
問2 あなたは、東海地震に対して、2～3年前に比べて関心を持つようになりましたか。



2～3年前からの関心度の変化についてたずねたところ、「2～3年前よりも関心を持つようになった」(64.1%)が最も高く、次いで「変わらない」(31.9%)、「2～3年前よりも関心が薄くなった」(2.4%)の順となっている。

性・年代別でみると、いずれの世代でも「2～3年前よりも関心を持つようになった」が半数を超えている。特に『女性60代』(74.6%)は7割を超えている。

2～3年前からの関心度の変化
＜性・年代別＞



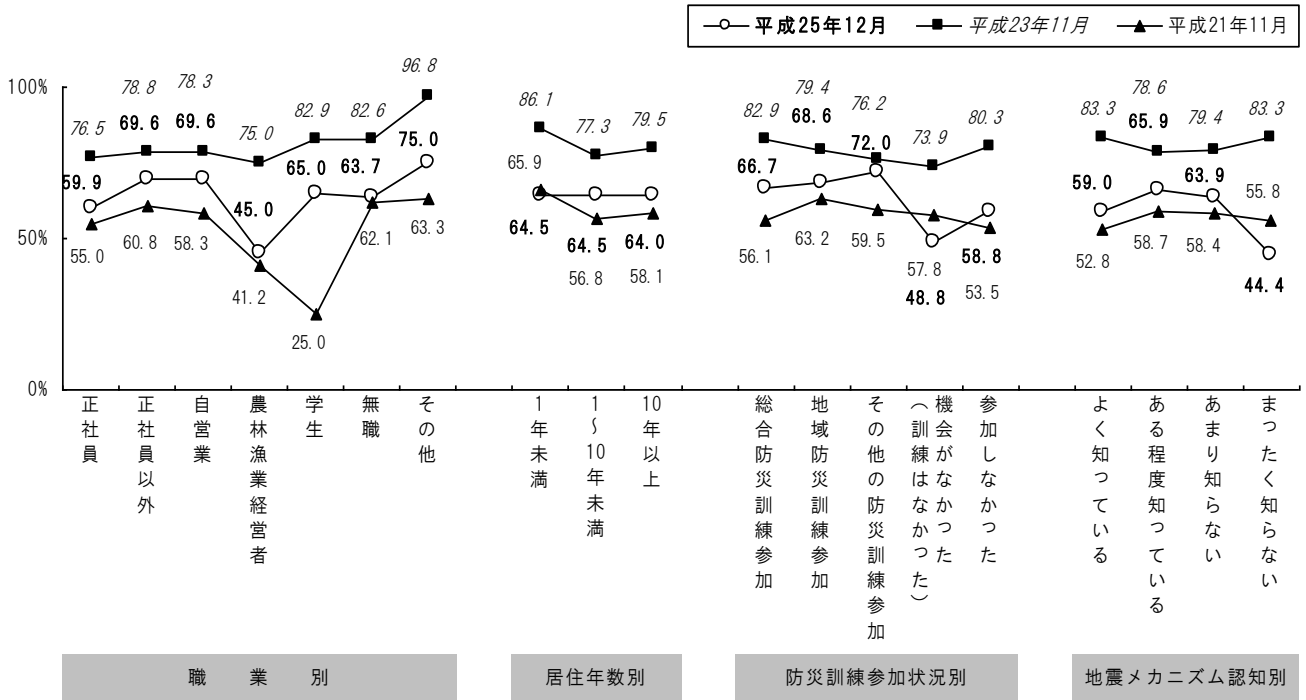
「2～3年前よりも関心を持つようになった」の割合を各属性別でみると、**職業別**では、『その他』（75.0%）、『正社員以外』（69.6%）、『自営業』（69.6%）が他より高くなっている。

居住年数別では、あまり差異はみられない。

防災訓練参加状況別でみると、『機会がなかった（訓練はなかった）』（48.8%）が他より低くなっている。

地震メカニズム認知別でみると、『まったく知らない』（44.4%）が前回調査よりも38.9ポイント下回っている。

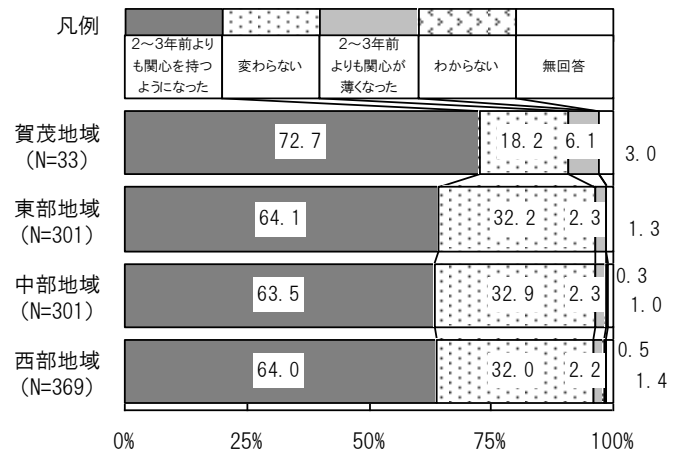
「2～3年前よりも関心を持つようになった」の割合 <属性別>



地域別でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は、いずれの地域でも6割を超えており、『賀茂』（72.7%）で特に高くなっている。

2～3年前からの関心度の変化

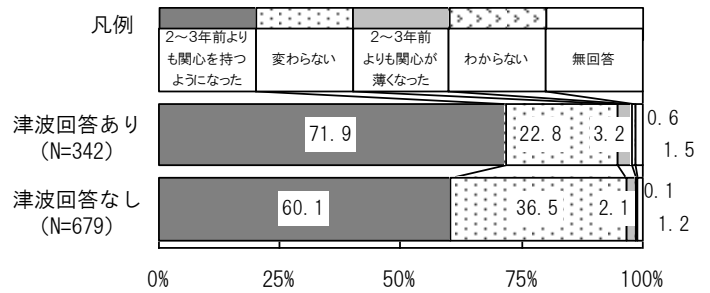
<地域別>



2～3年前からの関心度の変化

<予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>

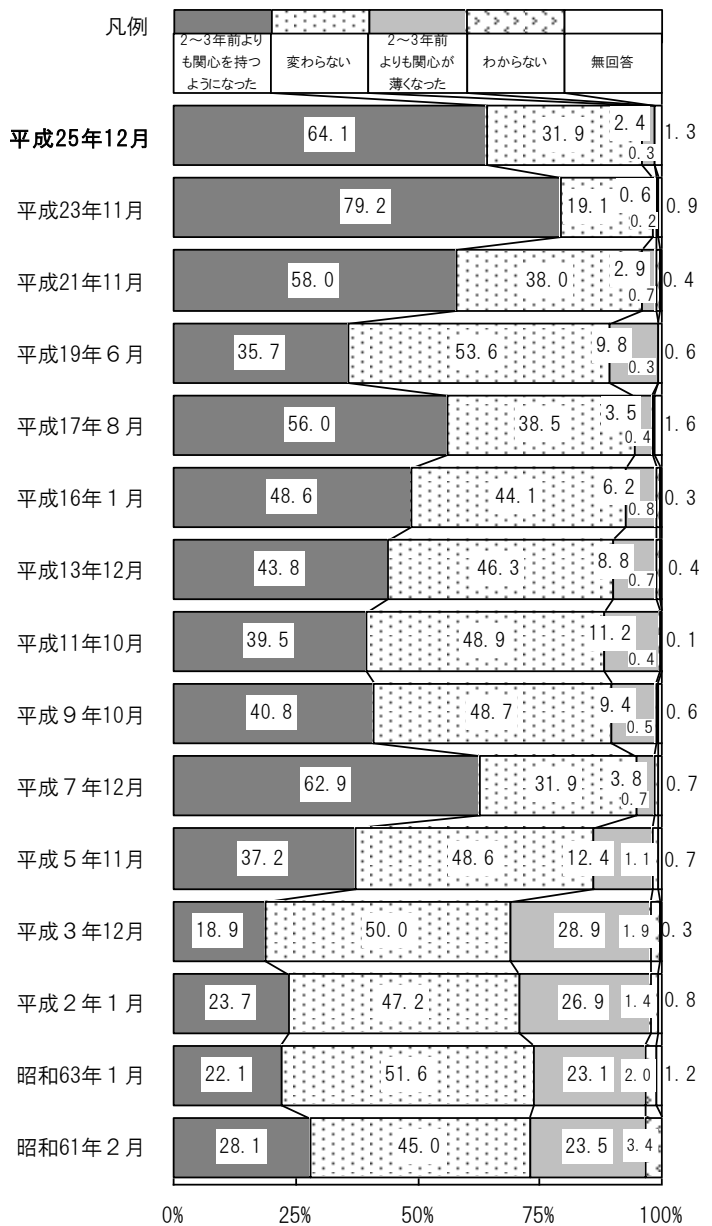
予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は、『津波回答あり』(71.9%)は『津波回答なし』(60.1%)より高く、7割を超えている。



2～3年前からの関心度の変化

<経年比較>

経年比較でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は、平成23年11月の前回調査(79.2%)に比べると、15.1ポイント下回っている。また、「変わらない」(31.9%)が前回より12.8ポイント上回っている。



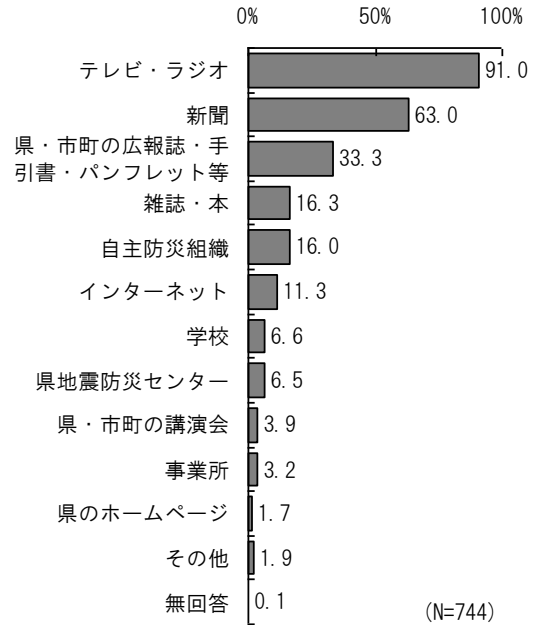
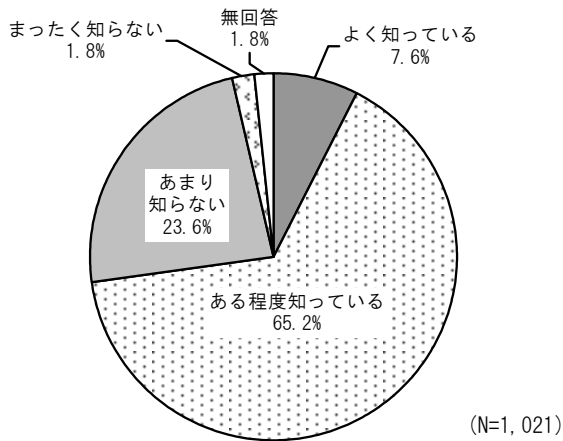
1-3 東海地震発生メカニズムの認知と情報の入手先

問3 あなたは、東海地震が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。

＜問3で「1 よく知っている」「2 ある程度知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。＞

問3-1 その知識はどこから入手しましたか。

(M. A.)

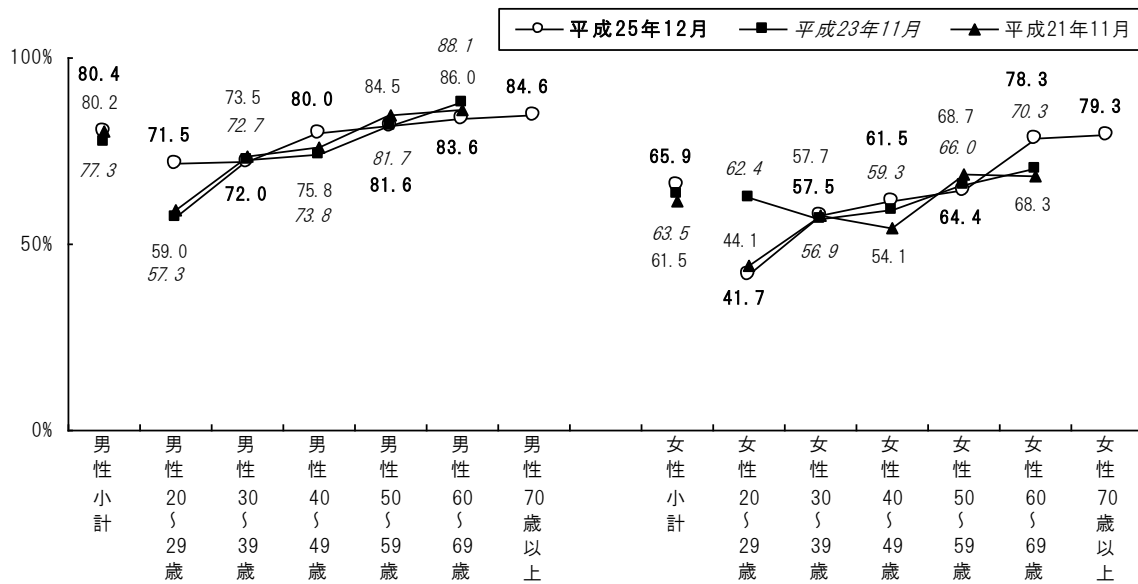


東海地震発生メカニズムの認知についてたずねたところ、「ある程度知っている」(65.2%)が最も高く、過半数を占めている。次いで「あまり知らない」(23.6%)、「よく知っている」(7.6%)、「まったく知らない」(1.8%)の順となっている。

東海地震発生メカニズムの情報の入手については、「テレビ・ラジオ」(91.0%)、「新聞」(63.0%)が過半数となっている。以下、「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」(33.3%)、「雑誌・本」(16.3%)、「自主防災組織」(16.0%)の順となっている。

性・年代別でみると、「認知合計」（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）は、『男性』はいずれの年代においても7割を超えており、年齢が上がるにつれてポイントも高くなっている。また、『女性20代』（41.7%）は他の年代に比べ低くなっている。

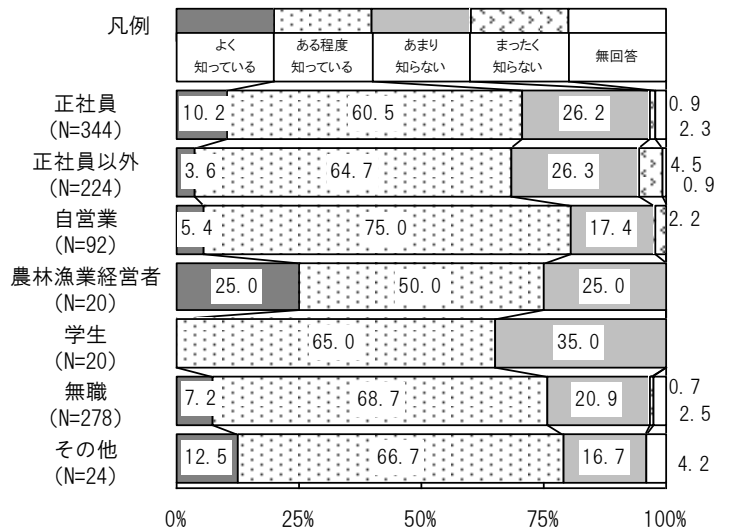
東海地震のメカニズムの認知 <性・年代別>



※平成25年度は「70歳以上」を追加。

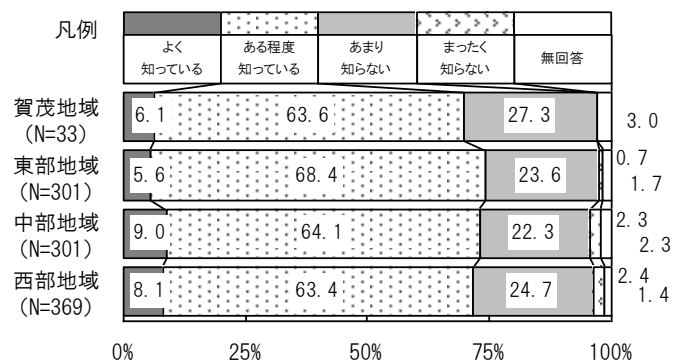
職業別でみると、「認知合計」（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）は、『自営業』（80.4%）が最も高く、次いで『その他』（79.2%）、『無職』（75.9%）の順となっている。

東海地震のメカニズムの認知<職業別>



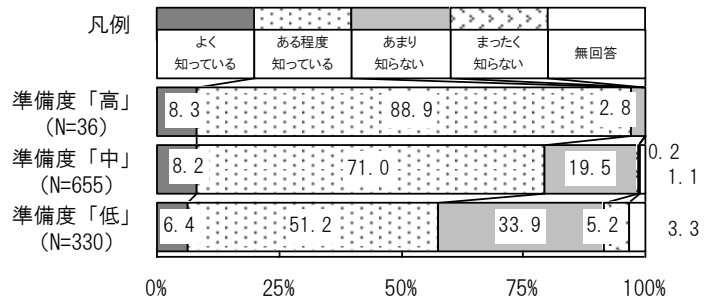
地域別でみると、「認知合計」（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）は、いずれの地域も7割前後であり、東海地震のメカニズムの認知には大きな差が見られない。

東海地震のメカニズムの認知<地域別>



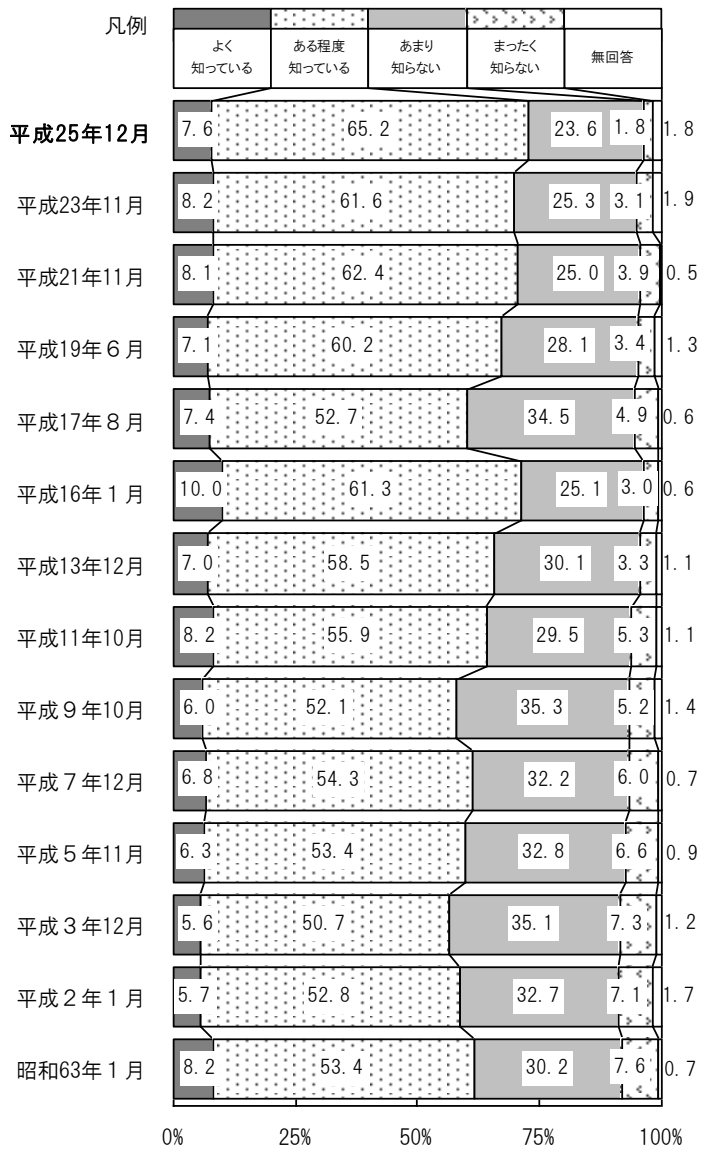
防災準備度別でみると、「認知合計」（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）は、『防災準備度「高」』（97.2%）が他よりも高くなっている。

東海地震のメカニズムの認知 ＜防災準備度別＞



経年比較でみると、「認知合計」（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）は、今回調査（72.8%）では前回調査（69.8%）より3.0ポイント上回っている。

東海地震のメカニズムの認知＜経年比較＞



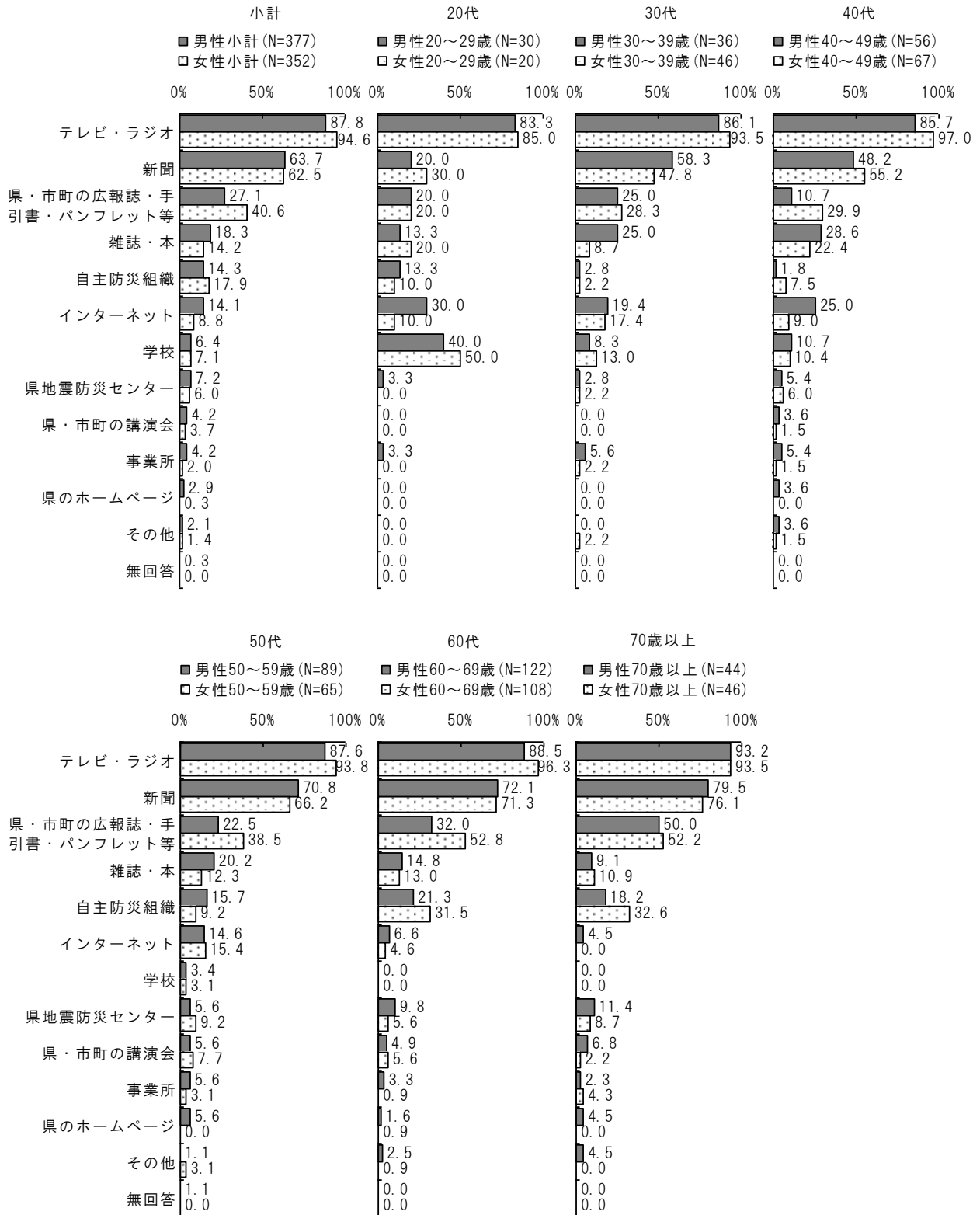
東海地震発生メカニズムの 認知合計 経年比較

「よく知っている」
＋
「ある程度知っている」

平成25年12月	72.8%
平成23年11月	69.8%
平成21年11月	70.5%
平成19年6月	67.3%
平成17年8月	60.1%
平成16年1月	71.3%
平成13年12月	65.5%
平成11年10月	64.1%
平成9年10月	58.1%
平成7年12月	61.1%
平成5年11月	59.7%
平成3年12月	56.3%
平成2年1月	58.5%
昭和63年1月	61.6%

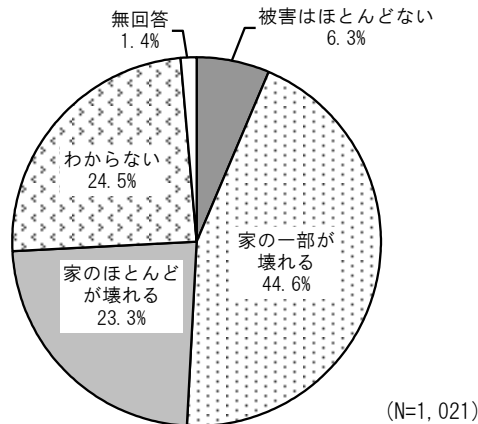
東海地震のメカニズムの情報の入手先について性・年代別でみると、「テレビ・ラジオ」がいずれの性・年代においても圧倒的に多くっており、最も高いのは『女性40代』（97.0%）となっている。また、「インターネット」、「学校」は若い年代、「新聞」、「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」は年齢が上がるにつれて割合が高い傾向にある。

東海地震のメカニズムの情報の入手先 <性・年代別>



1-4 東海地震による家屋の被害程度

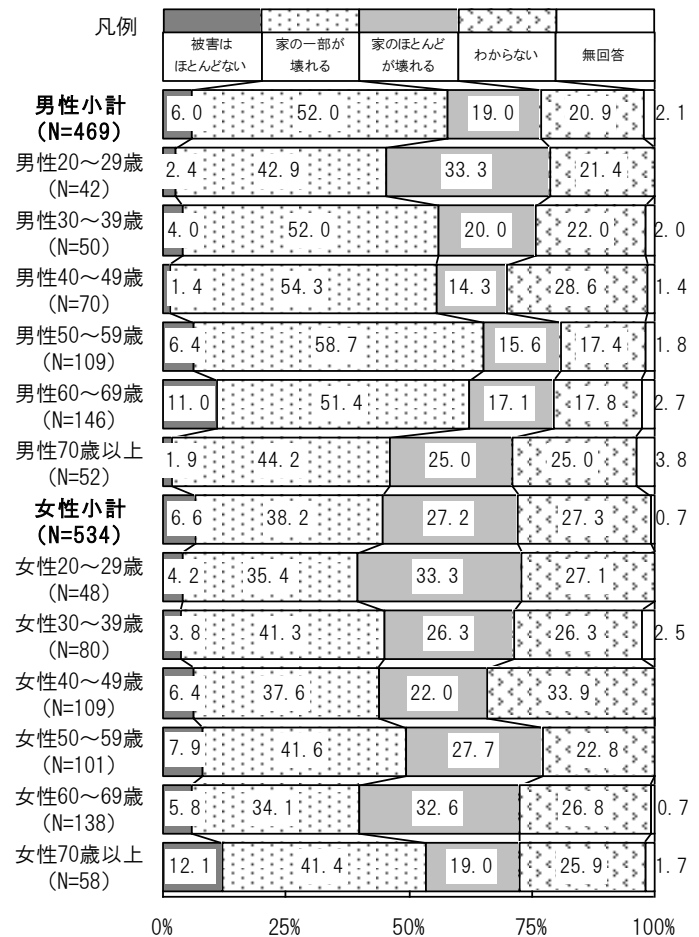
問4 東海地震が起きた場合、あなたのお住まいの家は、どのような被害を受けるとお考えですか。



東海地震による家屋の被害程度についてたずねたところ、「家の一部が壊れる」（44.6%）が最も高くなっており、次いで「わからない」（24.5%）、「家のほとんどが壊れる」（23.3%）、「被害はほとんどない」（6.3%）の順となっている。

性・年代別でみると、「家のほとんどが壊れる」は、『男性』よりも『女性』の方が高く、男性・女性ともに『20代』（33.3%）が最も高くなっている。

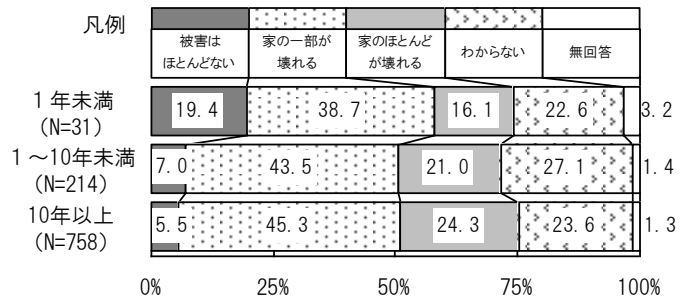
東海地震による家屋の被害<性・年代別>



東海地震による家屋の被害

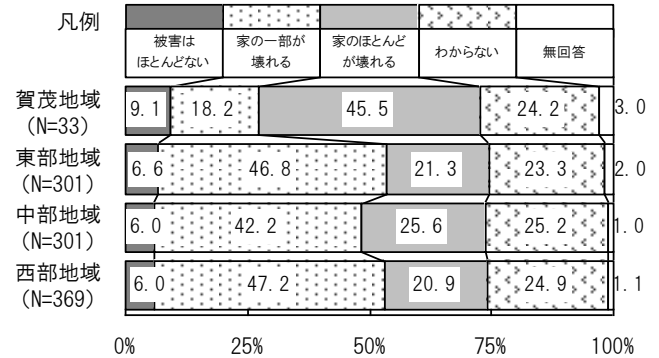
<居住年数別>

居住年数別で見ると、「家の一部が壊れる」＋「家のほとんどが壊れる」は、『10年以上』（69.6%）が高く、『1年未満』（54.8%）とは14.8ポイントの差が見られる。



地域別で見ると、「家のほとんどが壊れる」は、『賀茂』（45.5%）で他と比べて高くなっている。

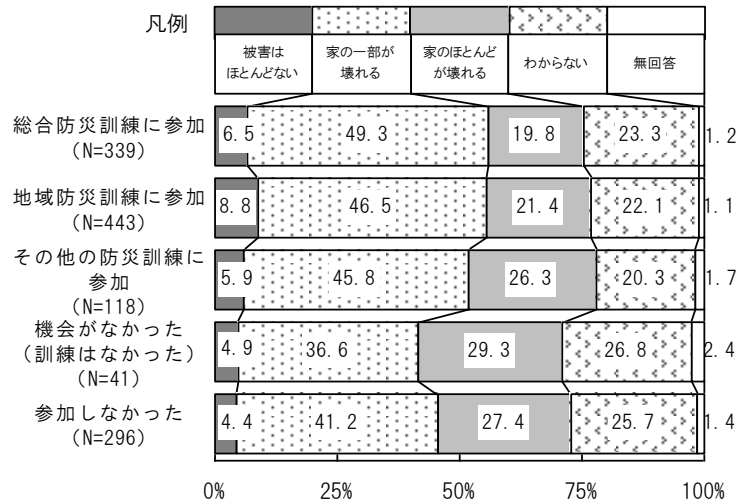
東海地震による家屋の被害<地域別>



防災訓練参加状況別で見ると、「家の一部が壊れる」＋「家のほとんどが壊れる」は、『その他防災訓練に参加』（72.1%）、『総合防災訓練に参加』（69.1%）、『参加しなかった』（68.6%）、『地域防災訓練に参加』（67.9%）、『機会がなかった（訓練はなかった）』（65.9%）の順に高くなっている。

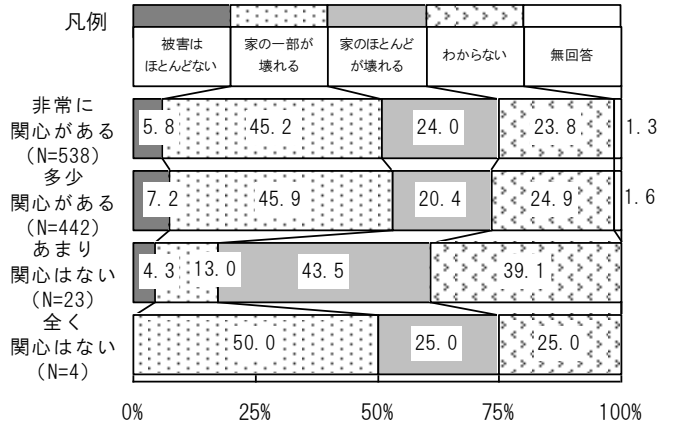
東海地震による家屋の被害

<防災訓練参加状況別>



東海地震への関心度別でみると、『あまり関心はない』と答えた人は、「家のほとんどが壊れる」が他よりも高くなっている。

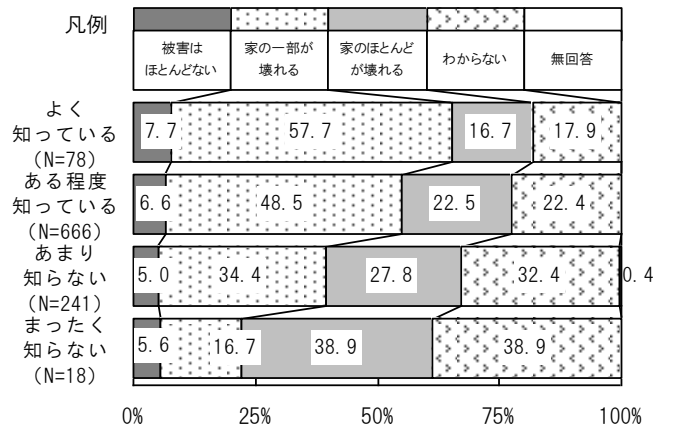
東海地震による家屋の被害
 <東海地震への関心度別>



地震メカニズム認知別でみると、「被害はほとんどない」と「家の一部が壊れる」は、よく認知している人ほど高くなっている。

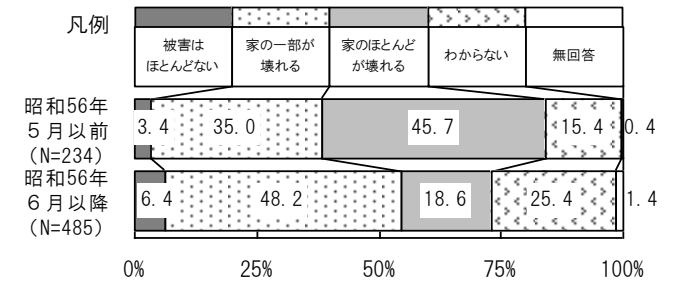
『まったく知らない』と答えた人では、「家のほとんどが壊れる」(38.9%)が他よりも高くなっている。

東海地震による家屋の被害
 <地震メカニズム認知別>



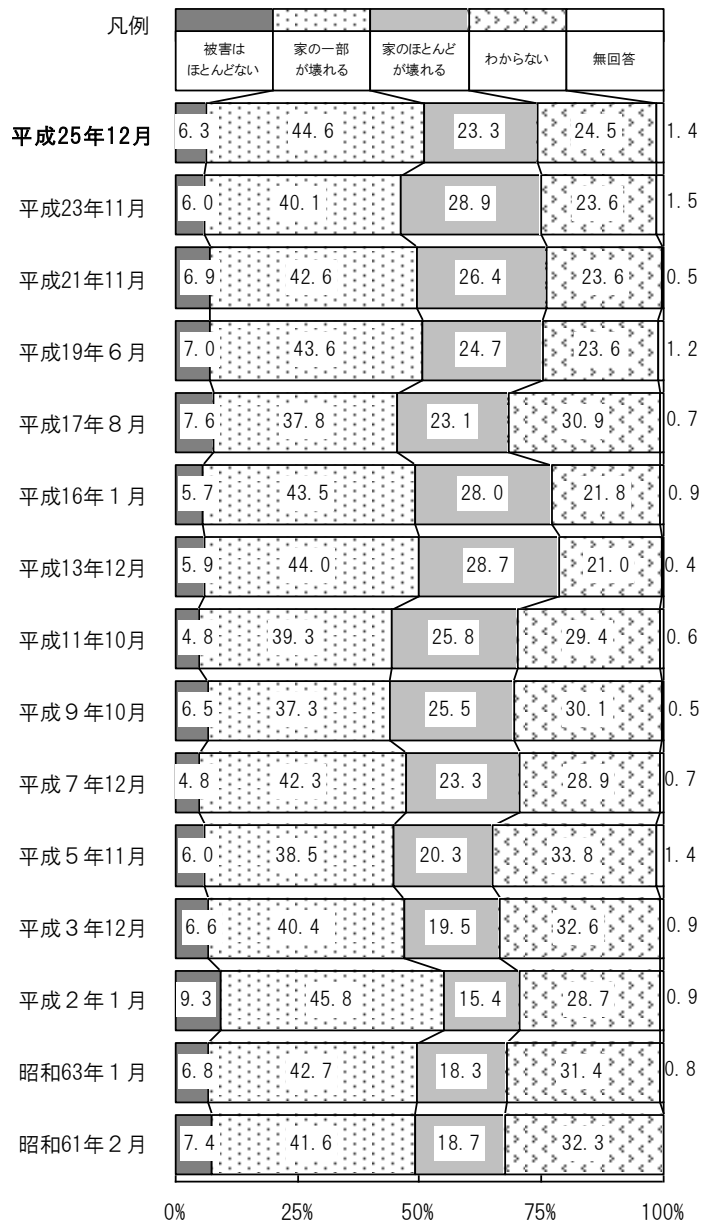
木造住宅建築時期別でみると、「家のほとんどが壊れる」は、『昭和56年5月以前』(45.7%)が、『昭和56年6月以降』(18.6%)より高くなっている。

東海地震による家屋の被害
 <木造住宅建築時期別>



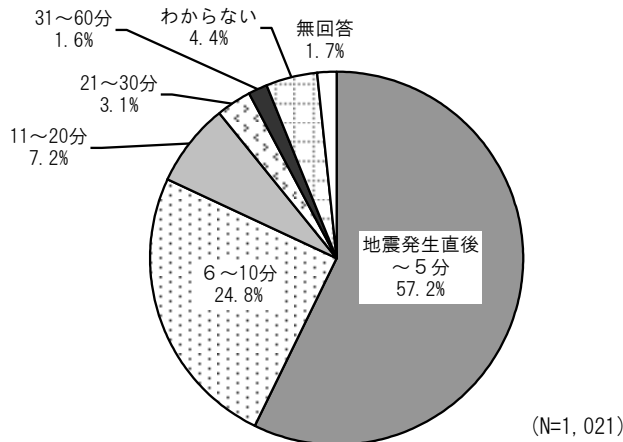
東海地震による家屋の被害<経年比較>

経年比較でみると、「家のほとんどが壊れる」＋「家の一部が壊れる」の今回調査（67.9%）は、前回調査（69.0%）と比べてあまり差は見られない。



1-5 東海地震発生時の津波の到達時間の認知

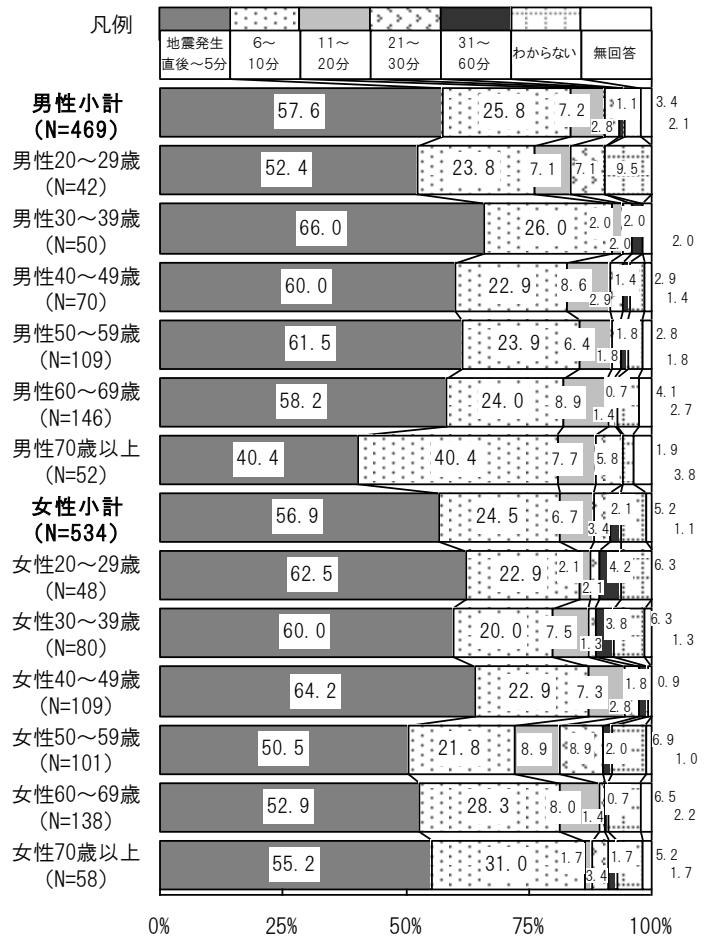
問5 駿河湾内で東海地震が発生した場合、津波は、一番はやいところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。



予想される到達時間は、駿河湾や遠州灘の沿岸では地震発生直後～5分程度であるが、東海地震発生時の津波の到達時間の認知についてたずねたところ、「地震発生直後～5分」(57.2%)が最も高く、次いで「6～10分」(24.8%)、「11～20分」(7.2%)の順となっている。

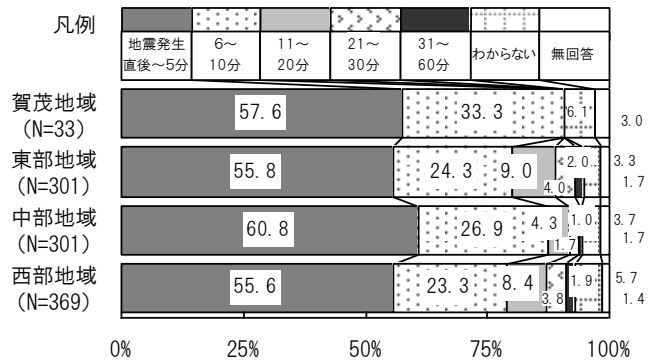
性・年代別でみると、「地震発生直後～5分」と答えた人は、『男性30代』(66.0%)と『女性40代』(64.2%)が高く、いずれも6割を超えている。一方、『男性70歳以上』(40.4%)では、「地震発生直後～5分」と答えた人が全体で最も低く、次いで『女性50代』(50.5%)、『男性20代』(52.4%)の順となっている。

津波の沿岸到達時間 <性・年代別>



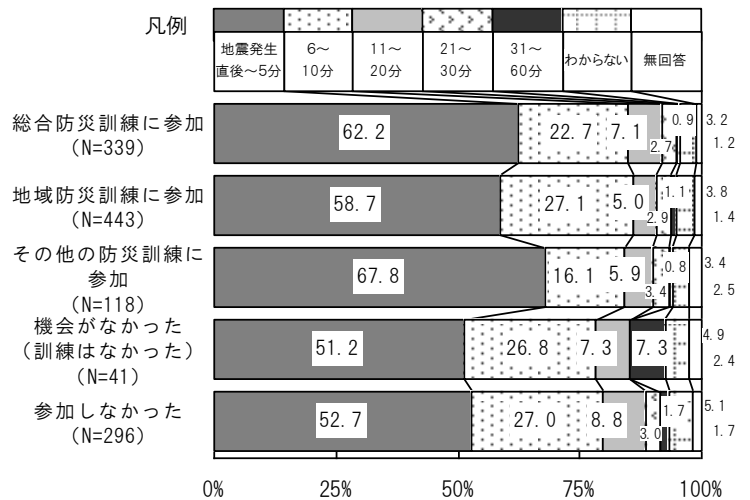
地域別でみると、「地震発生直後～5分」では、『中部』(60.8%)が6割を超えている

津波の沿岸到達時間 <地域別>



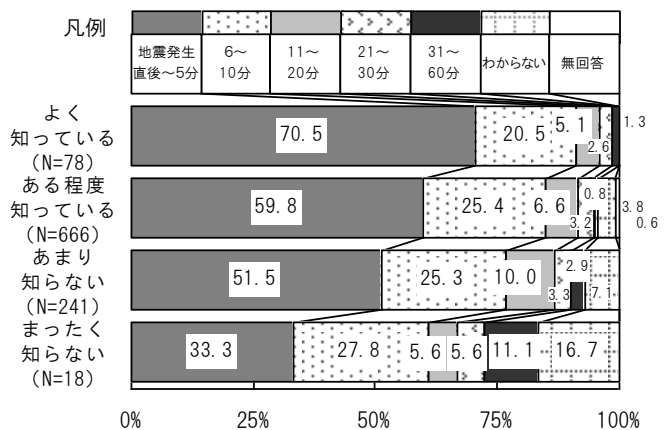
防災訓練参加状況別でみると、「地震発生直後～5分」では、『その他の防災訓練に参加』(67.8%)と『総合防災訓練に参加』(62.2%)で6割を超えている。

津波の沿岸到達時間 <防災訓練参加状況別>



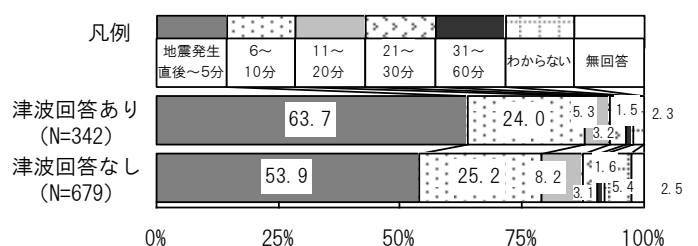
地震メカニズム認知別でみると、東海地震が発生するメカニズムを『知っている』ほど「地震発生直後～5分」が高くなる傾向が見られる。一方、東海地震が発生するメカニズムを『知らない』ほど「わからない」が高い傾向が見られる。

津波の沿岸到達時間 <地震メカニズム認知別>



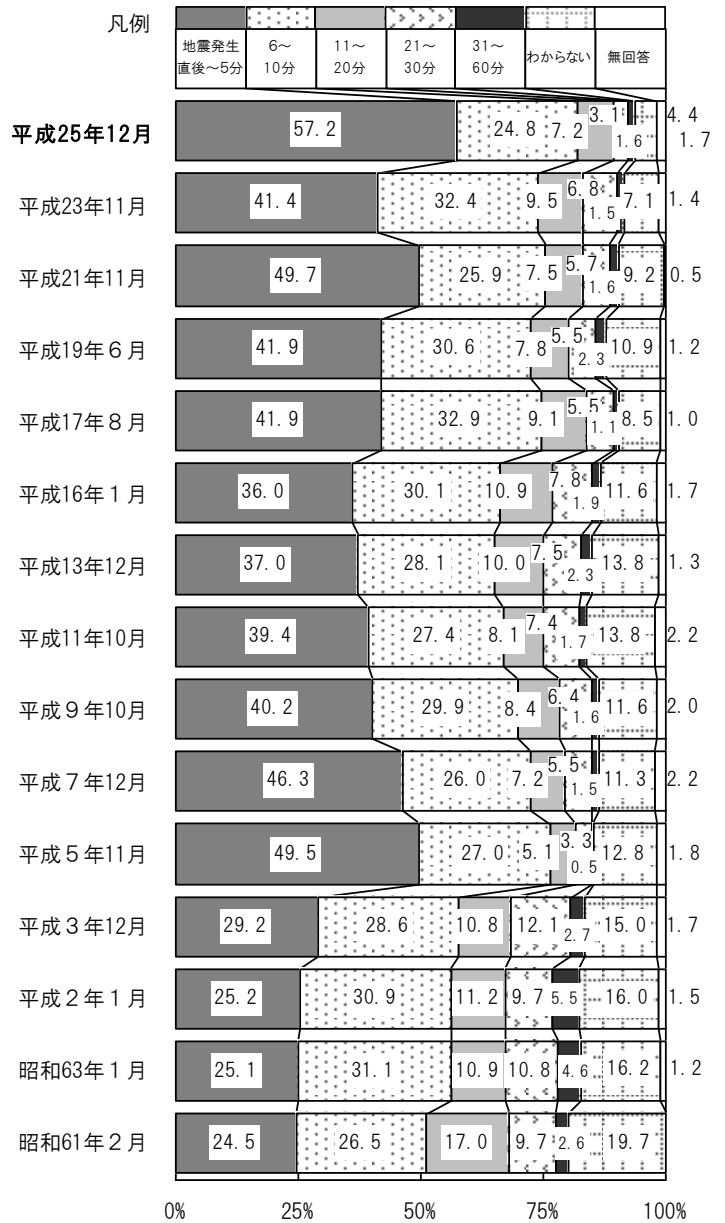
予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、『津波回答あり』では、「地震発生直後～5分」(63.7%)が6割を超えている。

津波の沿岸到達時間 <予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>



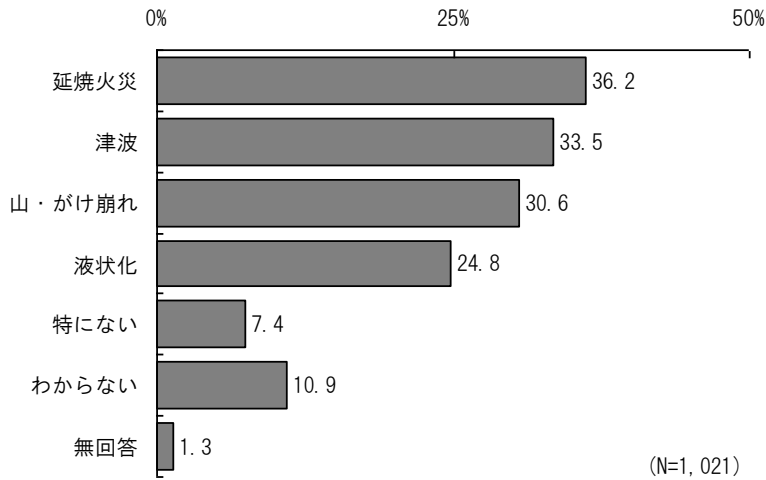
経年比較でみると、「地震発生直後～5分」では、今回調査（57.2%）が最も高くなっている。平成23年11月の前回調査（41.4%）に比べると、15.8ポイント上回っている。

津波の沿岸到達時間 <経年比較>



1-6 東海地震で想定される被害想定

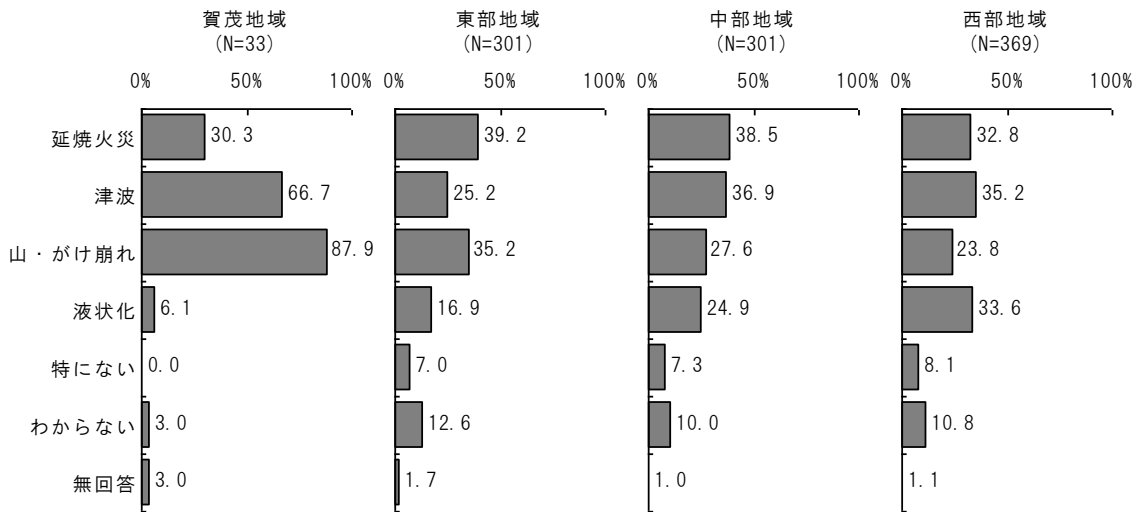
問6 東海地震が発生した場合、あなたの住む地域はどのような被害の発生が予想される地域ですか。(M. A)



居住地域でどのような被害の発生が予想されるかたずねたところ、「延焼火災」(36.2%)が最も高く、「津波」(33.5%)、「山・がけ崩れ」(30.6%)、「液状化」(24.8%)の順となっている。

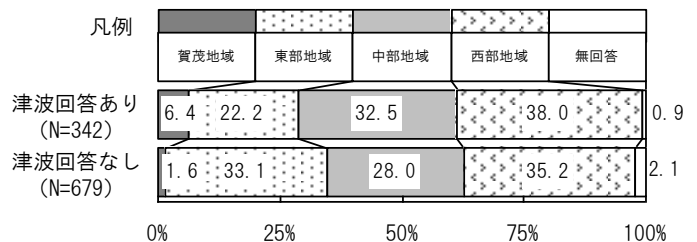
地域別で見ると、『賀茂』では、「津波」(66.7%)と「山・がけ崩れ」(87.9%)が他の地域よりも高くなっている。

予想される被害<地域別>



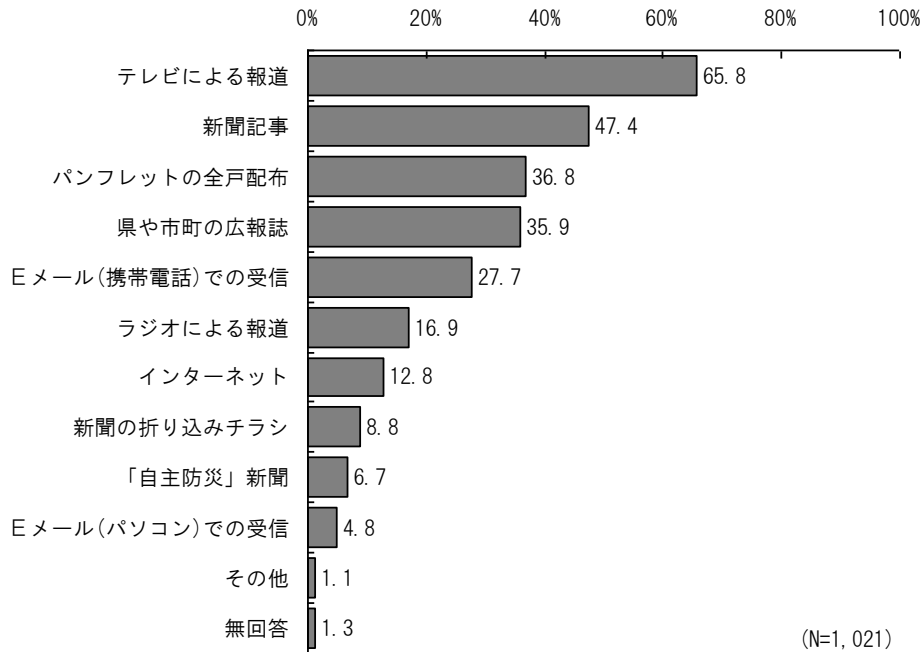
また、「津波」と回答した人とそれ以外の人を地域別にみると、「津波」と回答していないのは、『西部』(35.2%)と『東部』(33.1%)で3割を超えている。

「津波」と回答した人とそれ以外<地域別>



1-7 東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法

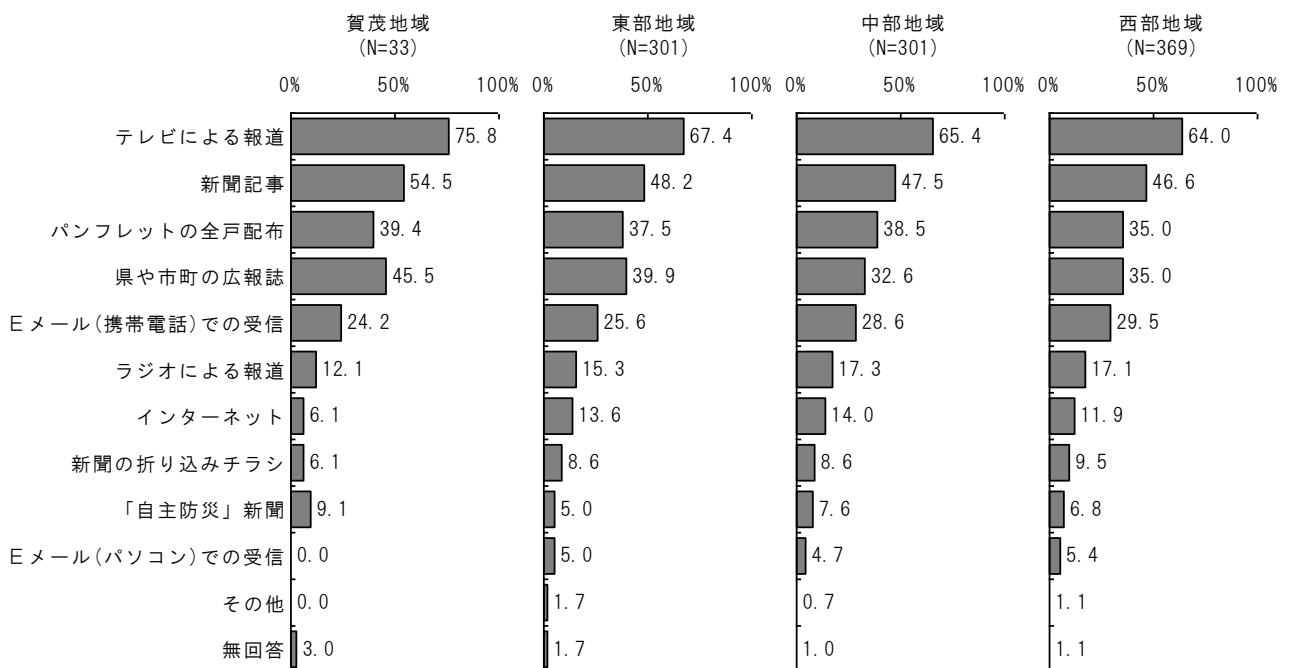
問7 東海地震を中心とした情報を定期的に皆様へ提供する方法について、確実に情報が手に入る方法は次のどれですか。(M. A)



東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法についてたずねたところ、「テレビによる報道」(65.8%)、次いで「新聞記事」(47.4%)、「パンフレットの全戸配布」(36.8%)、「県や市町の広報誌」(35.9%)の順となっている。

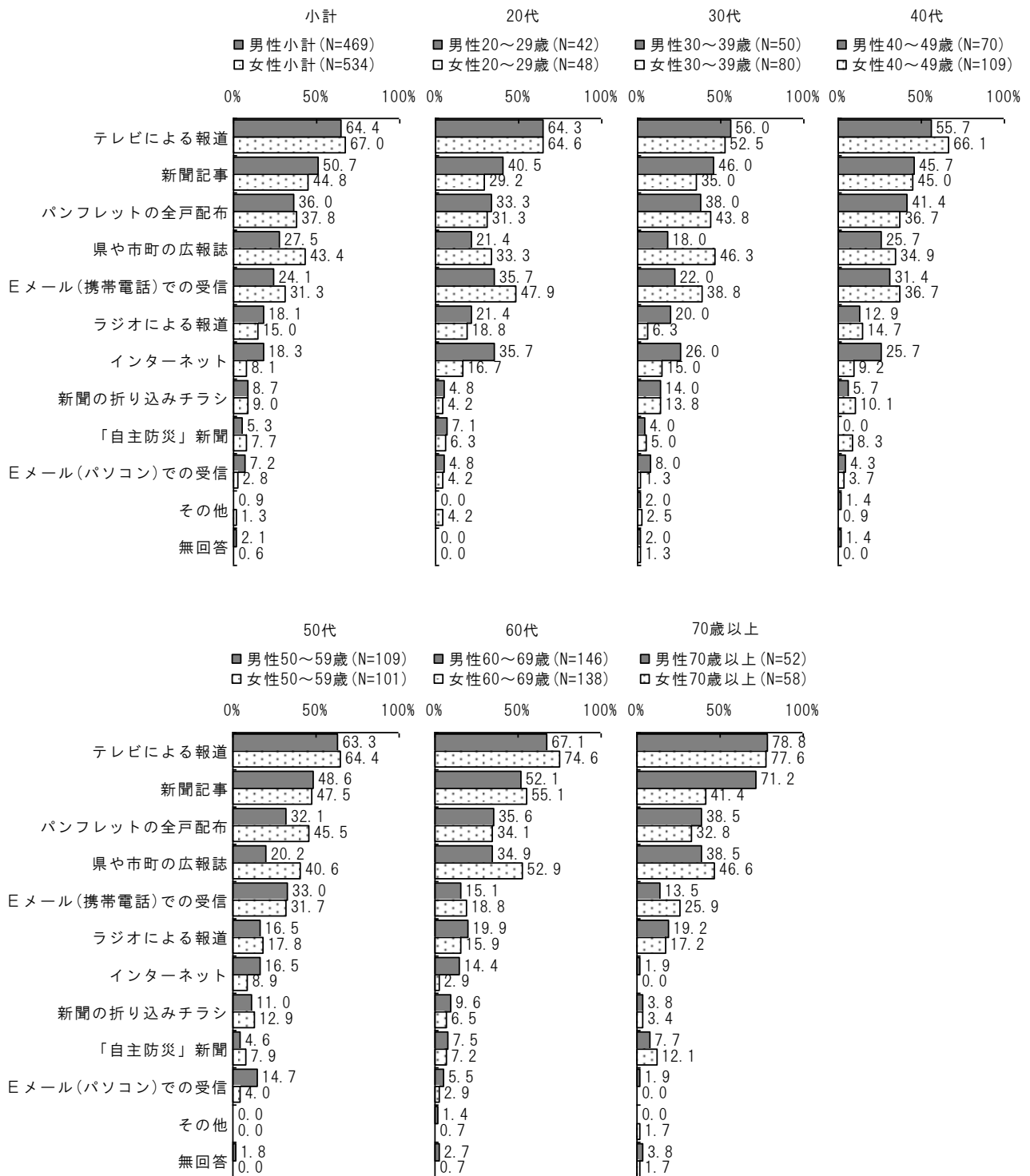
地域別でみると、『賀茂』では「テレビによる報道」(75.8%)、「県や市町の広報誌」(45.5%)が他の地域よりも高くなっている。

東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法<地域別>



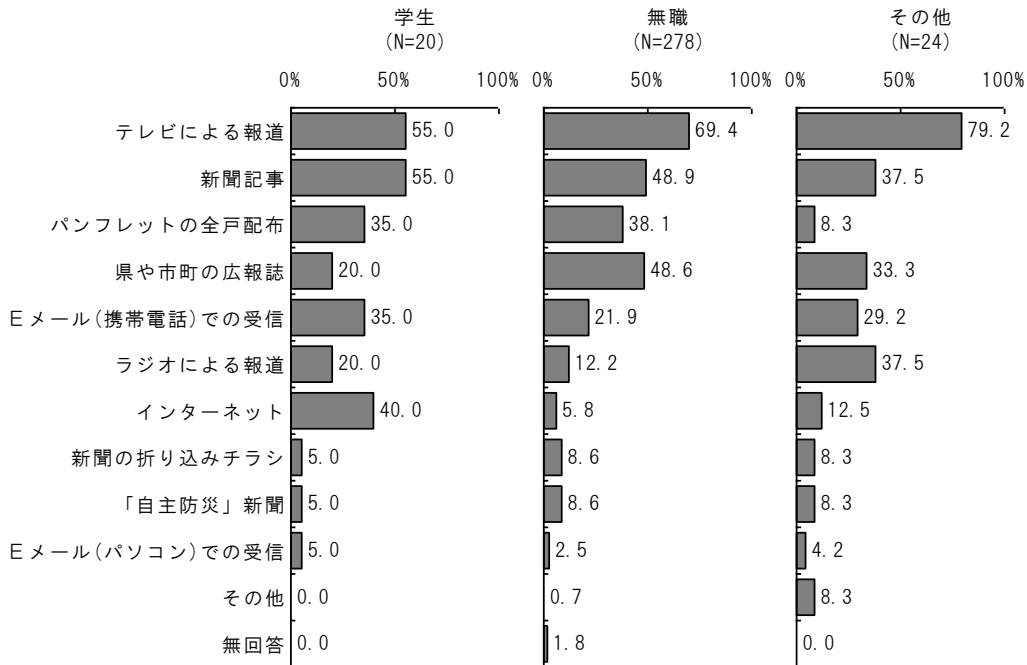
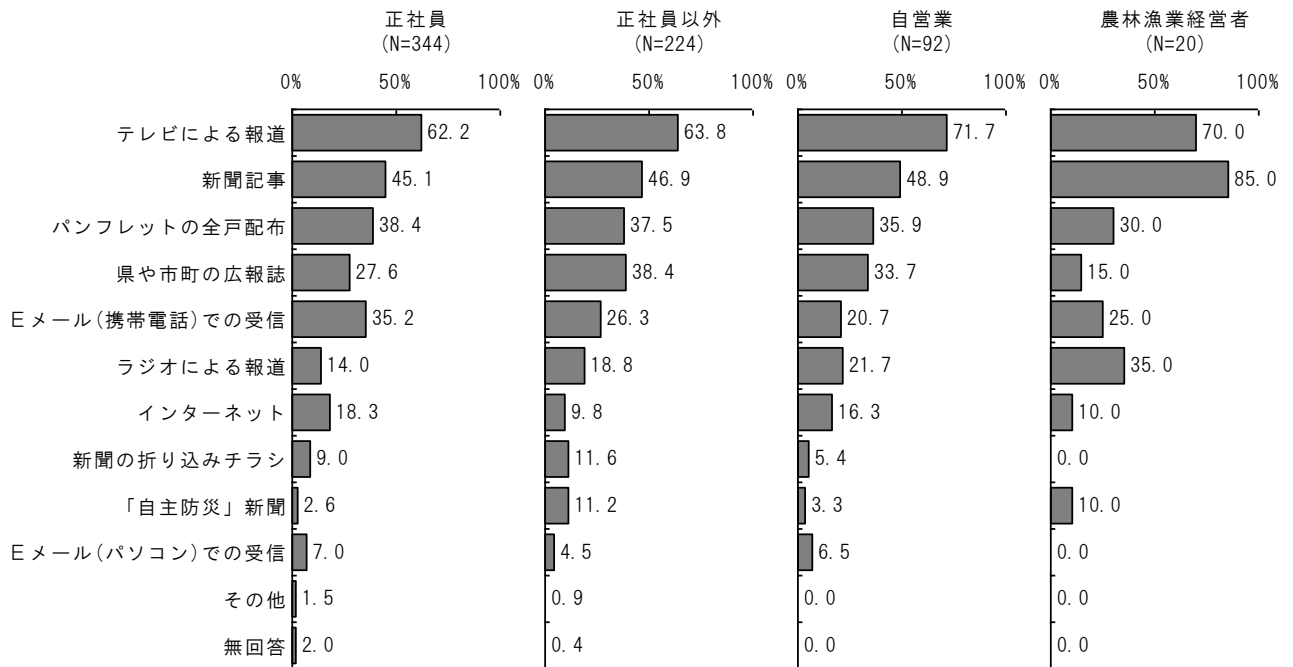
性・年代別でみると、いずれも「テレビによる報道」が最も高くなっている。「新聞記事」は、『男性70歳以上』(71.2%)が最も高く、『女性』より『男性』に高い傾向が見られる。「パンフレットの全戸配布」は、『女性50代』(45.5%)、『女性30代』(43.8%)、『男性40代』(41.4%)で4割を超えている。「Eメール(携帯電話)での受信」は、どの性・年代でも「Eメール(パソコン)での受信」を上回っている。「インターネット」は年齢が下がるにつれて割合が高くなっており、特に『男性20代』(35.7%)では3割を超えている。

東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法<性・年代別>



職業別でみると、「テレビによる報道」が『農林漁業経営者』以外の職業において最も高くなっている。「新聞記事」は、『農林漁業経営者』（85.0%）と『学生』（55.0%）が半数を超えている。「インターネット」や「Eメール（携帯電話）での受信」は、『正社員』、『学生』で高い傾向が見られる。

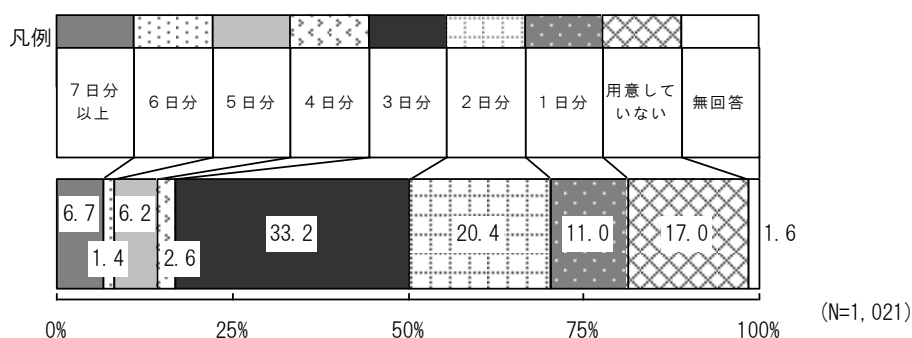
東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法<職業別>



2 日ごろの防災対策について

2-1 災害時に利用できる食料の備蓄日数

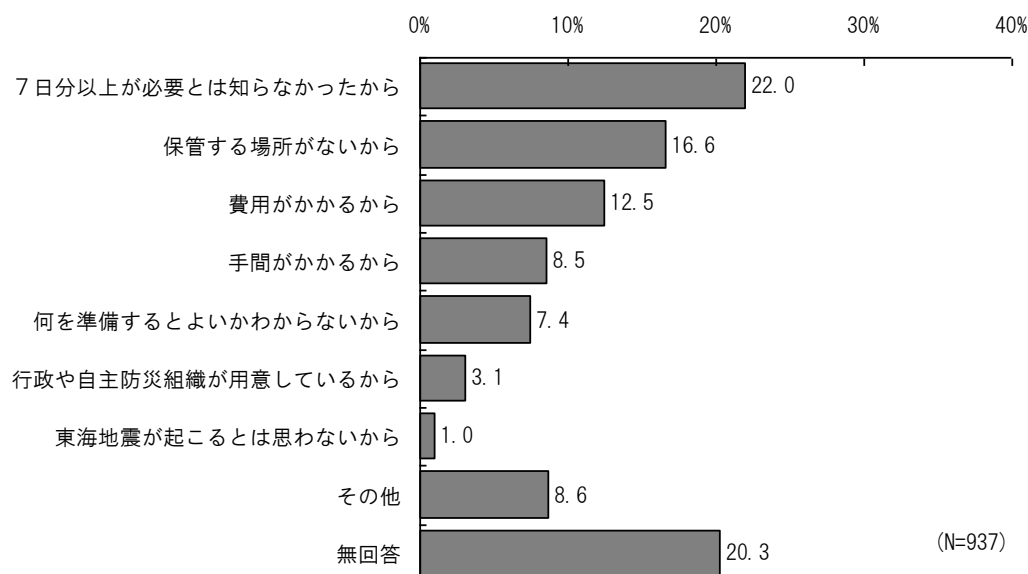
問8 災害時には、非常食（アルファ米・乾パン・缶詰等）だけでなく、日常的に利用する保存・調理が容易な食品（レトルト食品・インスタントラーメン・果物等）も活用ができます。あなたのお宅では、災害時に利用できる食料として家族の何日分を用意していますか。



●3日以上の備蓄率 50.1%
平均：2.5日（前回：2.1日）

<問8で「8 7日分以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問8-1 県では現在、各家庭で災害時に利用できる食料として、家族の7日分以上の用意を勧めています。あなたのお宅で現在のところ7日分以上の食料を用意してしないのはどのような理由からですか。

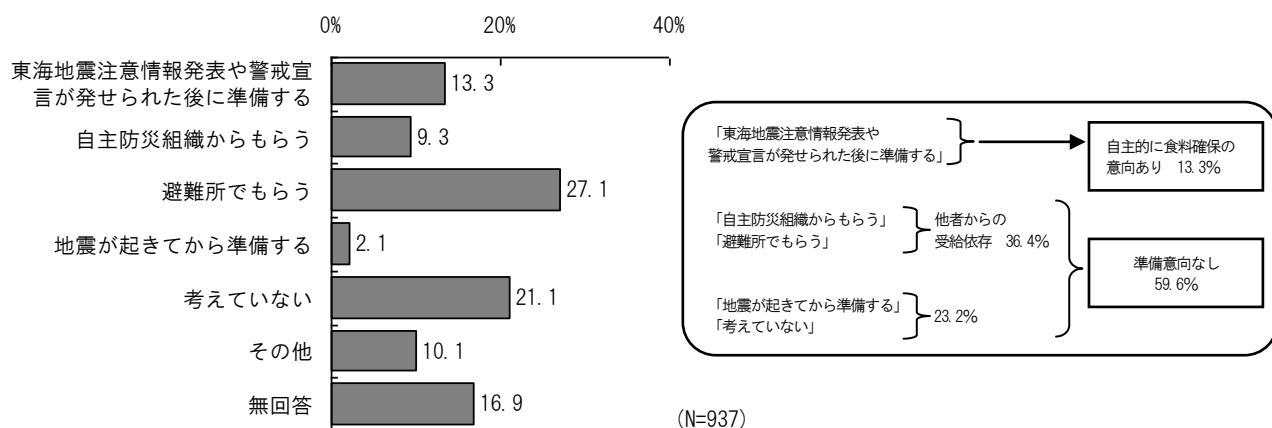


災害時に利用できる食料の備蓄日数についてたずねたところ、「7日分以上」用意している家庭は6.7%、「3日以上」用意している家庭は50.1%、「用意していない」家庭は17.0%で、平均備蓄数は2.5日である。

また、7日分以上の食料を用意していない理由をたずねたところ、「7日分以上が必要とは知らなかったから」（22.0%）が最も高く、次いで「保管する場所がないから」（16.6%）、「費用がかかるから」（12.5%）の順となっている。

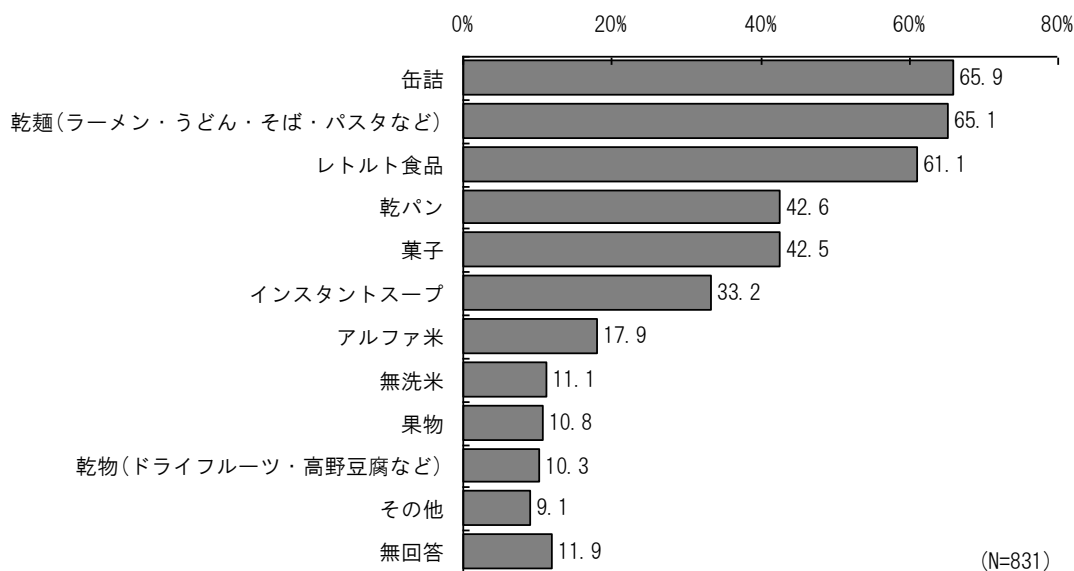
<問8で「8 7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問8-2 食料が必要となった場合はどのようにして確保するつもりですか。



<問8で「1 用意していない」以外を選んだ方にお伺いします。>

問8-3 災害時に利用できる食料として何を用意していますか。(M. A.)

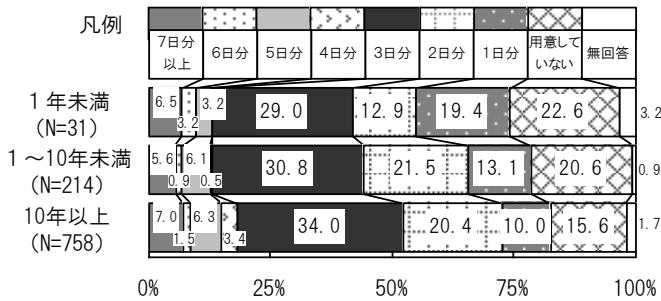


問8で「7日以上」と回答した人以外に、食料確保の手段をたずねたところ、「避難所でもらう」(27.1%)、「考えていない」(21.1%)、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」(13.3%)の順となっている。

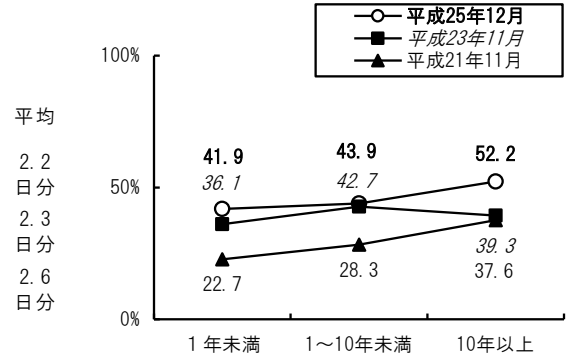
また、問8で用意していると回答した人に、用意している食料をたずねたところ、「缶詰」(65.9%)が最も高く、次いで「乾麺(ラーメン・うどん・そば・パスタなど)」(65.1%)、「レトルト食品」(61.1%)、「乾パン」(42.6%)、「菓子」(42.5%)の順となっている。

居住年数別でみると、「用意していない」は、『1年未満』（22.6%）が最も高く、3日以上以上の備蓄率を居住年数別でみると、『10年以上』（52.2%）が半数を超え、次いで『1～10年未満』（43.9%）、『1年未満』（41.9%）となっている。

災害時に利用できる食料の備蓄日数<居住年数別>



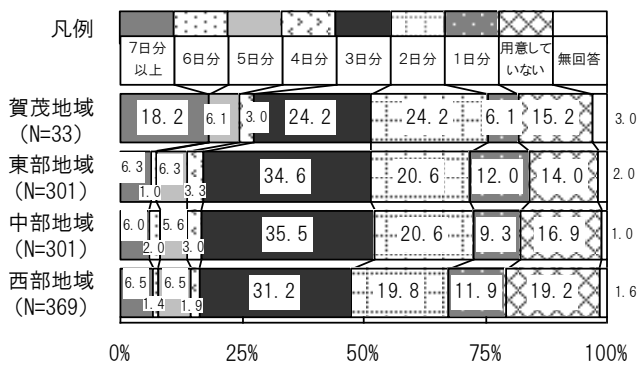
3日以上以上の備蓄率 <居住年数別>



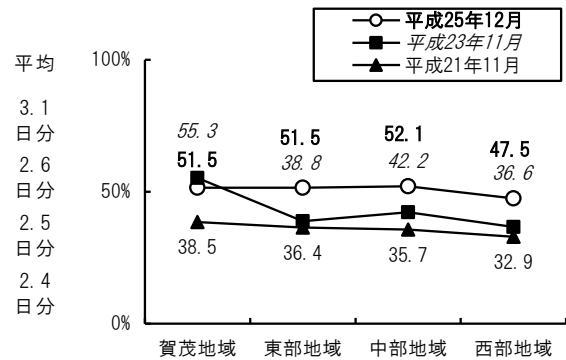
地域別でみると、「用意していない」は、最も高い『西部』（19.2%）と、最も低い『東部』（14.0%）では5.2ポイントの差が見られる。

3日以上以上の備蓄率を地域別にみると、最も高い『中部』（52.1%）と、最も低い『西部』（47.5%）では9.8ポイントの差が見られる。「7日分以上」は、『賀茂』（18.2%）で特に高くなっており、2割近くとなっている。

災害時に利用できる食料の備蓄日数<地域別>



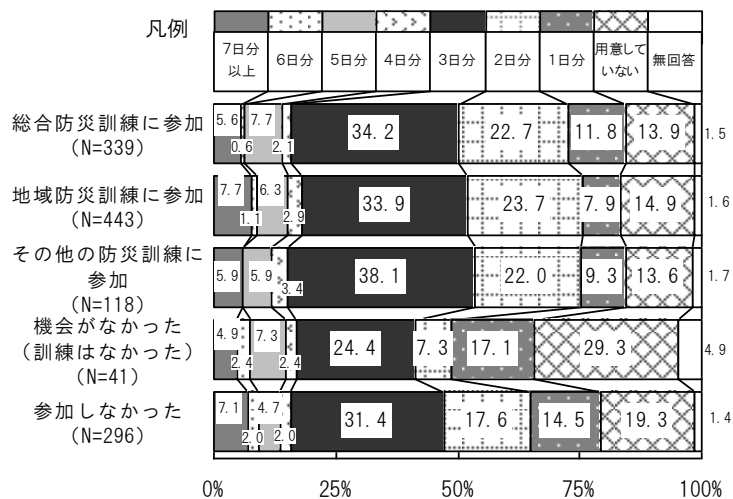
3日以上以上の備蓄率 <地域別>



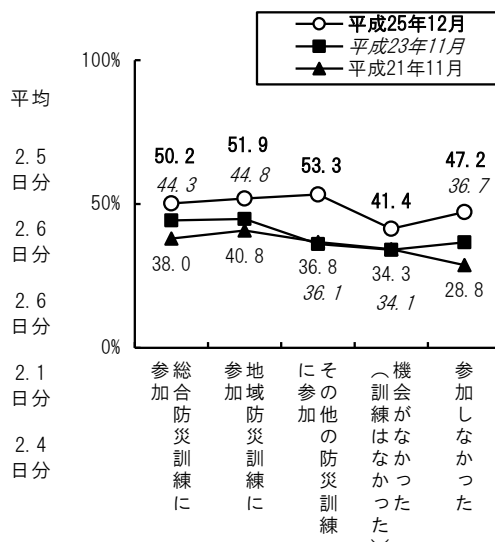
防災訓練参加状況別でみると、「用意していない」は、最も高い『機会がなかった（訓練はなかった）』（29.3%）と、最も低い『その他の防災訓練に参加』（13.6%）では15.7ポイントの差が見られる。

3日以上の備蓄率を防災訓練参加状況別でみると、最も高かったのは『その他の防災訓練に参加』（53.3%）、次いで『地域防災訓練に参加』（51.9%）、最も低かったのは『機会がなかった（訓練はなかった）』（41.4%）で、『その他の防災訓練に参加』とは11.9ポイントの差が見られる。

災害時に利用できる食料の備蓄日数<防災訓練参加状況別>



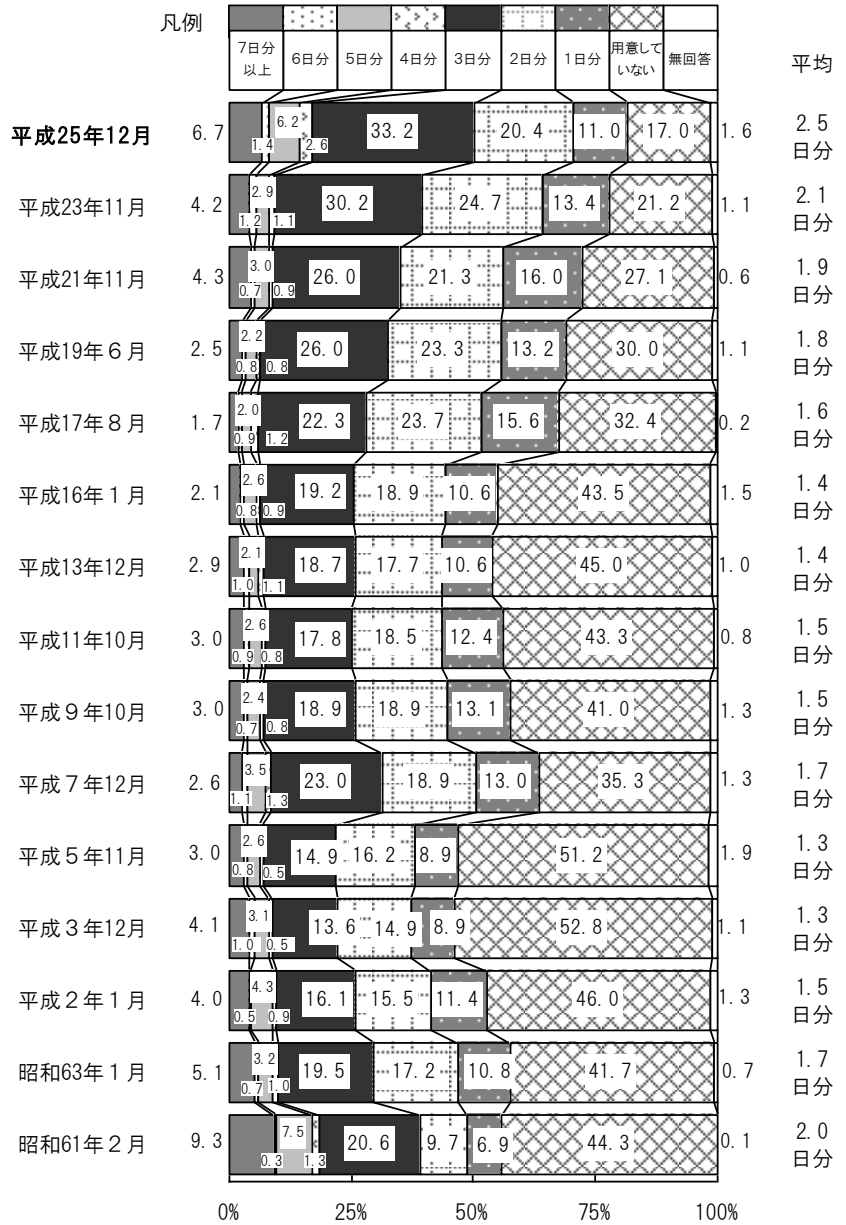
3日以上の備蓄率<防災訓練参加状況別>



経年比較でみると、平成7年12月の調査では阪神・淡路大震災（平成7年1月）をきっかけに、3日以上の備蓄率が急増した。それ以降、備蓄率は25%程度を推移していたが、平成16年の新潟県中越地震（平成16年10月）、スマトラ沖地震（平成16年12月）、能登半島地震（平成19年3月）、駿河湾を震源とする地震（平成21年8月）、東日本大震災（平成23年3月）などが発生したこともあり、平成17年以降、「用意していない」が減少し、3日以上の備蓄率は増加傾向にある。今回調査では、3日以上の備蓄率は50.1%となり、前回調査（39.6%）より10.5ポイント上昇している。

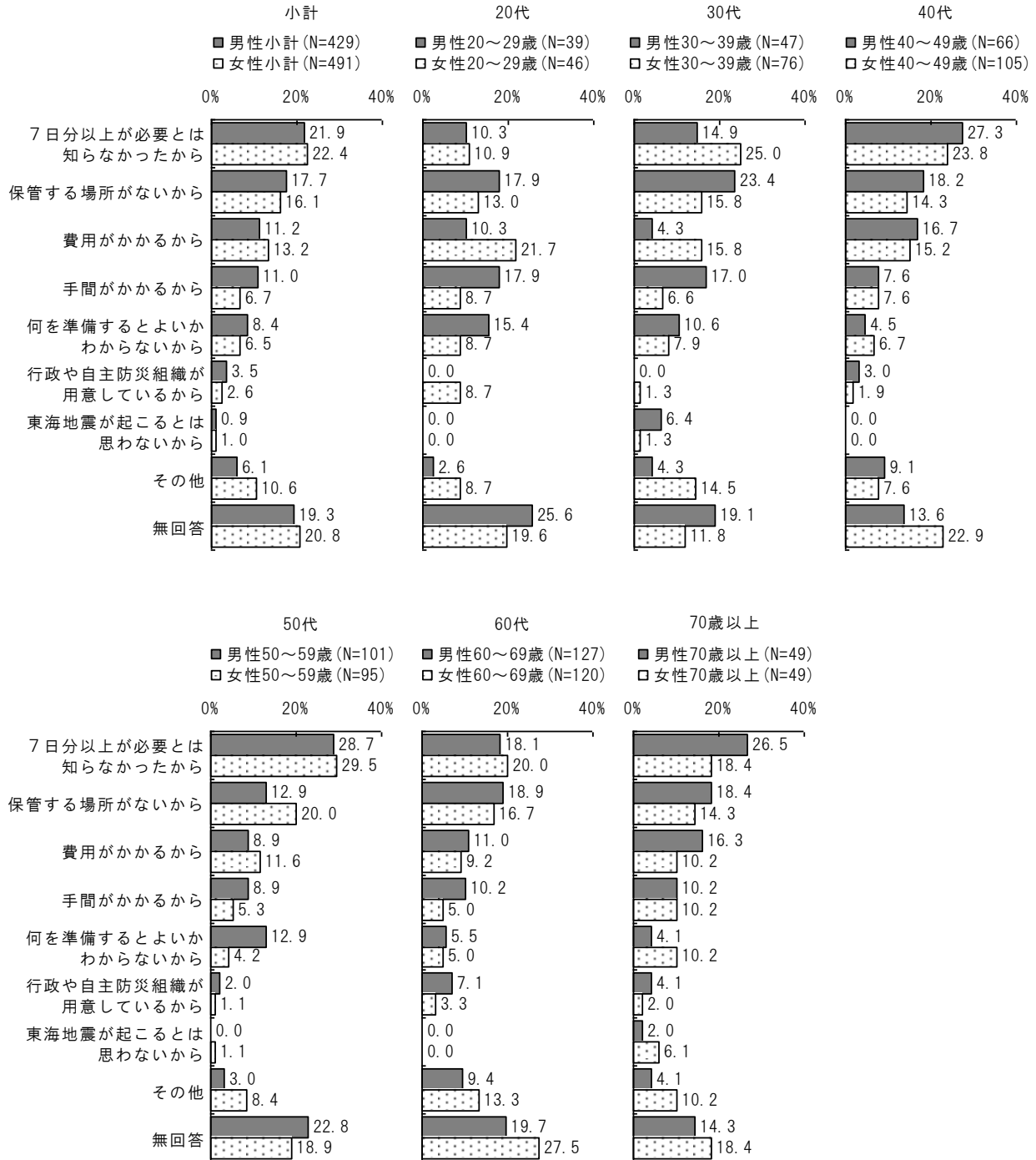
災害時に利用できる食料の備蓄日数
 <経年比較>

災害時に利用できる食料の 3日以上備蓄率 経年比較	
平成25年12月	50.1%
平成23年11月	39.6%
平成21年11月	34.9%
平成19年6月	32.3%
平成17年8月	28.1%
平成16年1月	25.6%
平成13年12月	25.8%
平成11年10月	25.1%
平成9年10月	25.8%
平成7年12月	31.5%
平成5年11月	21.8%
平成3年12月	22.3%
平成2年1月	25.8%
昭和63年1月	29.5%
昭和61年2月	39.0%



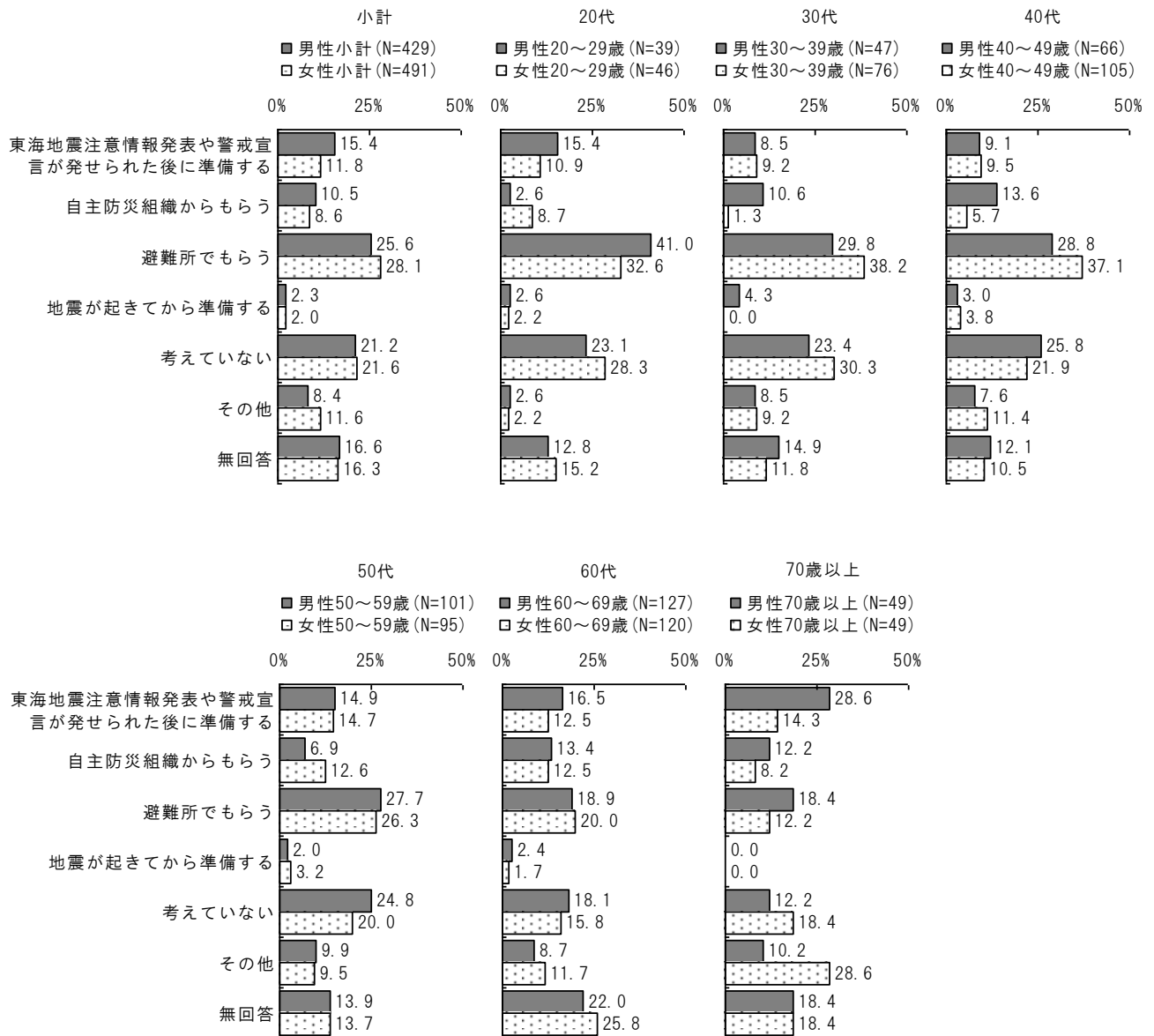
災害時に利用できる食料を7日分以上用意していない理由を性・年代別でみると、「7日分以上が必要とは知らなかったから」では、男性・女性ともに『50代』が最も高くなっている。「保管する場所がないから」では『男性30代』（23.4%）、「費用がかかるから」では『女性20代』（21.7%）が他の年代よりも高くなっている。

7日以上の食料を用意していない理由 <性・年代別>



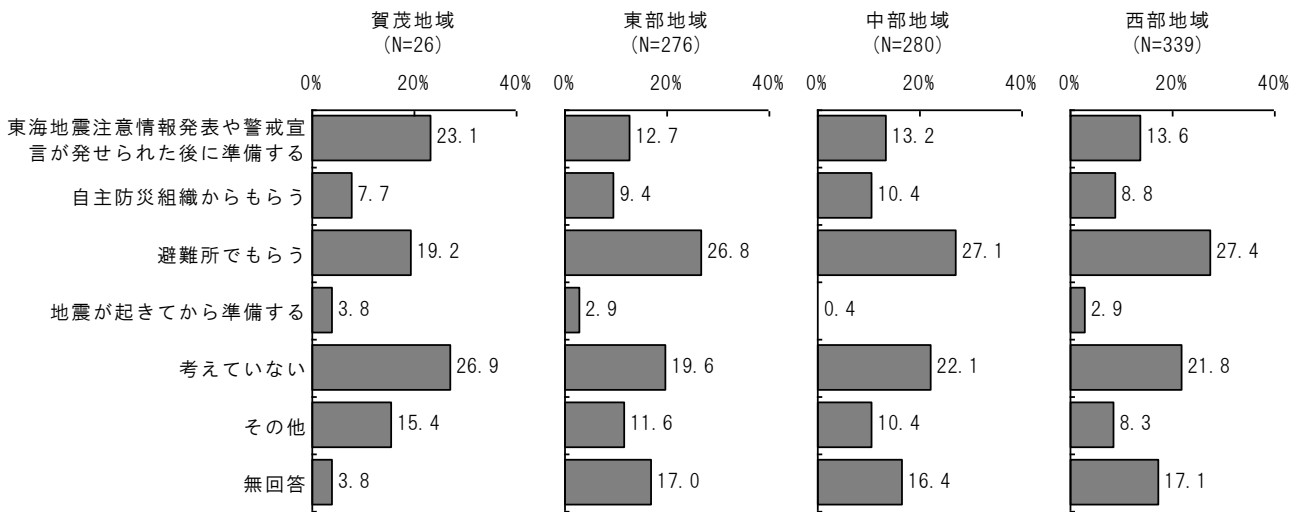
食料確保の手段を性・年代別でみると、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」は、『男性70歳以上』（28.6%）が最も高く、次いで『男性60代』（16.5%）、『男性20代』（15.4%）の順となっている。「考えていない」は、最も高い『女性30代』（30.3%）と、最も低い『男性70歳以上』（12.2%）では18.1ポイントの差が見られる。

7日以上の食料を用意していない人の食料確保の手段 <性・年代別>



食料確保の手段を地域別で見ると、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」が『賀茂』(23.1%)で他の地域よりも高くなっている。

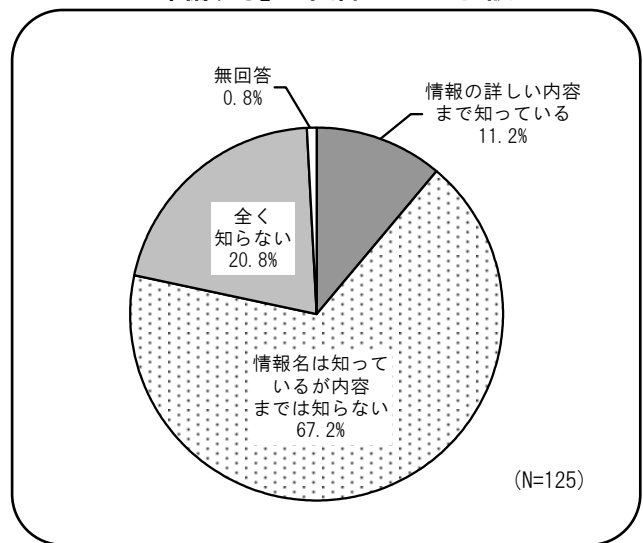
7日以上の食料を用意していない人の食料確保の手段 <地域別>



情報体系の認知度

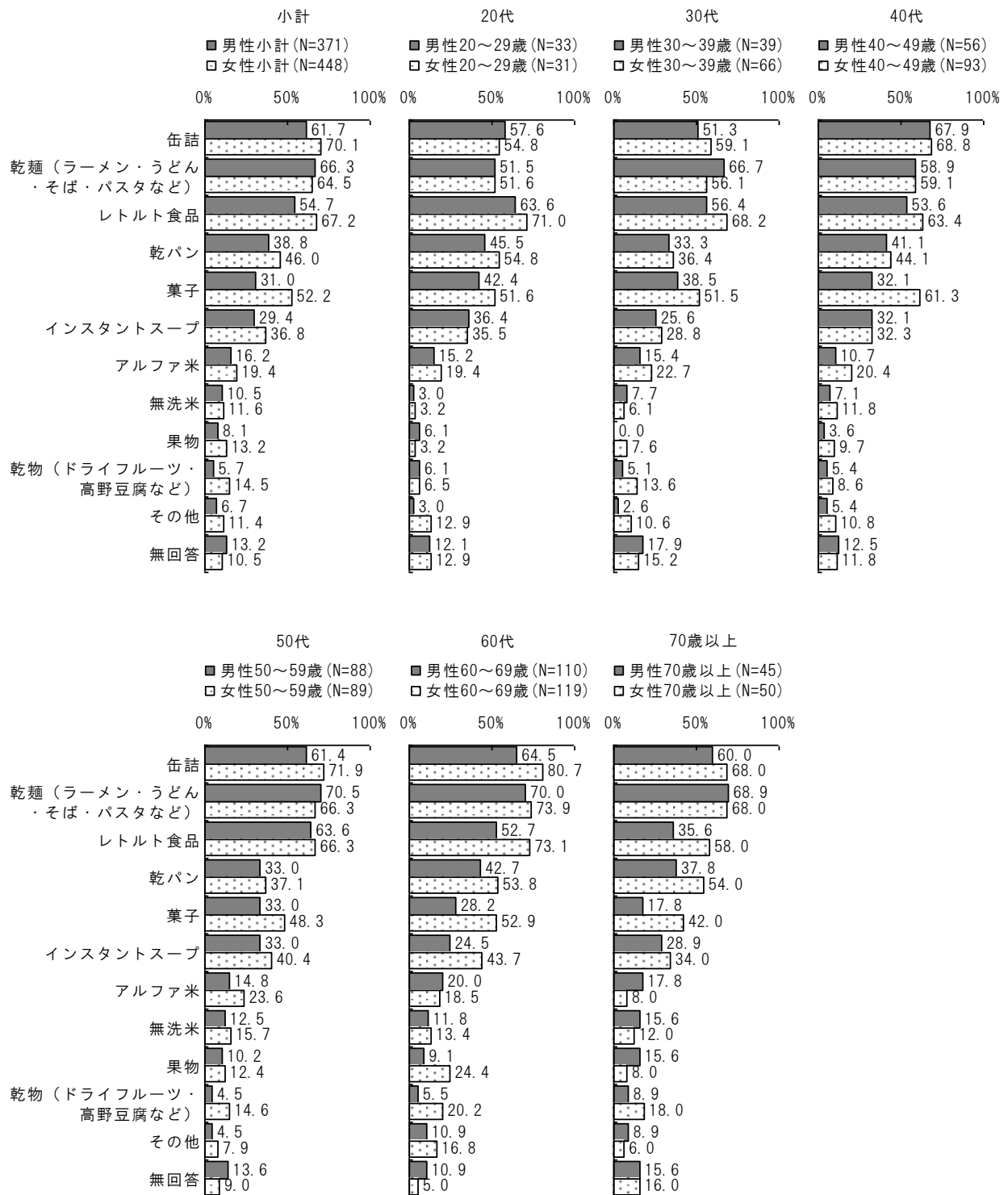
<「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人の内訳>

「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人のみで情報体系の認知度をみると、「情報は知っているが内容までは知らない」(67.2%)、次いで「全く知らない」(20.8%)となっている。「情報の詳しい内容まで知っている」(11.2%)は約1割となっている。



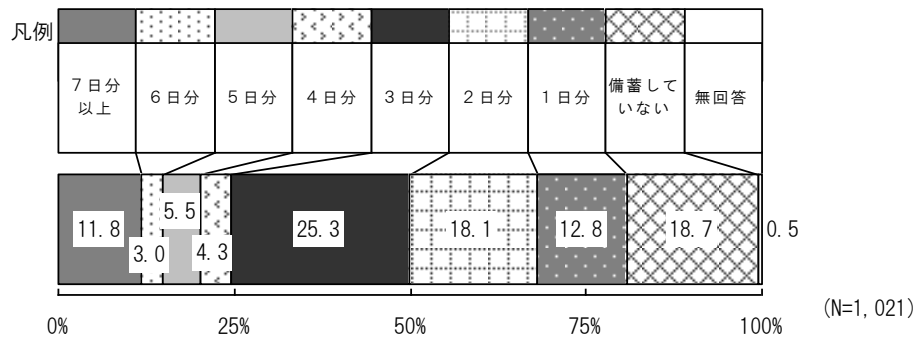
災害時に利用できる食料として何を用意しているかを性・年代別で見ると、いずれの性・年代でも「缶詰」は半数を超えており、特に『女性60代』（80.7%）と『女性50代』（71.9%）では7割を超えている。「乾麺（ラーメン・うどん・そば・パスタなど）」では『女性60代』（73.9%）と『男性50代』（70.5%）、「レトルト食品」では『女性60代』（73.1%）と『女性20代』（71.0%）で7割を超えている。また、「菓子」は『女性40代』（61.3%）で6割を超えている。

用意している食料 <性・年代別>



2-2 飲料水の備蓄日数

問9 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。

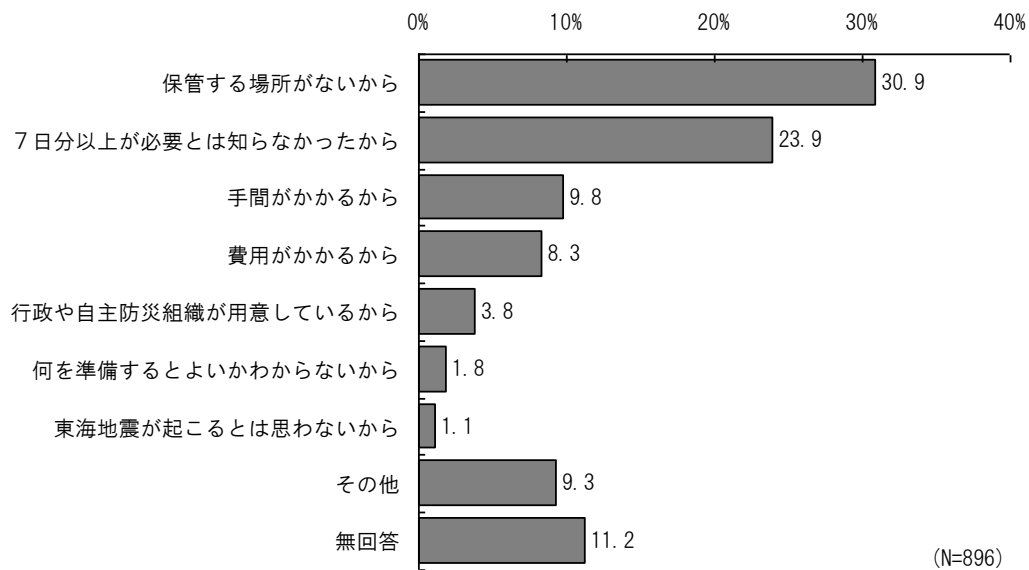


● 3日以上の備蓄率 49.9%

平均：2.7日（前回：2.1日）

<問9で「8 7日分以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問9-1 県では現在、災害時に備えて、各家庭で家族の7日分以上の飲料水の備蓄を勧めています。あなたのお宅で現在のところ7日分以上の飲料水を備蓄していないのはどのような理由からですか。

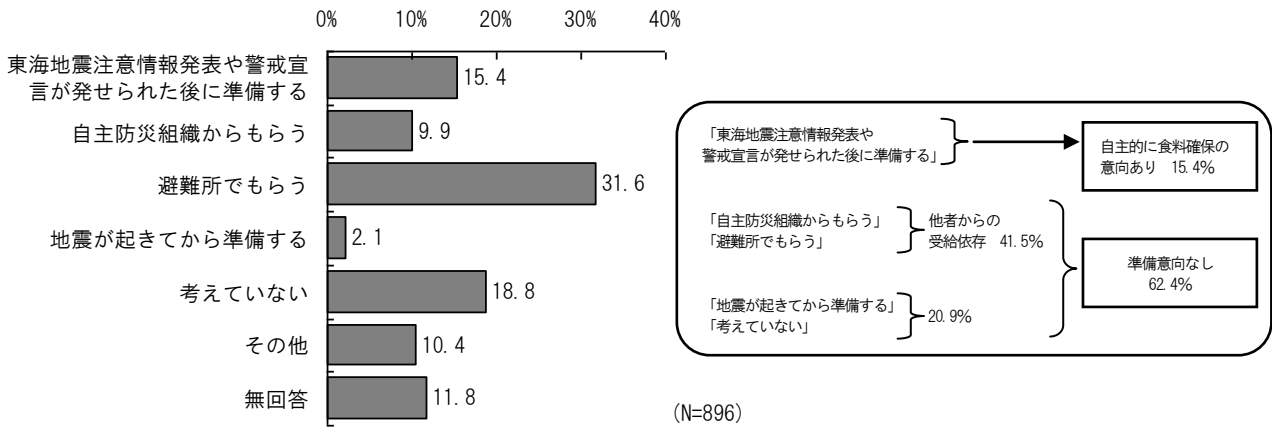


飲料水の備蓄日数についてたずねたところ、「3日以上」用意している家庭は49.9%、「7日以上」用意している家庭は11.8%、「備蓄していない」家庭が18.7%で、平均備蓄日数は2.7日である。

また、7日分以上の飲料水を備蓄していない理由をたずねたところ、「保管する場所がないから」（30.9%）が最も高く、次いで「7日分以上が必要とは知らなかったから」（23.9%）「手間がかかるから」（9.8%）の順となっている。

<問9で「8 7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問9-2 飲料水が必要となった場合はどのようにして確保するつもりですか。



<問9で「8 7日以上」を選んだ方にお伺いします。>

問9-3 備蓄方法、保管場所など工夫していることがあれば、自由にご記入ください。(F. A.)

内容		件数	内容		件数
保管場所	分散して置いている	13件	取得・交換方法	定期的に交換(入替)している	21件
	納戸、収納庫に保管	9件		宅配を利用	9件
	冷暗所に保管	8件		ケースで購入	5件
	箱に入れて保管	8件		使いながら補充(ローリングストック法)	4件
	外物置(小屋)に保管	7件		井戸水を利用	2件
	倉庫に保管	6件		古くなったものはトイレ用等になっている	2件
	食料倉庫に保管	4件		その他	2件
	玄関に保管	3件		小計	45件
	リュックサックや旅行バッグに入れている	2件		容器	ペットボトルを用意
	専用の保管庫	2件	ポリタンクを用意		14件
	押し入れに保管	2件	ウォーターサーバーのボトル		7件
	各部屋に保管	2件	貯湯タンク(エネファーム・エコキュートなど)		5件
	寝室に保管	2件	2ℓボトル以外に小さなサイズも用意		2件
	車庫に保管	2件	温水器		2件
	玄関近くの部屋に保管	2件	その他		3件
	床下収納	2件	小計		55件
	家の中に保管	2件	その他	トイレ用等の生活用水も用意	6件
	その他	11件		箱に期限を記入	2件
	小計	87件		その他	3件
			小計	11件	
			合計	198件	

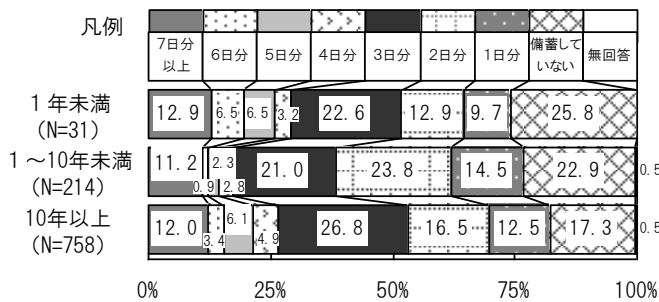
問9で「7日以上」と回答した人以外に、飲料水が必要となった場合の確保手段をたずねたところ、「避難所でもらう」(31.6%)、「考えていない」(18.8%)、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」(15.4%)の順となっている。

また、「7日以上」と回答した人に、備蓄方法など工夫していることをたずねたところ、「ペットボトルを用意」、「定期的に変換(入替)している」、「分散して置いている」等の意見があった。

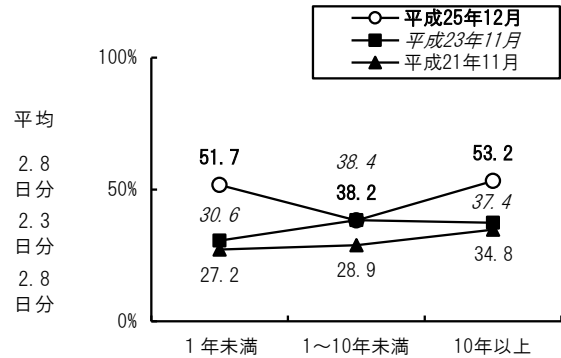
居住年数別でみると、「備蓄していない」は、『1年未満』（25.8%）が最も高く、一番低い『10年以上』（17.3%）とは8.5ポイントの差が見られる。

3日以上の備蓄率を居住年数別でみると、『10年以上』（53.2%）と『1年未満』（51.7%）で半数を超えている。

飲料水の備蓄日数 <居住年数別>



3日以上の備蓄率 <居住年数別>

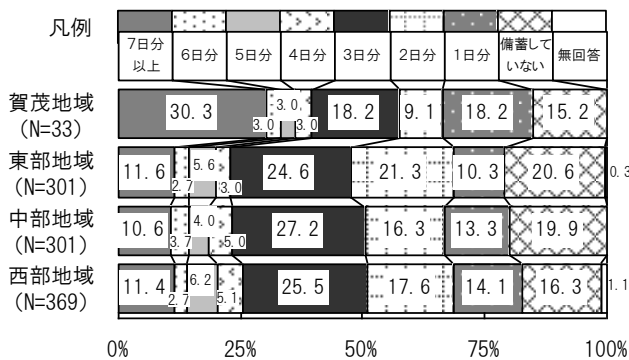


地域別でみると、「備蓄していない」は、最も高い『東部』（20.6%）と、最も低い『賀茂』（15.2%）では5.4ポイントの差が見られる。

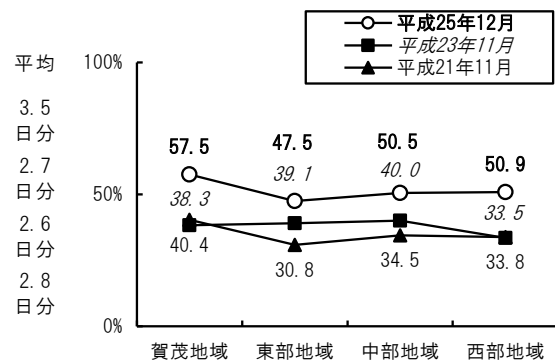
3日以上の備蓄率を地域別でみると、最も高い『賀茂』（57.5%）と、最も低い『東部』（47.5%）では10.0ポイントの差が見られる。「7日分以上」は『賀茂』（30.3%）で特に高くなっており、約3割となっている。

過去2回の調査と比較すると、3日以上の備蓄率はいずれの地域でも高くなっている。

飲料水の備蓄日数 <地域別>



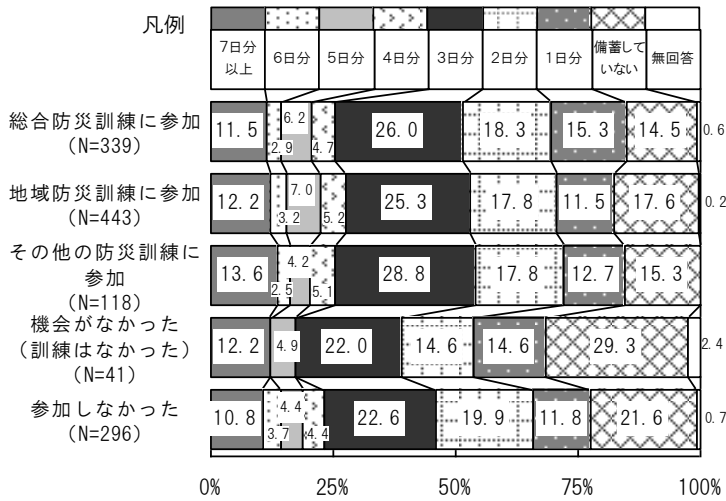
3日以上の備蓄率 <地域別>



防災訓練参加状況別でみると、「備蓄していない」は、『機会がなかった（訓練はなかった）』（29.3%）、次いで『参加しなかった』（21.6%）の順となっている。

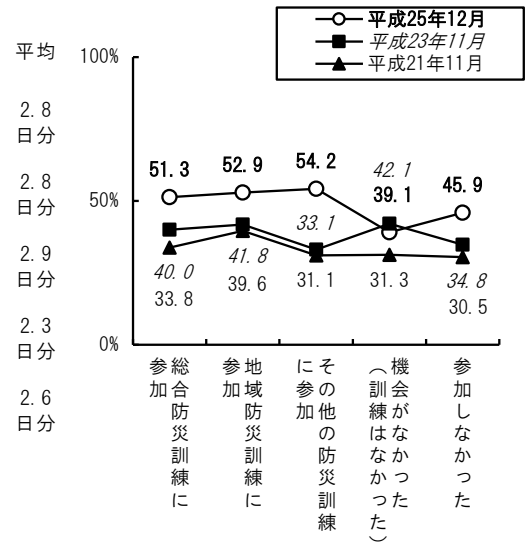
3日以上の備蓄率を防災訓練参加状況別でみると、『その他の防災訓練に参加』（54.2%）が最も高く、最も低い『機会がなかった（訓練はなかった）』（39.1%）とは15.1ポイントの差が見られる。

飲料水の備蓄日数 <防災訓練参加状況別>



3日以上の備蓄率

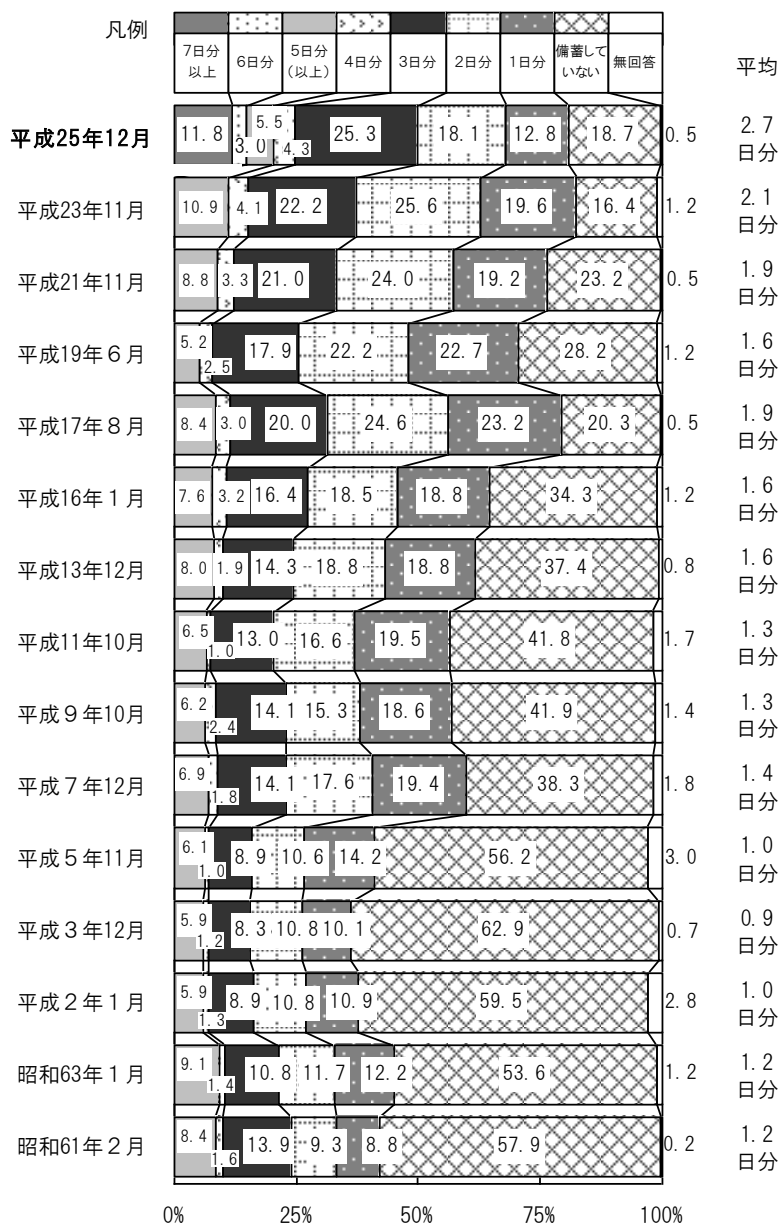
<防災訓練参加状況別>



経年比較でみると、3日分以上の備蓄率は、今回調査（49.9%）では、前回調査（37.2%）より12.7ポイント上昇している。

飲料水の備蓄日数 <経年比較>

飲料水3日分以上 備蓄率 経年比較	
平成25年12月	49.9%
平成23年11月	37.2%
平成21年11月	33.1%
平成19年6月	25.6%
平成17年8月	31.4%
平成16年1月	27.1%
平成13年12月	24.2%
平成11年10月	20.5%
平成9年10月	22.7%
平成7年12月	22.8%
平成5年11月	16.0%
平成3年12月	15.4%
平成2年1月	16.1%
昭和63年1月	21.3%
昭和61年2月	23.9%

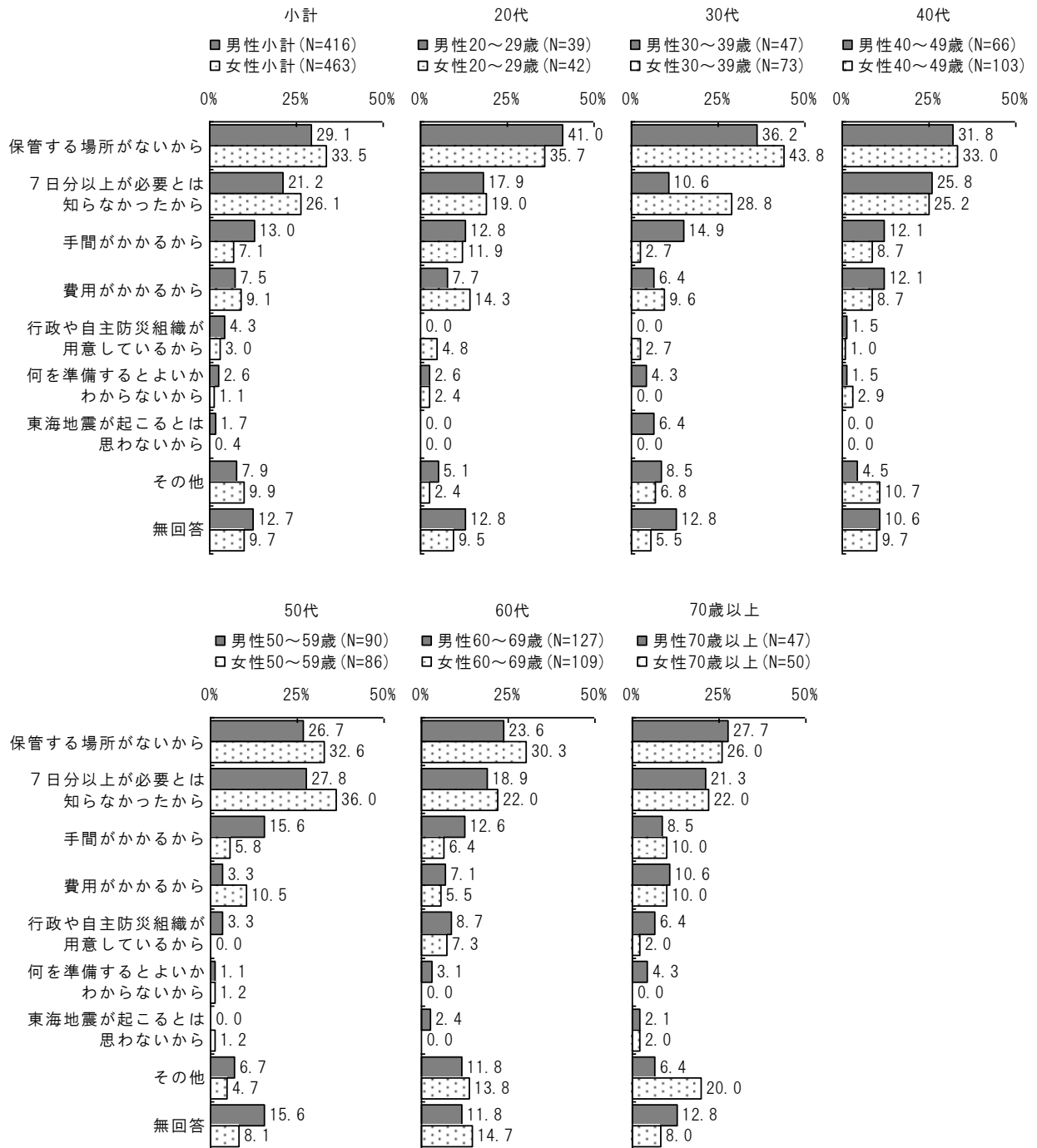


※「6日分」「7日分以上」の選択肢は平成25年度から設定した。

※グラフ中「5日分(以上)」は、平成25年度では「5日分」、平成23年度・平成21年度では「5日分以上」をさす。

災害時に利用できる食料を7日以上用意していない理由を性・年代別でみると、「保管する場所がないから」では『女性30代』（43.8%）と『男性20代』（41.0%）で4割を超えている。「7日以上が必要とは知らなかったから」では『女性50代』（36.0%）が最も高くなっている。

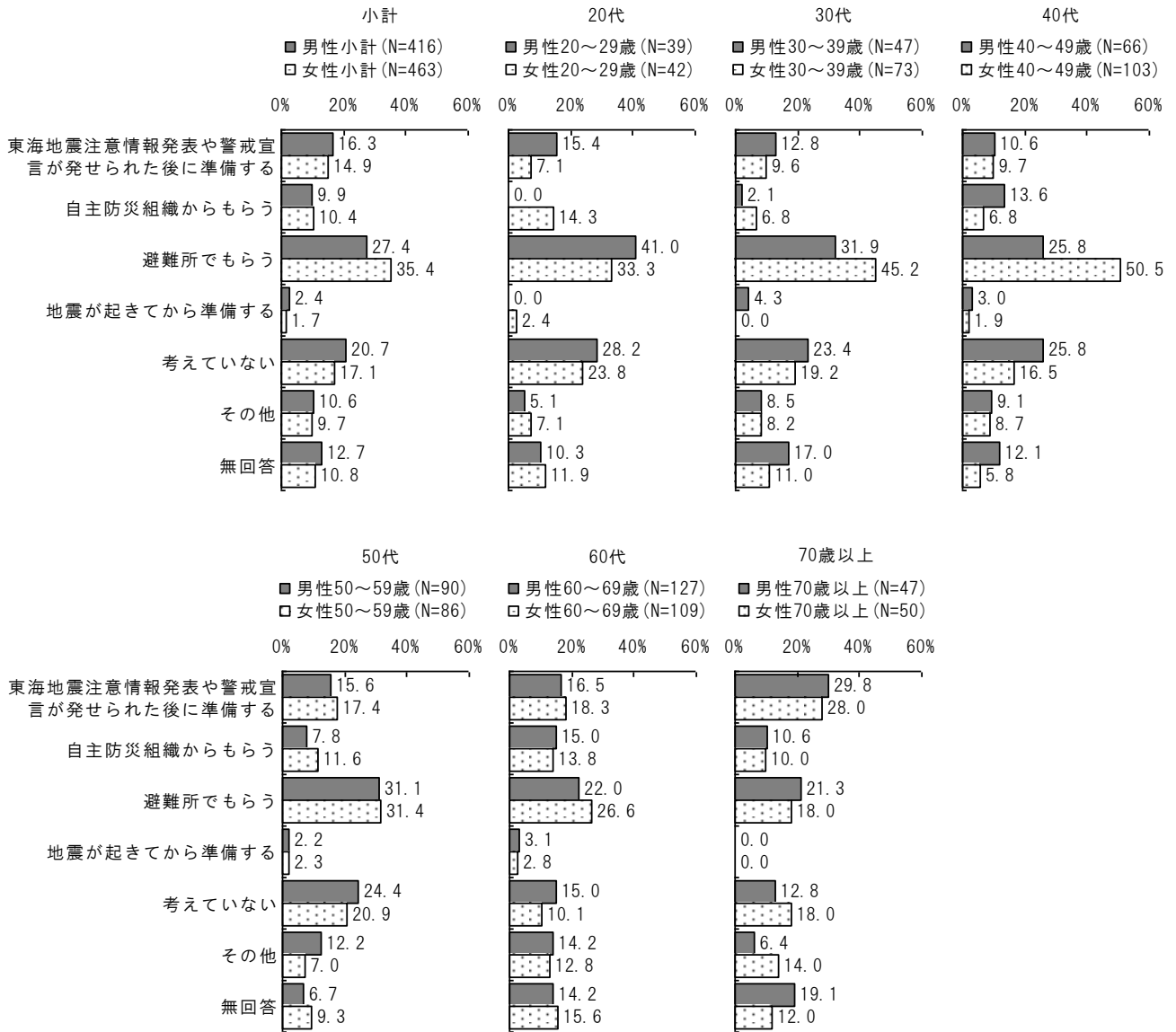
7日以上の飲料水を備蓄していない理由 <性・年代別>



飲料水確保の手段を性・年代別で見ると、「避難所でもらう」は、『女性40代』（50.5%）が最も高く、次いで『女性30代』（45.2%）、『男性20代』（41.0%）の順となっており、最も低い『女性70歳以上』（18.0%）と『女性40代』とは32.5ポイントの差が見られる。

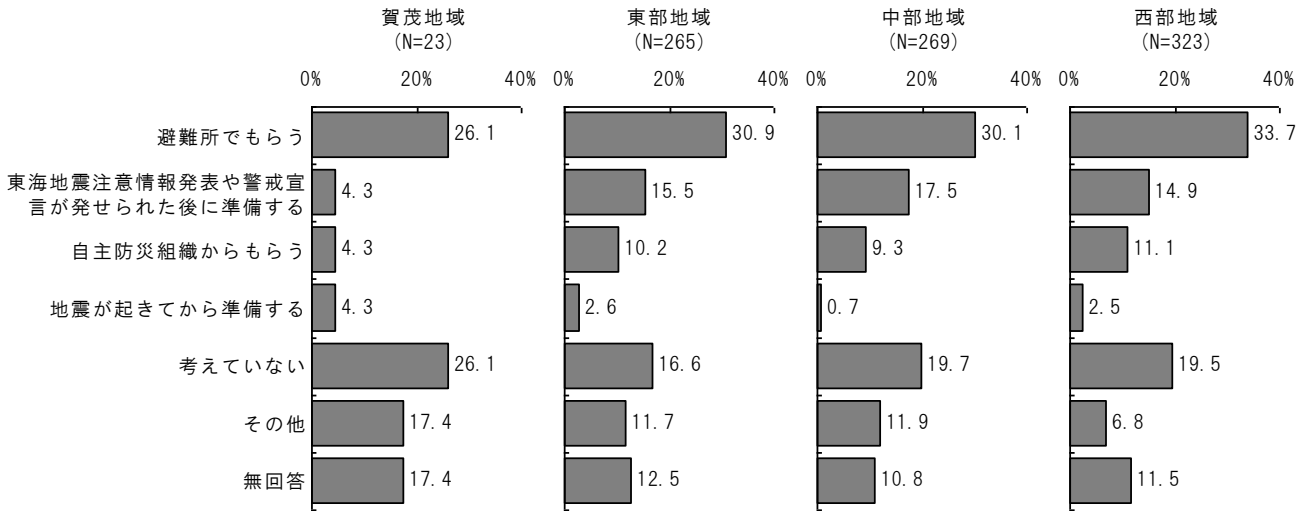
「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」は、『男性70歳以上』（29.8%）、『女性70歳以上』（28.0%）で特に高くなっている。

飲料水確保の手段 <性・年代別>



飲料水確保の手段を地域別で見ると、「考えていない」は、最も高い『賀茂』（26.1%）と、最も低い『東部』（16.6%）では9.5ポイントの差が見られる。

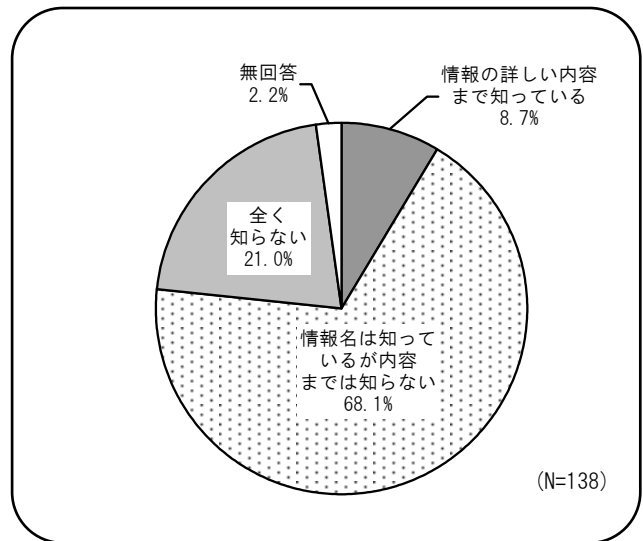
飲料水確保の手段 <地域別>



情報体系の認知度

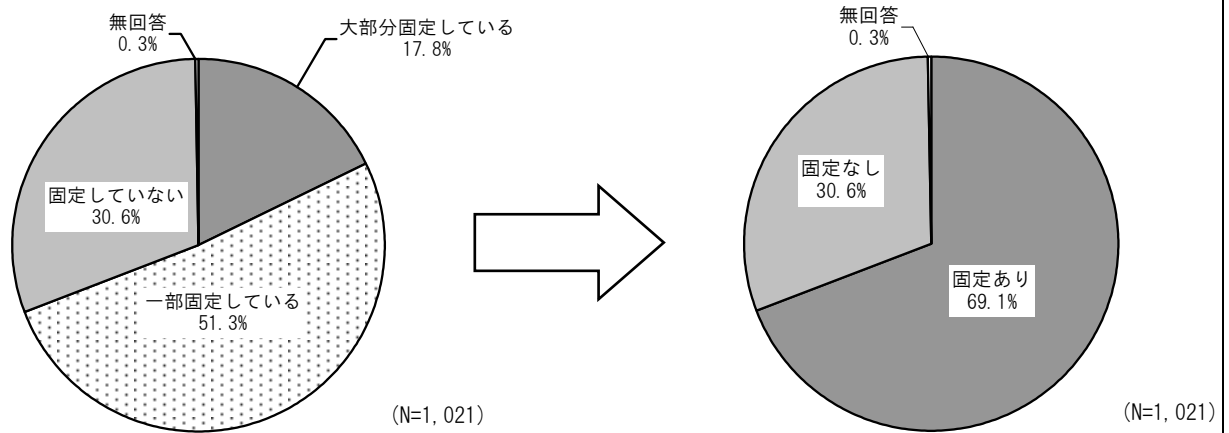
<「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人の内訳>

「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人のみで情報体系の認知度をみると、「情報は知っているが内容までは知らない」（68.1%）、次いで「全く知らない」（21.0%）となっている。「情報の詳しい内容まで知っている」は8.7%と約1割となっている。



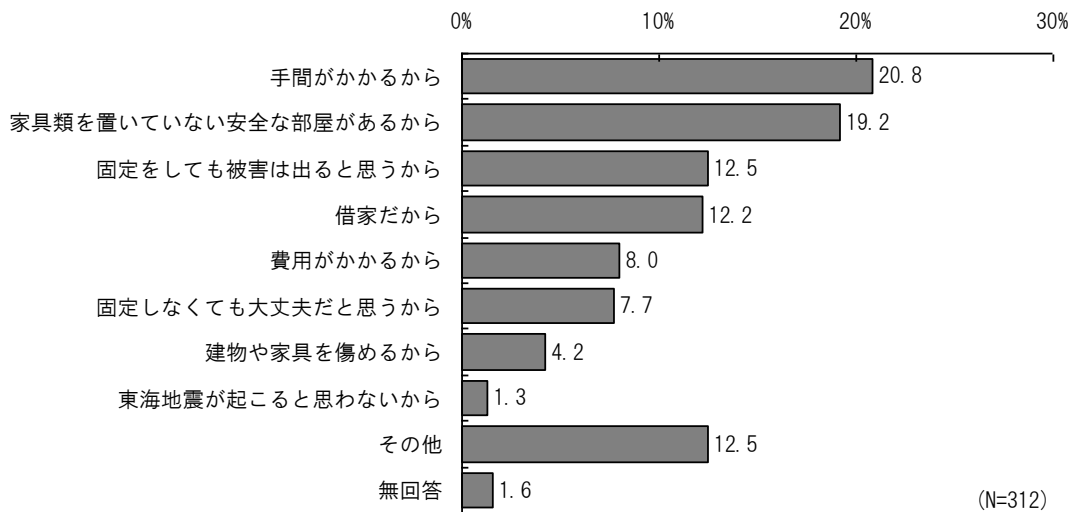
2-3 家具類の固定

問10 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。



<問10で「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。>

問10-1 どのような理由からですか。



家具類の固定状況についてたずねたところ、「大部分固定している」(17.8%)と「一部固定している」(51.3%)を合わせると、固定実施率は69.1%となっている。

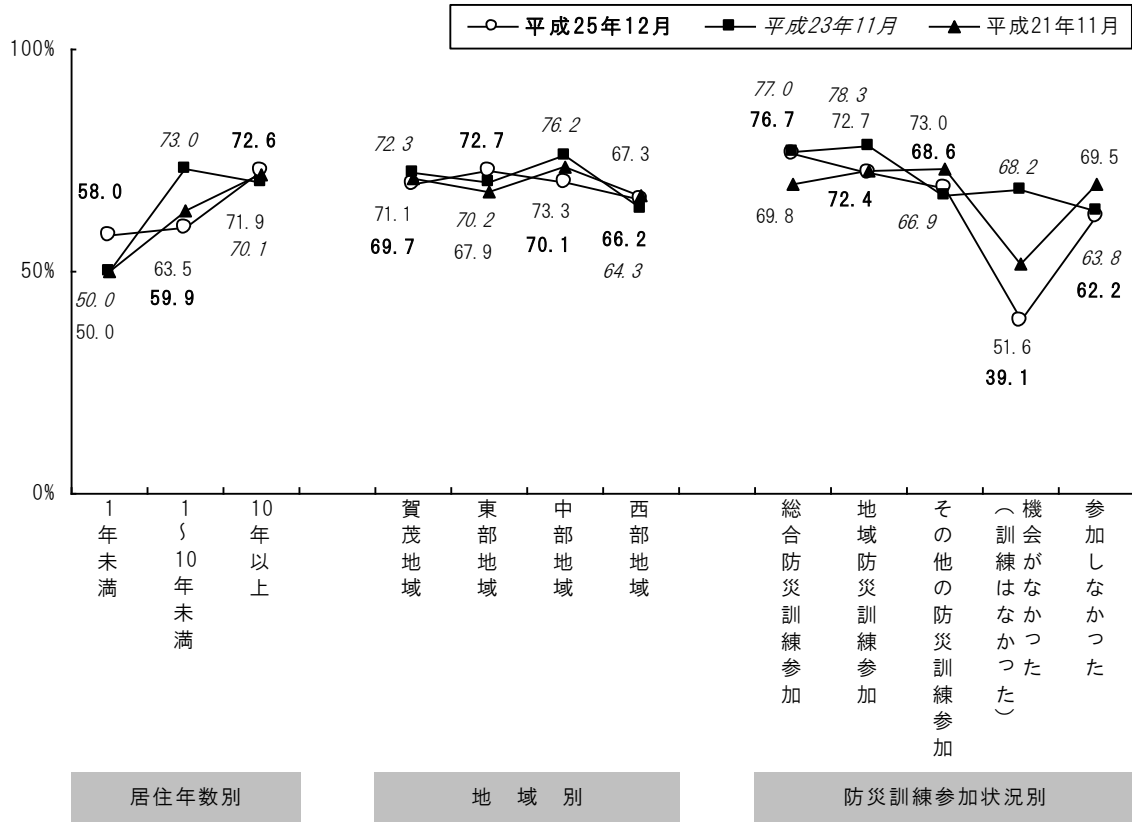
また、問10で「固定していない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「手間がかかるから」(20.8%)、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」(19.2%)、「固定しても被害は出ると思うから」(12.5%)、「借家だから」(12.2%)の順となっている。

家具類の固定実施率（「大部分固定している」＋「一部固定している」）を属性別でみると、**居住年数別**では、『10年以上』（72.6%）で7割を超えており、『1年未満』（58.0%）に比べ高くなっている。

地域別でみると、最も高い『東部』（72.7%）と、最も低い『西部』（66.2%）では6.5ポイントの差が見られる。

防災訓練参加状況別でみると、『機会がなかった（訓練はなかった）』（39.1%）は、他と比べ固定実施率が低くなっている。

家具類の固定実施率（「大部分固定している」＋「一部固定している」）＜属性別＞

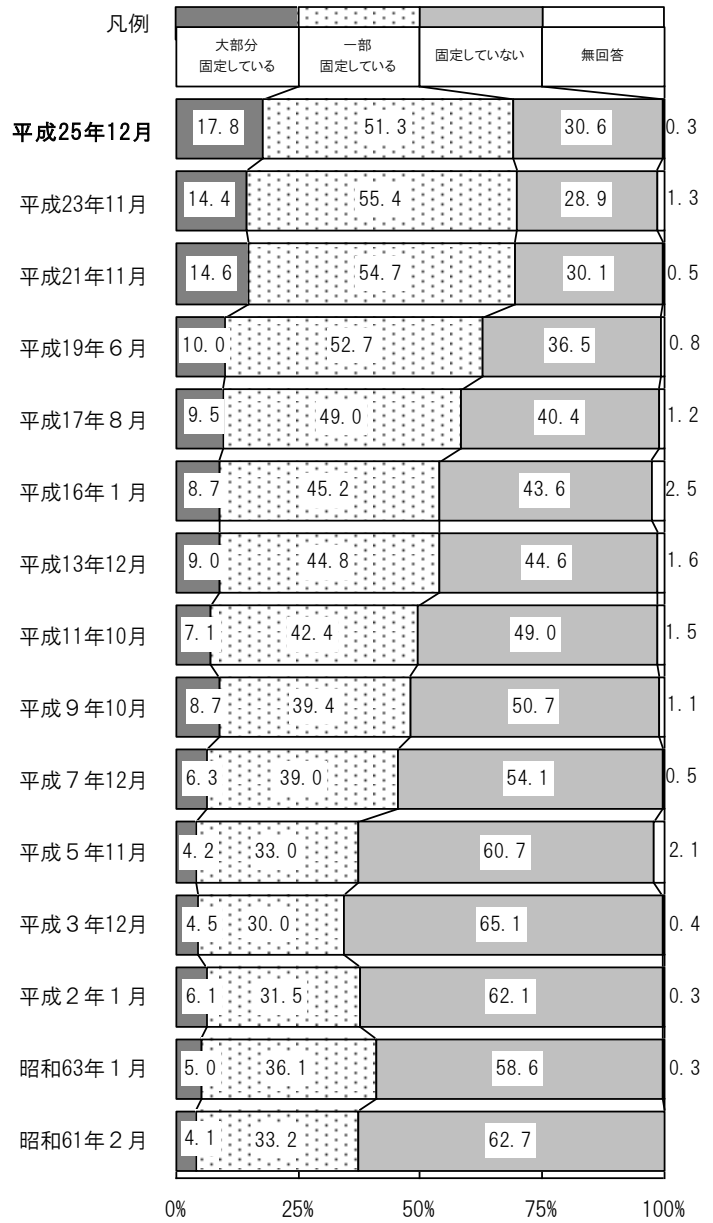


経年比較でみると、家具の固定実施率（「大部分固定している」＋「一部固定している」）は平成3年以降、年々増加傾向となっていたが、今回調査（69.1%）は、前回調査（69.8%）より0.7ポイント下回っている。

**家具固定の実施率
経年比較**

平成 25 年 12 月	69.1%
平成 23 年 11 月	69.8%
平成 21 年 11 月	69.3%
平成 19 年 6 月	62.7%
平成 17 年 8 月	58.5%
平成 16 年 1 月	53.9%
平成 13 年 12 月	53.8%
平成 11 年 10 月	49.5%
平成 9 年 10 月	48.1%
平成 7 年 12 月	45.3%
平成 5 年 11 月	37.2%
平成 3 年 12 月	34.5%
平成 2 年 1 月	37.6%
昭和 63 年 1 月	41.1%
昭和 61 年 2 月	37.3%

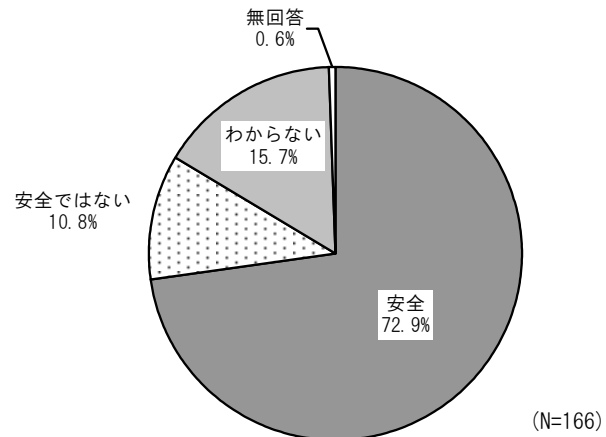
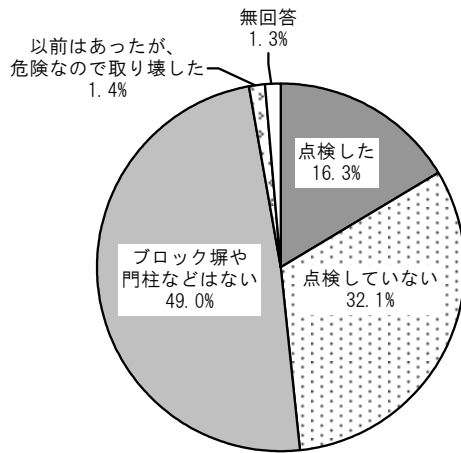
家具類の固定実施状況 <経年比較>



2-4 ブロック塀・門柱などの安全点検

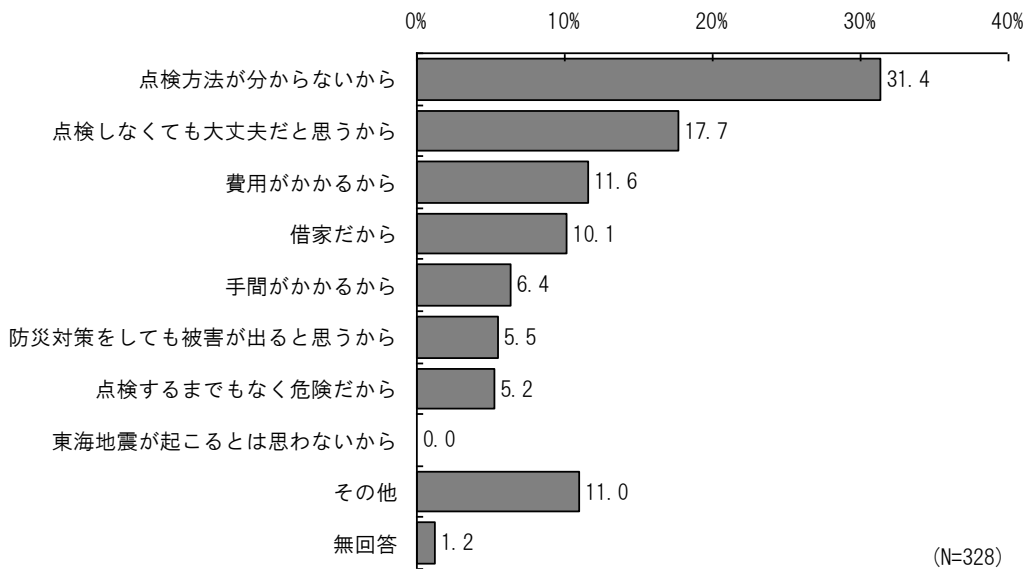
問11 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。

＜問11で「1 点検した」を選んだ方にお伺いします。＞
問11-1 点検結果はいかがでしたか。



＜問11で「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。＞

問11-2 どのような理由からですか。

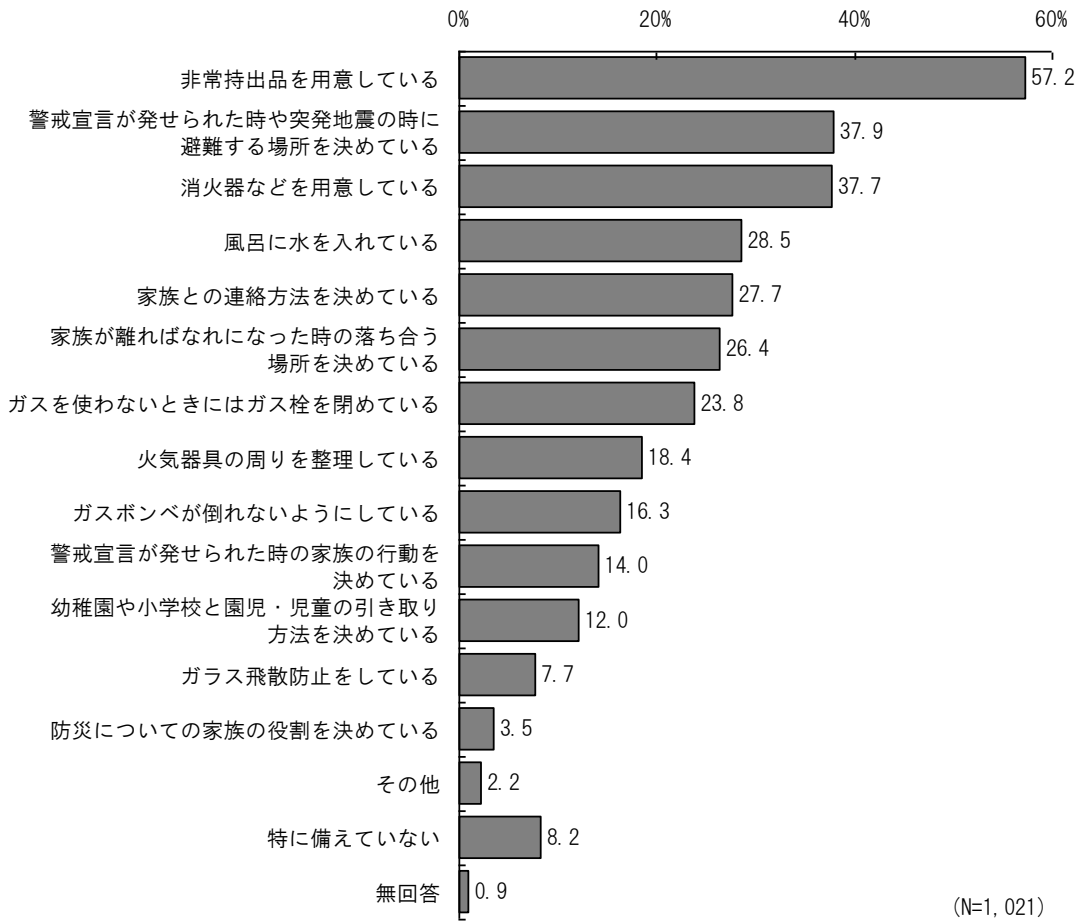


ブロック塀・門柱などの安全性の点検についてたずねたところ、「ブロック塀や門柱などはない」（49.0%）が最も高く、次いで「点検していない」（32.1%）、「点検した」（16.3%）、「以前はあったが、危険なので取り壊した」（1.4%）の順となっている。

問11で「点検をした」と回答した人に、結果をたずねたところ、「安全」（72.9%）が最も高く、次いで「わからない」（15.7%）、「安全ではない」（10.8%）の順となっている。また、問11で「点検していない」と回答した人の理由については、「点検方法が分からないから」（31.4%）が最も高く、次いで「点検しなくても大丈夫だと思うから」（17.7%）、「費用がかかるから」（11.6%）の順となっている。

2-5 東海地震に備えての防災対策

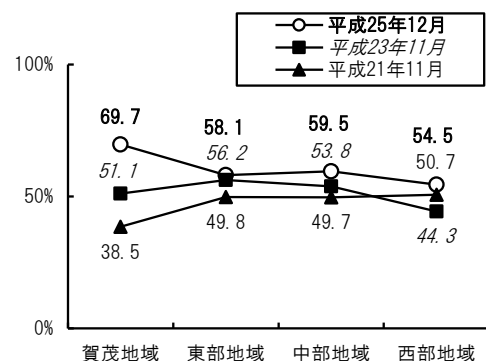
問12 次にあげるものの中で、東海地震に備えてあなたのお宅で行っているものについて、いくつでもお答えください。
(M. A.)



東海地震に備えて行っている防災対策についてたずねたところ、「非常持出品を用意している」(57.2%)が最も高く、次いで「警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている」(37.9%)、「消火器などを用意している」(37.7%)、「風呂に水を入れている」(28.5%)の順となっている。

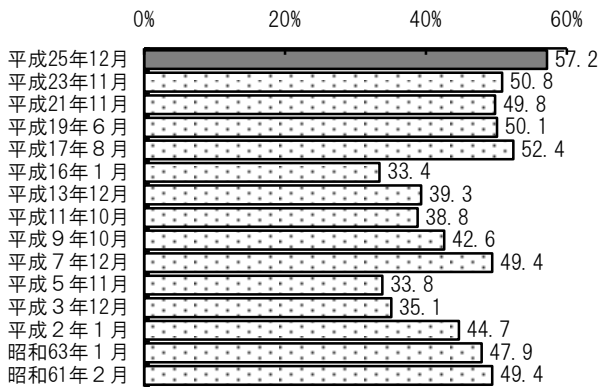
非常持出品の準備率を地域別でみると最も高い『賀茂』(69.7%)と、最も低い『西部』(54.5%)では15.2ポイントの差が見られる。

非常持出品の準備率 <地域別>

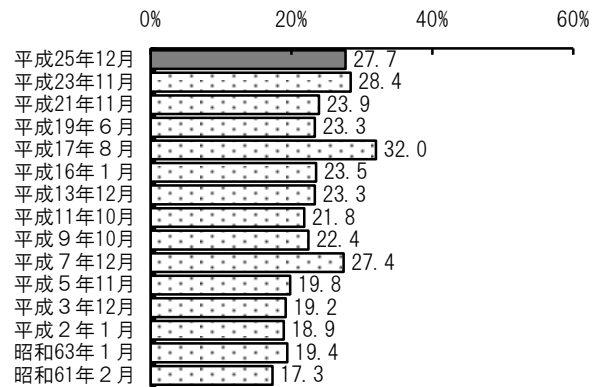


東海地震に対する防災対策 <経年比較>

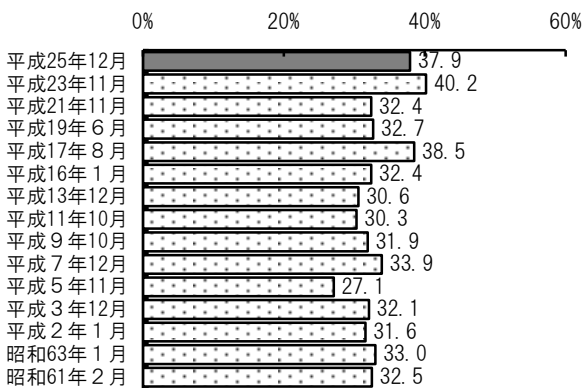
非常持出品を用意している



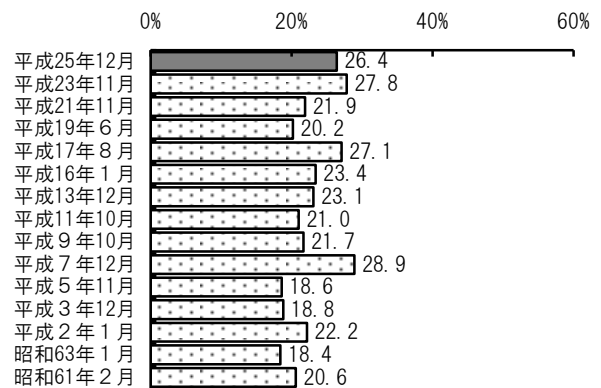
家族との連絡方法を定めている



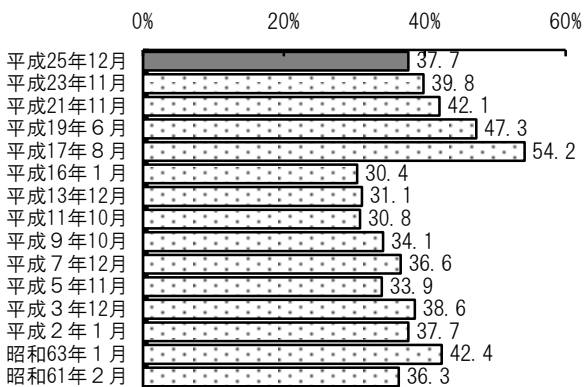
警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている



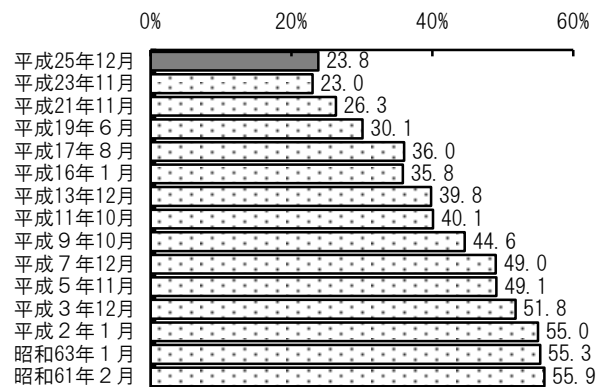
家族が離ればなれになった時の落ち合う場所を決めている



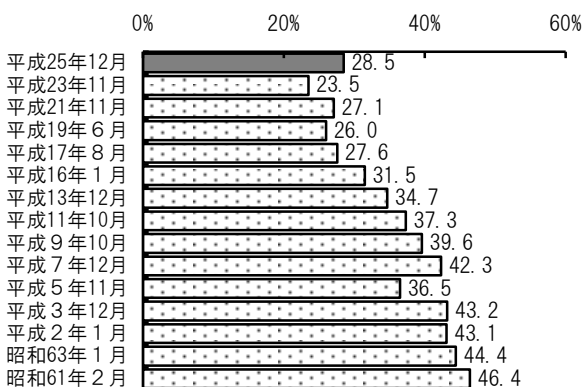
消火器などを用意している



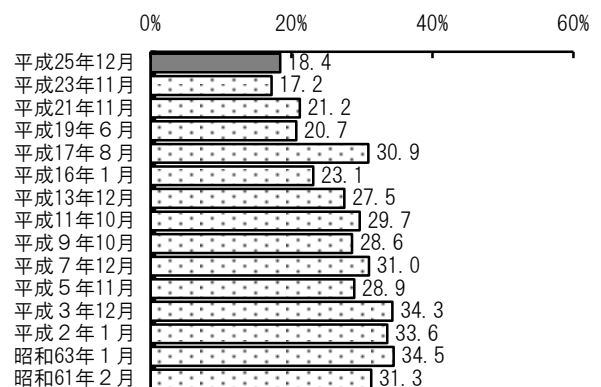
ガスを使わないときにはガス栓を閉めている



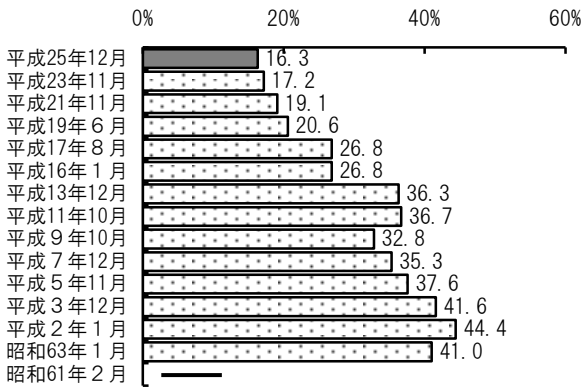
風呂に水を入れている



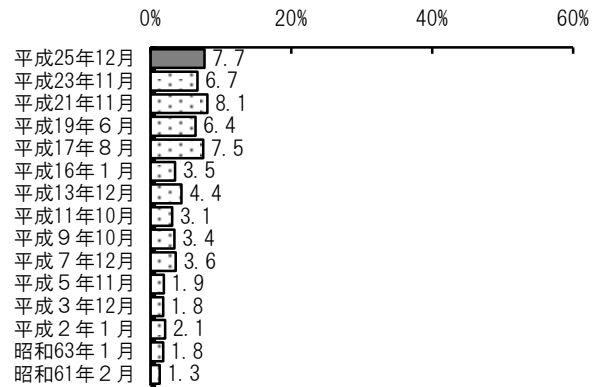
火気器具の周りを整理している



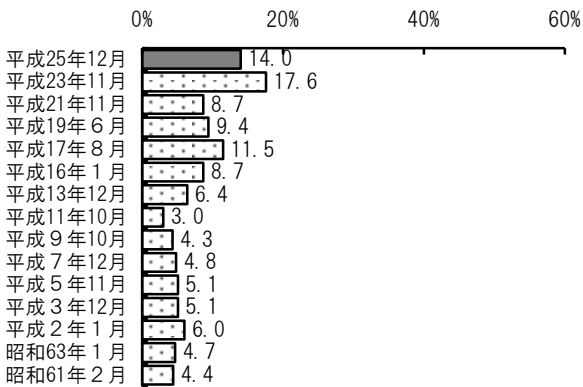
ガスボンベが倒れないようにしている



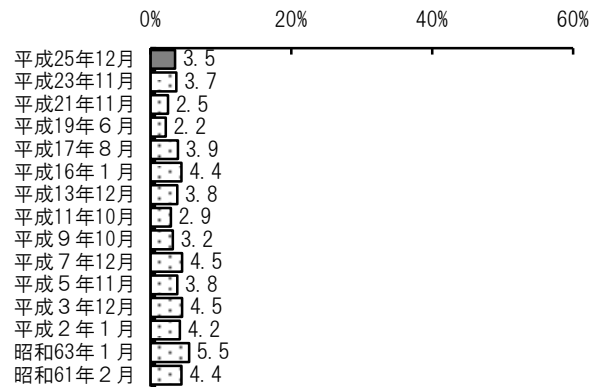
ガラス飛散防止をしている



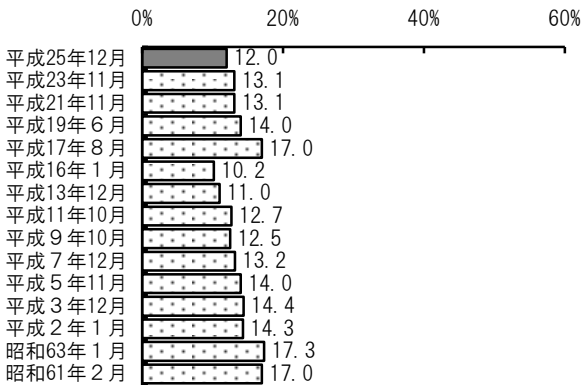
警戒宣言が発せられた時の家族の行動を決めている



防災についての家族の役割を決めている



幼稚園や小学校と園児・児童の引き取り方法を決めている



経年比較でみると、日常面での備えの上位5位までは、前回調査と比べポイント上昇の傾向となっているが、「消火器などを用意している」は、今回調査（37.7%）が前回調査（39.8%）より2.1ポイント低下している。「ガスを使わないときにはガス栓を閉めている」は、『平成3年12月調査』まで半数を超えていたが年々割合が低下しており今回調査では4位（23.8%）となっている。

行動面での備えは、上位5項目ともに前回調査よりポイントが下回っている。

日常面での備え 上位5位（平成25年） <経年比較>

上位5位項目	平成25年 12月 前回比	平成23年 11月	平成21年 11月	平成19年 6月	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月	平成9年 10月	平成7年 12月	平成5年 11月	平成3年 12月	平成2年 1月	昭和63年 1月	昭和61年 2月
1位 非常持出品を用意している	57.2 (6.4)	50.8	49.8	50.1	52.4	33.4	39.3	38.8	42.6	49.4	33.8	35.1	44.7	47.9	49.4
2位 消火器などを用意している	37.7 (-2.1)	39.8	42.1	47.3	54.2	30.4	31.1	30.8	34.1	36.6	33.9	38.6	37.7	42.4	36.3
3位 風呂に水を入れている	28.5 (5.0)	23.5	27.1	26.0	27.6	31.5	34.7	37.3	39.6	42.3	36.5	43.2	43.1	44.4	46.4
4位 ガスを使わないときにはガス栓を閉めている	23.8 (0.8)	23.0	26.3	30.1	36.0	35.8	39.8	40.1	44.6	49.0	49.1	51.8	55.0	55.3	55.9
5位 火気器具の周りを整理している	18.4 (1.2)	17.2	21.2	20.7	30.9	23.1	27.5	29.7	28.6	31.0	28.9	34.3	33.7	34.5	31.3

行動面での備え 上位5位（平成25年） <経年比較>

上位5位項目	平成25年 12月 前回比	平成23年 11月	平成21年 11月	平成19年 6月	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月	平成9年 10月	平成7年 12月	平成5年 11月	平成3年 12月	平成2年 1月	昭和63年 1月	昭和61年 2月
1位 警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている	37.9 (-2.3)	40.2	32.4	32.7	38.5	32.4	30.6	30.3	31.9	33.9	27.1	32.1	31.6	33.0	32.5
2位 家族との連絡方法を決めている	27.7 (-0.7)	28.4	23.9	23.3	32.0	23.5	23.3	21.8	22.4	27.4	19.8	19.2	18.9	19.4	17.3
3位 家族が離ればなれになった時の落ち合う場所を決めている	26.4 (-1.4)	27.8	21.9	20.2	27.1	23.4	23.1	21.0	21.7	28.9	18.6	18.8	22.2	18.4	20.6
4位 警戒宣言が発せられた時の家族の行動を決めている	14.0 (-3.6)	17.6	8.7	9.4	11.5	8.7	6.4	3.0	4.3	4.8	5.1	5.1	6.0	4.7	4.4
5位 幼稚園や小学校と園児・児童の引き取り方法を決めている	12.0 (-1.1)	13.1	13.1	14.0	17.0	10.2	11.0	12.7	12.5	13.2	14.0	14.4	14.3	17.3	17.0

※日常面での備えは、「非常持出品を用意している」、「消火器などを用意している」、「風呂に水を入れている」、「ガスを使わないときにはガス栓を閉めている」、「火気器具の周りを整理している」、「ガスボンベが倒れないようにしている」、「ガラス飛散防止をしている」とする。

行動面での備えは、「警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている」、「家族との連絡方法を決めている」、「家族が離ればなれになった時の落ち合う場所を決めている」、「警戒宣言が発せられた時の家族の行動を決めている」、「幼稚園や小学校と園児・児童の引き取り方法を決めている」、「防災についての家族の役割を決めている」とする。

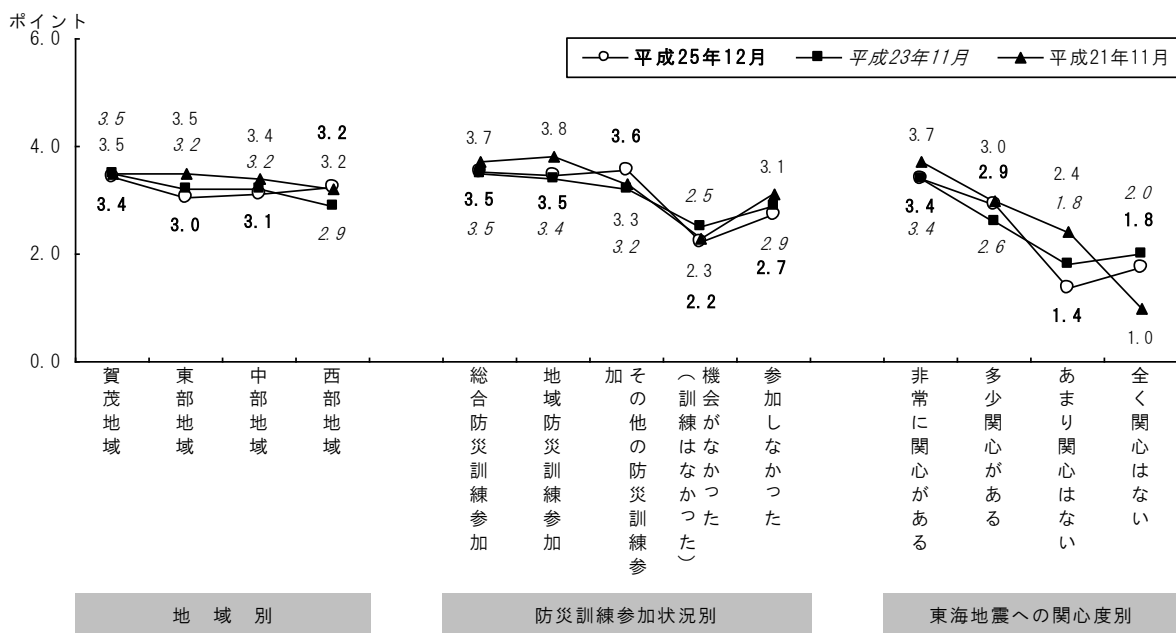
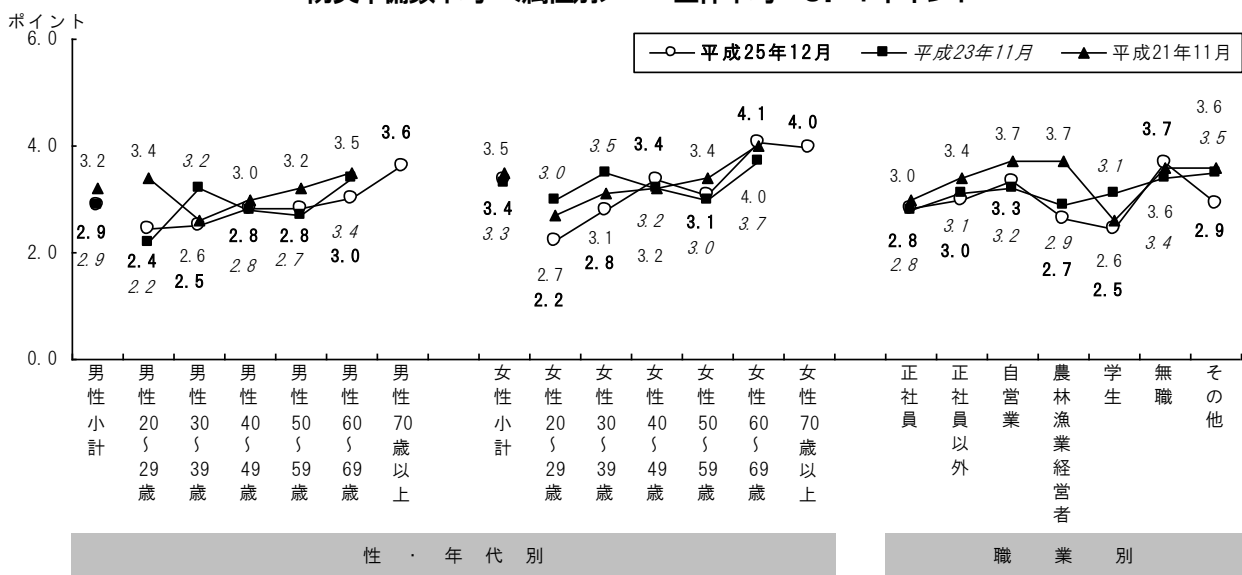
防災準備数（東海地震に備えた防災対策で実施している項目1項目につき1点というポイントを与え、各属性ごとに平均ポイントを算出し、比較を行った。なお、全体平均は3.1ポイントとなっている。）を各属性別でみると、**性・年代別**では、男性・女性ともに年齢が上がるにつれ防災準備数が多くなる傾向がある。最も得点が高い『女性60代』（4.1ポイント）と、最も得点が高い『女性20代』（2.2ポイント）では1.9ポイントの差が見られる。

職業別では、最も高い『無職』（3.7ポイント）と、最も低い『学生』（2.5ポイント）では、1.2ポイントの差があり、**地域別**では、最も高い『賀茂』（3.4ポイント）と、最も低い『東部』（3.0ポイント）では、0.4ポイントの差が見られる。

防災訓練参加状況別でみると、最も高い『その他の防災訓練に参加』（3.6ポイント）と、最も低い『機会がなかった（訓練はなかった）』（2.2ポイント）では1.4ポイントの差が見られる。

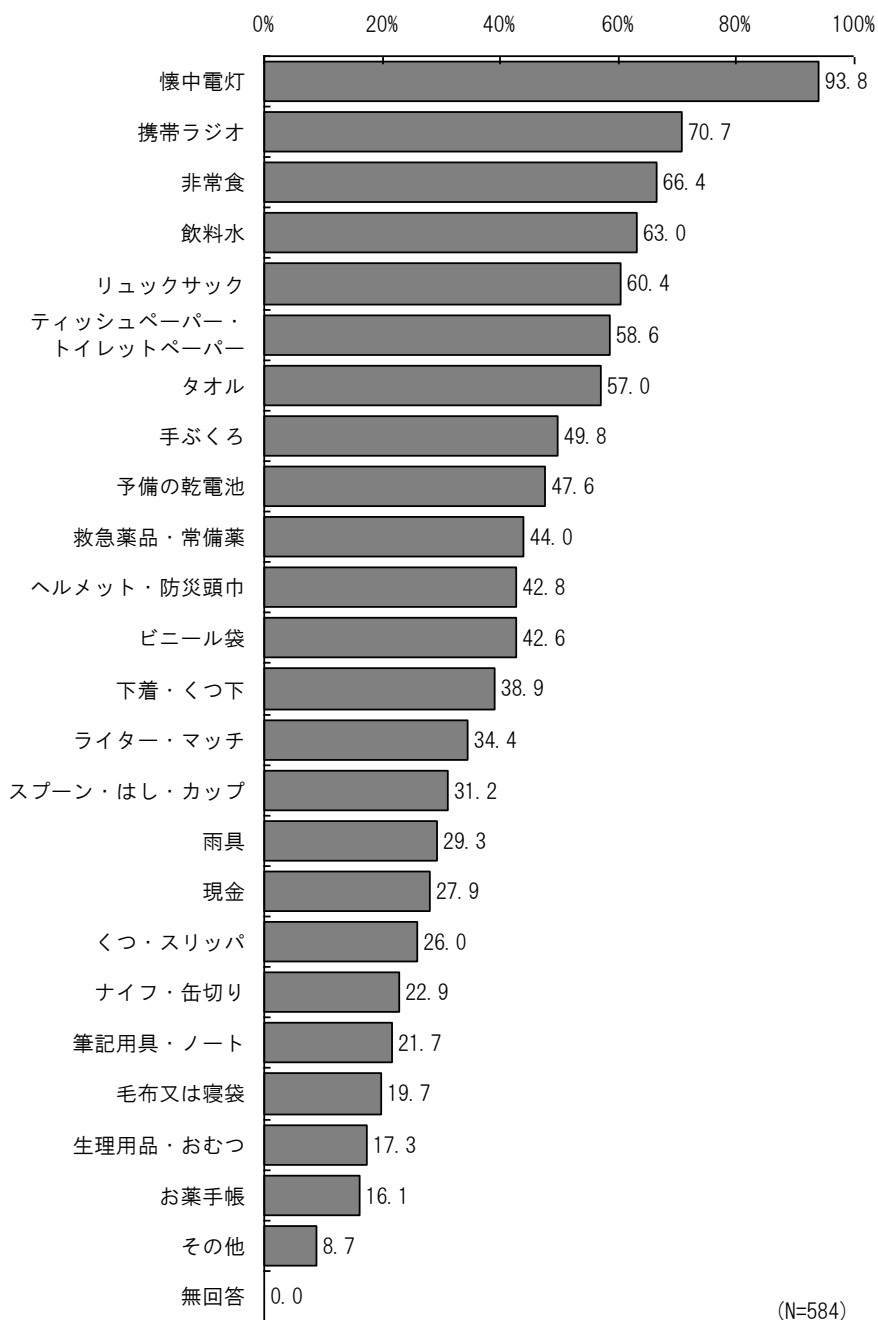
東海地震への関心度別でみると、最も高い『非常に関心がある』（3.4ポイント）と、最も低い『あまり関心はない』（1.4ポイント）では2.0ポイントの差が見られる。

防災準備数平均 <属性別> 全体平均 3.1ポイント



<問12で「13 非常持出品を用意している」を選んだ方にお伺いします。>

問12-1 非常持出品として何を用意していますか。(M. A.)

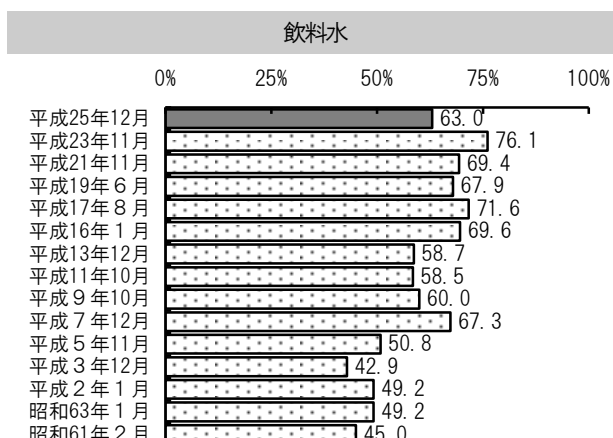
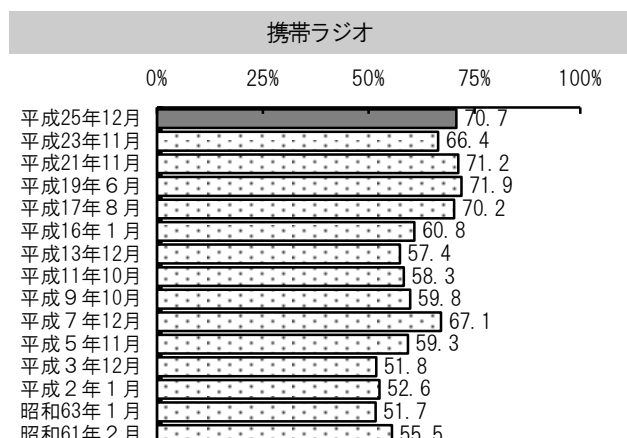
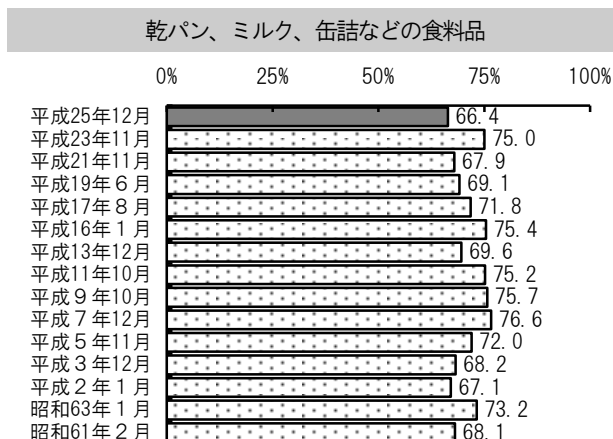
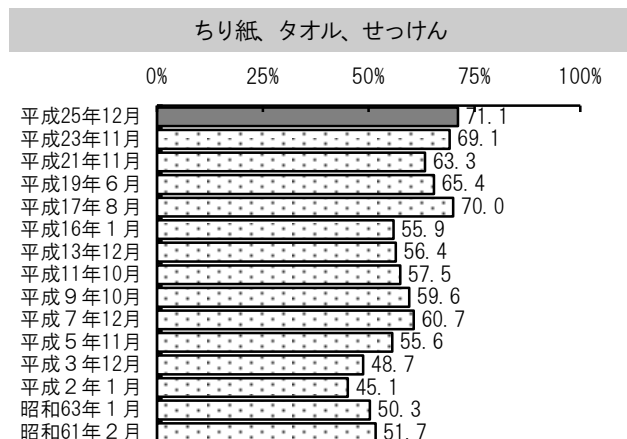
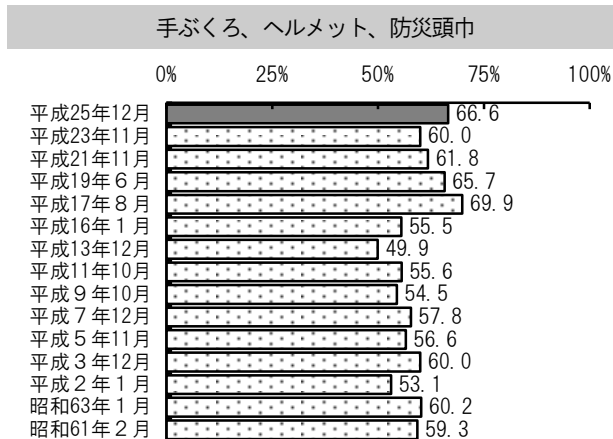
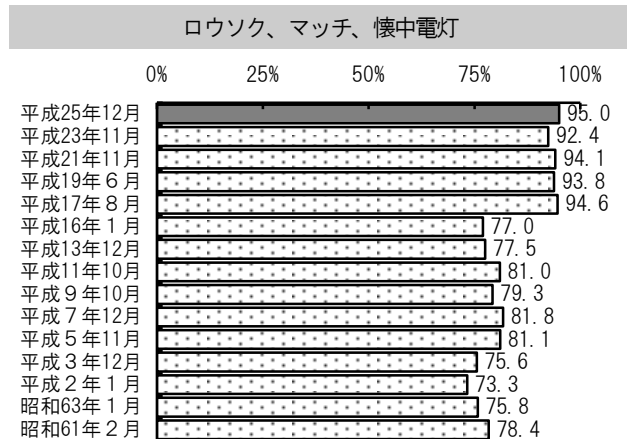


● 平均準備品目数 9.9

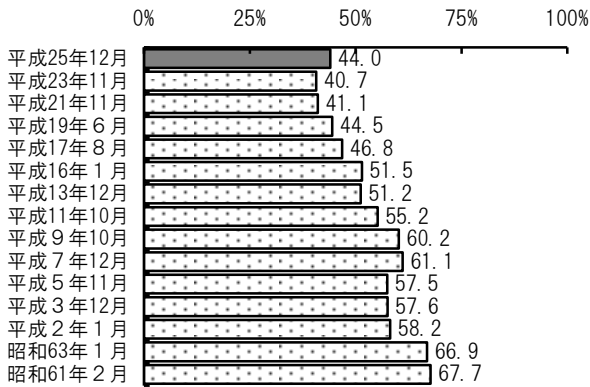
問12で「非常持出品を用意している」と回答した人に何を用意しているかをたずねたところ、「懐中電灯」(93.8%)が最も高く、次いで「携帯ラジオ」(70.7%)、「非常食」(66.4%)、「飲料水」(63.0%)、「リュックサック」(60.4%)の順となっている。

用意している非常持出品を**経年比較**で見ると、今回調査では「携帯ラジオ」(70.7%)、「手ぶくろ、ヘルメット、防災頭巾」(66.6%)、「救急医療品、常備薬」(44.0%)、「現金」(27.9%)が前回調査より3ポイント以上上昇している。

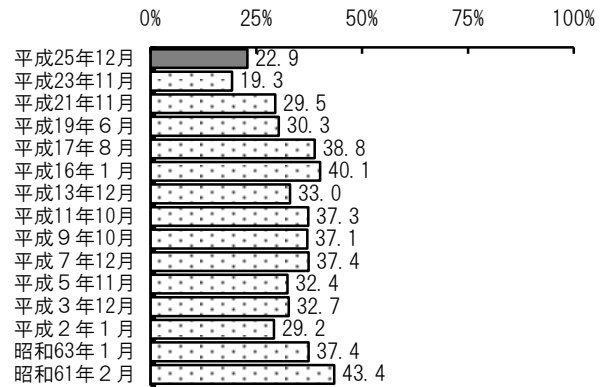
用意している非常持出品 <経年比較>



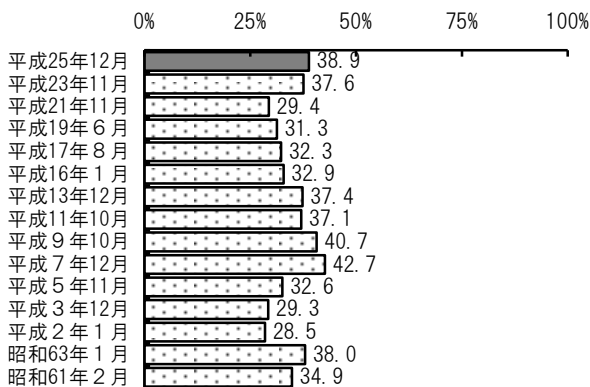
救急医療品、常備薬



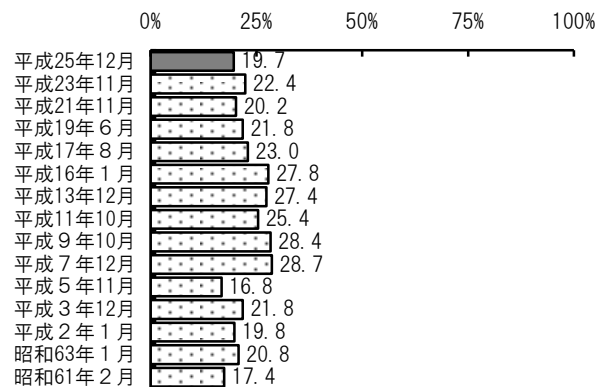
ナイフ、缶きり、ロープ、ひも



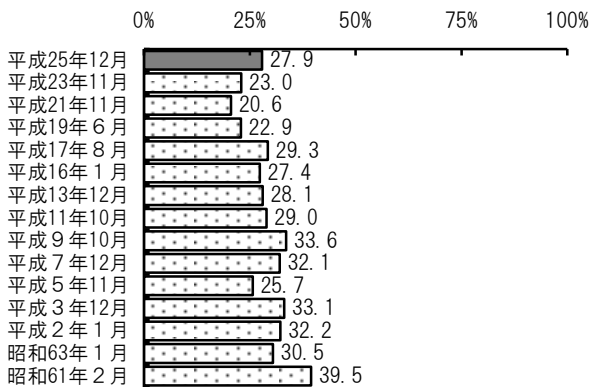
下着類



毛布又は寝袋



現金



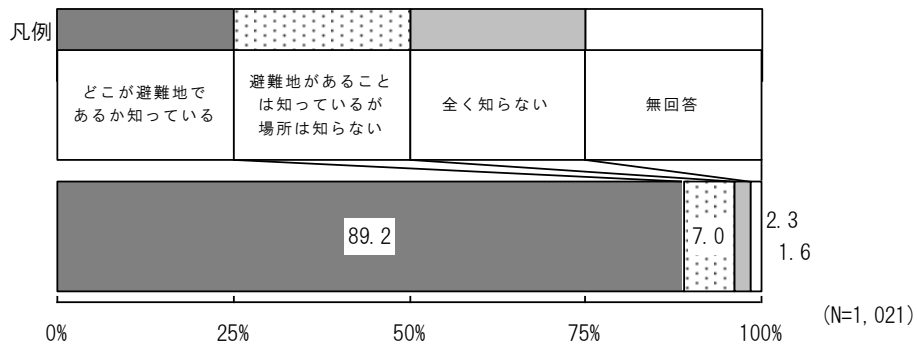
平均準備品目数
経年比較

平成25年12月	9.9	(23項目中)
平成23年11月	9.6	(23項目中)
平成21年11月	9.3	(23項目中)
平成19年6月	9.5	(23項目中)
平成17年8月	10.1	(23項目中)
平成16年1月	6.2	(14項目中)
平成13年12月	6.0	(14項目中)
平成11年10月	6.2	(14項目中)
平成9年10月	6.4	(14項目中)
平成7年12月	6.6	(13項目中)
平成5年11月	5.9	(13項目中)
平成3年12月	5.7	(12項目中)
平成2年1月	5.5	(12項目中)
昭和63年1月	6.0	(12項目中)
昭和61年2月	6.2	(12項目中)

※経年比較については、質問項目が追加されているため、複数の質問項目を集約して割合を算出しているものがある。

2-6 指定避難地の認知

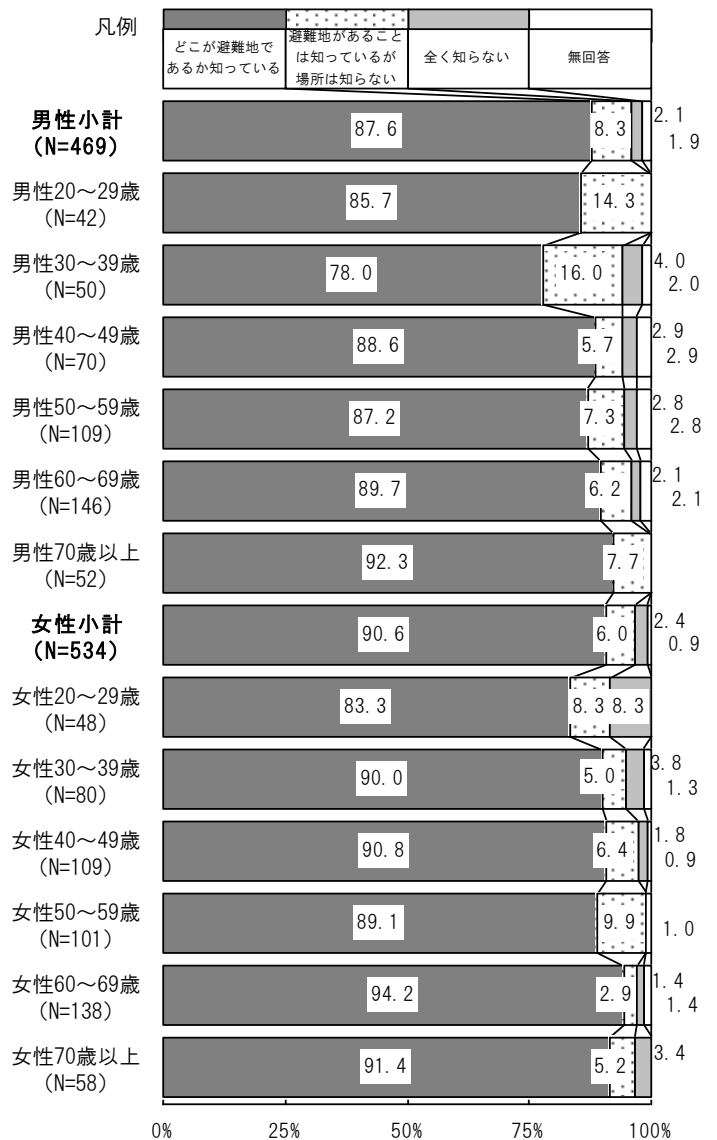
問13 東海地震が予知され警戒宣言が発せられたときや、突然、東海地震が起きたときの避難のため、市町はあらかじめ避難地を指定していますが、あなたの住む地域の避難地をご存知ですか。



市町の指定避難地の認知については、「どこが避難地であるか知っている」(89.2%)が最も高く、次いで「避難地があることは知っているが場所は知らない」(7.0%)、「全く知らない」(2.3%)の順となっている。

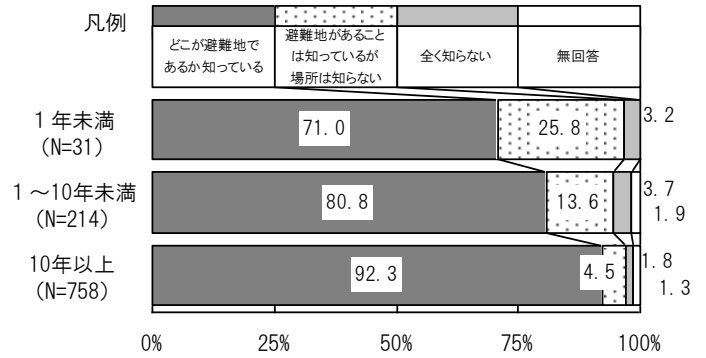
性・年代別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は、最も高い『女性60代』(94.2%)と、最も低い『男性30代』(78.0%)では16.2ポイントの差が見られる。

指定避難地の認知 <性・年代別>



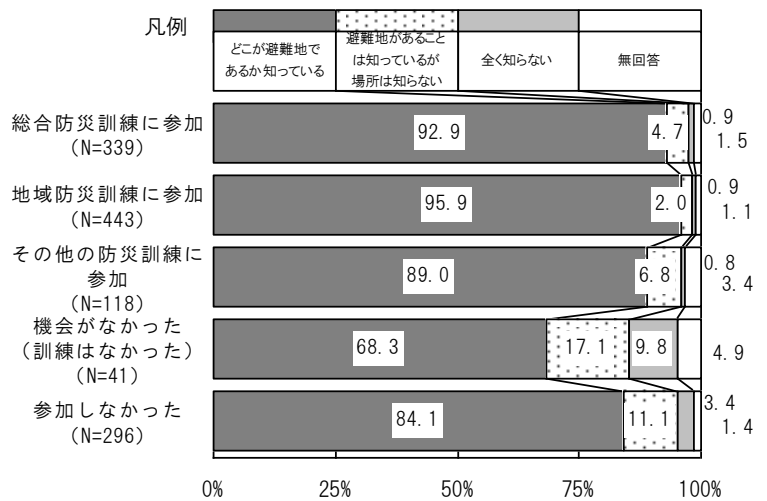
指定避難地の認知について**居住年数別**でみると、居住年数が長くなるにつれて「どこが避難地であるか知っている」が高くなっている。最も高い『10年以上』(92.3%)と、最も低い『1年未満』(71.0%)では21.3ポイントの差が見られる。

指定避難地の認知 <居住年数別>



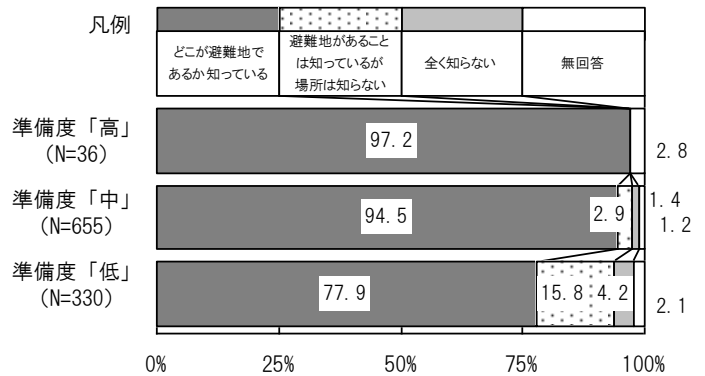
防災訓練参加状況別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は、いずれかの防災訓練に参加している人の方が高くなっている。最も高い『地域防災訓練に参加』(95.9%)と、最も低い『機会がなかった(訓練はなかった)』(68.3%)では27.6ポイントの差が見られる。

指定避難地の認知 <防災訓練参加状況別>



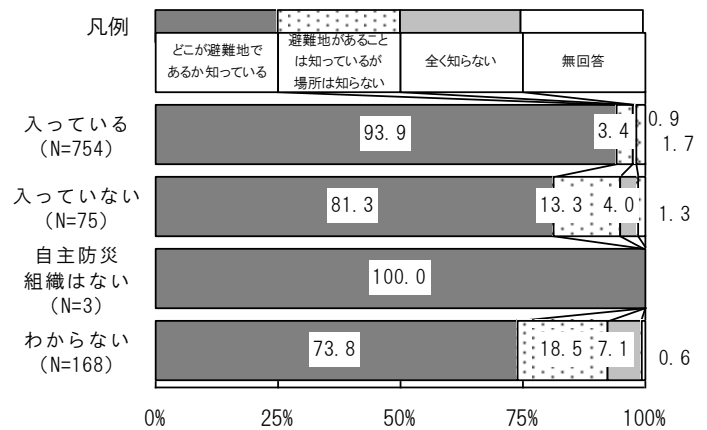
防災準備度別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は、『防災準備度「高」』(97.2%)と、『防災準備度「低」』(77.9%)では19.3ポイントの差が見られる。

指定避難地の認知 <防災準備度別>



自主防災組織加入別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は、自主防災組織に『入っている』(93.9%)と、『入っていない』(81.3%)では12.6ポイントの差が見られる。

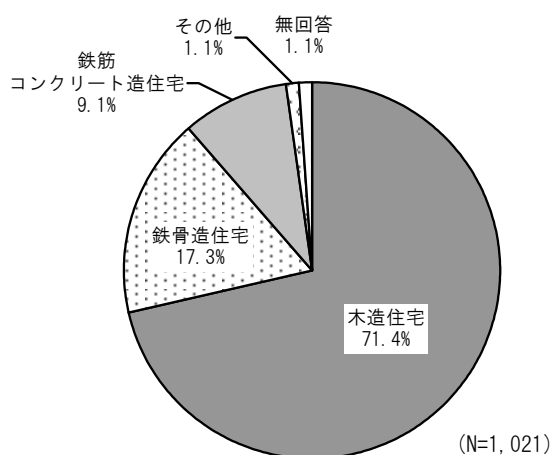
指定避難地の認知 <自主防災組織加入別>



3 住宅の耐震補強について

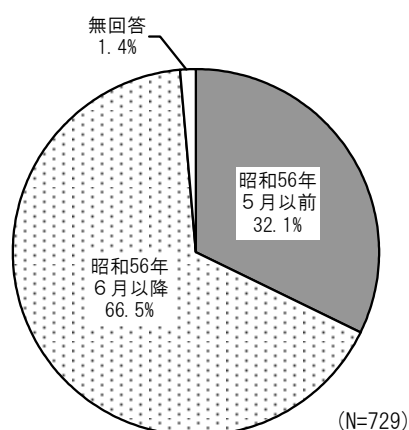
3-1 家屋の構造と耐震診断・耐震補強

問14 あなたのお住まいの家は、次のどれにあたりますか。



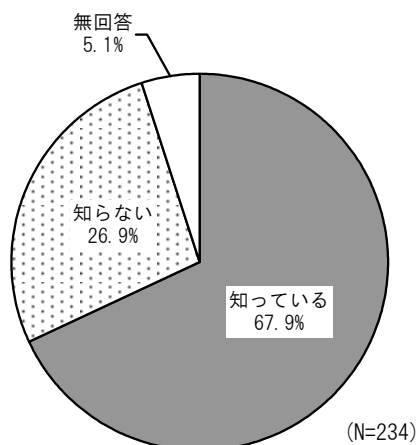
<問14で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問14-1 あなたのお住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。



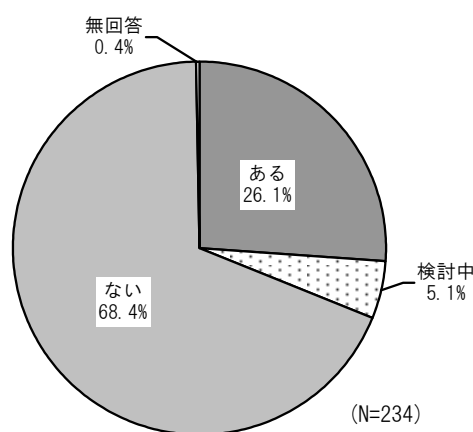
<問14-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問14-2 市町では、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施していることを知っていますか。



<問14-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問14-3 耐震診断をしたことがありますか。

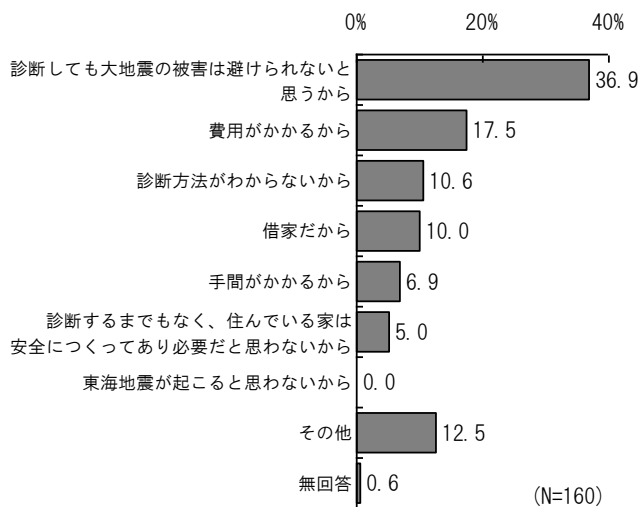


家屋の構造をたずねたところ、「木造住宅」(71.4%)、次いで「鉄骨造住宅」(17.3%)、「鉄筋コンクリート造住宅」(9.1%)の順となっている。

問14で「木造住宅」と回答した人の建築時期については、建築基準法が改正された『昭和56年6月以降』(66.5%)が6割を超えている。また、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅に住んでいる方に耐震診断の有無についてたずねたところ、耐震診断をしたことが「ない」(68.4%)が最も高く、次いで「ある」(26.1%)、「検討中」(5.1%)の順となっており、耐震診断をしたことが「ない」という人が7割近くを占めている。

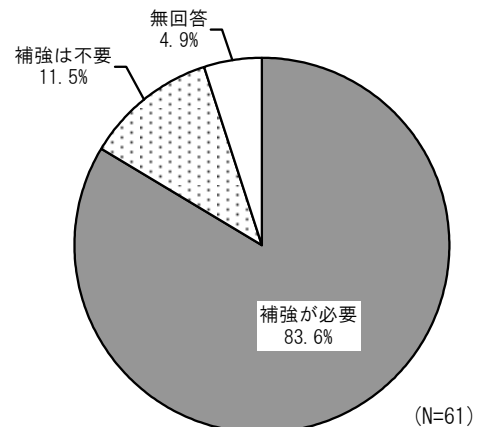
＜問14-3で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。＞

問14-3-1 耐震診断をしないのはなぜですか。



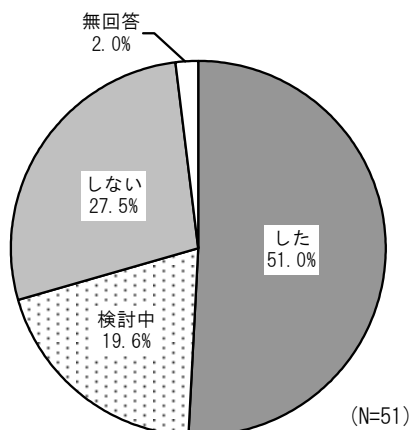
＜問14-3で「1 ある」を選んだ方にお伺いします。＞

問14-3-2 結果はいかがでしたか。



＜問14-3-2で「1 補強が必要」を選んだ方にお伺いします。＞

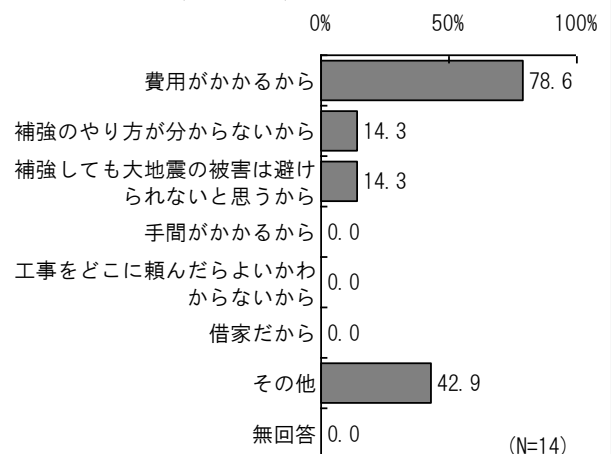
問14-3-3 診断後、補強しましたか。



＜問14-3-3で「3 しない」を選んだ方にお伺いします。＞

問14-3-4 補強をしないのはなぜですか。

(M. A.)



問14-3で耐震診断をしたことが「ない」と回答した人に耐震診断をしない理由をたずねたところ、「診断しても大地震の被害は避けられないと思うから」(36.9%)が最も高く、次いで「費用がかかるから」(17.5%)、「診断方法がわからないから」(10.6%)の順となっている。

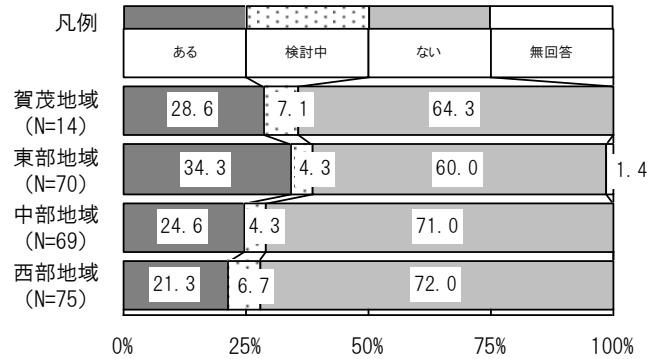
問14-3で耐震診断をしたことが「ある」と回答した人に診断結果をたずねたところ、「補強が必要」(83.6%)、「補強は不要」(11.5%)の順となっており、「補強が必要」が8割を超えている。また、問14-3-2で「補強が必要」と回答した人が診断後、補強をしたかについては、補強を「した」(51.0%)が最も高いものの、「検討中」(19.6%)、「しない」(27.5%)は合わせて47.1%となっている。

問14-3-3で補強を「しない」と回答した人の理由については、「費用がかかるから」(78.6%)が最も高く、次いで「補強のやり方がわからないから」(14.3%)、「補強しても大地震の被害は避けられないと思うから」(14.3%)の順となっている。

耐震診断の実施率 (昭和56年以前の木造住宅居住者)

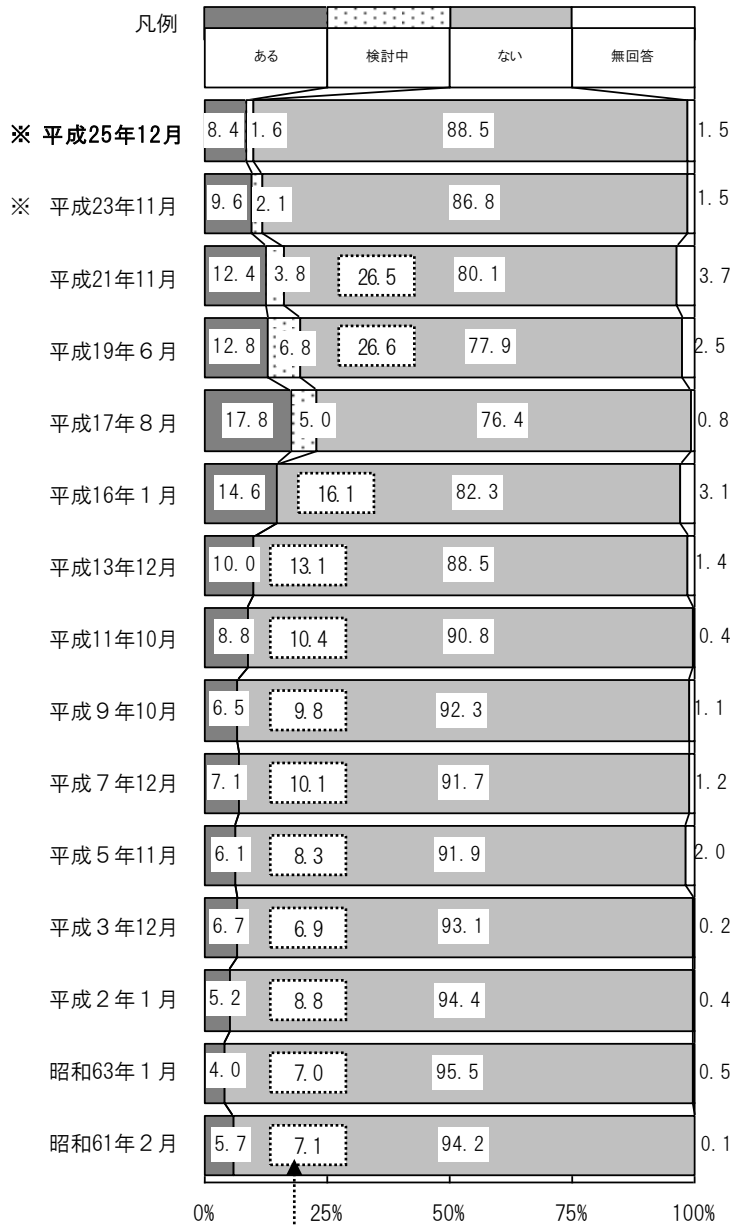
＜地域別＞

地域別で見ると、耐震診断をしたことが「ある」は、最も高い『東部』(34.3%)と、最も低い『西部』(21.3%)では13.0ポイントの差が見られる。



経年比較で見ると、耐震診断の実施率は、今回調査 (8.4%) で前回調査 (9.6%) より1.2ポイント低下している。

耐震診断の実施率＜経年比較＞

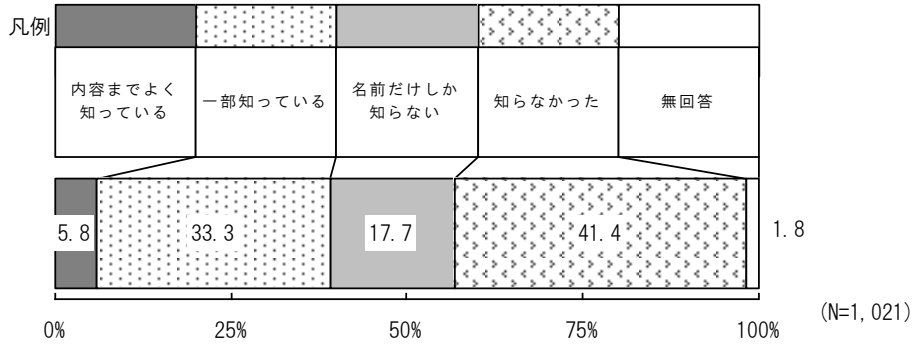


- ※「検討中」の項目は、平成17年度から設定した。
- ※耐震診断していない理由（「診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから」）について、平成17年度は未調査。
- ※平成21年度調査までは、木造住宅に居住している全ての方を対象に調査を実施。
- 平成23年度以降の調査では、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅に居住している方を対象に実施。
- 経年比較をするため、平成23年度以降の数字は「昭和56年6月以降に建てられた木造住宅に居住している方」については、耐震診断をしたことが「ない」、「無回答」は「無回答」として全体に含め、実施率を算出している。

診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから

3-2 プロジェクト“TOUKAI-0”の認知

トウカイ
 問15 現在、静岡県では木造住宅の耐震化促進事業『プロジェクト“TOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）”』を推進しています。この事業の内容は、①専門家による無料耐震診断 ②耐震補強計画策定への補助 ③耐震補強工事への補助の3つの項目からなっています。あなたは、このことをご存知ですか。

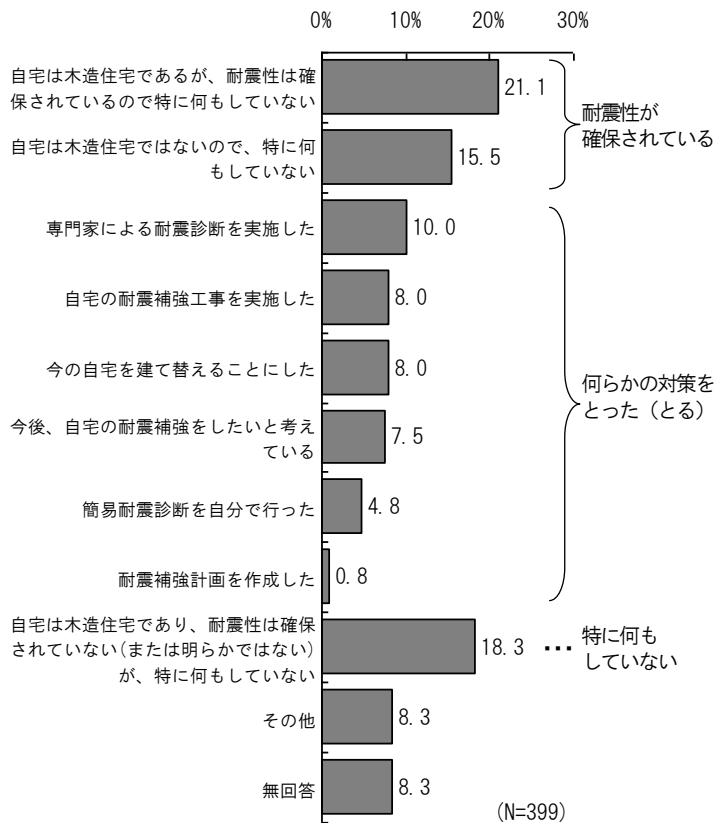
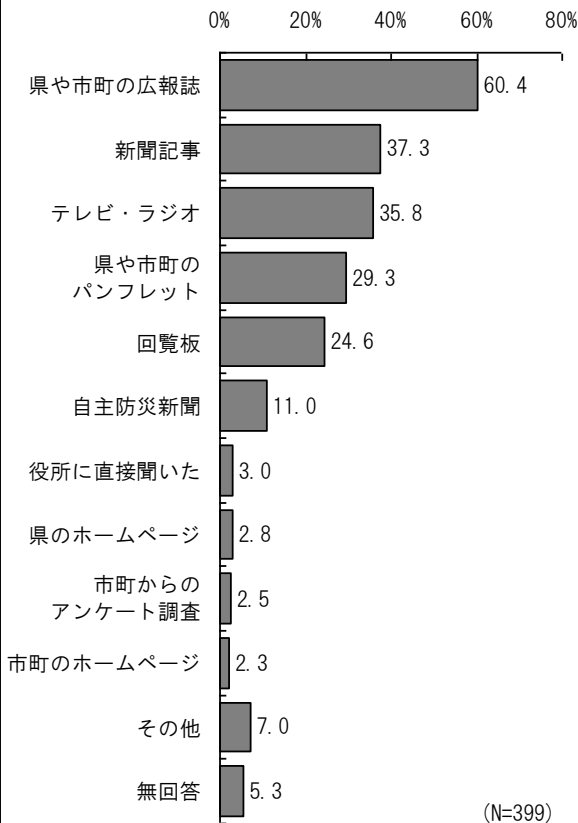


<問15で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問15-1 あなたは『プロジェクト“TOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）”』をどのようにして知りましたか。(M. A.)

<問15で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問15-2 あなたは『プロジェクト“TOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）”』を知って、何か行った行動（現在行っている場合を含む）はありますか。次の中からあてはまるものをお選びください。(M. A.)



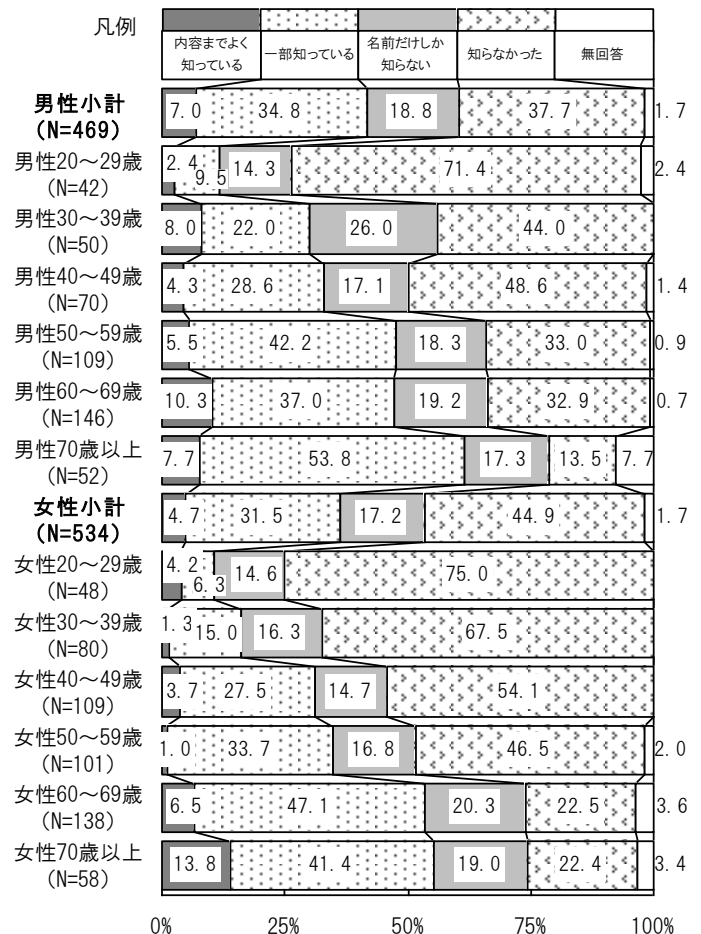
『プロジェクト「TOUKAI（東海・倒壊）ー0（ゼロ）」の認知についてたずねたところ、「知らなかった」（41.4%）が最も高く、次いで「一部知っている」（33.3%）、「名前だけしか知らない」（17.7%）、「内容までよく知っている」（5.8%）の順となっており、内容を知らない人（「名前だけしか知らない」＋「知らなかった」）（59.1%）が6割近くとなっている。

ある程度内容を理解している人（「内容までよく知っている」＋「一部知っている」）の認知方法については、「県や市町の広報誌」（60.4%）が最も高く、次いで「新聞記事」（37.3%）と「テレビ・ラジオ」（35.8%）、「県や市町のパンフレット」（29.3%）の順となっている。

また、認知後の行動については、「自宅は木造住宅であるが、耐震性は確保されているので特に何もしていない」（21.1%）が最も高く、次いで「自宅は木造住宅であり、耐震性は確保されていない（または明らかではない）が、特に何もしていない」（18.3%）、「自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない」（15.5%）の順となっている。具体的に行った行動としては、「専門家による耐震診断を実施した」（10.0%）が高くなっている。

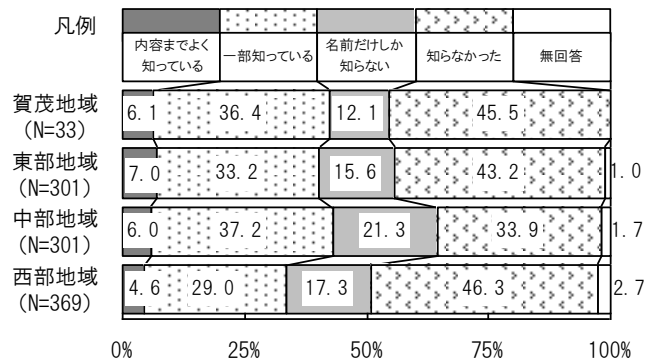
性・年代別でみると、「知らなかった」は、男性・女性とも『20代』が他の年代に比べ高くなっており、7割を超えている。年代が上がるにつれて「知らなかった」の割合は低くなる傾向にある。

プロジェクト“TOUKAIー0”
の認知率 <性・年代別>



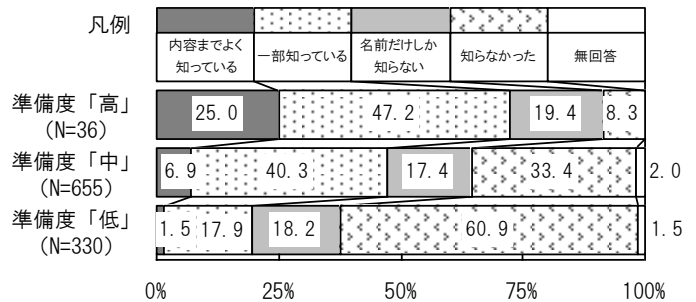
地域別でみると、ある程度内容を理解している人（「内容までよく知っている」＋「一部知っている」）は、『中部』（43.2%）が最も高く、最も低い『西部』（33.6%）とは9.6ポイントの差が見られる。

プロジェクト“TOUKAI-0” の認知率 <地域別>



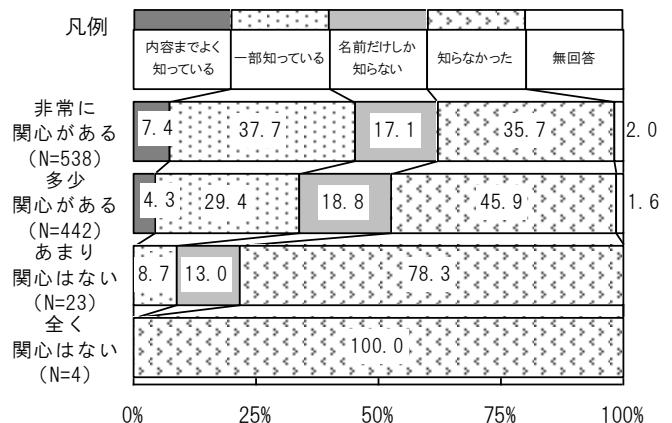
防災準備度別でみると、ある程度内容を理解している人（「内容までよく知っている」＋「一部知っている」）は、『防災準備度「高」』（72.2%）で最も高くなっている。最も低い『防災準備度「低」』（19.4%）とは52.8ポイントの差が見られ、防災準備度が高い人ほど認知率は高い傾向にある。

プロジェクト“TOUKAI-0” の認知率 <防災準備度別>



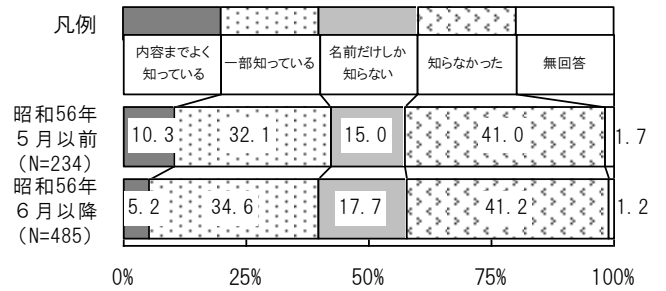
東海地震の関心度別でみると、ある程度内容を理解している人（「内容までよく知っている」＋「一部知っている」）は、『非常に関心がある』（45.1%）で高くなっている。『全く関心はない』人には認知されておらず、関心が高い人ほど認知率は高い傾向にある。

プロジェクト“TOUKAI-0” の認知率 <東海地震への関心度別>



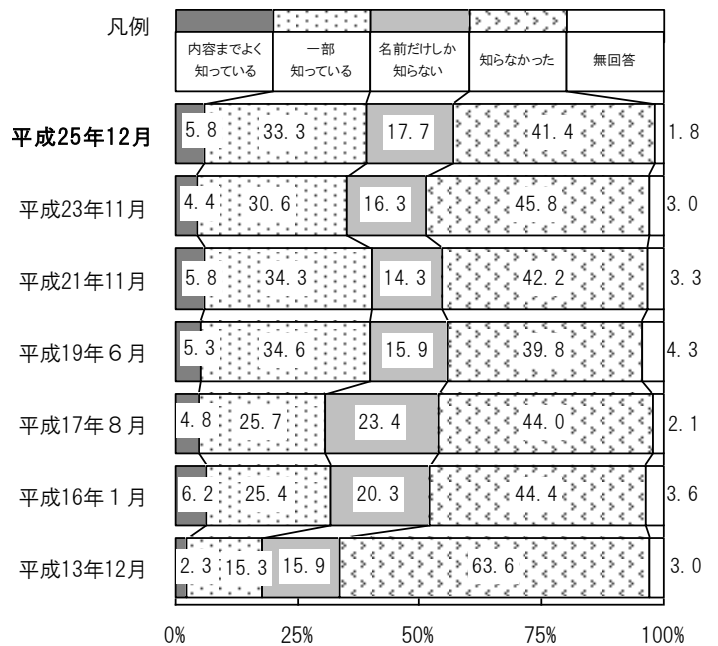
木造住宅建築時期別でみると、ある程度内容を理解している人（「内容までよく知っている」＋「一部知っている」）は、『昭和56年5月以前』（42.4％）と『昭和56年6月以降』（39.8％）では、『昭和56年5月以前』の方が認知率は若干高くなっている。

**プロジェクト“TOUKAI-0”
の認知率 <木造住宅建築時期別>**



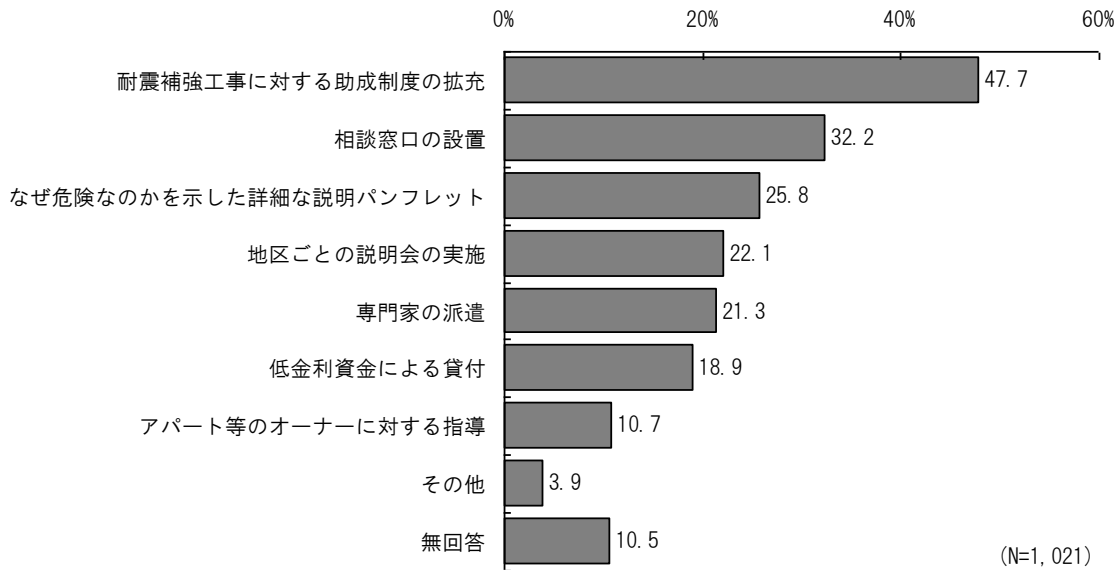
経年比較でみると、ある程度内容を理解している人（「内容までよく知っている」＋「一部知っている」）は、今回調査（39.1％）では前回調査（35.0％）より4.1ポイント上昇している。

**プロジェクト“TOUKAI-0”
の認知率 <経年比較>**



3-3 耐震化に関する行政への要望

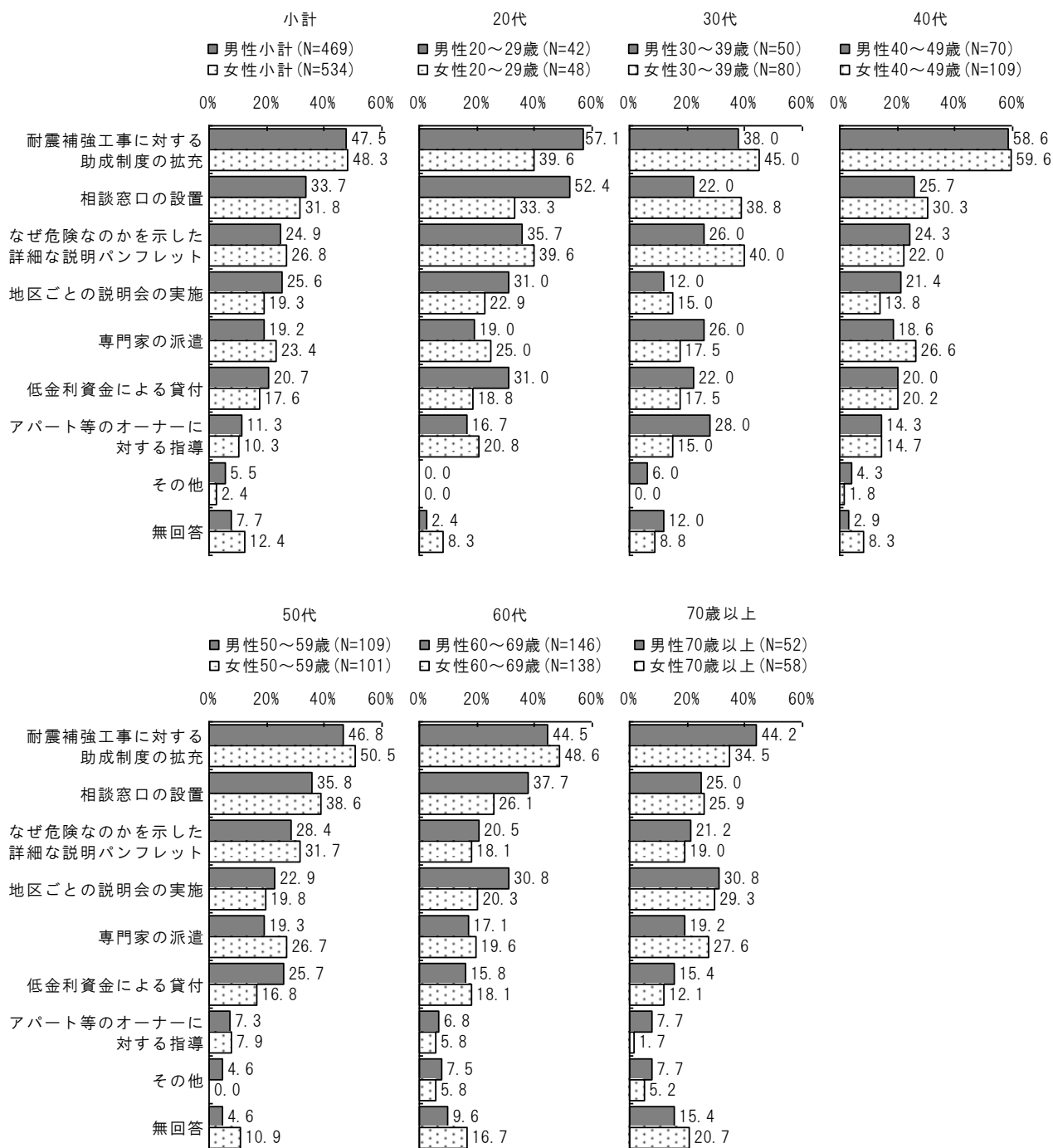
問16 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをお選びください。(M. A.)



耐震化に関する行政への要望については、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」(47.7%)が最も高く、次いで「相談窓口の設置」(32.2%)、「なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット」(25.8%)の順となっている。

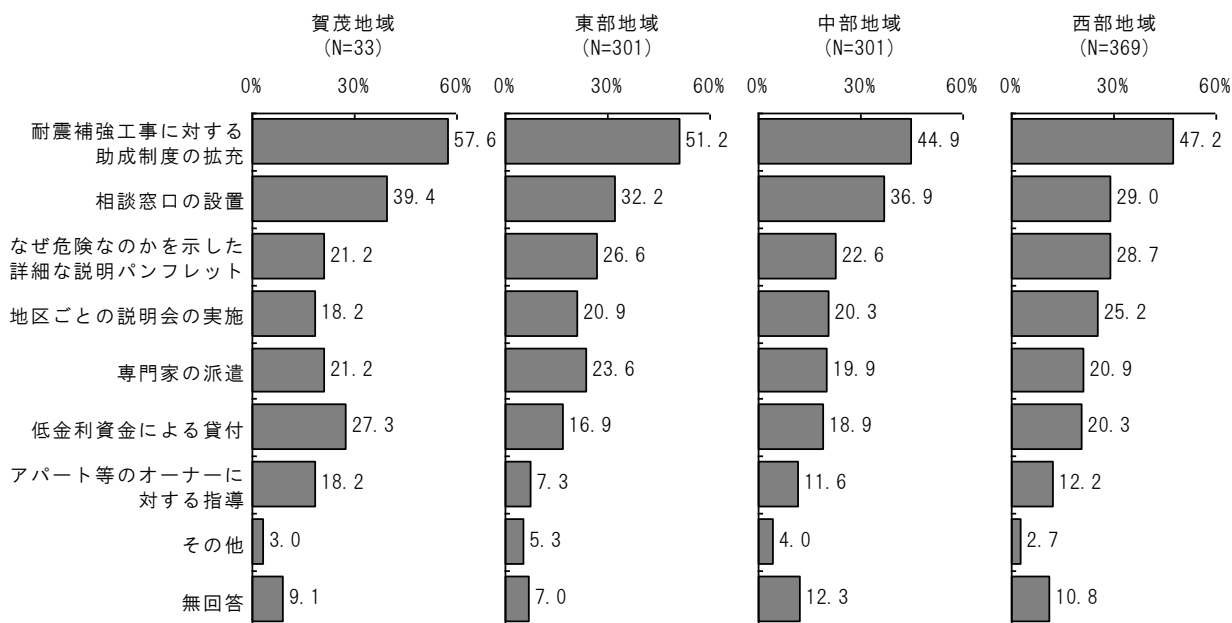
性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」が最も高くなっている。「相談窓口の設置」は、『男性20代』（52.4%）が半数を超え、全ての年代で2割を超えている。「なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット」は、『女性30代』（40.0%）と、『女性20代』（39.6%）で高い傾向が見られる。

耐震化に関する行政への要望 <性・年代別>



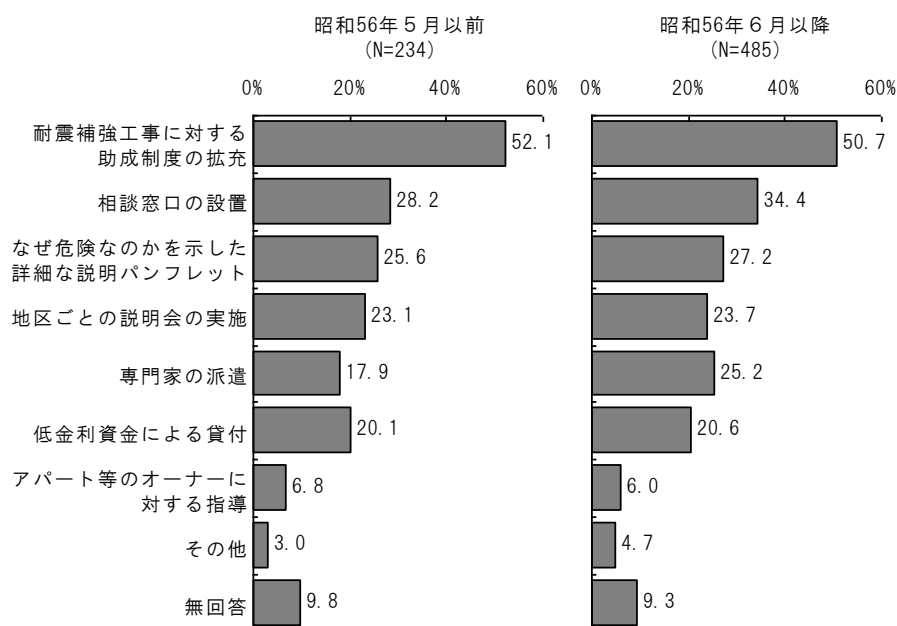
地域別でみると、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」は、最も高い『賀茂』(57.6%)と、最も低い『中部』(44.9%)では12.7ポイントの差が見られる。

耐震化に関する行政への要望 <地域別>



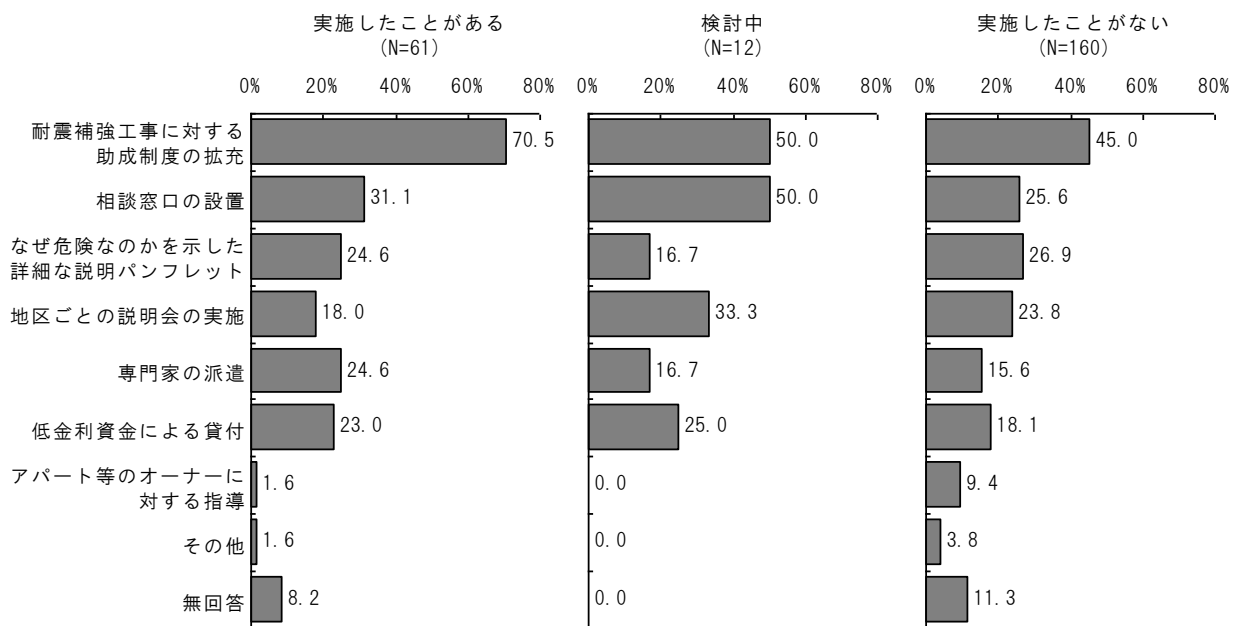
木造住宅建築時期別でみると、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」は、『昭和56年5月以前』(52.1%)も『昭和56年6月以降』(50.7%)も高くなっている。また、「相談窓口の設置」は、『昭和56年6月以降』(34.4%)で3割を超えている。「専門家の派遣」は、『昭和56年6月以降』(25.2%)と『昭和56年5月以前』(17.9%)では7.3ポイントの差が見られる。

耐震化に関する行政への要望 <木造住宅建築時期別>



耐震診断実施別で見ると、『耐震診断を実施したことがある』では、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」(70.5%) が他よりも高くなっている。

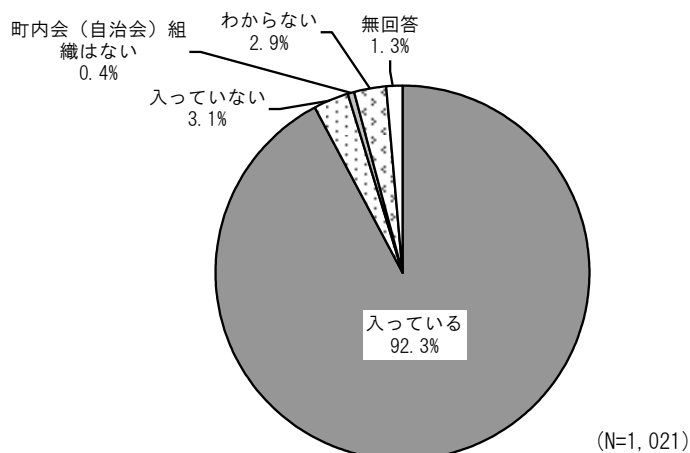
耐震化に関する行政への要望 <耐震診断実施別>



4 自主防災組織・防災訓練について

4-1 町内会への加入

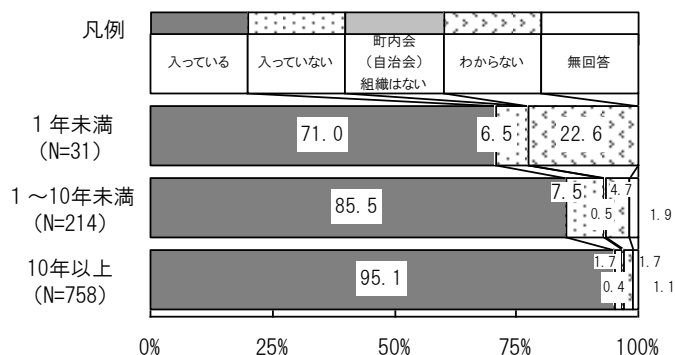
問17 あなたのお宅は、町内会（自治会）組織に入っていますか。



町内会（自治会）への加入についてたずねたところ、「入っている」（92.3%）が最も高く、次いで「入っていない」（3.1%）、「わからない」（2.9%）、「町内会（自治会）組織はない」（0.4%）の順となっている。

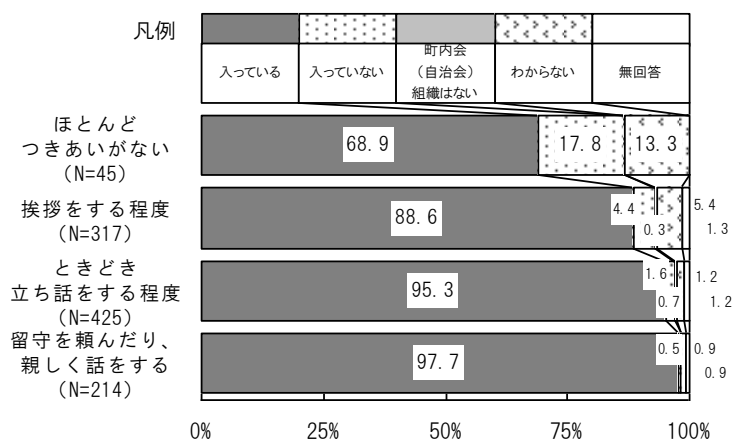
居住年数別でみると、「入っている」は、最も高い『10年以上』（95.1%）と、最も低い『1年未満』（71.0%）では24.1ポイントの差が見られる。

町内会への加入 <居住年数別>



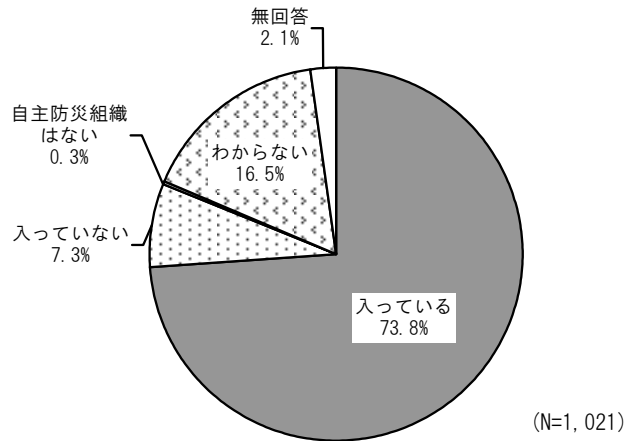
近所づきあいの程度別でみると、「入っている」は、最も高い『留守を頼んだり、親しく話をする』（97.7%）と、最も低い『ほとんどつきあいがいい』（68.9%）では28.8ポイントの差が見られる。

町内会への加入 <近所づきあいの程度別>



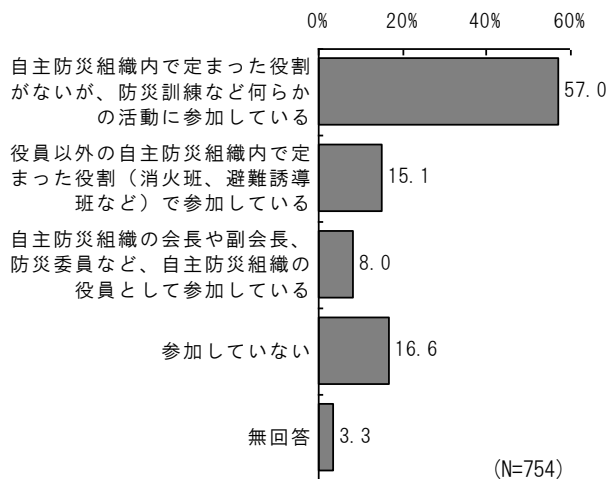
4-2 自主防災組織への加入と活動状況

問18 あなたの自宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。



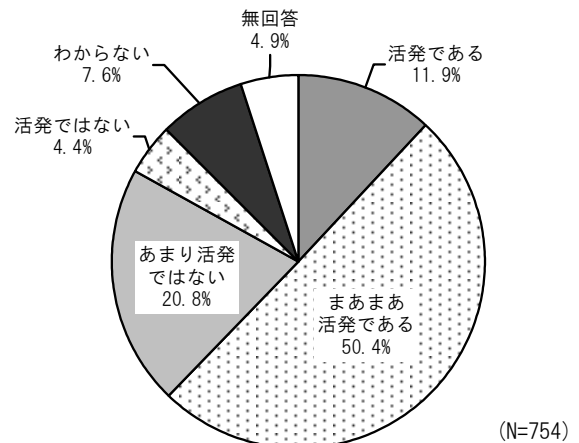
<問18で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問18-1 あなた自身は、自主防災組織の活動に参加していますか。



<問18で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問18-2 あなたの地区の自主防災組織の活動は活発と思いますか。



自主防災組織への加入についてたずねたところ、「入っている」（73.8%）が最も高く、次いで「わからない」（16.5%）、「入っていない」（7.3%）、「自主防災組織はない」（0.3%）の順となっている。

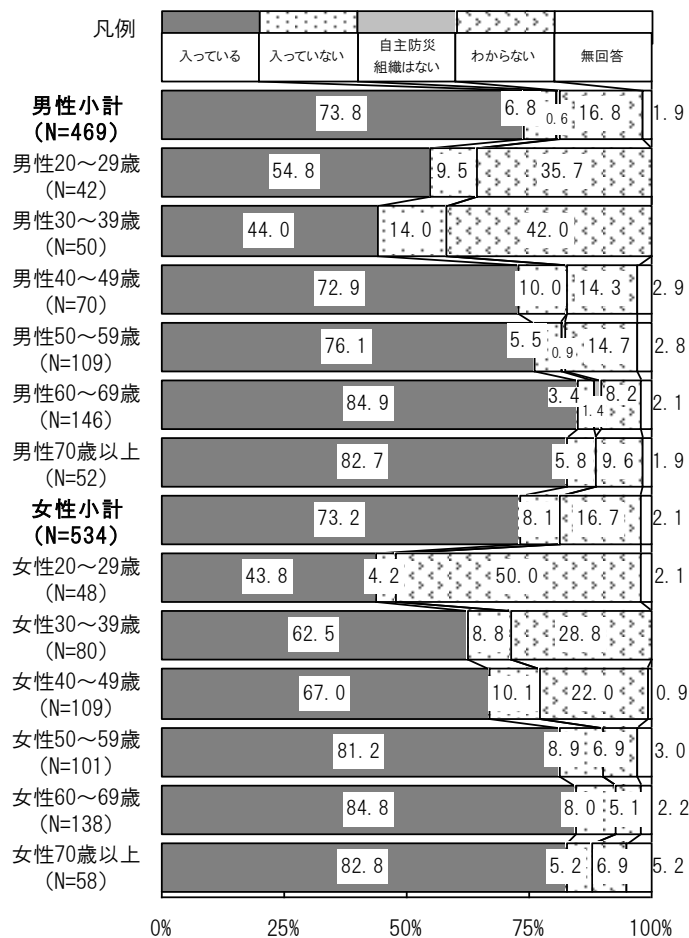
また、問18で自主防災組織に「入っている」と回答した人に、自主防災組織の活動に参加しているかたずねたところ、「自主防災組織内で定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している」（57.0%）が最も高く、次いで「参加していない」（16.6%）、「役員以外の自主防災組織内で定まった役割（消火班、避難誘導班など）で参加している」（15.1%）、「自主防災組織の会長や副会長、防災委員など、自主防災組織の役員として参加している」（8.0%）の順となっている。

さらに、自主防災組織の活動状況についてたずねたところ、「活発である」と「まあまあ活発である」を合わせると62.3%となり、6割程度の人が地区の自主防災組織の活動が活発だと感じている。

自主防災組織への加入状況

<性・年代別>

性・年代別でみると、全体的に年齢が上がるにつれて自主防災組織への加入が高い傾向が見られ、『男性60代』（84.9%）、『女性60代』（84.8%）、『女性70歳以上』（82.8%）、『男性70歳以上』（82.7%）で8割を超えている。また、「わからない」は『女性20代』（50.0%）、『男性30代』（42.0%）、『男性20代』（35.7%）、『女性30代』（28.8%）が高くなっている。



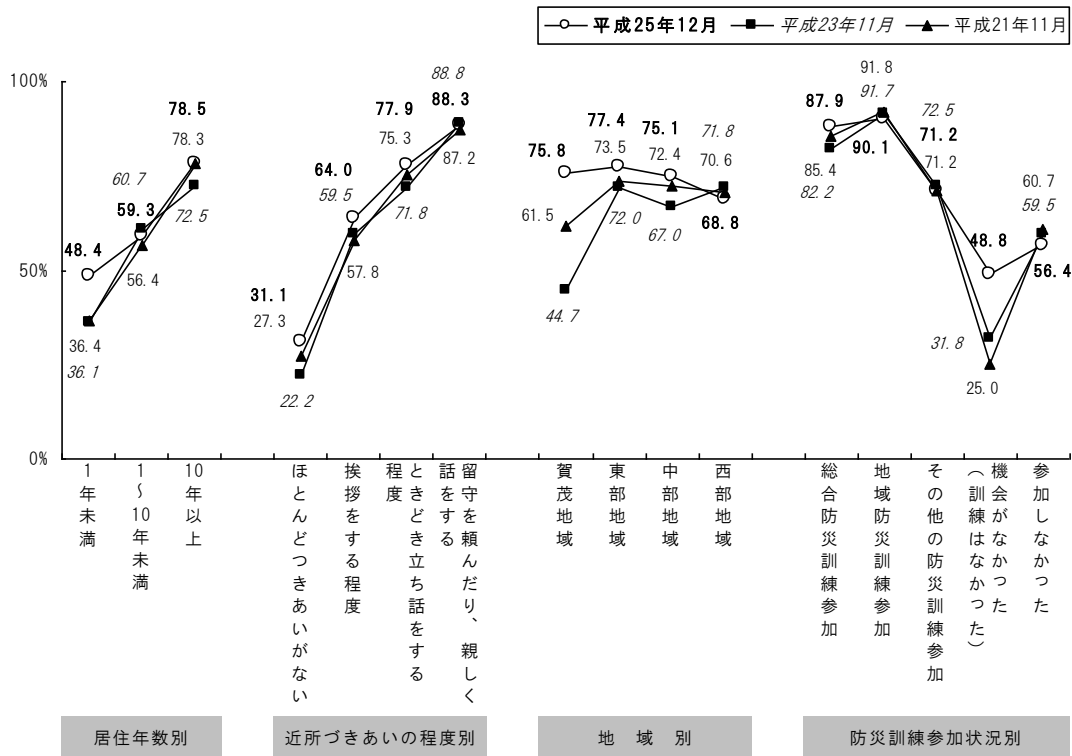
自主防災組織への加入状況を属性別でみると、**居住年数別**では、年数が長くなるにつれて加入率が高くなっており、最も高い『10年以上』（78.5%）と、最も低い『1年未満』（48.4%）では30.1ポイントの差が見られる。

近所づきあいの程度別では、親しくなるほど加入率は高くなっており、最も高い『留守を頼んだり、親しく話す』（88.3%）と、最も低い『ほとんどつきあいが無い』（31.1%）では57.2ポイントの差が見られる。

地域別では、最も高い『東部』（77.4%）と、最も低い『西部』（68.8%）では8.6ポイントの差が見られる。

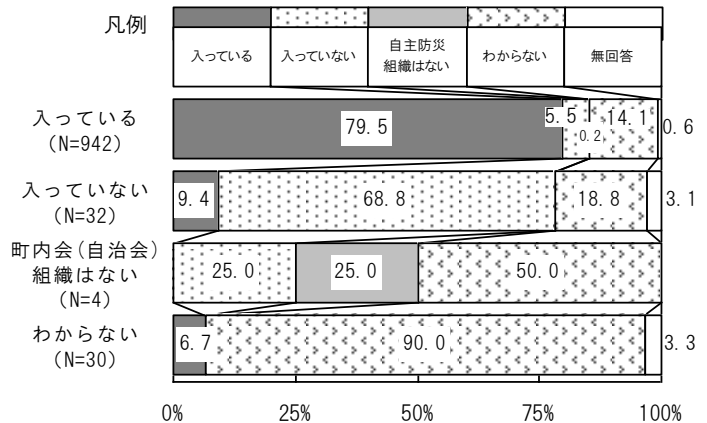
防災訓練参加状況別では、最も高い『地域防災訓練に参加』（90.1%）と、最も低い『機会がなかった（訓練はなかった）』（48.8%）では41.3ポイントの差が見られる。

自主防災組織への加入率 <属性別>



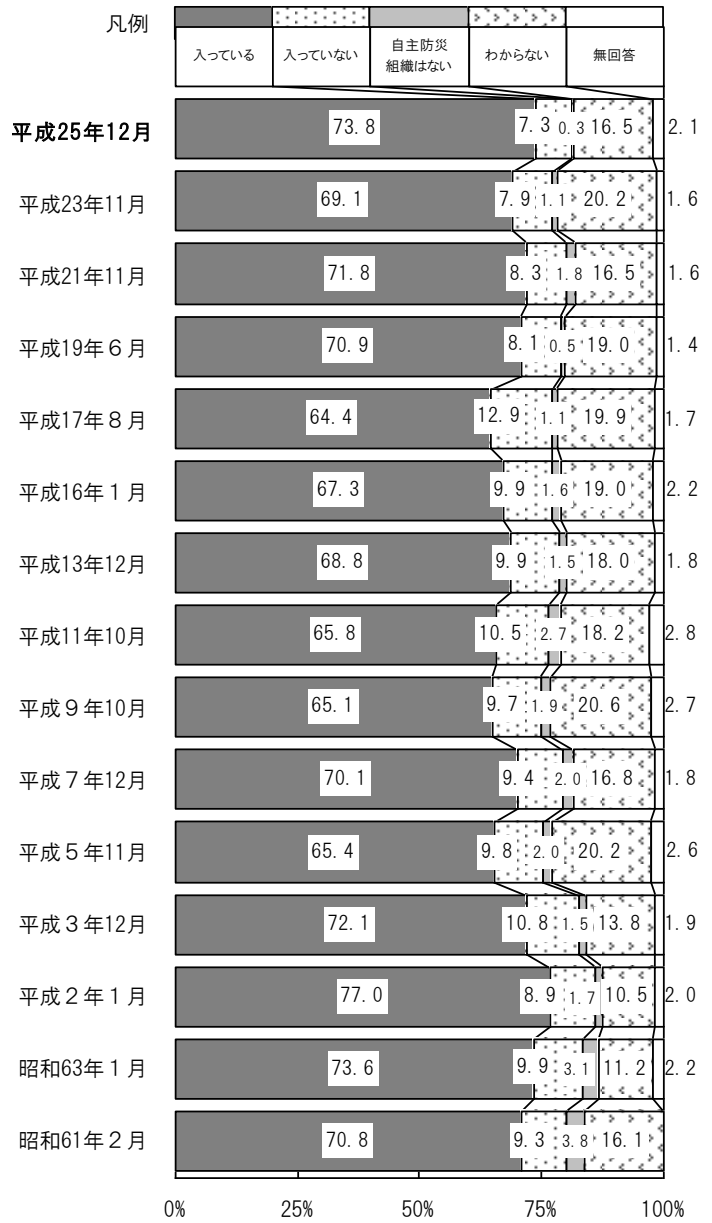
町内会への加入別でみると、町内会に『入っている』人は、自主防災組織へ「入っている」（79.5%）が高く、8割近くとなっている。

自主防災組織への加入状況 <町内会への加入別>



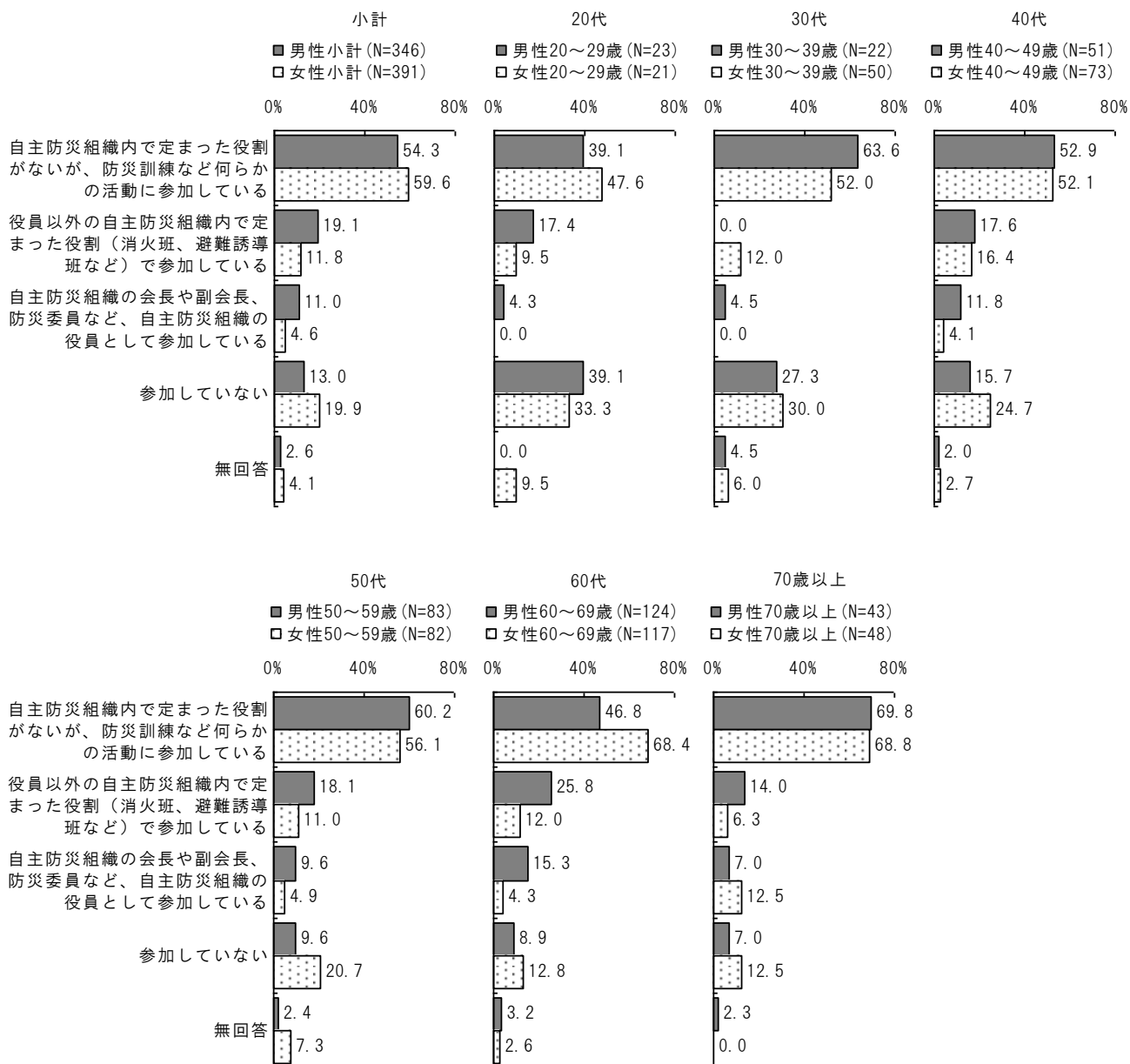
自主防災組織への加入状況 <経年比較>

経年比較でみると、平成2年1月の調査で、「入っている」(77.0%)が最も高くなっており、以降は7割前後を推移している。今回調査(73.8%)は、前回調査(69.1%)より4.7ポイント上回っている。



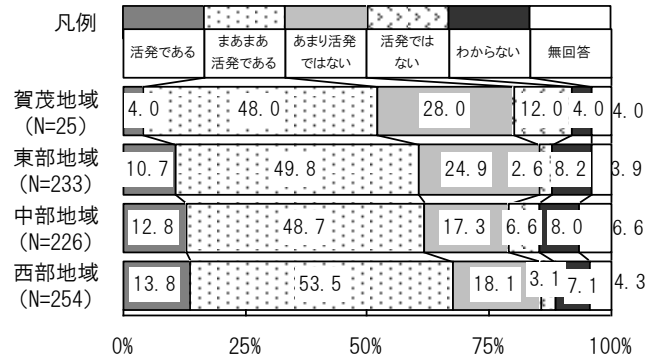
参加している自主防災組織の活動を性・年代別で見ると、「自主防災組織内で定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している」は『男性70歳以上』(69.8%)が最も高く、次いで『女性70歳以上』(68.8%)、『女性60代』(68.4%)、『男性30代』(63.6%)、『男性50代』(60.2%)で6割を超えている。「参加していない」は『男性20代』(39.1%)が最も高く、次いで『女性20代』(33.3%)、『女性30代』(30.0%)で3割を超えている。

参加している自主防災組織の活動<性・年代別>



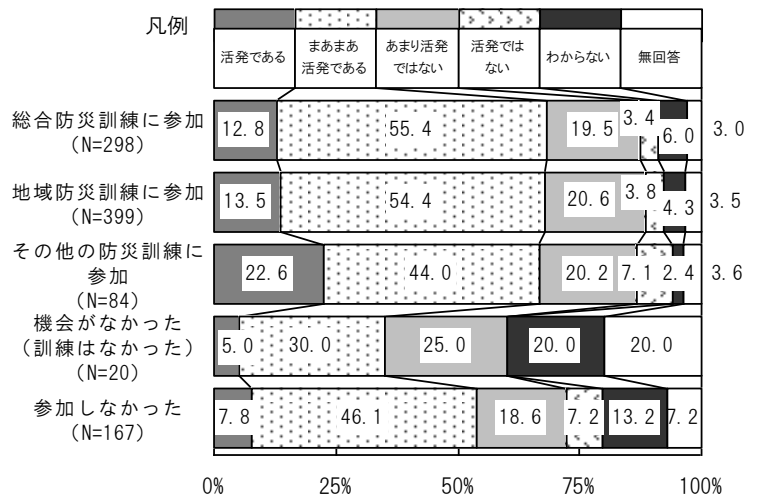
自主防災組織の活動状況を地域別でみると、「活発である」＋「まあまあ活発である」は、『西部』(67.3%)が最も高く、次いで『中部』(61.5%)、『東部』(60.5%)、『賀茂』(52.0%)の順となっている。

自主防災組織の活動状況<地域別>



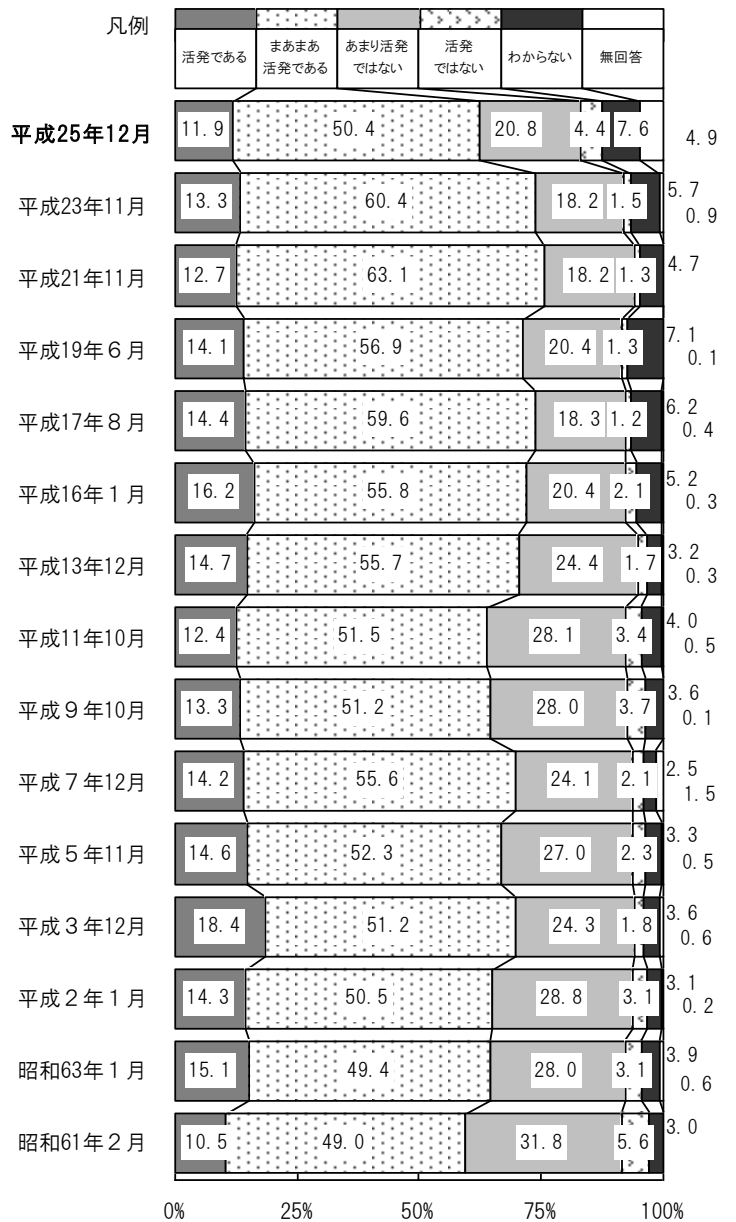
防災訓練参加状況別でみると、「活発である」＋「まあまあ活発である」はいずれかの防災訓練に参加している人は6割を超えている。最も高い『総合防災訓練に参加』(68.2%)と、最も低い『機会がなかった(訓練はなかった)』(35.0%)では33.2ポイントの差が見られる。

自主防災組織の活動状況<防災訓練参加状況別>



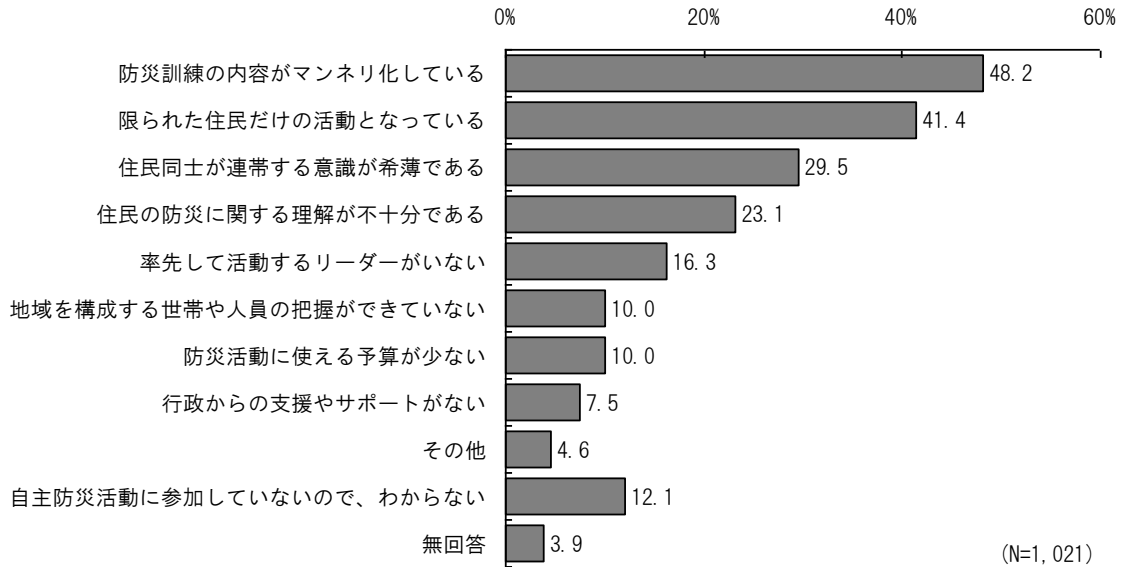
自主防災組織の活動状況 <経年比較>

自主防災組織の活動状況を**経年比較**でみると、「活発である」+「まあまあ活動している」は、今回調査（62.3%）が、前回調査（73.7%）より11.4ポイント低下している。



4-3 自主防災組織の抱える課題

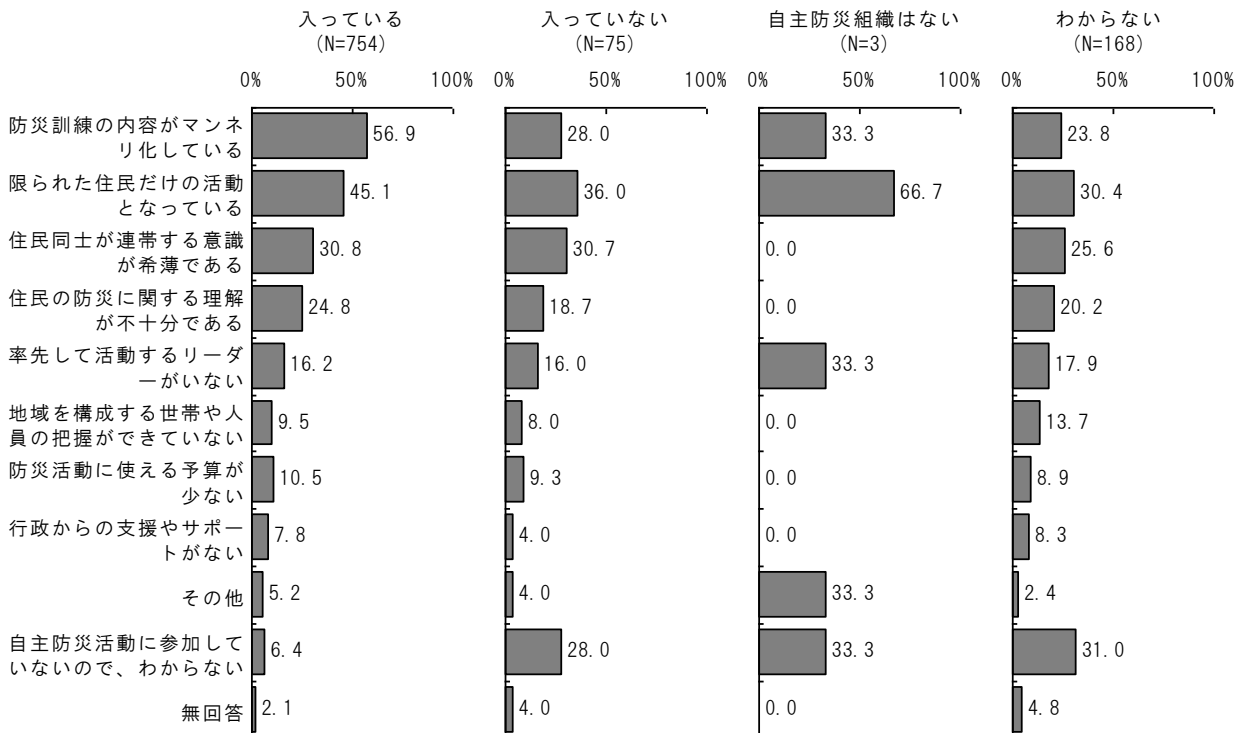
問19 自主防災組織が抱える課題は何だと思いますか。(M. A.)



自主防災組織の抱える課題についてたずねたところ、「防災訓練の内容がマンネリ化している」(48.2%)が最も高く、次いで「限られた住民だけの活動となっている」(41.4%)、「住民同士が連帯する意識が希薄である」(29.5%)、「住民の防災に関する理解が不十分である」(23.1%)の順となっている。

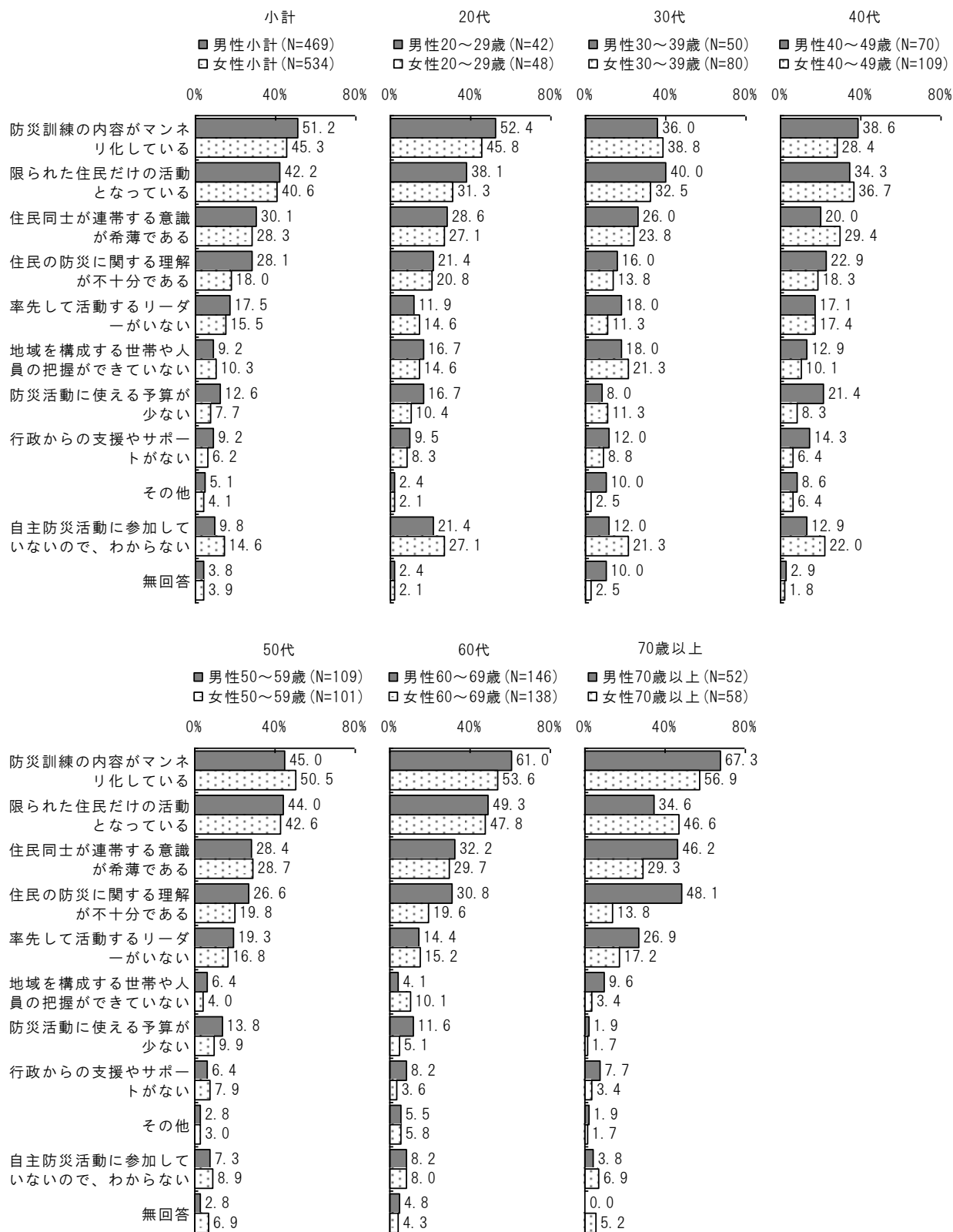
自主防災組織加入別でみると、「防災訓練の内容がマンネリ化している」は『入っている』(56.9%)で最も高くなっている。「限られた住民だけの活動となっている」は『入っていない』(36.0%)、『自主防災組織はない』(66.7%)、『わからない』(30.4%)で高くなっている。

自主防災組織の抱える課題<自主防災組織加入別>



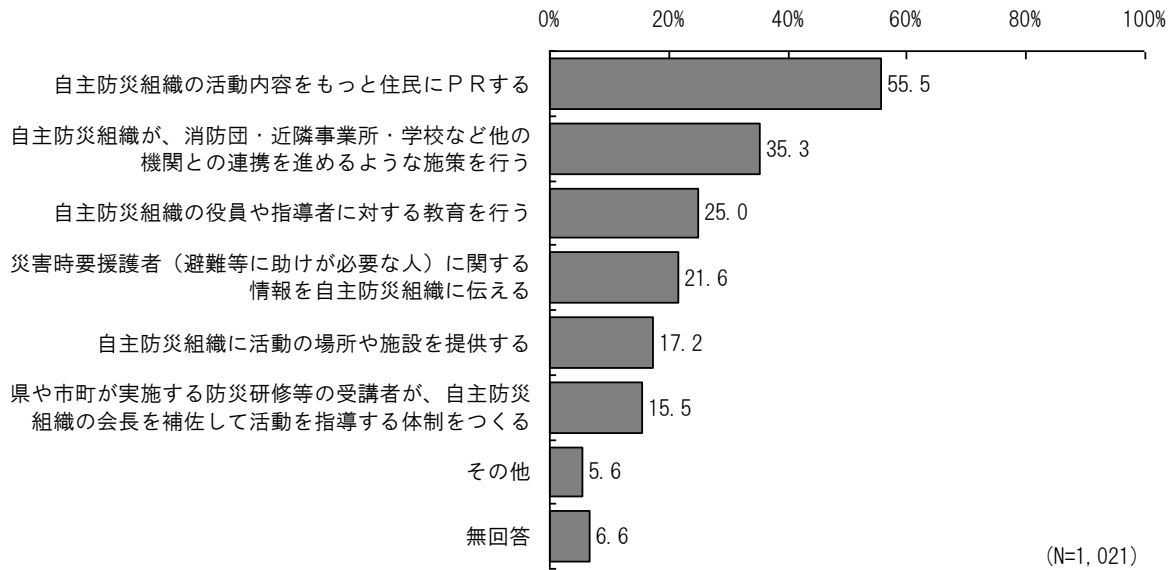
性・年代別でみると、「防災訓練の内容がマンネリ化している」は『男性70歳以上』（67.3%）と『男性60代』（61.0%）で6割を超えている。「限られた住民だけの活動となっている」は『男性60代』（49.3%）、『女性60代』（47.8%）で高くなっている。

自主防災組織の抱える課題<性・年代別>



4-4 自主防災組織の活性化のための方策

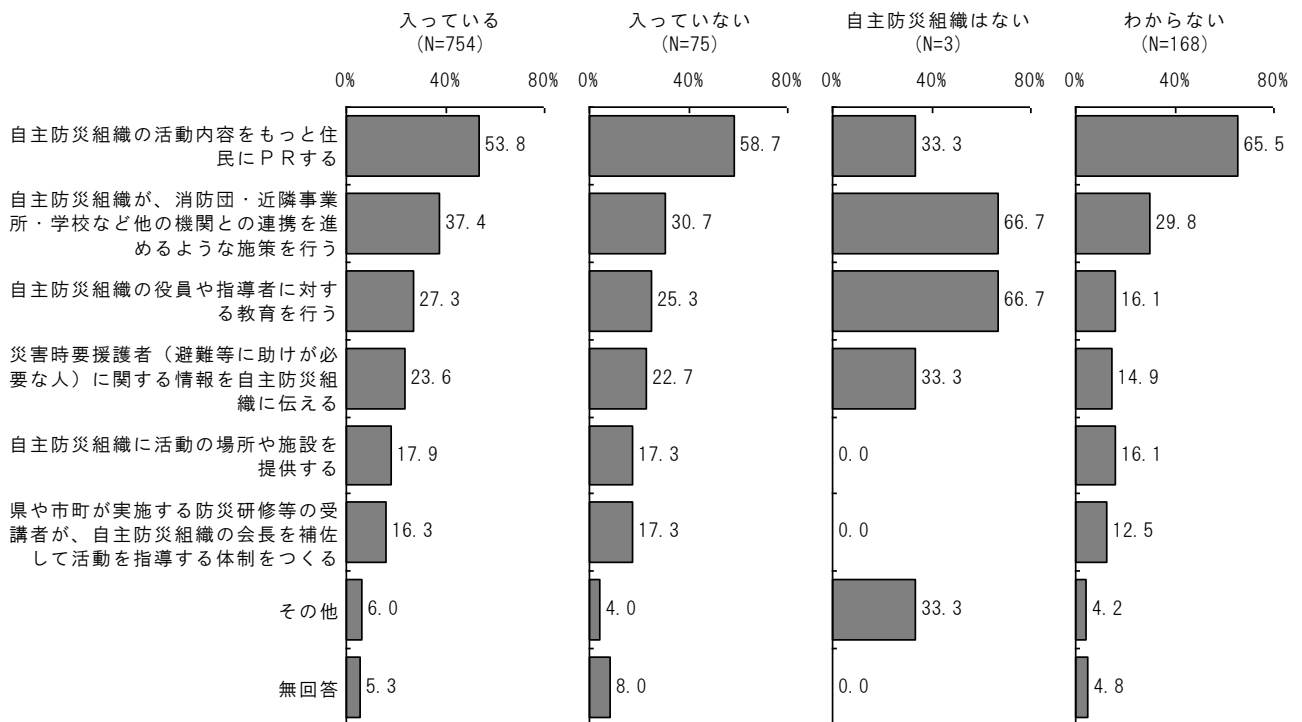
問20 自主防災組織の活動をさらに高めるには、県や市町はどのようにすればよいと思いますか。(M. A.)



自主防災組織の活性化のための方策についてたずねたところ、「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」(55.5%)が最も高く、次いで「自主防災組織が、消防団・近隣事業所・学校など他の機関との連携を進めるような施策を行う」(35.3%)、「自主防災組織の役員や指導者に対する教育を行う」(25.0%)の順となっている。

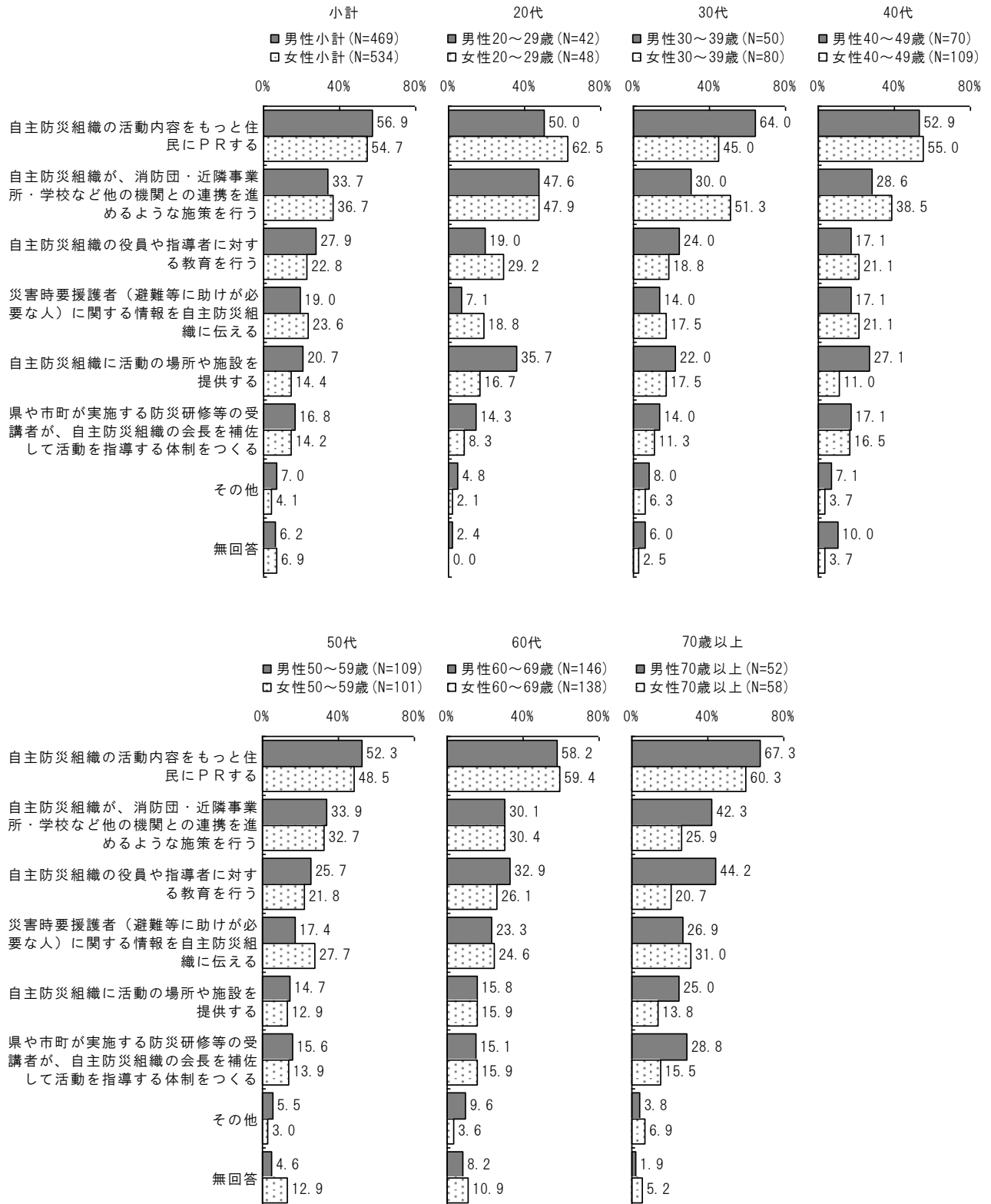
自主防災組織加入別で見ると、「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」は『わからない』(65.5%)が最も高くなっている。

自主防災組織の活性化のための方策<自主防災組織加入別>



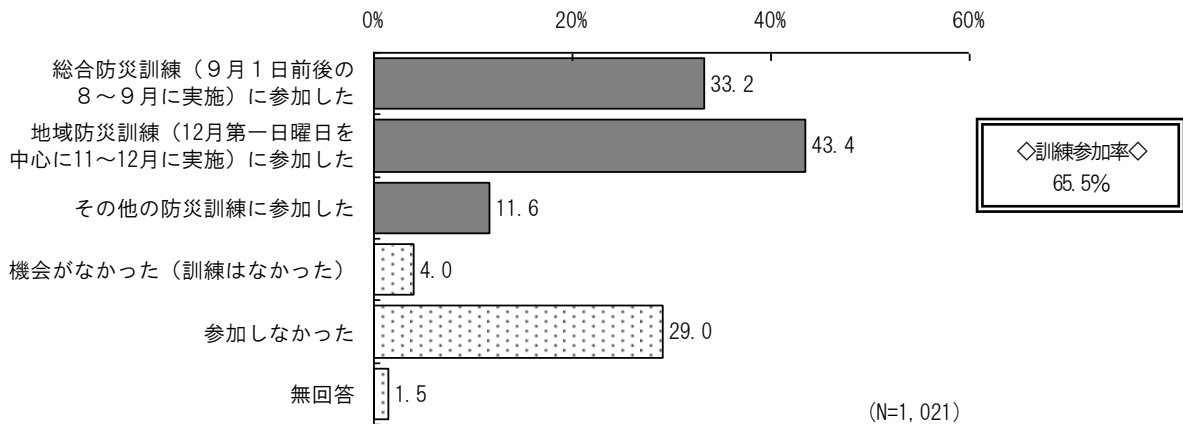
性・年代別でみると、『女性30代』以外の年代で「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」が最も高くなっている。「自主防災組織が、消防団・近隣事業所・学校など他の機関との連携を進めるような施策を行う」は、『女性30代』(51.3%)、『女性20代』(47.9%)、『男性20代』(47.6%)で半数前後と高くなっている。また、「自主防災組織の役員や指導者に対する教育を行う」は『男性70歳以上』(44.2%)で4割を超えている。

自主防災組織の活性化のための方策 <性・年代別>



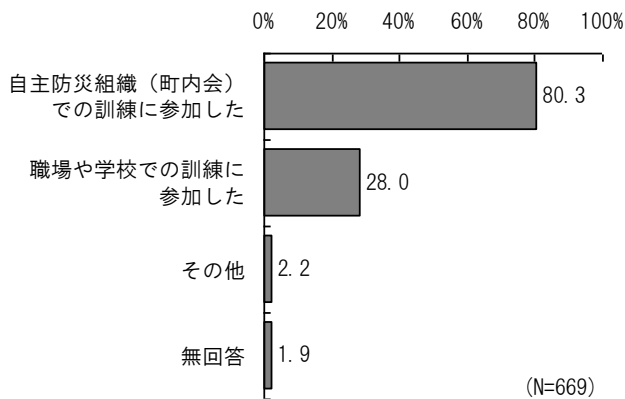
4-5 地震防災訓練への参加状況

問21 あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。(M. A.)

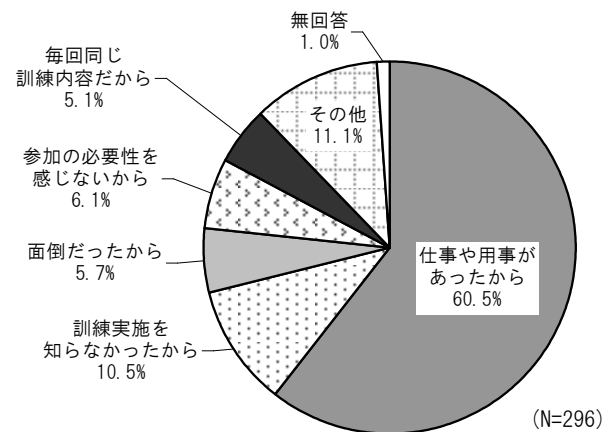


<問21で「1 総合防災訓練 (9月1日前後の8~9月に実施) に参加した」「2 地域防災訓練 (12月第一日曜日を中心に11~12月に実施) に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問21-1 その防災訓練はどちらで参加しましたか。(M. A.)



<問21で「5 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>
問21-2 参加しなかった理由は何ですか。



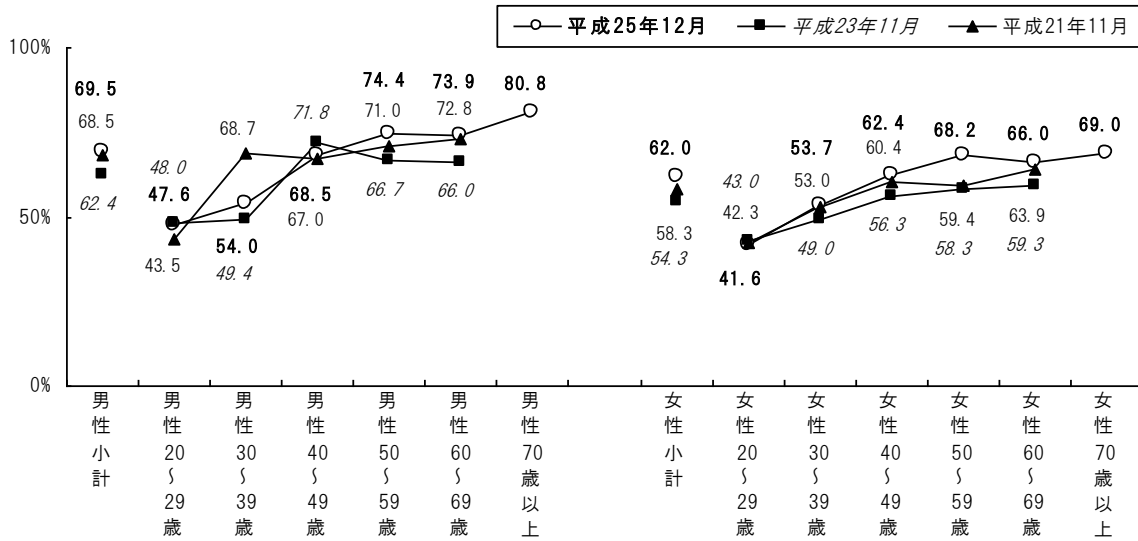
過去1年間の地震防災訓練参加状況についてたずねたところ、「地域防災訓練 (12月第一日曜日を中心に11~12月に実施) に参加した」 (43.4%) が最も高く、次いで「総合防災訓練 (9月1日前後の8~9月に実施) に参加した」 (33.2%)、「参加しなかった」 (29.0%)、「その他の防災訓練に参加した」 (11.6%)、「機会がなかった (訓練はなかった)」 (4.0%) の順となっており、いずれかの訓練に参加した人は65.5%となっている。

また、問21で地震防災訓練に「参加した」と回答した人の参加形態については、「自主防災組織 (町内会) での訓練に参加した」 (80.3%) が最も高く、次いで「職場や学校での訓練に参加した」 (28.0%) となっている。

一方、問21で地震防災訓練に「参加しなかった」と回答した人の理由は、「仕事や用事があったから」 (60.5%) が最も高く、次いで「訓練実施を知らなかったから」 (10.5%)、「参加の必要性を感じないから」 (6.1%)、「面倒だったから」 (5.7%)、「毎回同じ訓練内容だから」 (5.1%) の順となっている。

地震防災訓練の参加率を性別でみると、『男性』（69.5%）と『女性』（62.0%）では、『男性』の防災訓練の参加率が7.5ポイント高くなっている。また、性・年代別でみると、最も高い『男性70歳以上』（80.8%）と、最も低い『女性20代』（41.6%）では39.2ポイントの差が見られる。

地震防災訓練の参加率＜性・年代別＞

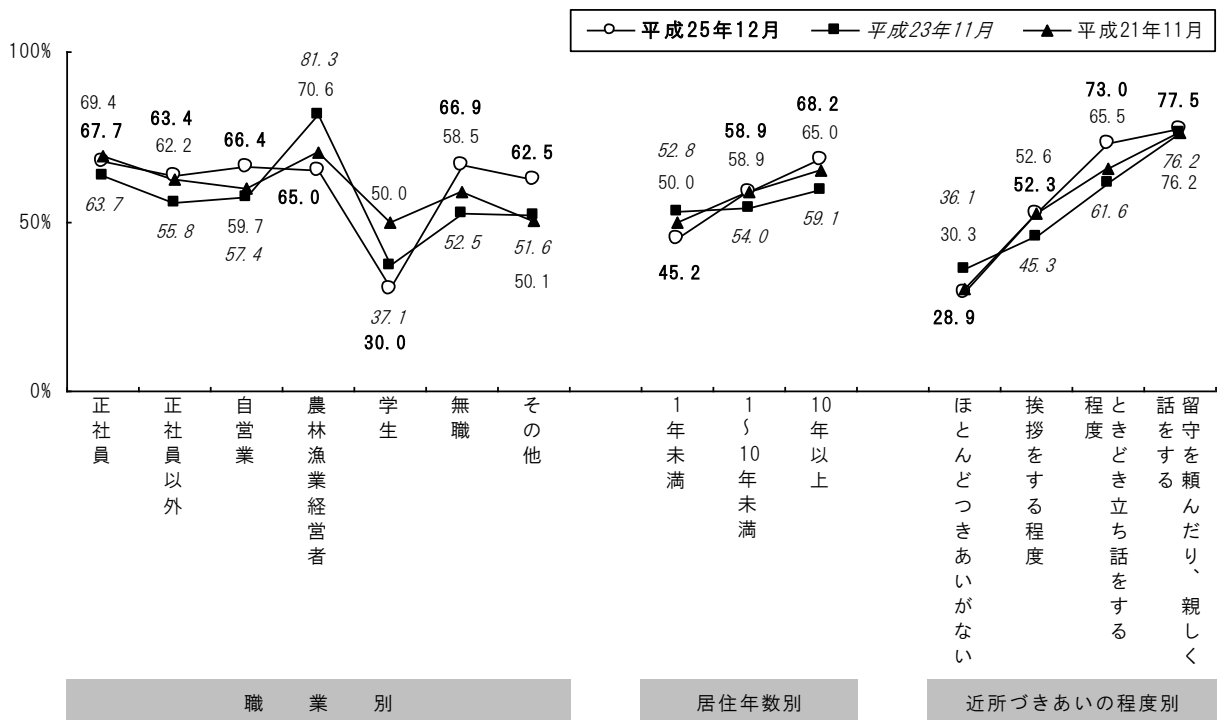


※平成25年度は「70歳以上」を追加。

職業別では、『正社員』（67.7%）が最も高く、次いで『無職』（66.9%）、『自営業』（66.4%）の順となっている。居住年数別では、最も高い『10年以上』（68.2%）と、最も低い『1年未満』（45.2%）では23.0ポイントの差が見られる。

近所づきあいの程度別では、最も高い『留守を頼んだり、親しく話をする』（77.5%）と、最も低い『ほとんどつきあいが無い』（28.9%）では48.6ポイントの差が見られる。

地震防災訓練の参加率＜属性別＞



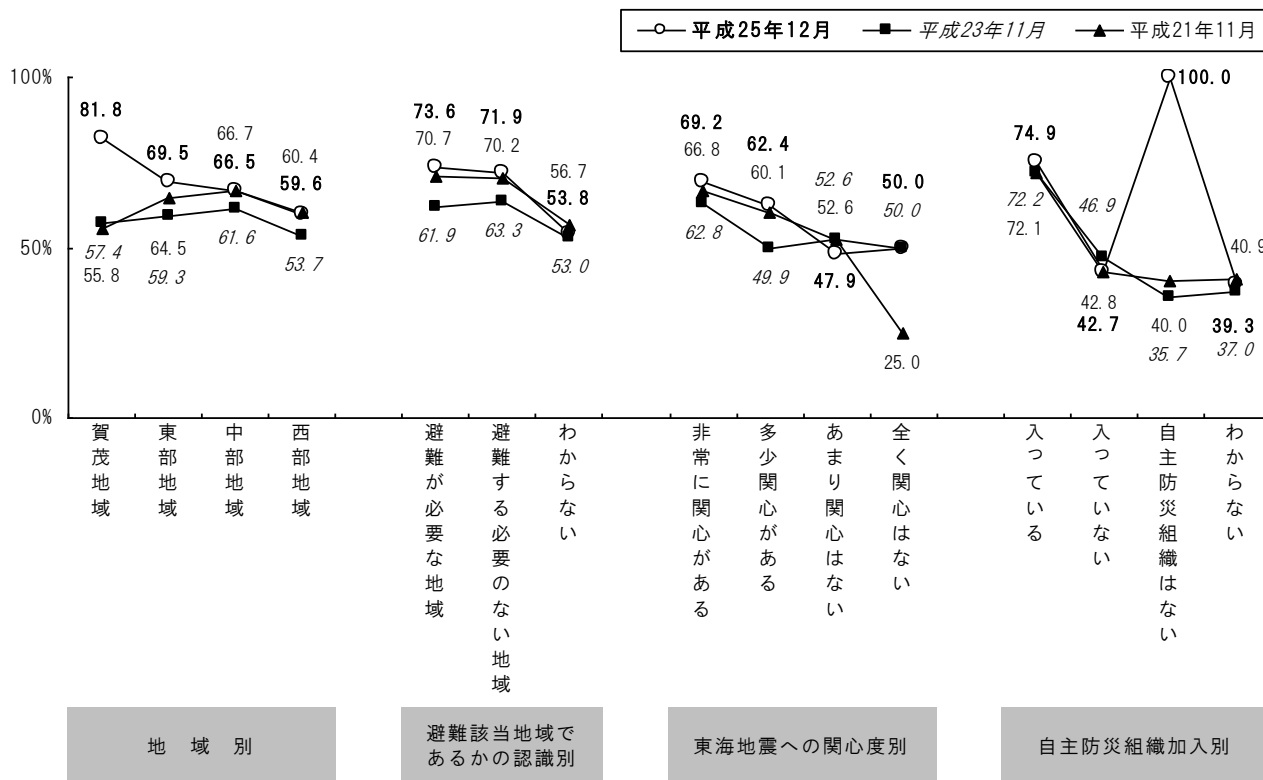
地域別では、最も高い『賀茂』(81.8%)と、最も低い『西部』(59.6%)では22.2ポイントの差が見られる。

避難該当地域であるかの認知状況別では、避難の要不要での差は見られない。

東海地震への関心度別では、『あまり関心はない』(47.9%)が最も低くなっている。

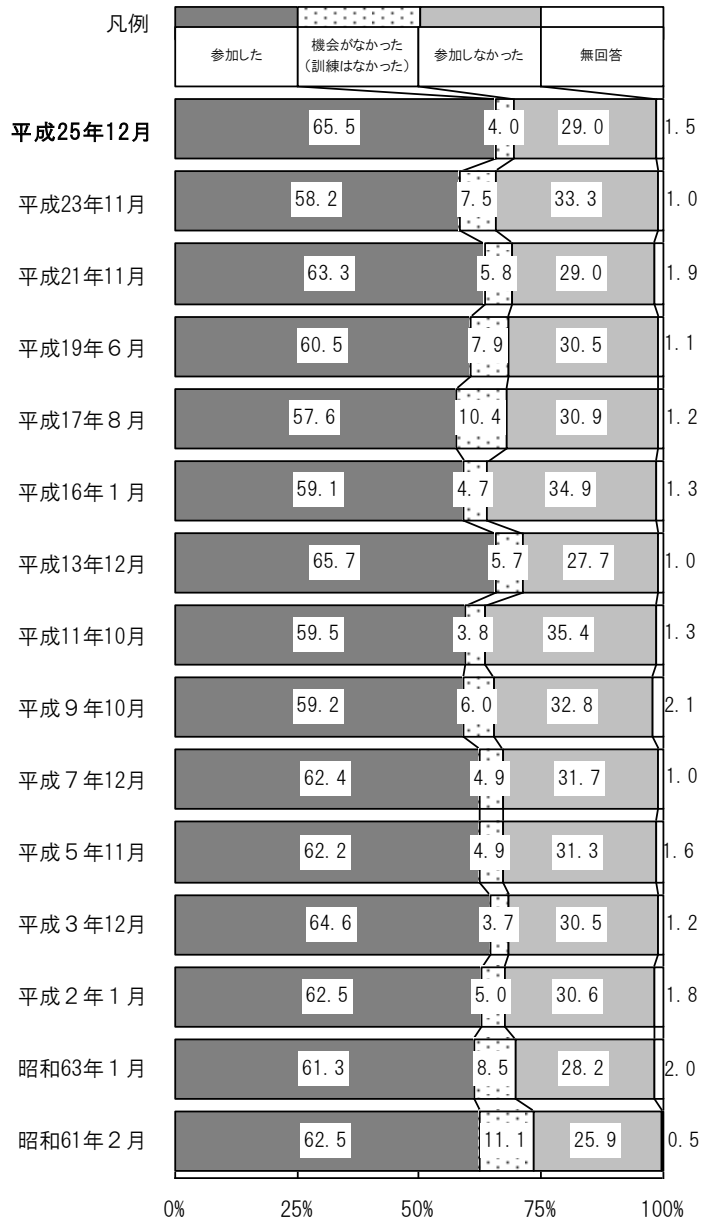
自主防災組織加入別では、『入っている』(74.9%)と『入っていない』(42.7%)では32.2ポイントの差が見られる。

地震防災訓練の参加率 <属性別>



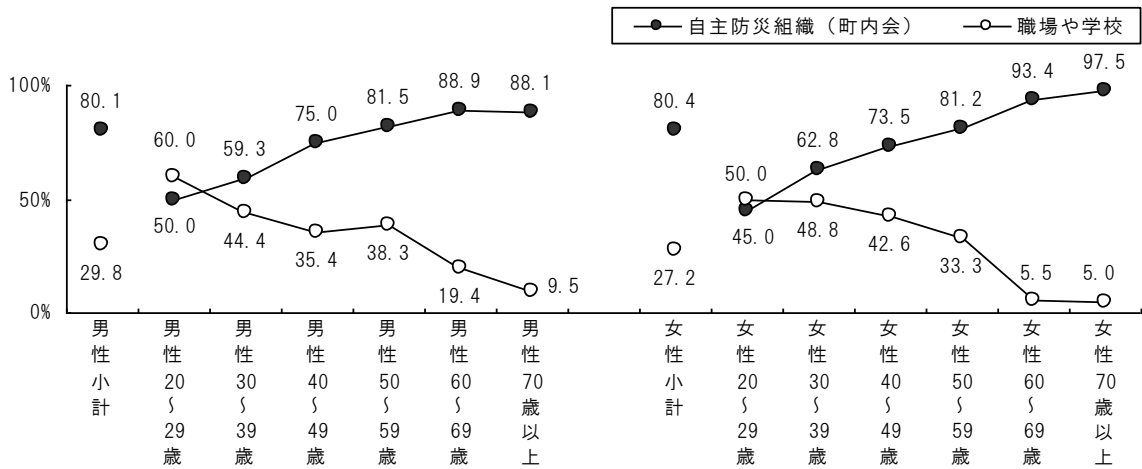
地震防災訓練の参加率 <経年比較>

経年比較でみると、いずれの調査においても「参加した」が6割前後を占めているが、今回調査(65.5%)は、前回調査(58.2%)より7.3ポイント上回っている。「機会がなかった(訓練はなかった)」(4.0%)は、前回調査(7.5%)より3.5ポイント下回っている。



地震防災訓練の参加形態を性・年代別で見ると、男女ともに年代が上がるにつれて「自主防災組織（町内会）」での参加率が高くなり、「職場や学校」が低くなっている。

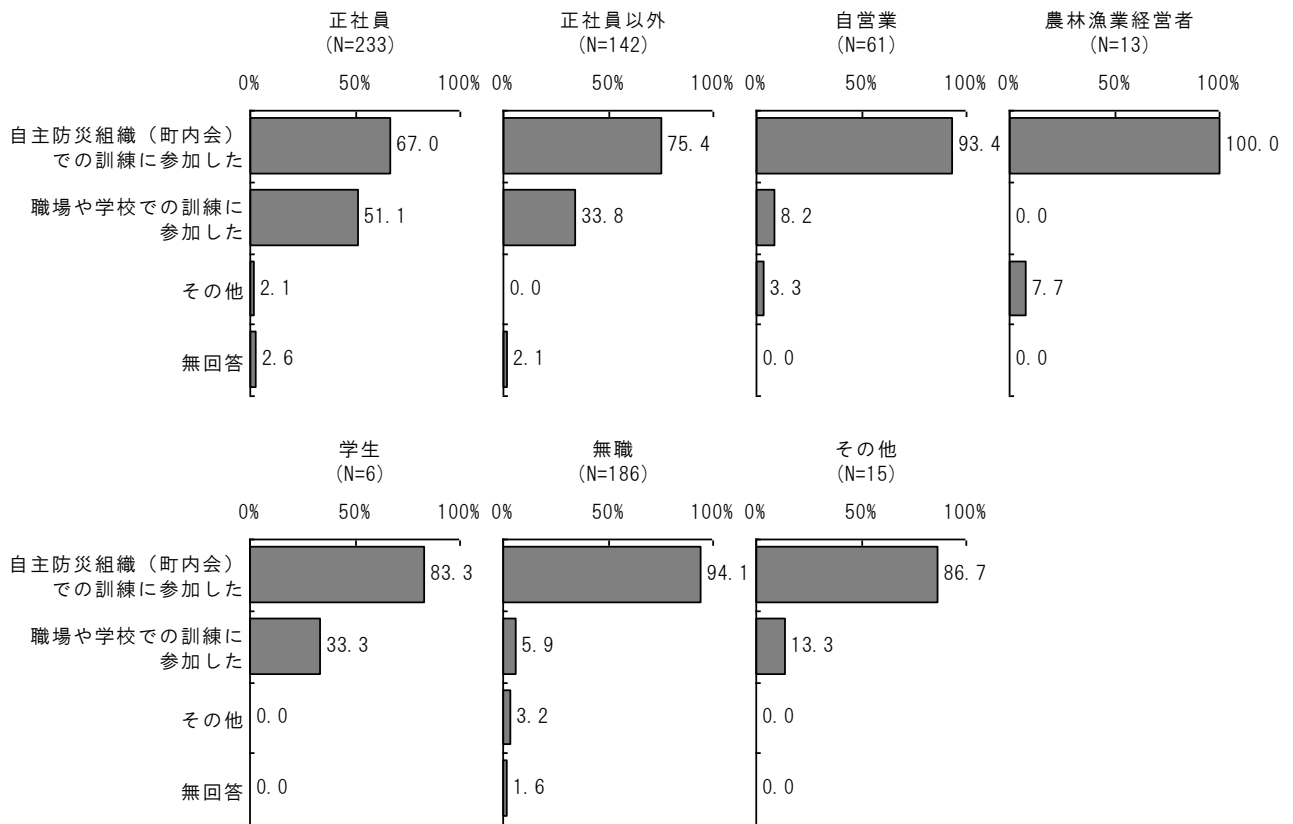
地震防災訓練の参加形態 <性・年代別>



※平成25年度は「70歳以上」を追加

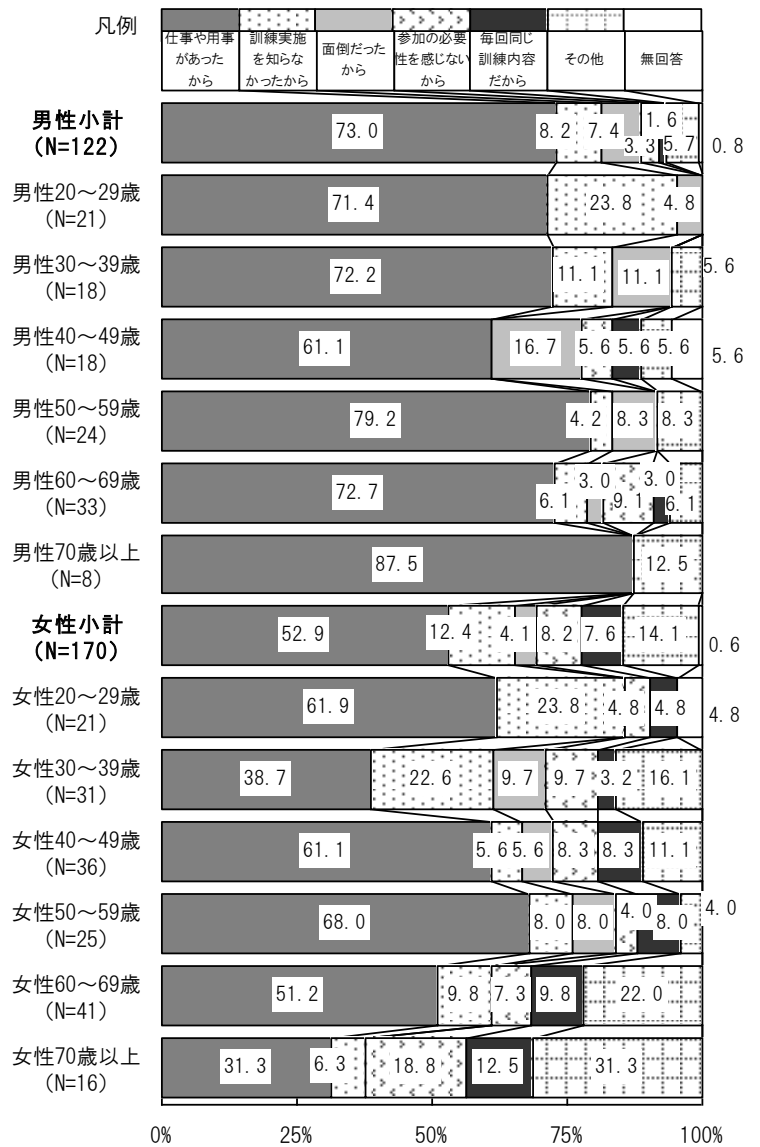
職業別で見ると、いずれの職業でも「自主防災組織（町内会）」での訓練に参加した」が最も高いが、『正社員』（67.0%）で比較的低くなっている。

地震防災訓練の参加形態<職業別>



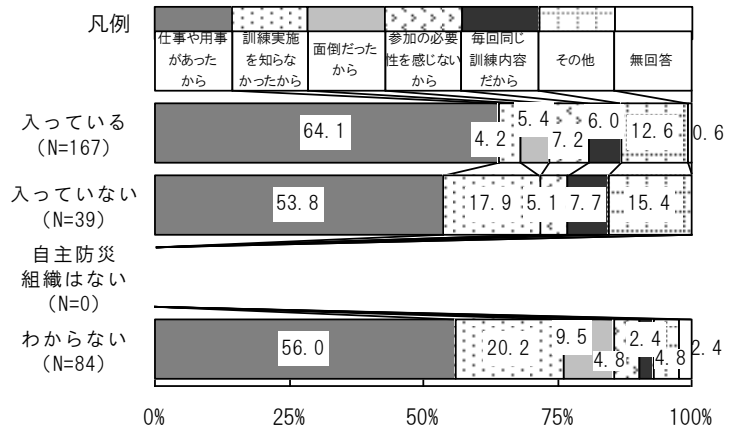
地震防災訓練への不参加理由 <性・年代別>

地震防災訓練へ参加しなかった理由について性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「仕事や用事があったから」が最も高くなっており、『女性30代』（38.7%）と『女性70歳以上』（31.3%）以外は半数を超えている。特に『男性70歳以上』（87.5%）で高くなっている。また、「訓練実施を知らなかったから」は、『男性20代』（23.8%）と『女性20代』（23.8%）、『女性30代』（22.6%）が他の性・年代と比較すると高くなっている。



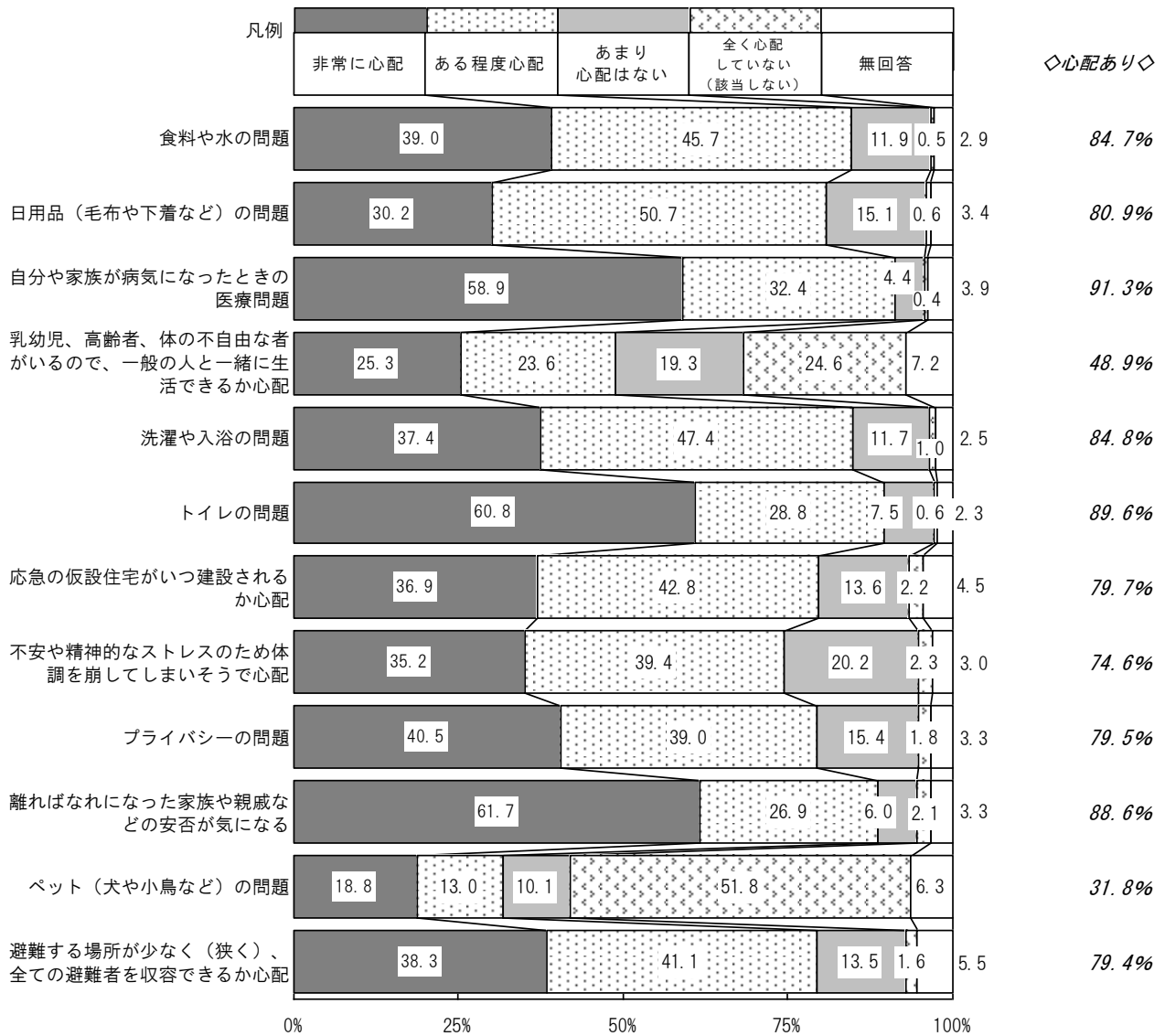
地震防災訓練への不参加理由 <自主防災組織加入別>

自主防災組織加入別でみると、自主防災組織に『入っている』人では、「仕事や用事があったから」（64.1%）が高くなっている。『わからない』（20.2%）と『入っていない』（17.9%）では、「訓練実施を知らなかったから」が、やや高くなっている。



4-6 避難所で避難生活を送る場合の心配ごと

問22 あなたは避難所で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。次の1～12について、あてはまる項目にそれぞれ1つつ〇をつけてください。



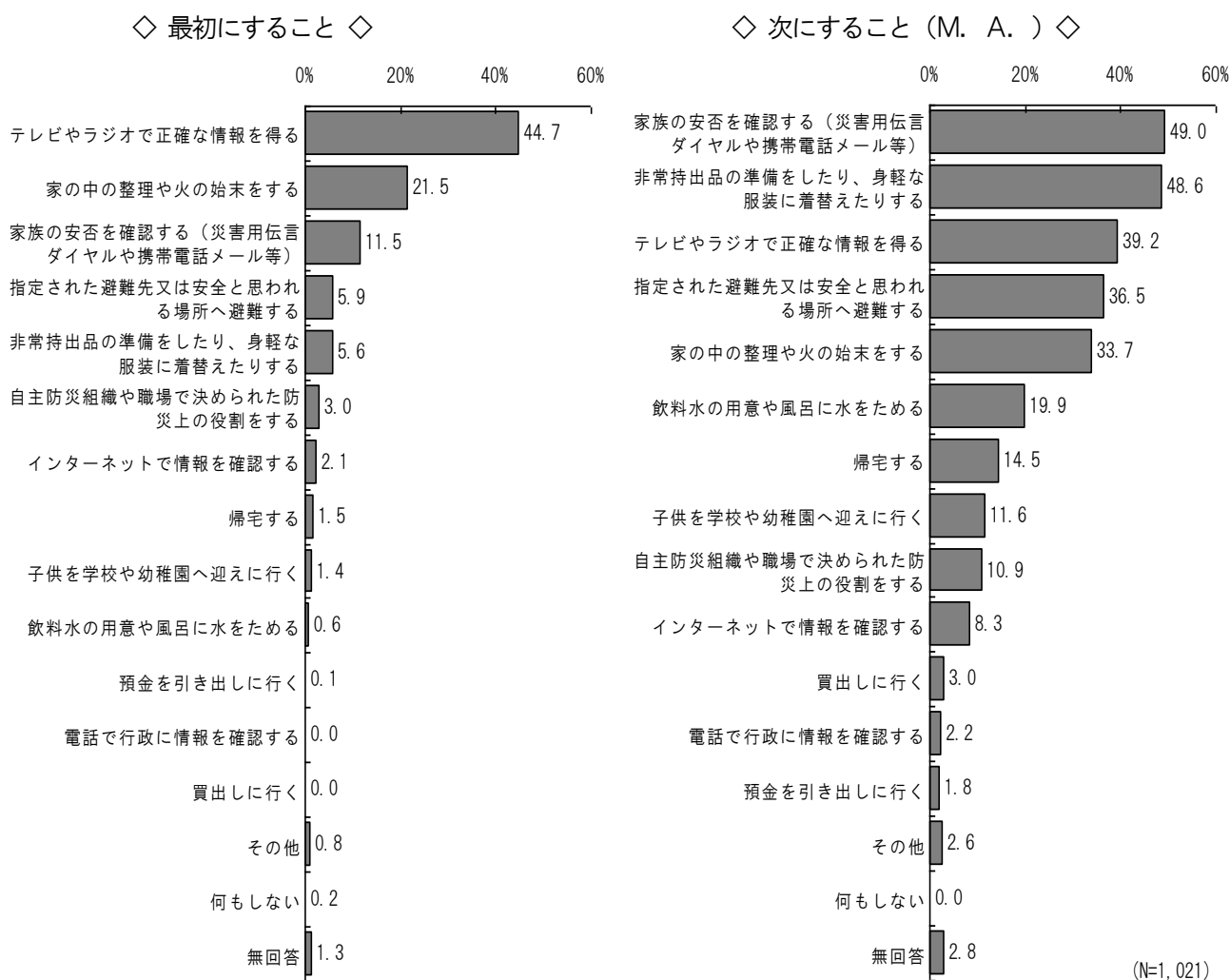
(N=1,021)

避難所で避難生活を送る場合の心配ごとについてたずねたところ、「非常に心配」については、『離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる』（61.7%）、『トイレの問題』（60.8%）、『自分や家族が病気になったときの医療問題』（58.9%）の3項目が高くなっている。また、心配ありと答えた項目（「非常に心配」＋「ある程度心配」）の上位5項目をみると、『自分や家族が病気になったときの医療問題』（91.3%）、次いで『トイレの問題』（89.6%）、『離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる』（88.6%）、『洗濯や入浴の問題』（84.8%）、『食料や水の問題』（84.7%）の順となっており、いずれも8割以上となっている。

5 東海地震が突然発生したときの行動について

5-1 地震が突然発生したときの行動

問23 平日の午前11時頃に突然地震が起こった場合、揺れがおさまったらあなたがまず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。



地震が突然発生したときの行動についてたずねたところ、まず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」（44.7%）が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」（21.5%）、「家族の安否を確認する（災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等）」（11.5%）の順となっている。

次にすることは、「家族の安否を確認する（災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等）」（49.0%）が最も高く、次いで「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」（48.6%）、「テレビやラジオで正確な情報を得る」（39.2%）、「指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する」（36.5%）、「家の中の整理や火の始末をする」（33.7%）の順となっており、これら5項目が3割を超えている。

地震が突然発生したときの行動の流れをみると、まず最初にすることに「テレビやラジオで正確な情報を得る」を選んだ人は、次にすることでは「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」、「家族の安否を確認する（災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等）」、「家の中の整理や火の始末をする」を上位に挙げている。

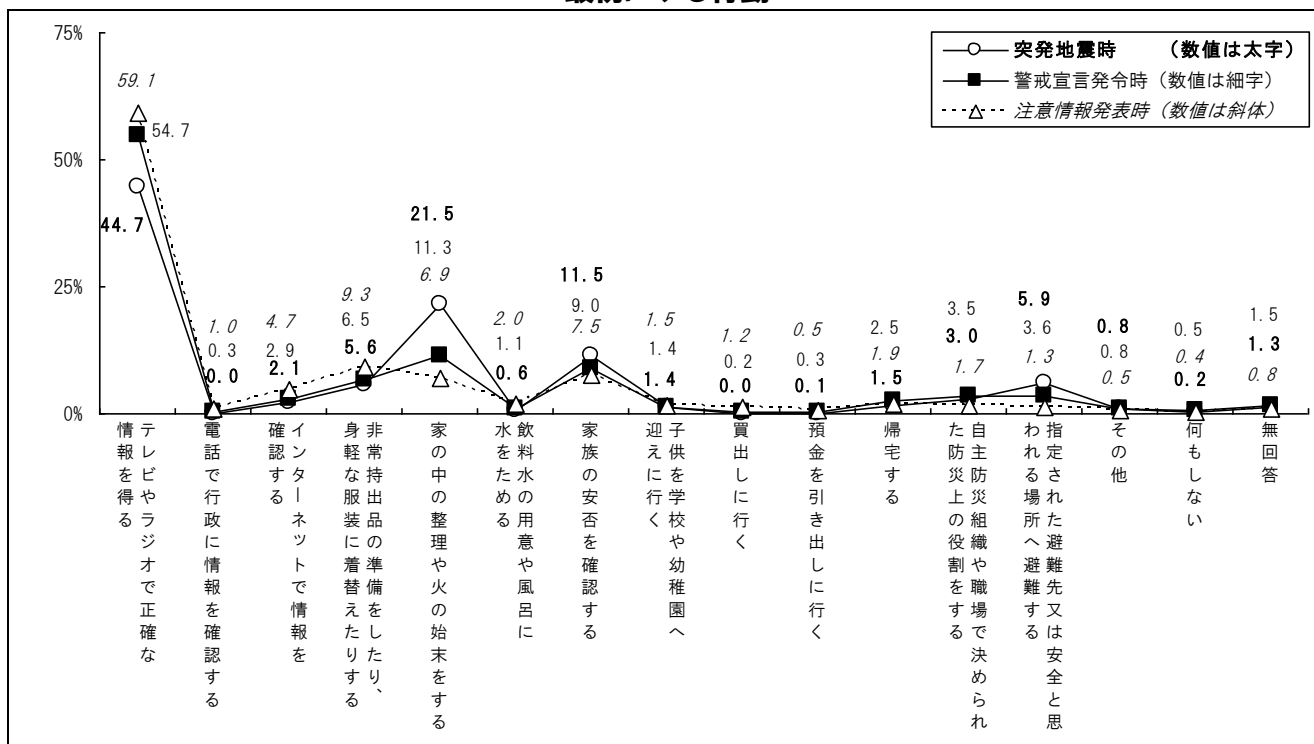
また、まず最初にすることに「家の中の整理や火の始末をする」、「家族の安否を確認する（災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等）」を選んだ人は、次にすることでは「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」を共通して上位に挙げている。

地震が突然発生した時の行動の流れ 上位6位

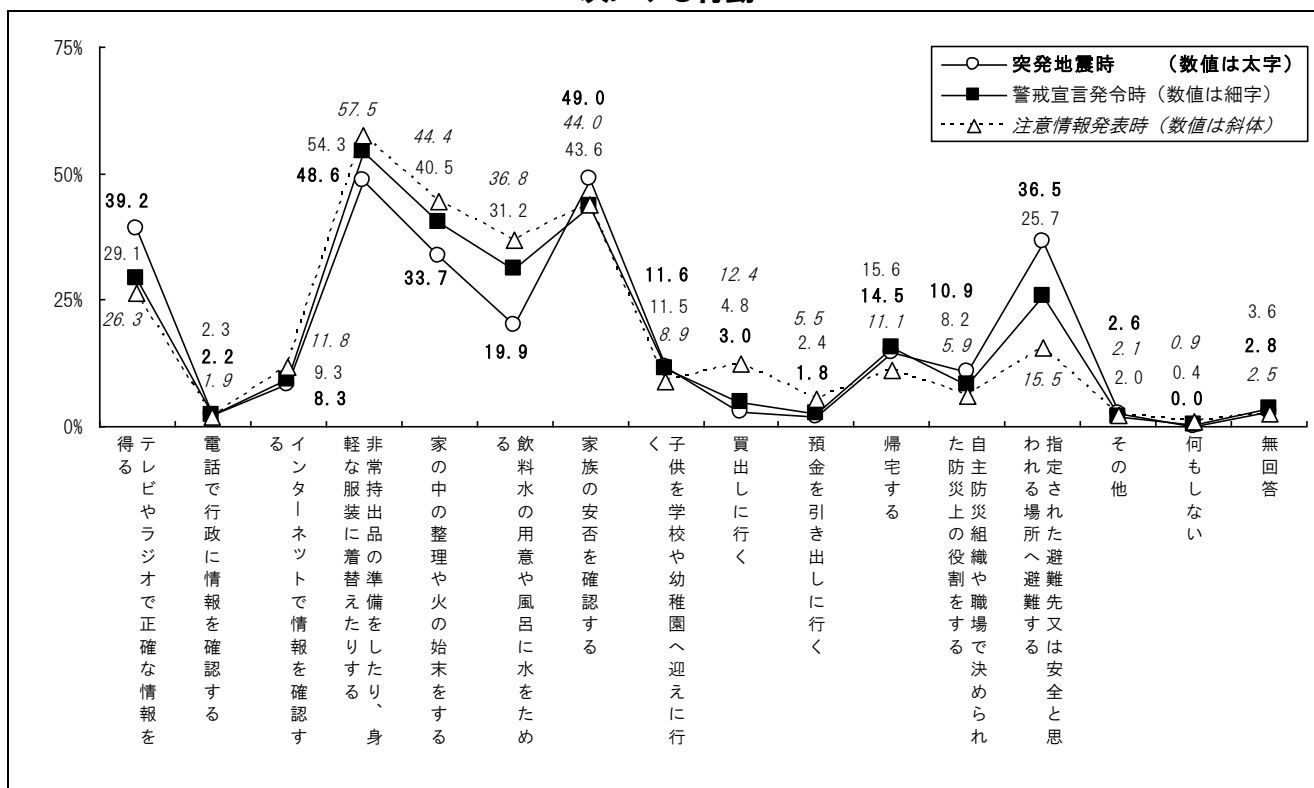


突発地震時 警戒宣言発令時 注意情報発表時の行動比較

— 最初にする行動 —



— 次にする行動 —

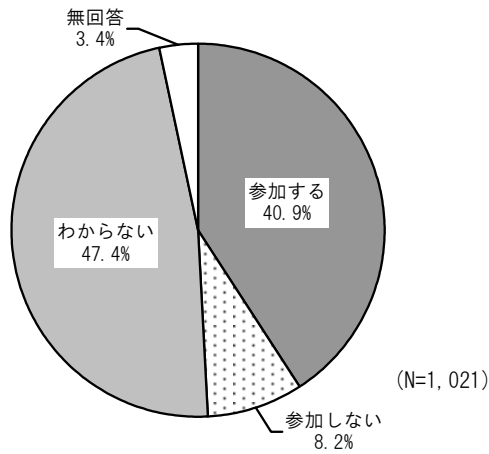


※警戒宣言発令時の行動は問27にて、注意情報発表時の行動は問32にて調査した項目

※「家族の安否を確認する」は、問27警戒宣言発令時・問32注意情報発表時の項目では、「家族と電話で連絡をとる」となっている。

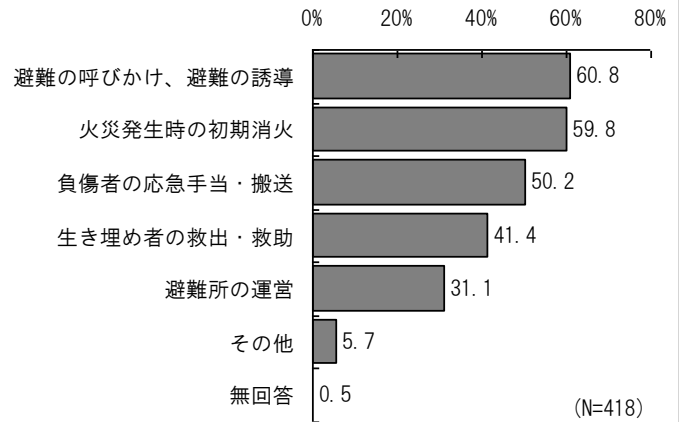
5-2 地震発生後の防災活動への参加

問24 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。



<問24で「参加する」を選んだ方にお伺いします。>

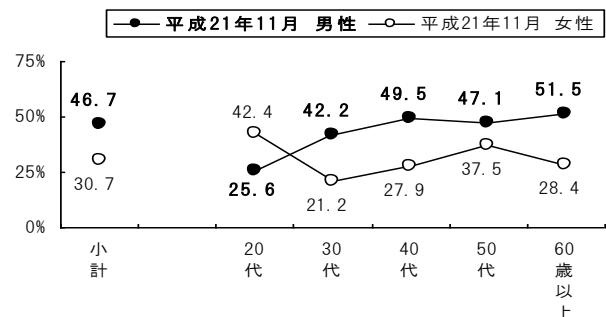
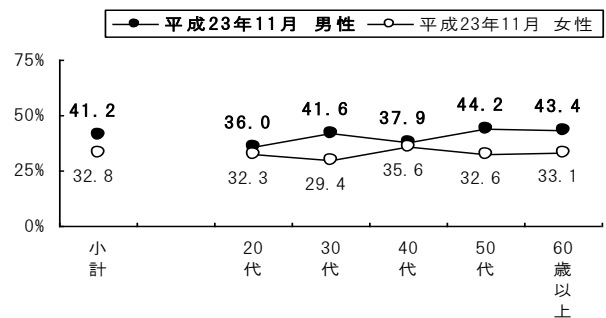
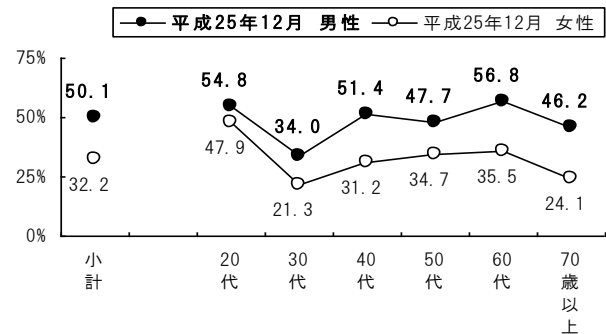
問24-1 どのような活動に参加することを考えていますか。



地震発生後の防災活動についてたずねたところ、「わからない」(47.4%)が最も高く、次いで「参加する」(40.9%)、「参加しない」(8.2%)の順となっている。また、問24で「参加する」と回答した人の参加意向については、「避難の呼びかけ、避難の誘導」(60.8%)が最も高く、次いで「火災発生時の初期消火」(59.8%)、「負傷者の応急手当・搬送」(50.2%)の順となっている。

地震発生後の防災活動への参加率を性・年代別で見ると、地震発生後の防災活動に「参加する」は、『男性』が50.1%、『女性』が32.2%となっており、年代別においても『男性』が『女性』よりも高くなっている。また、「参加する」は、最も高い『男性60代』(56.8%)と、最も低い『女性30代』(21.3%)では35.5ポイントの差が見られる。

地震発生後の防災活動参加率 <性・年代別>



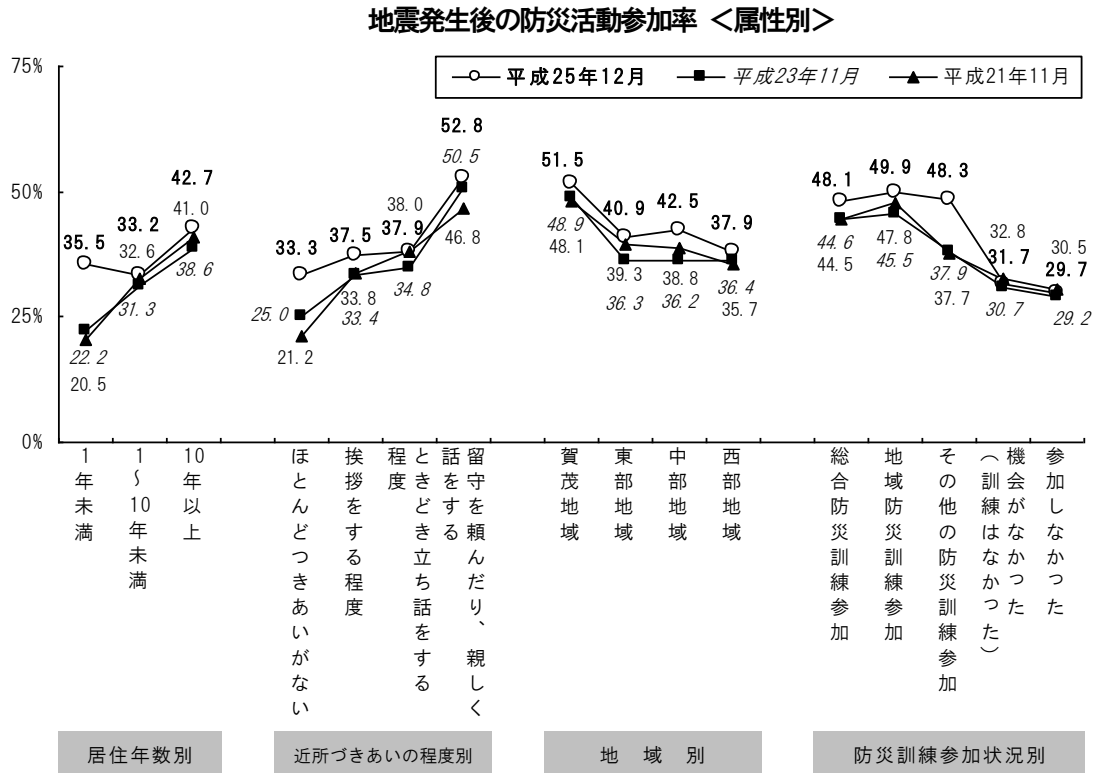
※平成25年度は「70歳以上」を追加。

地震発生後の防災活動への参加率を属性別にみると、**居住年数別**では、最も高い『10年以上』（42.7%）と、最も低い『1～10年未満』（33.2%）では9.5ポイントの差が見られる。

近所づきあいの程度別では、最も高い『留守を頼んだり、親しく話をする』（52.8%）と、最も低い『ほとんどつきあいが無い』（33.3%）では19.5ポイントの差が見られる。

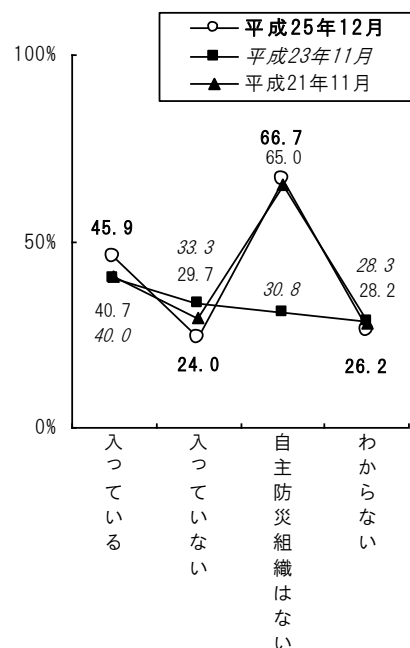
地域別では、最も高い『賀茂』（51.5%）と、最も低い『西部』（37.9%）では13.6ポイントの差が見られる。

防災訓練参加状況別では、最も高い『地域防災訓練に参加』（49.9%）と、最も低い『参加しなかった』（29.7%）では20.2ポイントの差が見られる。



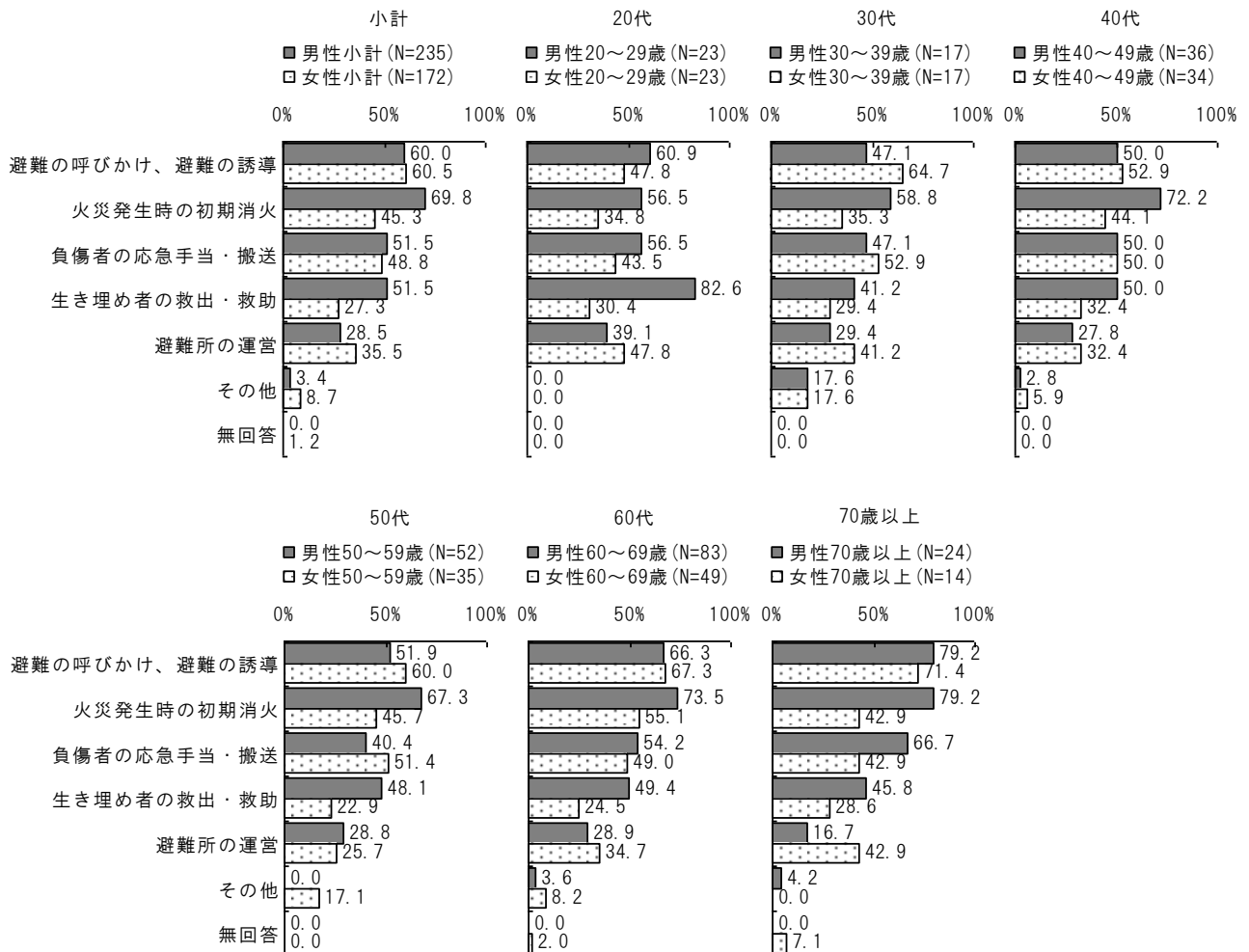
地震発生後の防災活動参加率 <自主防災組織加入別>

自主防災組織加入別でみると、自主防災組織に『入っている』（45.9%）と、『入っていない』（24.0%）では21.9ポイントの差が見られる。



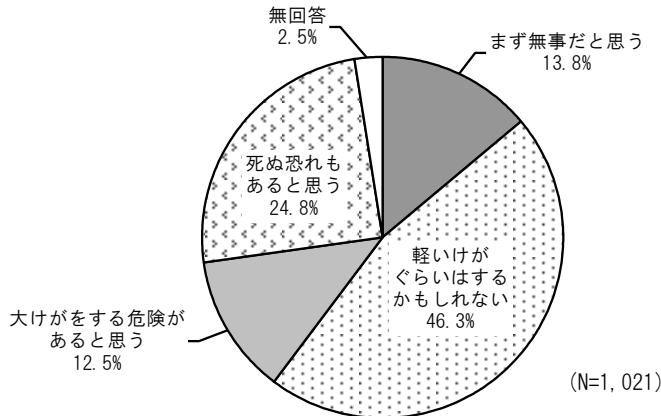
参加意向のある地震発生後の防災活動の割合を性・年代別にみると、「避難の呼びかけ、避難の誘導」は『男性70歳以上』（79.2%）と『女性70歳以上』（71.4%）で7割を超えている。「火災発生時の初期消火」、「生き埋め者の救出・救助」はいずれの年代においても『男性』で参加意向が高くなっている。「生き埋め者の救出・救助」は『男性20代』（82.6%）で特に高くなっている。

参加意向のある地震発生後の防災活動 <性・年代別>



5-3 地震が突然発生したときの自分自身の安全性

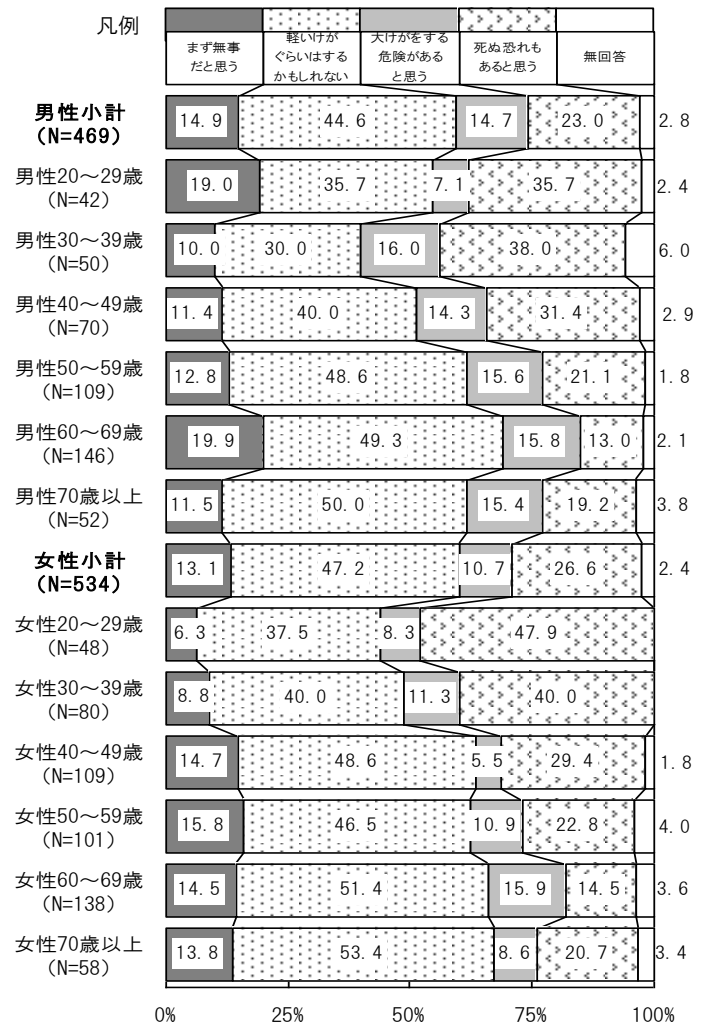
問25 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。



地震が突然発生したときの自分自身の安全性についてたずねたところ、「軽いけがぐらいはするかもしれない」(46.3%)が最も高く、次いで「死ぬ恐れもあると思う」(24.8%)、「まず無事だと思う」(13.8%)、「大けがをする危険があると思う」(12.5%)の順となっている。

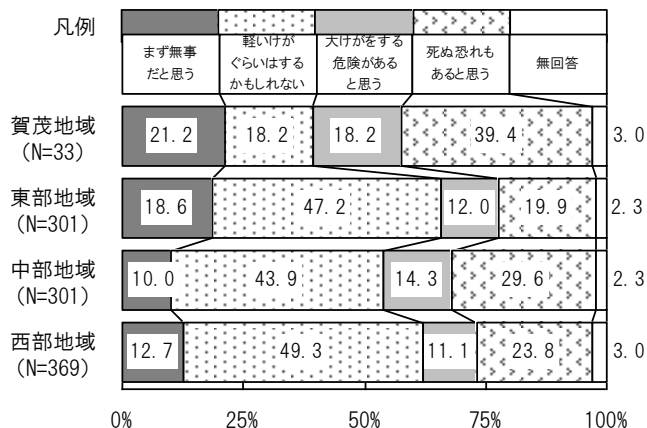
性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「軽いけがぐらいはするかもしれない」が3割を超えている。「死ぬ恐れもあると思う」は、男性・女性ともに『20代』『30代』『40代』でやや高くなっており、特に『女性20代』(47.9%)では半数近くとなっている。

地震が突然発生したときの自分自身の安全性<性・年代別>



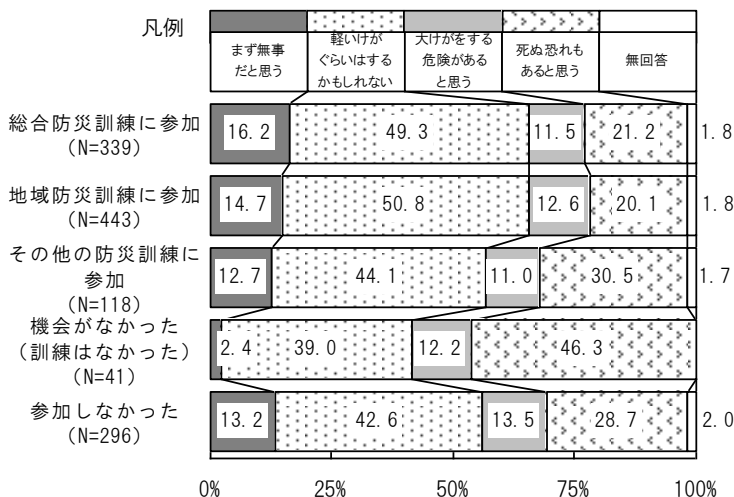
地域別でみると、「軽いけがぐらいはするかもしれない」は、『西部』(49.3%)と『東部』(47.2%)で高く、「死ぬ恐れもあると思う」は、『賀茂』(39.4%)で高くなっている。

地震が突然発生したときの自分自身の 安全性 <地域別>



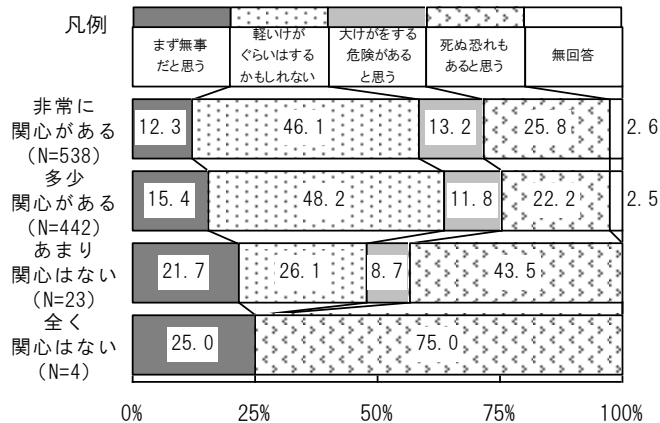
防災訓練参加状況別でみると、「軽いけがぐらいはするかもしれない」は、『地域防災訓練に参加』(50.8%)と『総合防災訓練に参加』(49.3%)で高く、「死ぬ恐れもあると思う」は、『機会がなかった(訓練はなかった)』(46.3%)で高くなっている。

地震が突然発生したときの自分自身の 安全性 <防災訓練参加状況別>



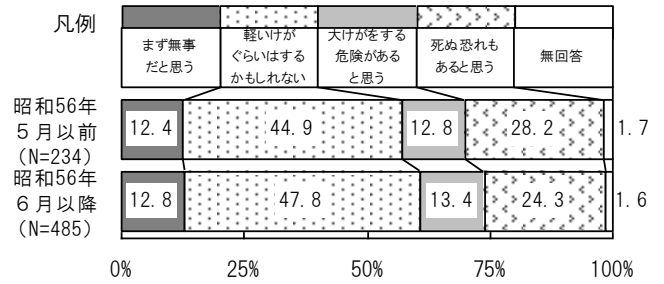
東海地震への関心度別でみると、「軽いけがぐらいはするかもしれない」は、『多少関心がある』(48.2%)と『非常に関心がある』(46.1%)で高く、「死ぬ恐れもあると思う」は、『全く関心はない』(75.0%)と『あまり関心はない』(43.5%)で高くなっている。

地震が突然発生したときの自分自身の 安全性 <東海地震への関心度別>



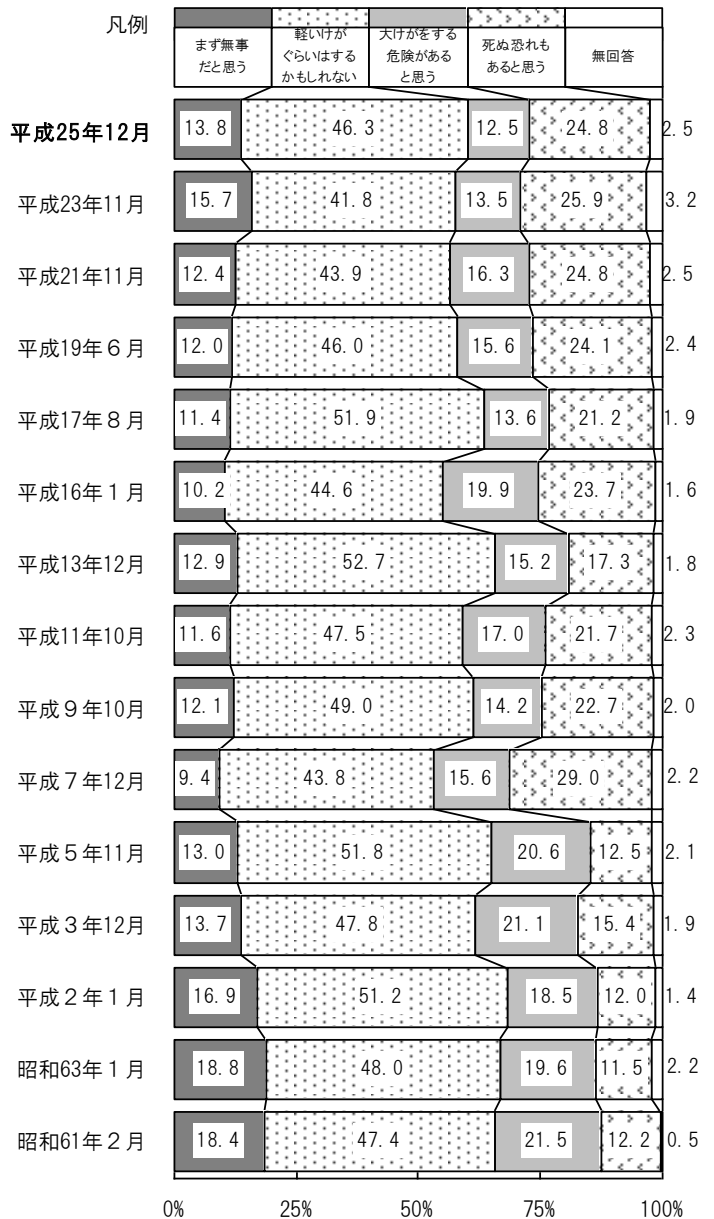
木造住宅建築時期別でみると、いずれの時期においても「軽いけがぐらいはするかもしれない」が最も高くなっている。

地震が突然発生したときの自分自身の安全性 <木造住宅建築時期別>



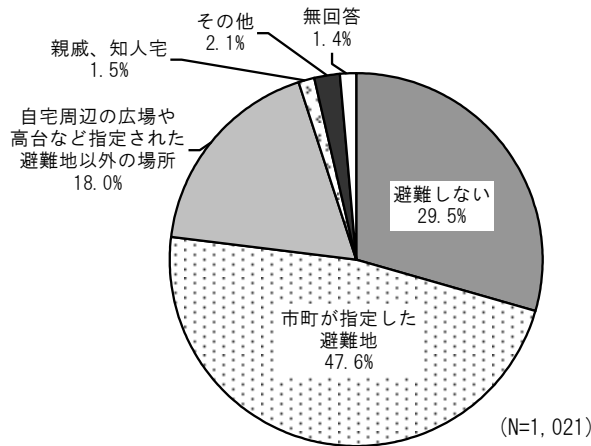
経年比較でみると、「死ぬ恐れもあると思う」が、阪神・淡路大震災（平成7年1月）の起きた『平成7年12月の調査』（29.0%）において過去最高になった以降は、平成13年度を除き、2割超で推移している。今回調査（24.8%）では平成23年11月の前回調査（25.9%）よりも1.1ポイント低くなっている。

地震が突然発生したときの自分自身の安全性 <経年比較>



5-4 地震が突然発生したときの避難行動

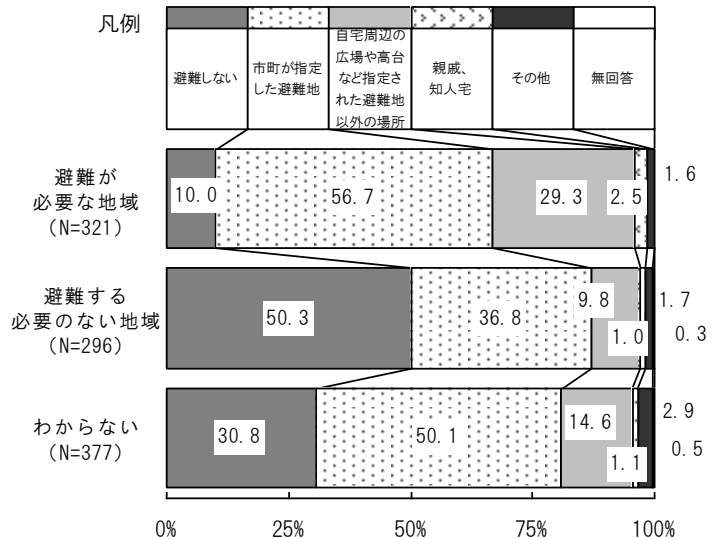
問26 あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族は一時的に避難しますか。また、避難する場合はどこに避難しますか。



地震が突然発生したときの避難行動についてたずねたところ、「市町が指定した避難地」(47.6%)が最も高く、次いで「避難しない」(29.5%)、「自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所」(18.0%)、「親戚、知人宅」(1.5%)の順となっている。屋外である「市町が指定した避難地」と「自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所」への避難は65.6%となっている。

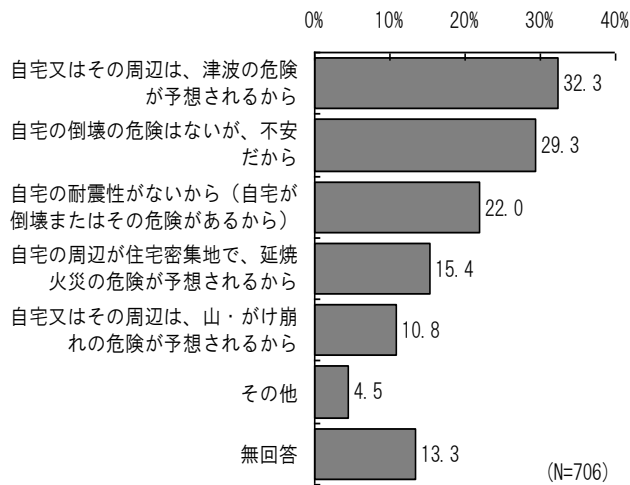
避難該当地域であるかの認識別でみると、『避難が必要な地域』では、「市町が指定した避難地」(56.7%)が最も高くなっている。『避難する必要のない地域』では、「避難しない」(50.3%)が最も高くなっている。一方、『避難が必要な地域』においても10.0%が「避難しない」としている。

地震が突然発生したときの避難行動
 <避難該当地域であるかの認識別>



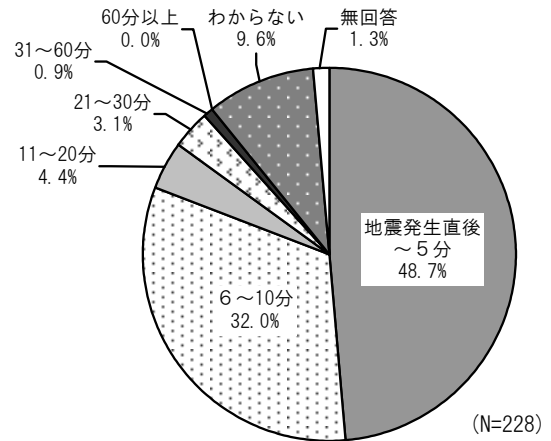
<問26で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺い
 します。>

問26-1 避難する理由は何ですか。(M. A.)



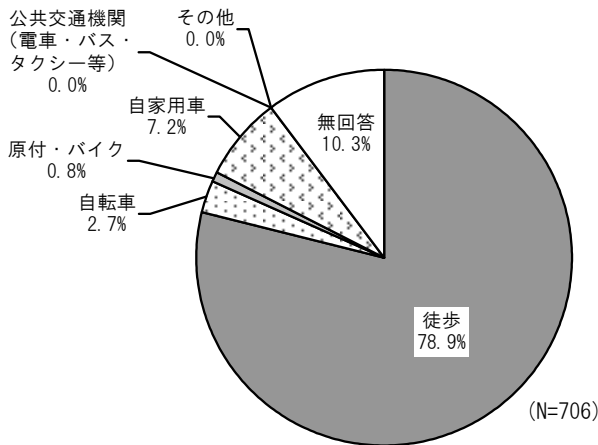
<問26-1で「1 自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」を選んだ方にお伺いします。>

問26-1-1 地震が起こってから何分後に避難開始
 しますか。



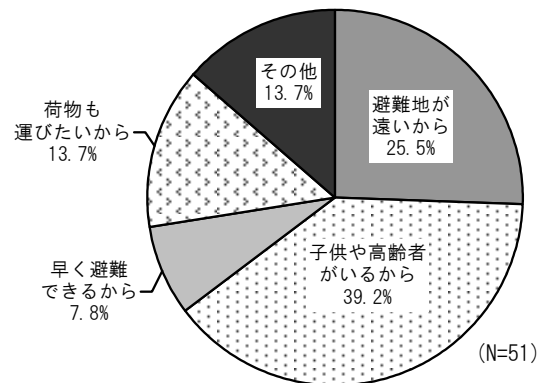
<問26で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺い
 します。>

問26-2 避難するときの交通手段は何ですか。



<問26-2で「4 自家用車」を選んだ方にお伺い
 します。>

問26-2-1 なぜ自家用車で避難するのですか。



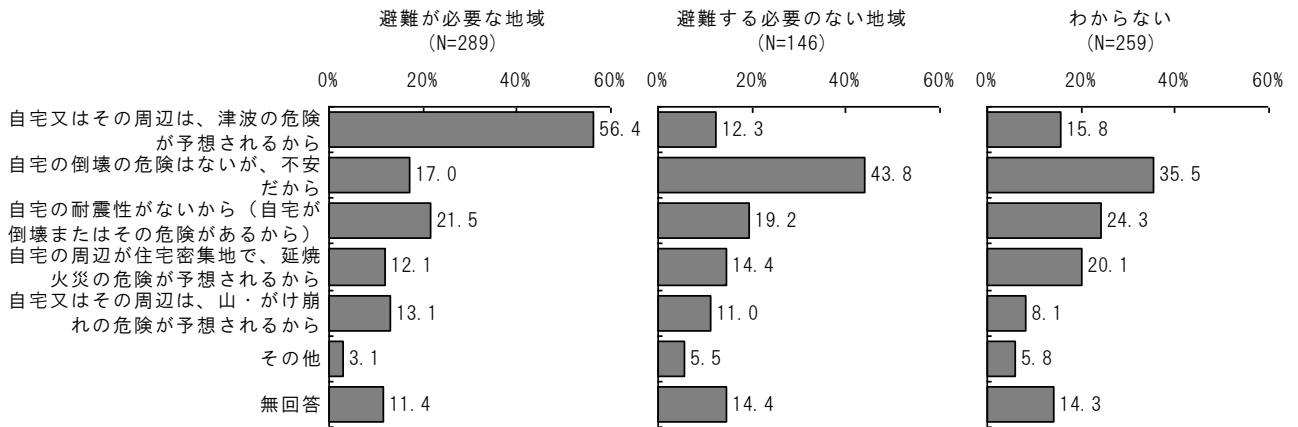
問26で「避難しない」以外を回答した人の避難する理由については、「自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」(32.3%)が最も高く、次いで「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」(29.3%)、「自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)」(22.0%)、「自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから」(15.4%)、「自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから」(10.8%)の順となっている。

問26-1で津波の危険が予想されると回答した人に避難開始時間をたずねたところ、「地震発生直後～5分」(48.7%)が最も高く、次いで「6～10分」(32.0%)、「わからない」(9.6%)、「11～20分」(4.4%)の順となっている。

問26で「避難しない」以外を回答した人の避難するときの交通手段については、「徒歩」(78.9%)が最も高く8割近くを占めており、次いで「自家用車」(7.2%)、自転車(2.7%)の順となっている。また、「自家用車」と回答した人の理由については、「子供や高齢者がいるから」(39.2%)が最も高く、次いで「避難地が遠いから」(25.5%)、「荷物も運びたいから」(13.7%)の順となっている。

問26で「避難しない」以外を回答した人の避難する理由について、**避難該当地域であるかの認識別**でみると、『避難が必要な地域』では、「自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」(56.4%)が高くなっている。『避難する必要のない地域』では、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」(43.8%)が他より高くなっている。

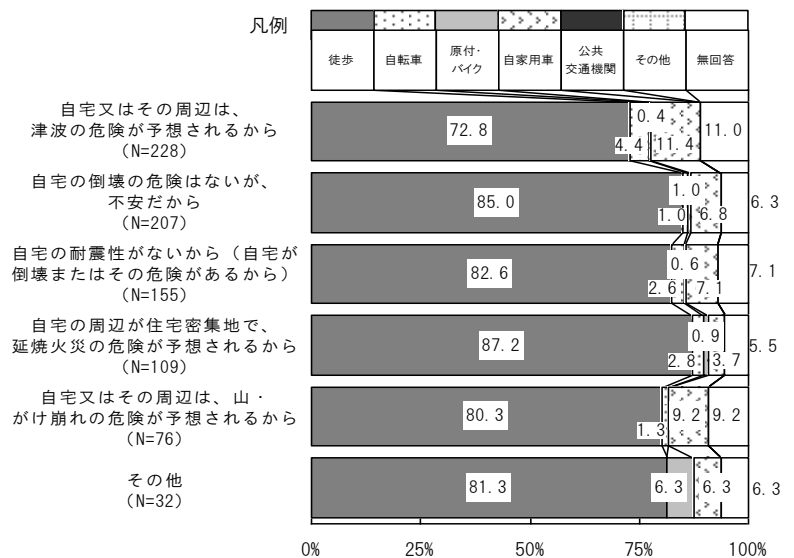
避難する理由<避難該当地域であるかの認識別>



避難するときの交通手段

<避難する理由別>

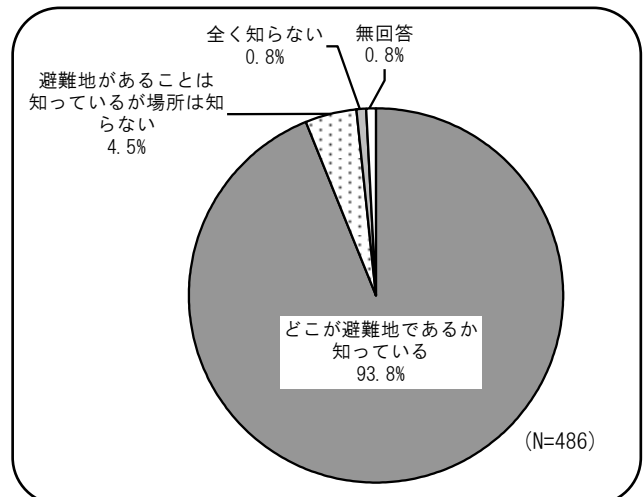
避難するときの交通手段について、**避難する理由別**でみると、「自家用車」は『自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから』(11.4%)で最も高くなっている。



避難指定地の認知度

<「市町が指定した避難地」と回答した人の内訳>

避難指定地の認知度を問26で「市町が指定した避難地」と回答した人のみでみると、「どこが避難地であるか知っている」(93.8%)が最も高く、次いで「避難地があることは知っているが場所は知らない」(4.5%)、「全く知らない」(0.8%)の順となっている。

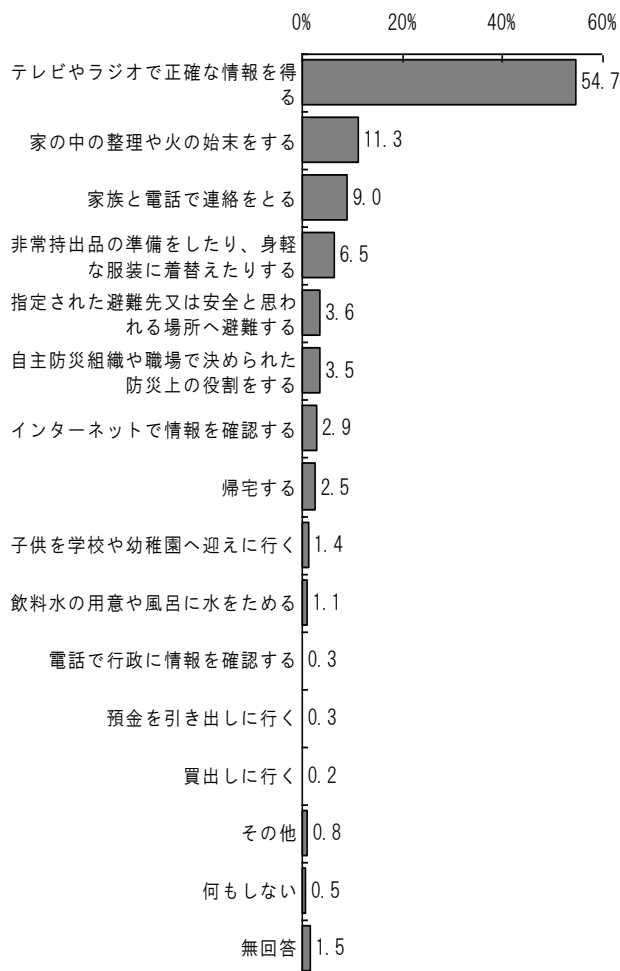


6 警戒宣言が発せられたときの行動について

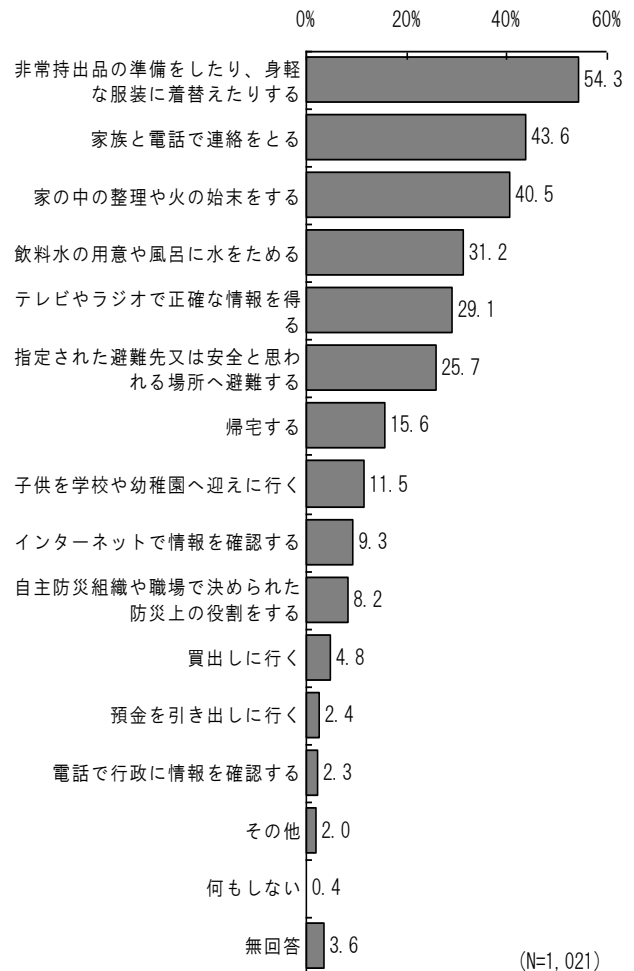
6-1 警戒宣言発令時の行動

問27 平日の午前11時頃に警戒宣言が発せられたと仮定して、あなたがまず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。

◇ 最初にすること ◇



◇ 次にすること (M. A.) ◇



(N=1,021)

警戒宣言発令時の行動についてたずねたところ、まず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(54.7%)が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(11.3%)、「家族と電話で連絡をとる」(9.0%)の順となっている。

次にすることは、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」(54.3%)が最も高く、次いで「家族と電話で連絡をとる」(43.6%)、「家の中の整理や火の始末をする」(40.5%)、「飲料水の用意や風呂に水をためる」(31.2%)となっており、これら4項目が3割を超えている。

警戒宣言発令時の行動の流れをみると、まず最初にすることに「テレビやラジオで正確な情報を得る」を選んだ人は、次にすることでは「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」、「家の中の整理や火の始末をする」、「家族と電話で連絡をとる」を上位に挙げている。

また、まず最初にすることに「家の中の整理や火の始末をする」、「家族と電話で連絡をとる」を選んだ人は、次にすることでは「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」を共通して上位に挙げている。

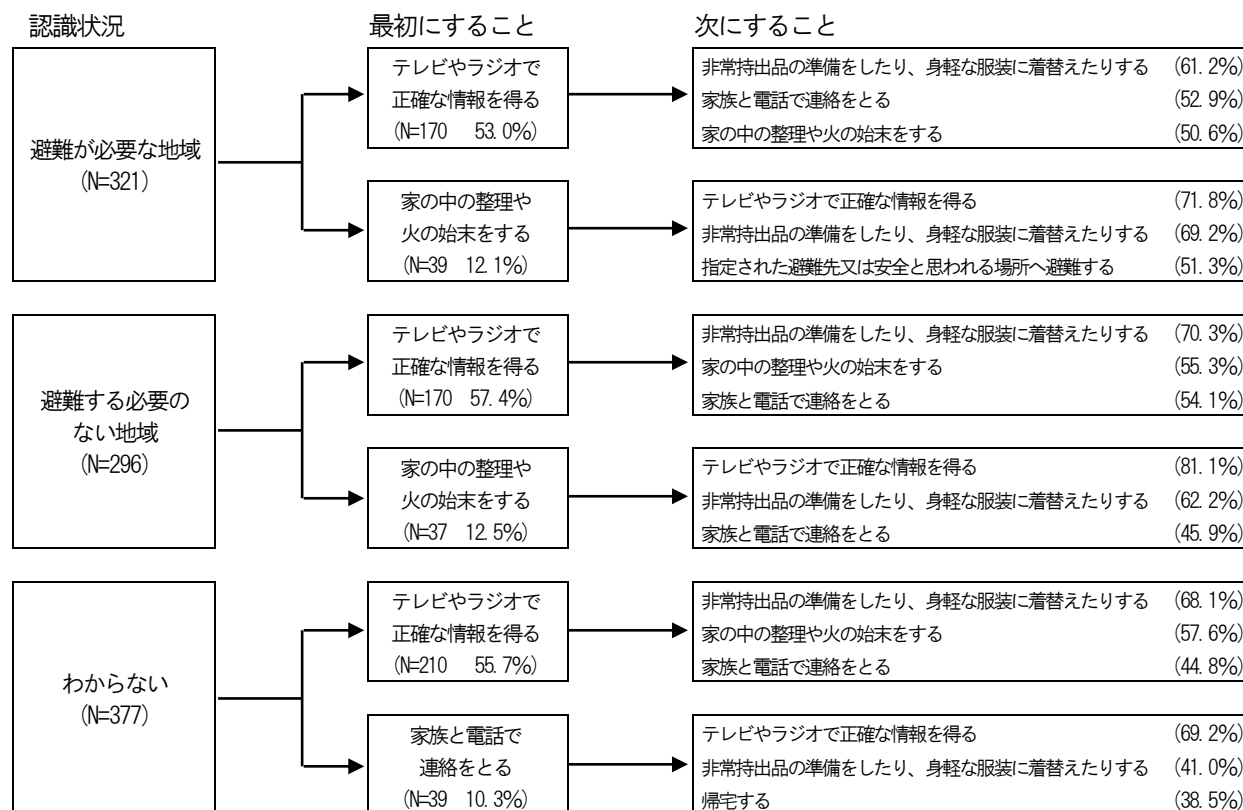
警戒宣言発令時の行動の流れ 上位6位



警戒宣言発令時の行動の流れを避難該当地域であるかの認識状況別で見ると、避難該当地域か否かに関わらず、「テレビやラジオで正確な情報を得る」をまず最初にする事として挙げている。

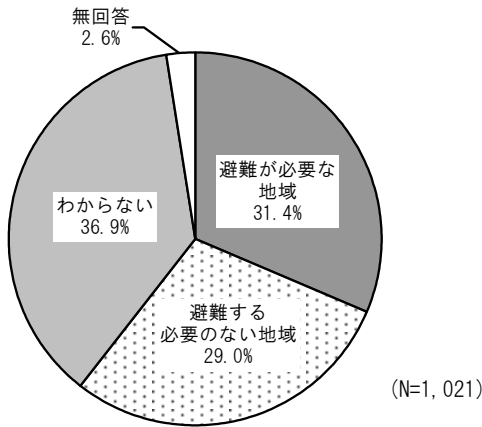
まず最初にする事で「テレビやラジオで正確な情報を得る」を選んだ人は、次にすることでは「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」、「家族と電話で連絡をとる」、「家の中の整理や火の始末をする」を共通して上位に挙げている。また、「家の中の整理や火の始末をする」、「家族と電話で連絡をとる」を選んだ人は、次にすることでは「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」共通して上位に挙げている。

警戒宣言発令時の行動の流れ <避難該当地域であるかの認識状況別>

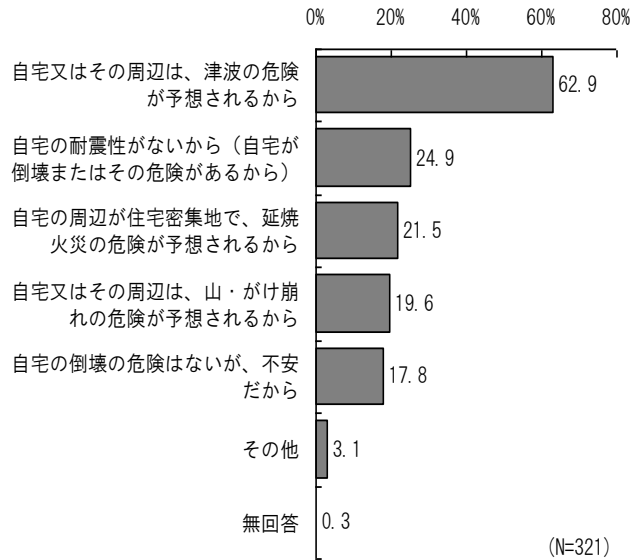


6-2 避難該当地域であるかの認識

問28 あなたのお宅は、警戒宣言が発せられたとき、避難が必要な地域ですか。



問28-1 避難が必要となる理由は何ですか。(M. A.)



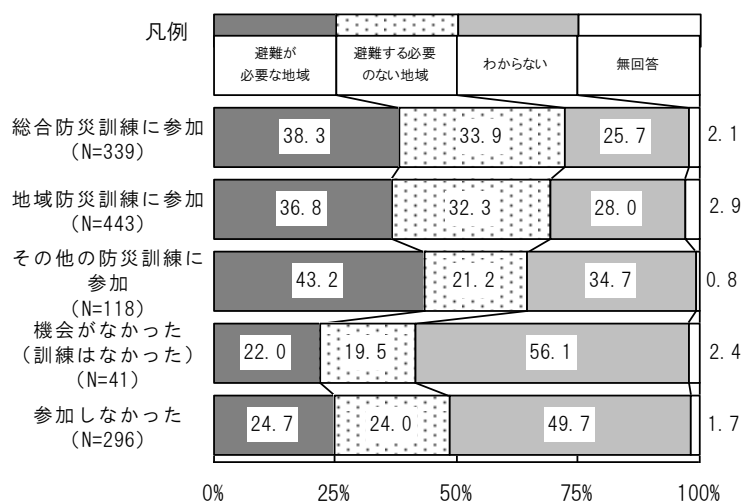
自宅が避難該当地域であるかの認識についてたずねたところ、「わからない」(36.9%)が最も高く、次いで「避難が必要な地域」(31.4%)、「避難する必要のない地域」(29.0%)の順となっている。

また、問28で「避難が必要な地域」と回答した人の必要なる理由については、「自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」(62.9%)が最も高く、次いで「自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)」(24.9%)、「自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから」(21.5%)、「自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから」(19.6%)、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」(17.8%)の順となっている。

避難該当地域であるかの認識を**防災訓練参加状況別**でみると、「避難が必要な地域」では、最も高い『その他の防災訓練に参加』(43.2%)と、最も低い『機会がなかった(訓練はなかった)』(22.0%)では21.2ポイントの差が見られ、いずれかの防災訓練に参加している人は、自宅が避難該当地域であるという認識が高い傾向が見られる。

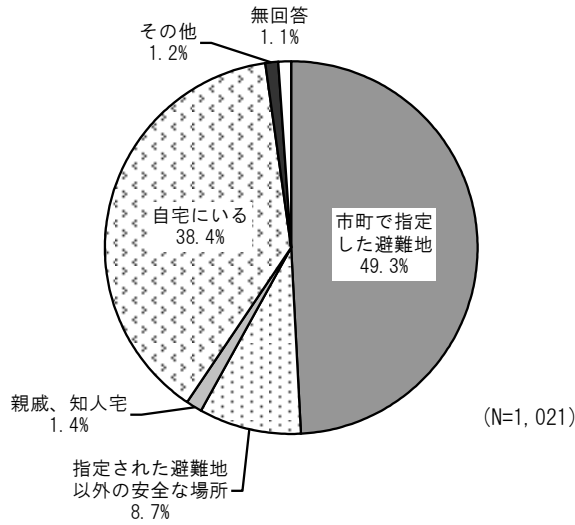
避難該当地域であるかの認識

<防災訓練参加状況別>



6-3 居宅で警戒宣言が発せられた場合の避難

問29 あなたやご家族は、自宅において警戒宣言が発せられた場合、避難しますか。

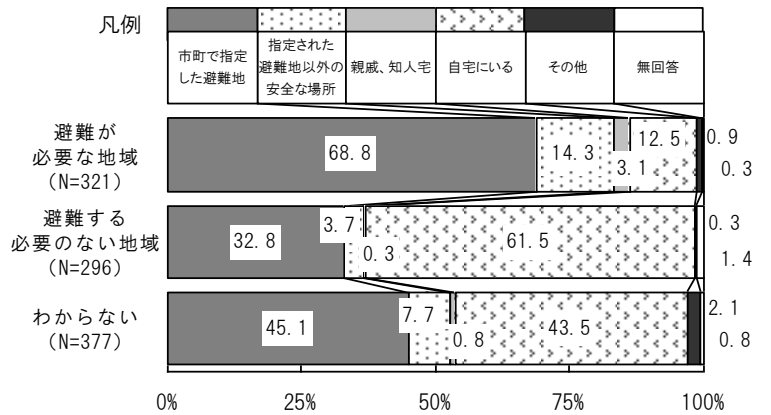


自宅において警戒宣言が発せられた場合の避難行動についてたずねたところ、「市町で指定した避難地」（49.3%）が最も高く、次いで「自宅にいる」（38.4%）、「指定された避難地以外の安全な場所」（8.7%）、「親戚、知人宅」（1.4%）の順となっている。

警戒宣言発令時の避難行動

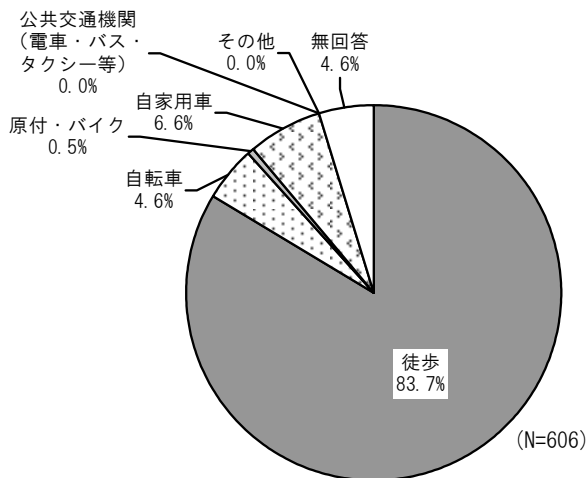
<避難該当地域であるかの認識状況別>

避難該当地域であるかの認識状況別でみると、『避難が必要な地域』では、「市町で指定した避難地」（68.8%）が7割近くとなっている。また、『避難する必要のない地域』では、「自宅にいる」（61.5%）が6割を超えている。



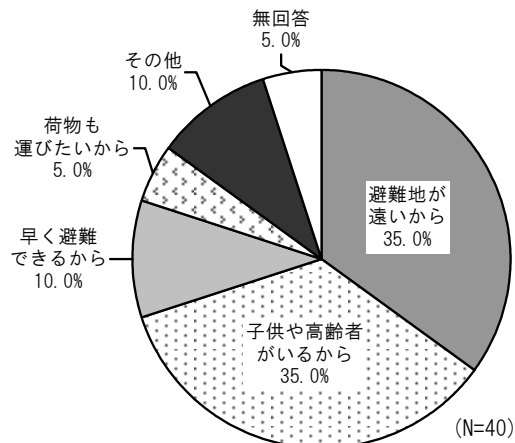
＜問29で「1 市町で指定した避難地」「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」のいずれかを選んだ方にお伺いします。＞

問29-1 避難するときの交通手段は何ですか。



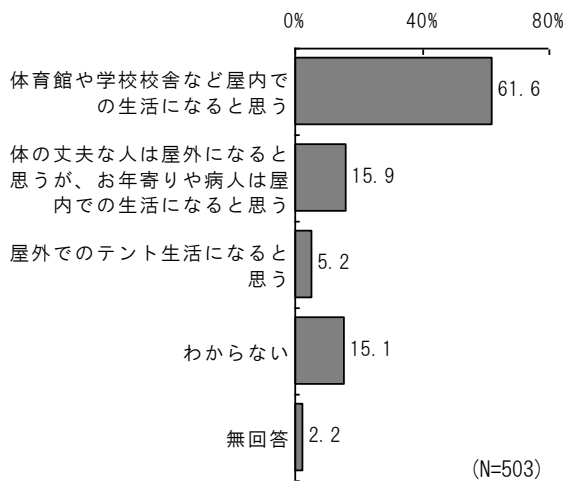
＜問29-1で「4 自家用車」を選んだ方にお伺いします。＞

問29-1-1 なぜ自家用車で避難するのですか。



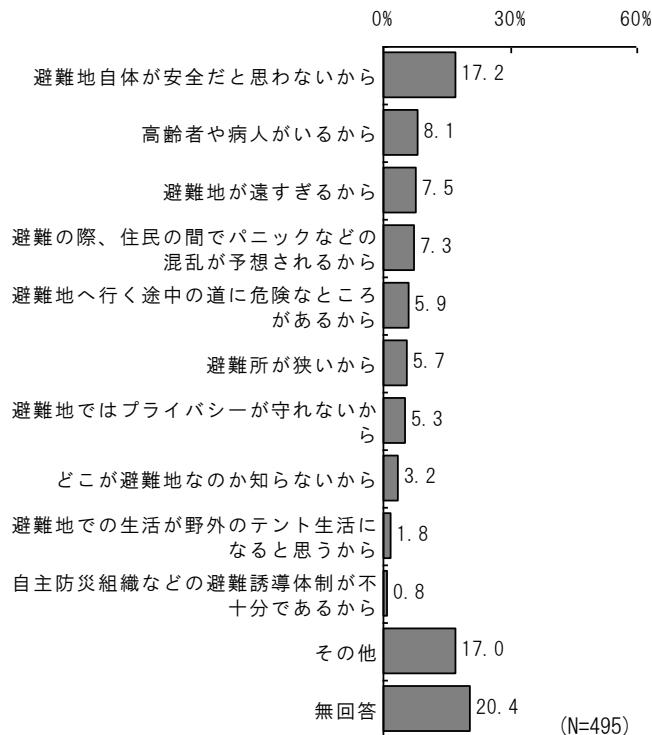
＜問29で「1 市町で指定した避難地」を選んだ方のみにお伺いします。＞

問29-2 避難地での生活はどのようになるとお考えですか。(屋外・屋内など)



＜問29で「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」「4 自宅にいる」のいずれかを選んだ方にお伺いします。＞

問29-3 市町で指定した避難地へ避難しない理由は何ですか。



問29で「避難する」と回答した人の避難時の交通手段については、「徒歩」(83.7%)が最も高く8割以上を占めており、次いで「自家用車」(6.6%)、「自転車」(4.6%)の順となっている。

また、問29-1で「自家用車」で避難すると回答した人の理由については、「避難地が遠いから」(35.0%)、「子供や高齢者がいるから」(35.0%)が最も高く、次いで「早く避難できるから」(10.0%)の順となっている。

問29で「市町で指定した避難地」と回答した人に避難生活についてたずねたところ、「体育館や学校校舎など屋内での生活になると思う」(61.6%)が最も高く6割以上を占めており、次いで「体の丈夫な人は屋外になると思うが、お年寄りや病人は屋内での生活になると思う」(15.9%)、「屋外でのテント生活になると思う」(5.2%)の順となっている。

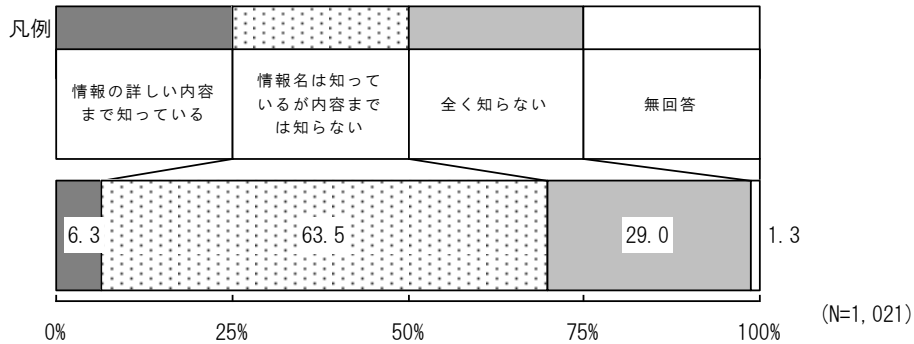
問29で「指定された避難地以外の安全な場所」「親戚、知人宅」「自宅にいる」と回答した人に、市町で指定した避難地へ避難しない理由をたずねたところ、「避難地自体が安全だと思わないから」(17.2%)が最も高く、次いで「高齢者や病人がいるから」(8.1%)、「避難地が遠すぎるから」(7.5%)、「避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから」(7.3%)の順となっている。

7 地震に関する情報について

7-1

東海地震に関連する情報体系の認知

問30 東海地震に関連する情報として「東海地震に関連する調査情報」「東海地震注意情報」「東海地震予知情報（警戒宣言）」の3つがあります。あなたは、このことをご存知ですか。

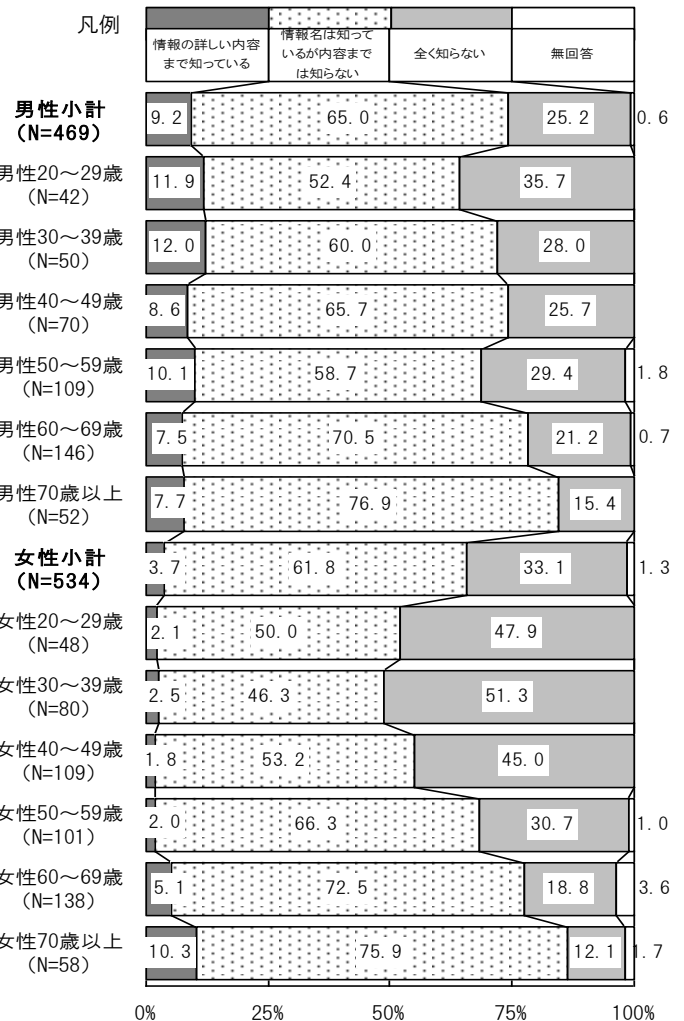


東海地震に関連する情報体系の認知についてたずねたところ、「情報名は知っているが内容までは知らない」(63.5%)が最も高く、次いで「全く知らない」(29.0%)、「情報の詳しい内容まで知っている」(6.3%)の順となっている。「情報名は知っているが内容までは知らない」、「全く知らない」を合わせた情報の内容を知らない人は92.5%となっている。

性・年代別でみると、「全く知らない」は、『女性30代』(51.3%)で最も高く、次いで『女性20代』(47.9%)、『女性40代』(45.0%)、『男性20代』(35.7%)の順となっている。

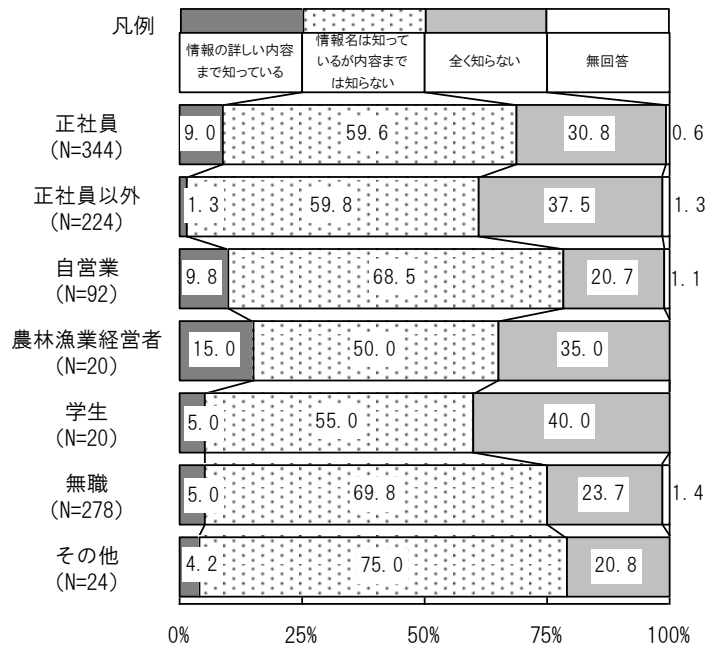
また、「情報名は知っているが内容までは知らない」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られ、最も高い『男性70歳以上』(76.9%)と、最も低い『女性30代』(46.3%)では30.6ポイントの差が見られる。

情報体系の認知 <性・年代別>



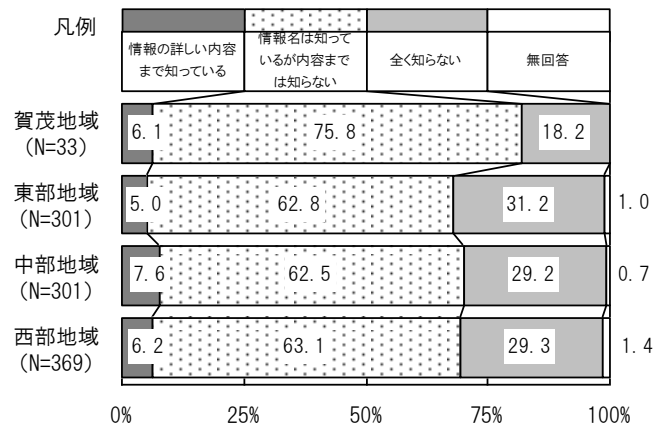
職業別でみると、「情報は知っているが内容までは知らない」は、『その他』(75.0%)で最も高く、次いで『無職』(69.8%)、『自営業』(68.5%)、『正社員以外』(59.8%)の順となっている。

情報体系の認知 <職業別>



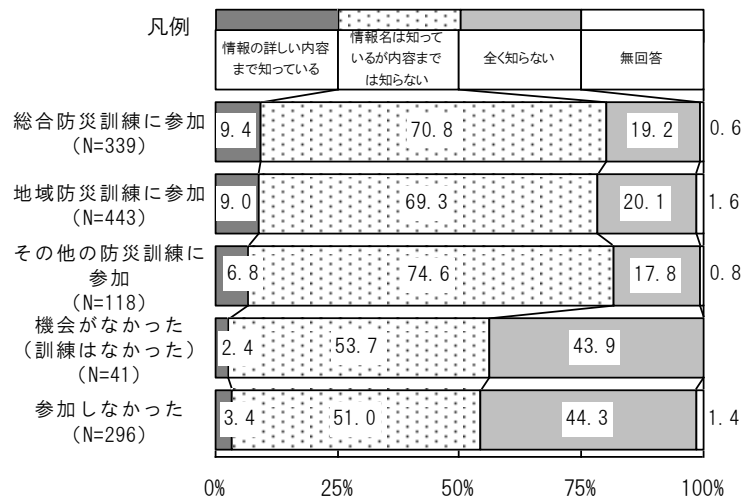
地域別でみると、「情報は知っているが内容までは知らない」は『賀茂』(75.8%)、「全く知らない」は『東部』(31.2%)が他よりも高くなっている。

情報体系の認知 <地域別>



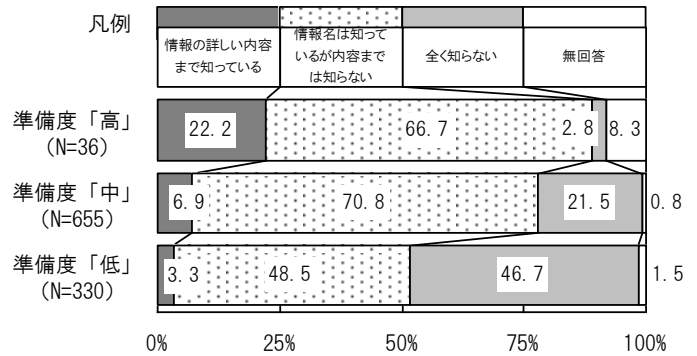
防災訓練参加状況別でみると、「全く知らない」は、『参加しなかった』(44.3%)と『機会がなかった(訓練はなかった)』(43.9%)で4割を超えている。

情報体系の認知 <防災訓練参加状況別>



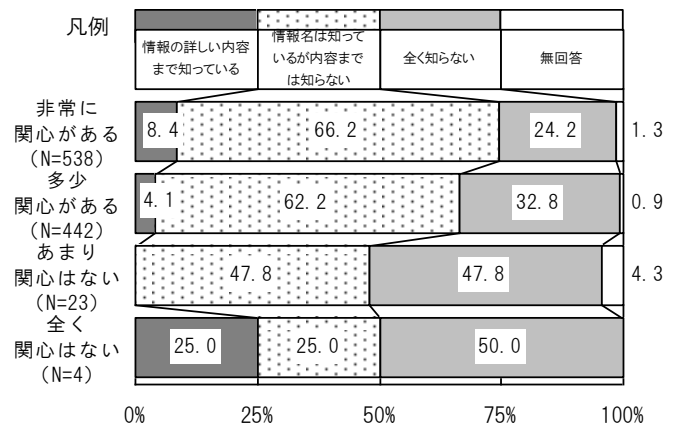
防災準備度別でみると、防災準備度が高くなるにつれて、「情報の詳しい内容まで知っている」と答えた人が多くなっている。また、防災準備度が低くなるにつれて、「全く知らない」と答えた人が多くなっており、『防災準備度「低」』（46.7%）では4割を超えている。

情報体系の認知 <防災準備度別>



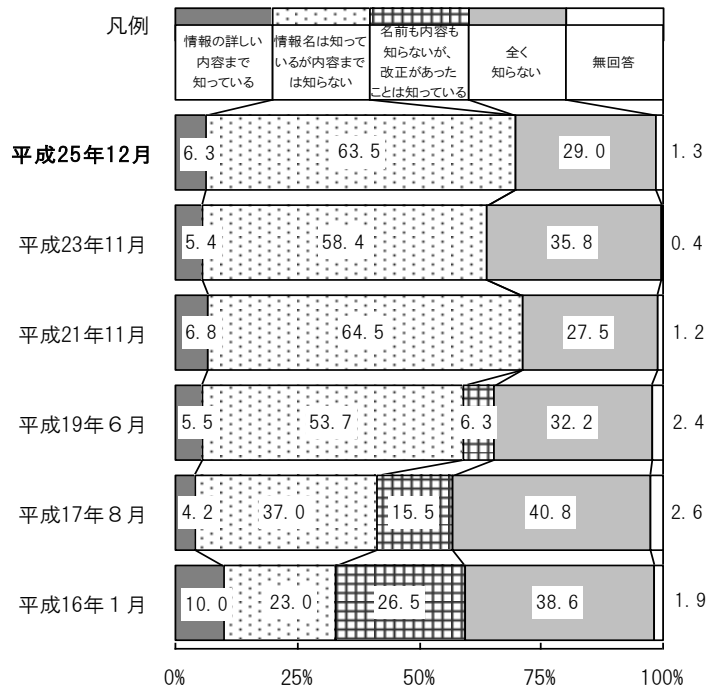
東海地震への関心度別でみると、関心が高くなるにつれて、「全く知らない」は低くなっている。

情報体系の認知 <東海地震への関心度別>



経年比較でみると、「全く知らない」の今回調査（29.0%）は、前回調査（35.8%）より6.8ポイント下回っている。一方、「情報名は知っているが内容までは知らない」の今回調査（63.5%）は、前回調査（58.4%）より5.1ポイント上回っている。

情報体系の認知<経年比較>

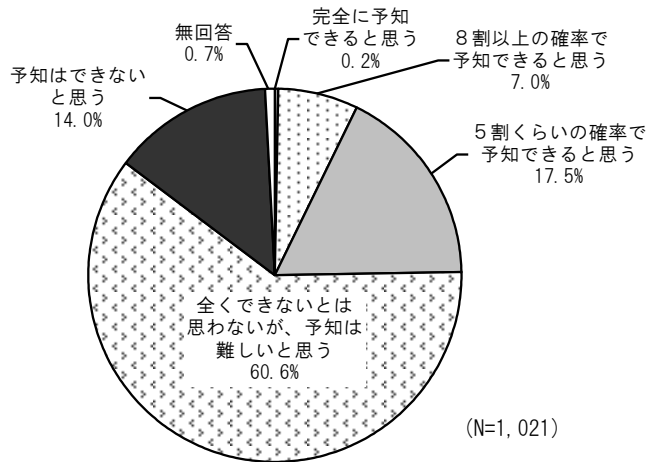


この調査項目は平成15年度調査から設定した。

※「名前も内容も知らないが、改正があったことは知っている」という項目は、平成21年度以降にはない。

7-2 東海地震予知の可能性

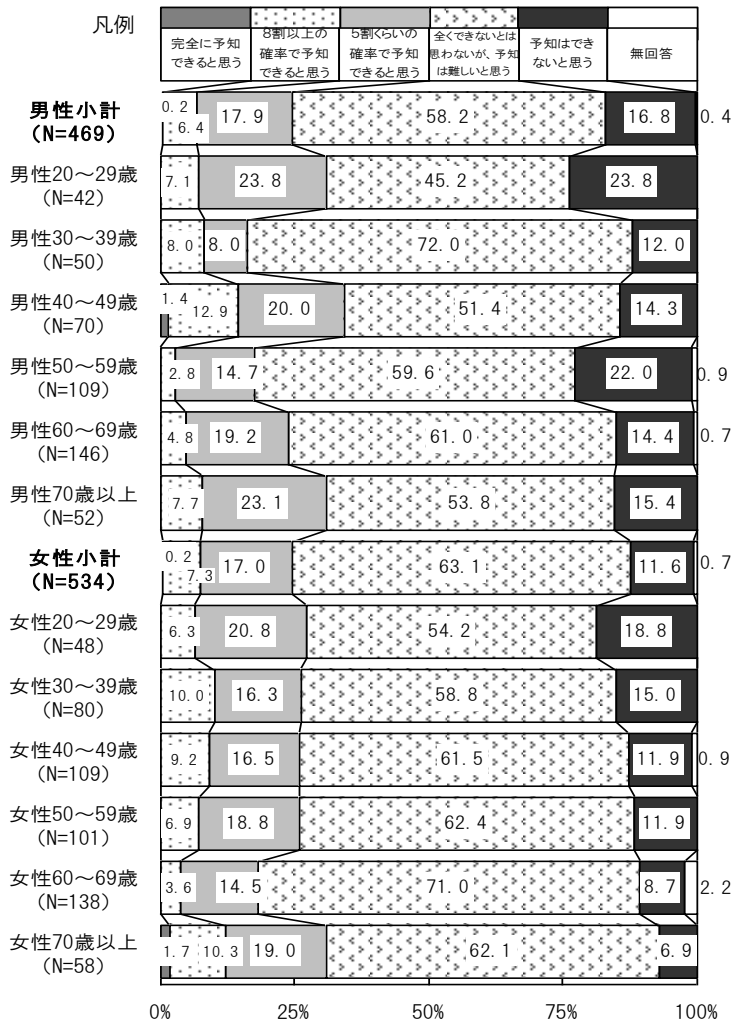
問31 あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。



東海地震の予知の可能性についてたずねたところ、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」(60.6%)が最も高く、次いで「5割くらいの確率で予知できると思う」(17.5%)、「予知はできないと思う」(14.0%)、「8割以上の確率で予知できると思う」(7.0%)、「完全に予知できると思う」(0.2%)の順となっている。

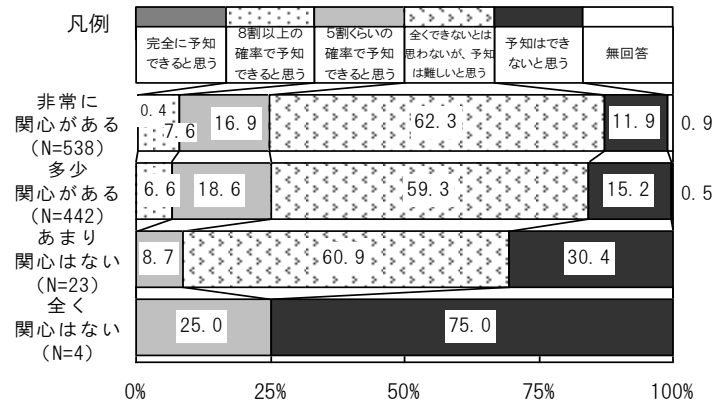
性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」が最も高くなっている。

東海地震予知の可能性 <性・年代別>



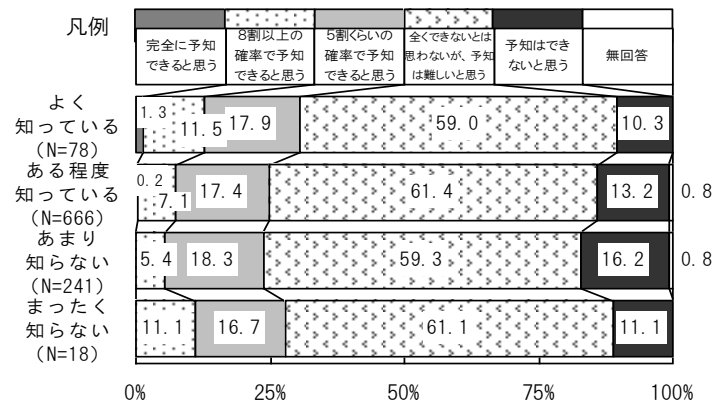
東海地震への関心度別でみると、関心が高い人ほど、「予知はできないと思う」と答えた人は少なく、『非常に関心がある』や『多少関心がある』で2割未満となっている。

東海地震予知の可能性 ＜東海地震への関心度別＞



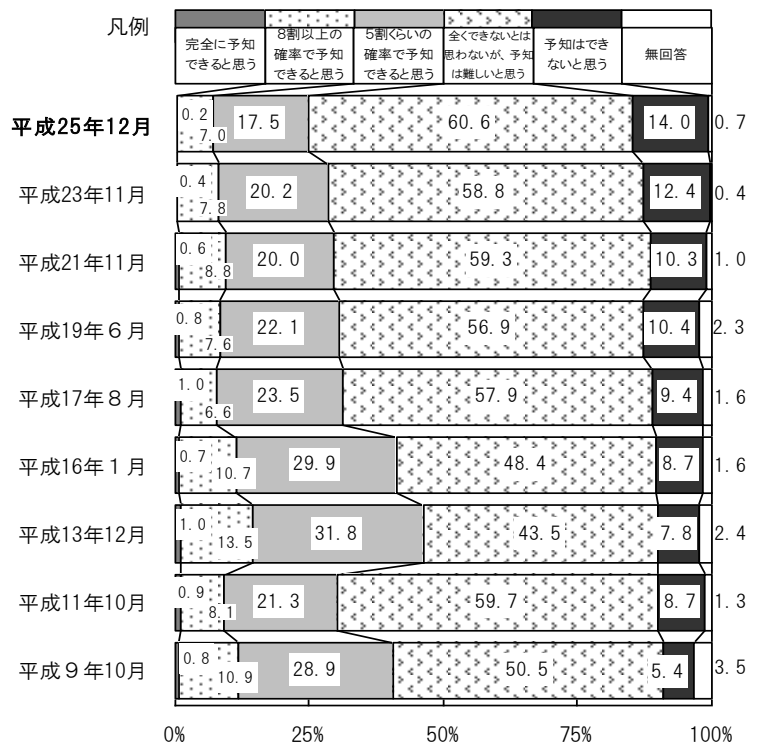
地震メカニズム認知別でみると、いずれの認知度でも「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」が6割前後となっている。

東海地震予知の可能性 ＜地震メカニズム認知別＞



経年比較でみると、『平成13年12月の調査』以降、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」と「予知は出来ないと思う」の割合が増加傾向にある。

東海地震予知の可能性＜経年比較＞

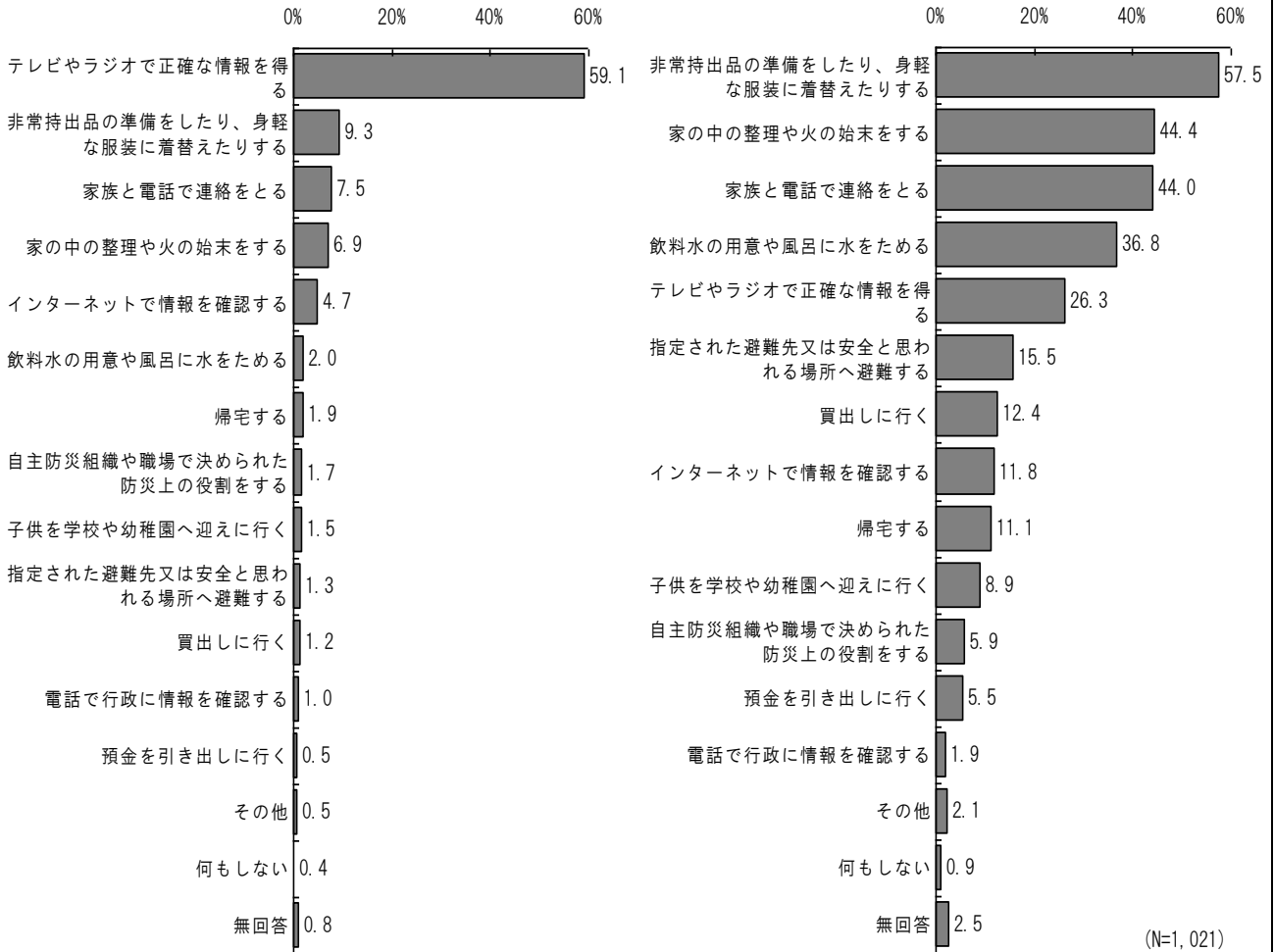


この調査項目は平成9年度調査から設定した。

問32 「警戒宣言」を発するには至らないが、東海地震の前兆現象が起きている可能性が高いと認められたとき、気象庁から「東海地震注意情報」が発表されます。このような場合に、まず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。

◇ 最初にする事 ◇

◇ 次にすること (M. A.) ◇



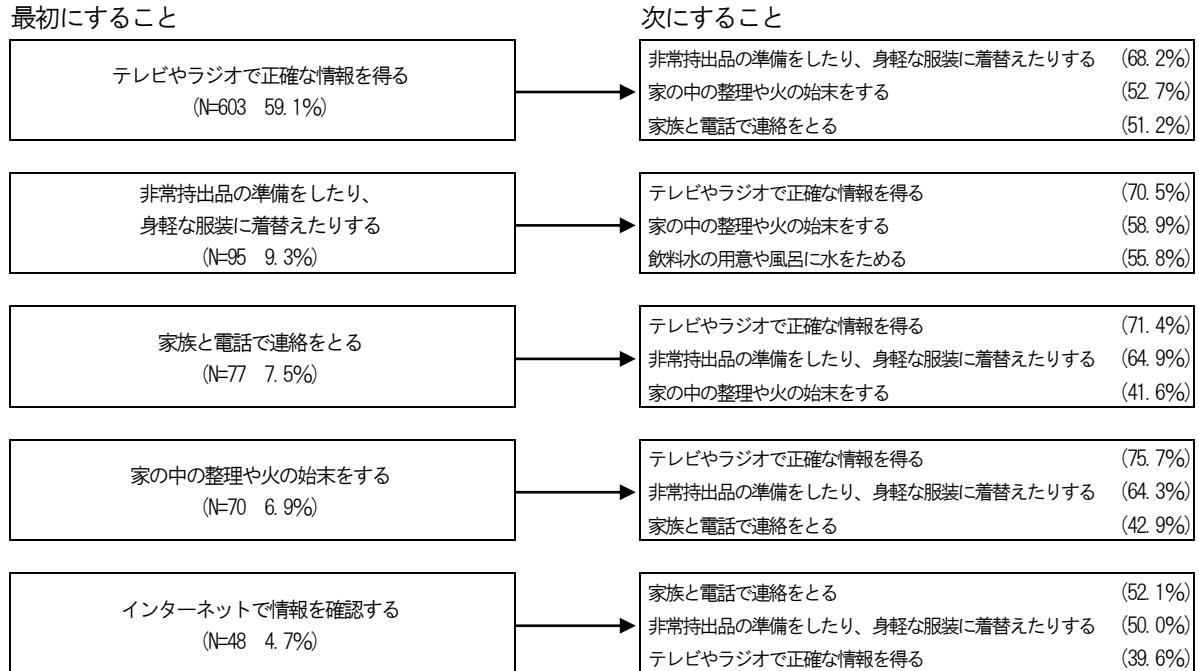
「東海地震注意情報」が発表された場合の行動についてたずねたところ、まず最初にするのは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(59.1%)が最も高くなっている。

次にすることは、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」(57.5%)が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(44.4%)、「家族と電話で連絡をとる」(44.0%)、「飲料水の用意や風呂に水をためる」(36.8%)の順となっており、これら4項目が3割を超えている。

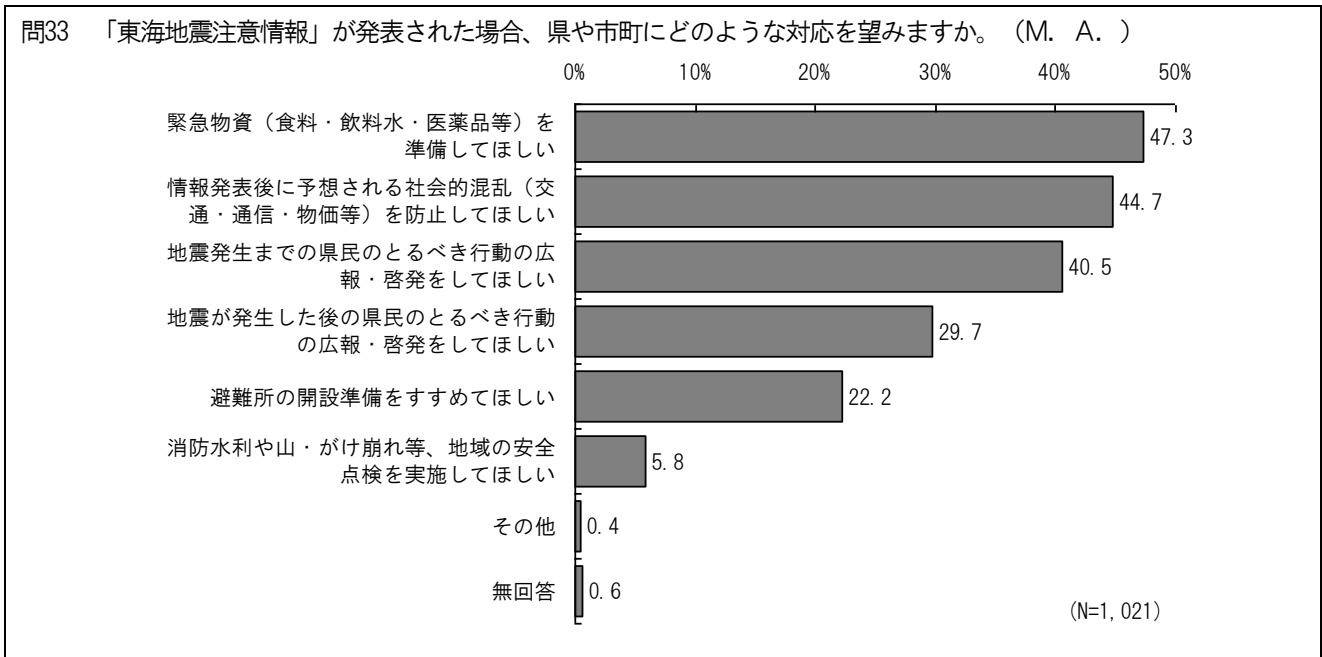
注意情報発表時の行動の流れをみると、まず最初にすることに「テレビやラジオで正確な情報を得る」を選んだ人は、次にすることでは「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」、「家の中の整理や火の始末をする」、「家族と電話で連絡をとる」を上位に挙げている。

また、まず最初にすることに「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」、「家族と電話で連絡をとる」を選んだ人は、次にすることでは「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「家の中の整理や火の始末をする」を共通して上位に挙げている。

注意情報発表時の行動の流れ 上位5位



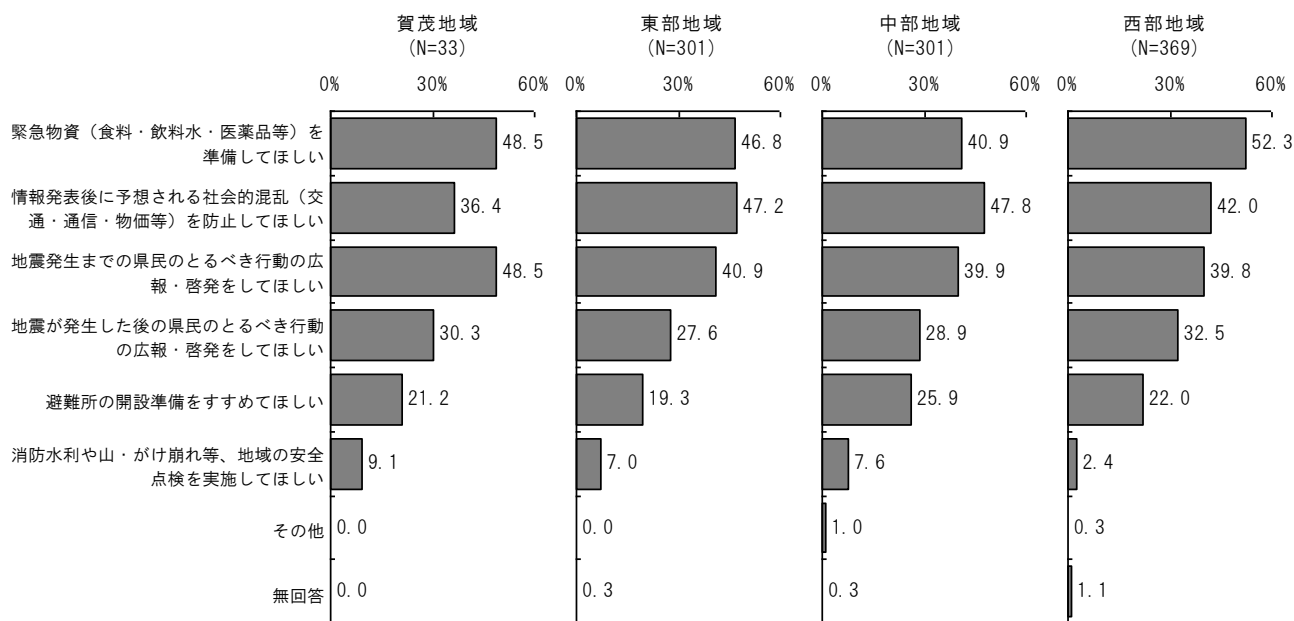
7-4 注意情報発表時の行政への要望



「東海地震注意情報」発表時の行政への要望についてたずねたところ、「緊急物資（食料・飲料水・医薬品等）を準備してほしい」（47.3%）が最も高く、次いで「情報発表後に予想される社会的混乱（交通・通信・物価等）を防止してほしい」（44.7%）、「地震発生までの県民のとりべき行動の広報・啓発してほしい」（40.5%）の順となっている。

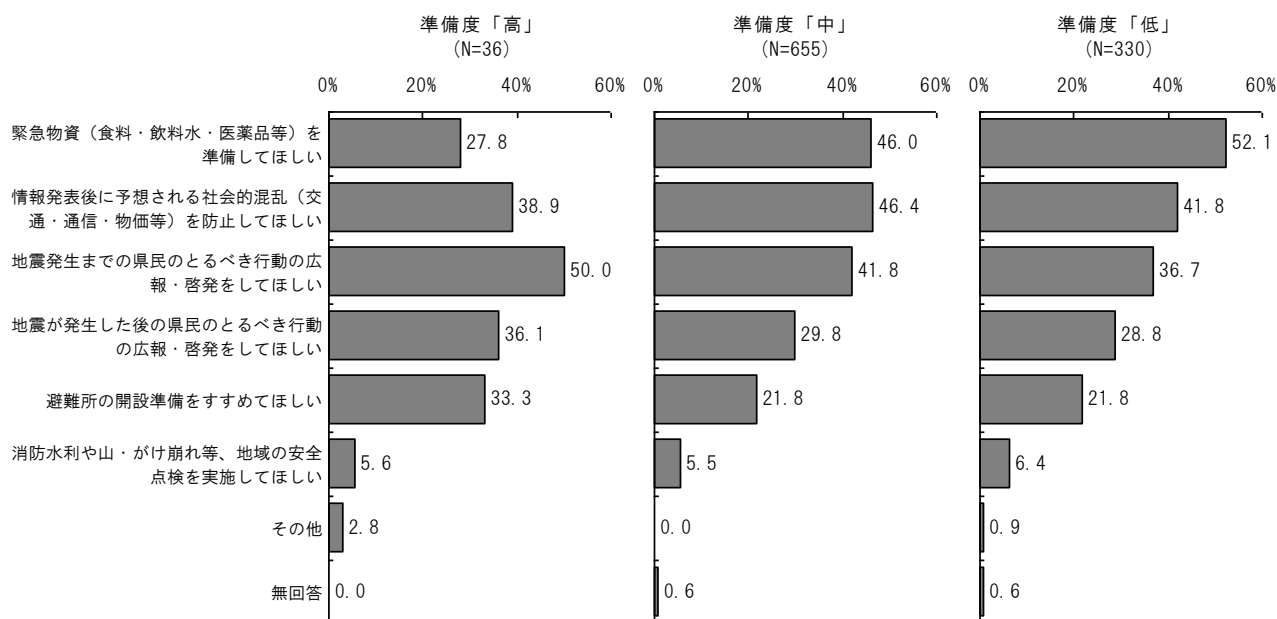
地域別でみると、いずれの地域にも「緊急物資（食料・飲料水・医薬品等）を準備してほしい」、「情報発表後に予想される社会的混乱（交通・通信・物価等）を防止してほしい」、「地震発生までの県民のとりべき行動の広報・啓発をしてほしい」が高くなっており、特に『西部』では「緊急物資（食料・飲料水・医薬品等）を準備してほしい」が52.3%と過半数を占めている。

注意情報発表時の行政への要望 <地域別>



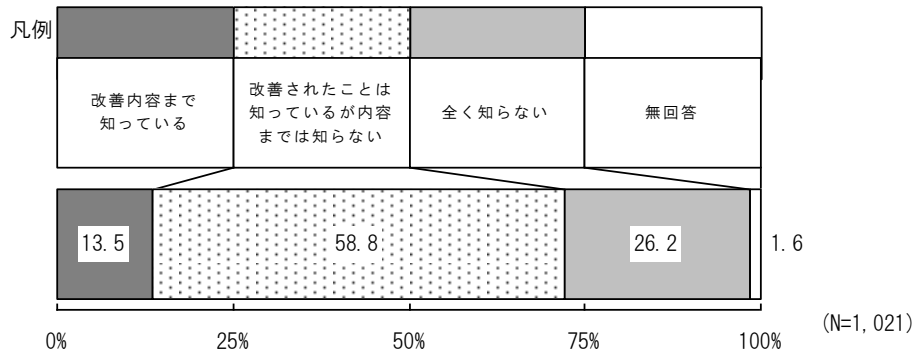
防災準備度別でみると、『防災準備度「低」』では、「緊急物資（食料・飲料水・医薬品等）を準備してほしい」（52.1%）、『防災準備度「高」』では「地震発生までの県民のとりべき行動の広報・啓発をしてほしい」（50.0%）が他より高くなっている。

注意情報発表時の行政への要望 <防災準備度別>



7-5 津波警報改善の認知

問34 平成25年3月7日から、巨大地震の発生時には予想される津波の高さを「巨大」「高い」という分かりやすい表現で発表するなど、津波警報が改善されました。あなたは、このことをご存知ですか。

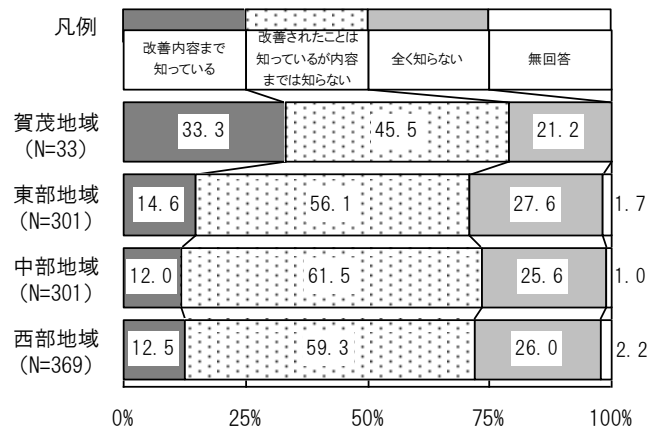


津波警報改善の認知度についてたずねたところ、「改善されたことは知っているが内容までは知らない」(58.8%)が最も高く、次いで「全く知らない」(26.2%)、「改善内容まで知っている」(13.5%)の順となっている。

地域別でみると、いずれの地域でも「改善されたことは知っているが内容までは知らない」が最も高くなっているが、『賀茂』では「改善内容まで知っている」(33.3%)が他よりも高くなっている。

津波警報改善の認知

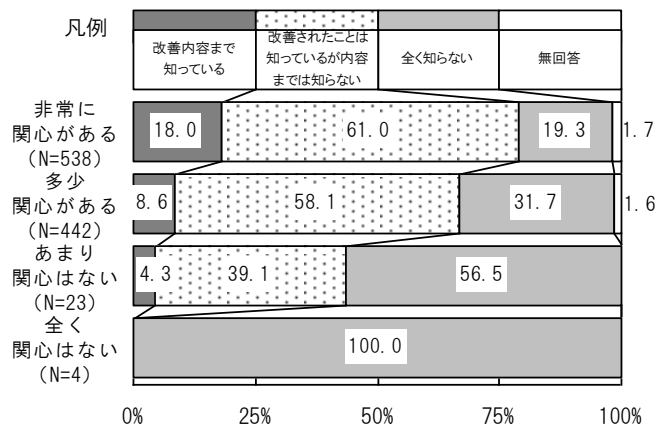
<地域別>



東海地震への関心度別でみると、関心が高くなるにつれて、「改善内容まで知っている」が高くなっている。

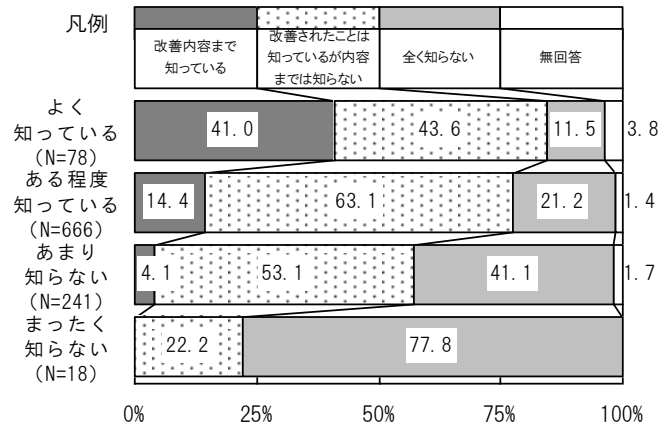
津波警報改善の認知

<東海地震への関心度別>



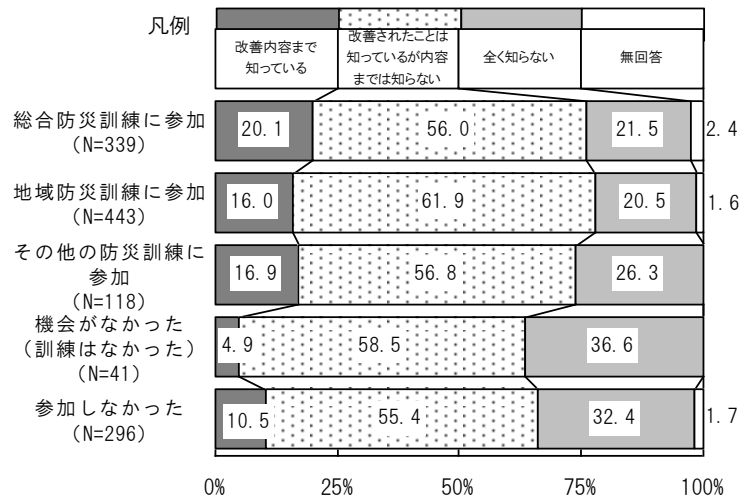
地震メカニズム認知別でみると、地震メカニズムをよく知っているほど、「改善内容まで知っている」が高くなっている。

津波警報改善の認知
 <地震メカニズム認知別>



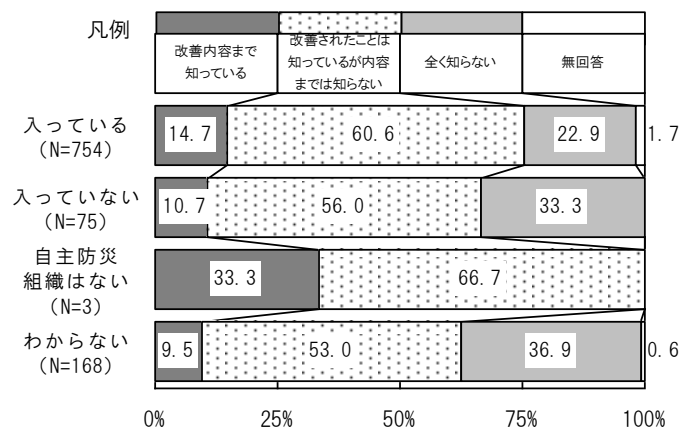
防災訓練参加状況別でみると、「改善内容まで知っている」は、いずれかの防災訓練に参加しているの方が高くなっている。最も高い『総合防災訓練に参加』(20.1%)と、最も低い『機会がなかった(訓練はなかった)』(4.9%)では15.2ポイントの差が見られる。

津波警報改善の認知
 <防災訓練参加状況別>



自主防災組織加入別でみると、「全く知らない」は、自主防災組織に『入っている』(22.9%)と、『わからない』(36.9%)では14.0ポイントの差が見られる。

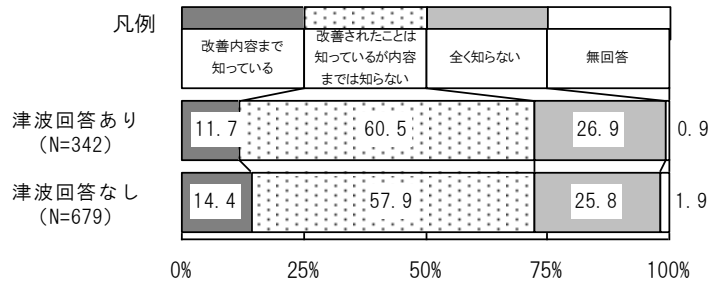
津波警報改善の認知
 <自主防災組織加入別>



津波警報改善の認知

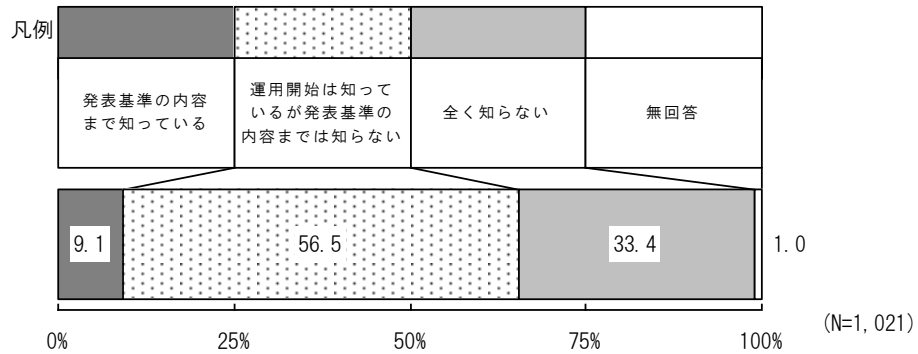
<予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>

予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、『津波回答あり』、『津波回答なし』ともに、「改善内容まで知っている」が約1割、「改善されたことは知っているが内容まで走らない」が約6割となっている。



7-6 特別警報の運用開始の認知

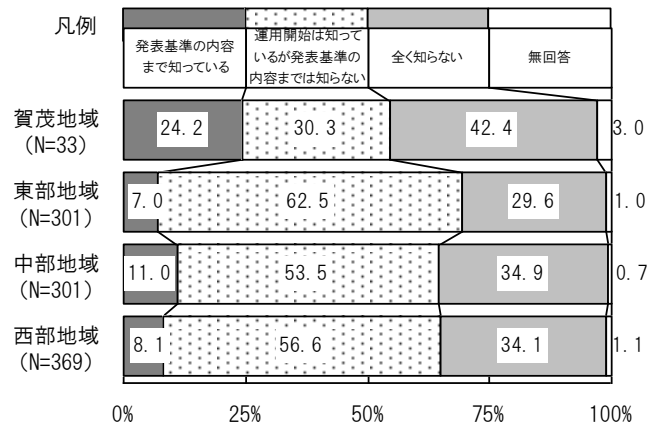
問35 平成25年8月30日から、数十年に一度の大災害が起こると予想される場合に発表される特別警報の運用が開始されました。あなたは、このことをご存知ですか。



特別警報の運用開始の認知度についてたずねたところ、「運用開始は知っているが発表基準の内容までは知らない」(56.5%) が最も高く、次いで「全く知らない」(33.4%)、「発表基準の内容まで知っている」(9.1%) の順となっている。

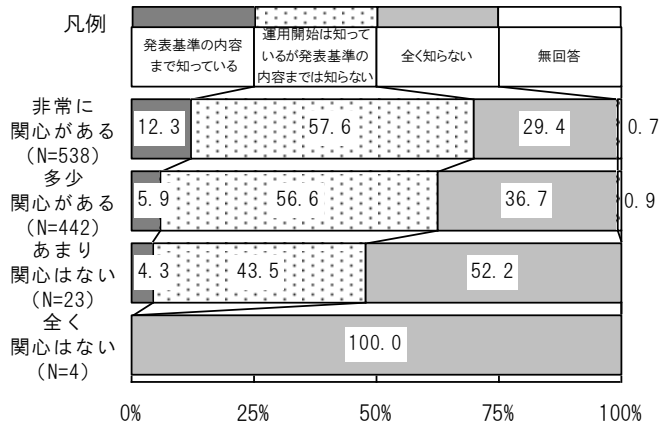
特別警報の運用開始の認知
＜地域別＞

地域別で見ると、「発表基準の内容まで知っている」は、『賀茂』(24.2%) が他の地域よりも高くなっている。



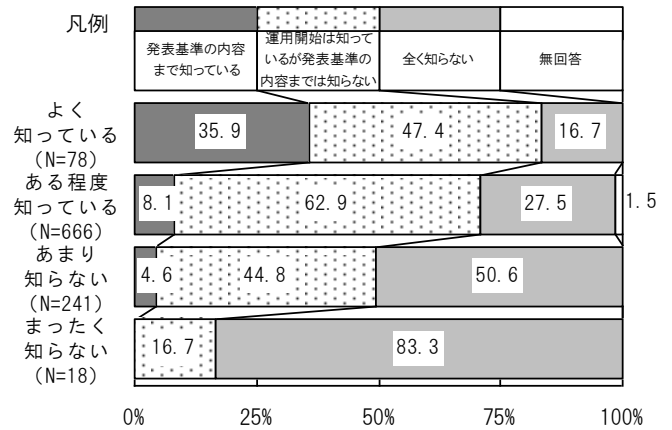
特別警報の運用開始の認知
＜東海地震への関心度別＞

東海地震への関心度別で見ると、関心が高くなるにつれて、「発表基準の内容まで知っている」が高くなっている。



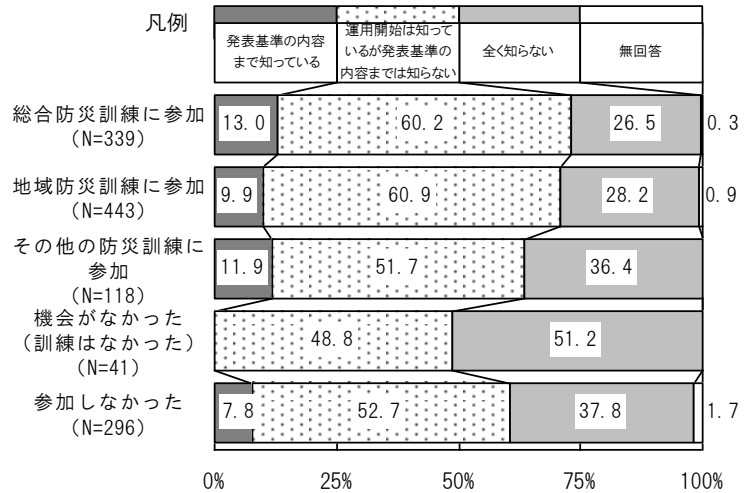
地震メカニズム認知別でみると、地震メカニズムをよく知っているほど、「発表基準の内容まで知っている」が高くなっている。

特別警報の運用開始の認知
 <地震メカニズム認知別>



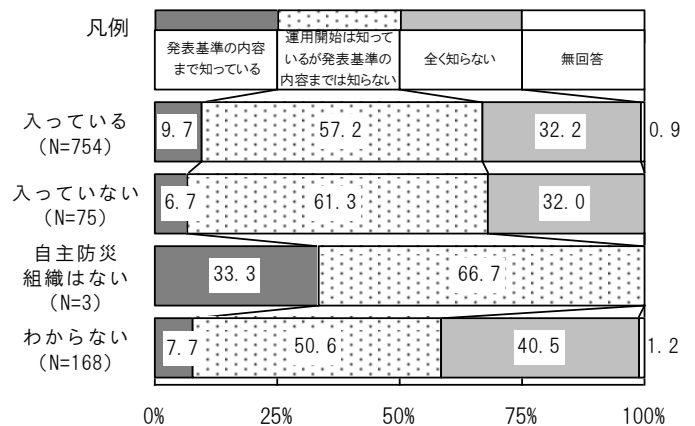
防災訓練参加状況別でみると、「発表基準の内容まで知っている」は、いずれかの防災訓練に参加している人の方が高くなっている。

特別警報の運用開始の認知
 <防災訓練参加状況別>



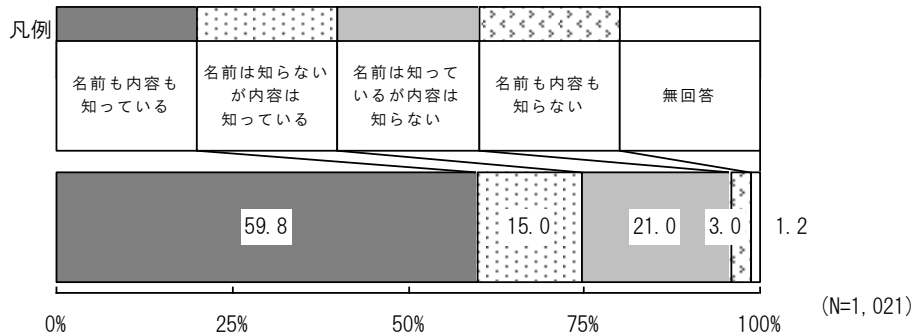
自主防災組織加入別でみると、「全く知らない」は、『わからない』(40.5%)では4割を超えている。

特別警報の運用開始の認知
 <自主防災組織加入別>



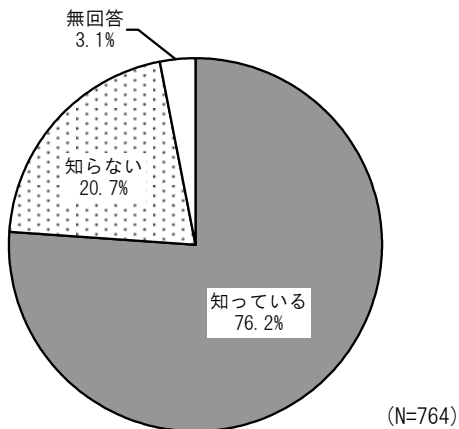
7-7 緊急地震速報についての認知

問36 地震の強い揺れが来ることを、揺れる前にお知らせする情報である緊急地震速報が、気象庁からテレビ、ラジオ、緊急速報メール（エリアメール）などを通じて提供されています。あなたは、緊急地震速報について知っていますか。



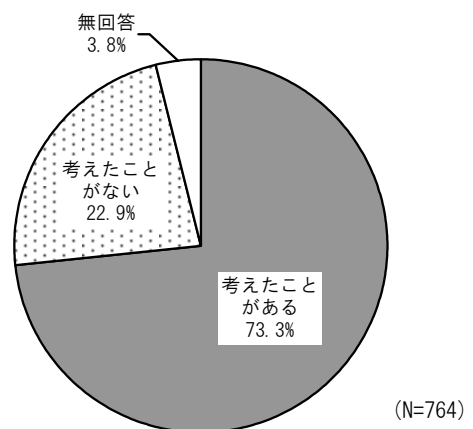
<問36で「1 名前も内容も知っている」「2 名前は知らないが内容は知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問36-1 緊急地震速報は、揺れの大きさの予想などに誤差が含まれる情報であることをご存知ですか。



<問36で「1 名前も内容も知っている」「2 名前は知らないが内容は知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問36-2 あなたは、緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことはありますか。



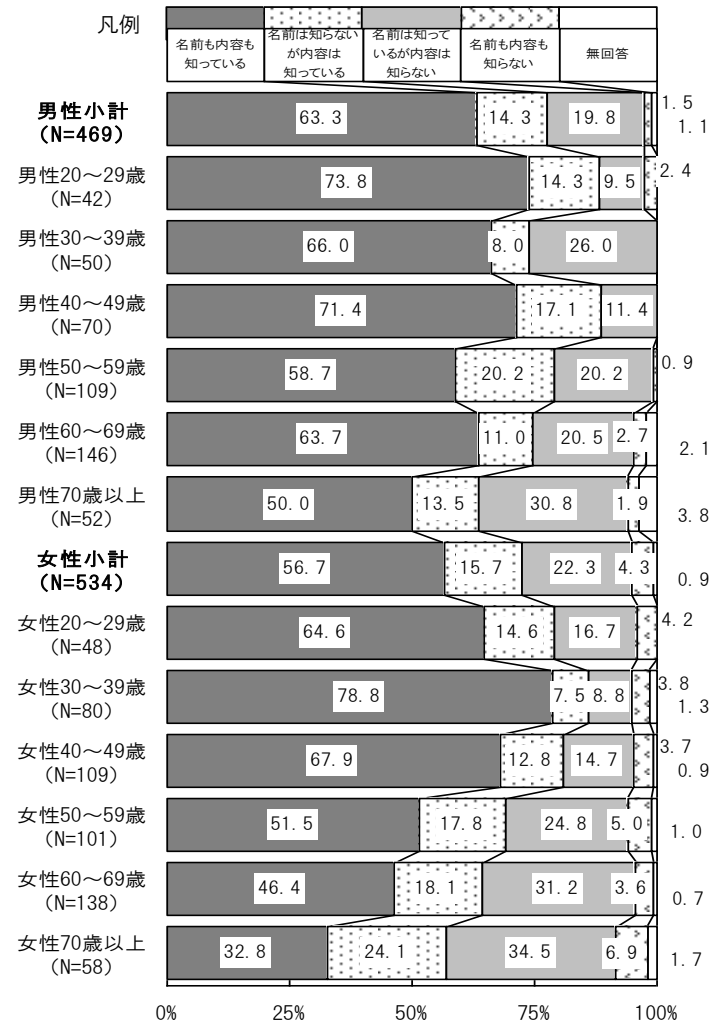
緊急地震速報の認知についてたずねたところ、「名前も内容も知っている」(59.8%)が最も高く、次いで「名前は知っているが内容は知らない」(21.0%)、「名前は知らないが内容は知っている」(15.0%)の順となっている。

「名前も内容も知っている」、「名前は知らないが内容は知っている」のいずれかを回答した人にたずねたところ、緊急地震速報は、揺れの大きさの予想などに誤差が含まれる情報であることの認知度については、「知っている」(76.2%)が7割以上を超えており、「知らない」(20.7%)は2割程度となっている。また、緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことはあるかについては、「考えたことがある」(73.3%)が7割を超えており、「考えたことがない」(22.9%)を大きく上回っている。

緊急地震速報についての認知

<性・年代別>

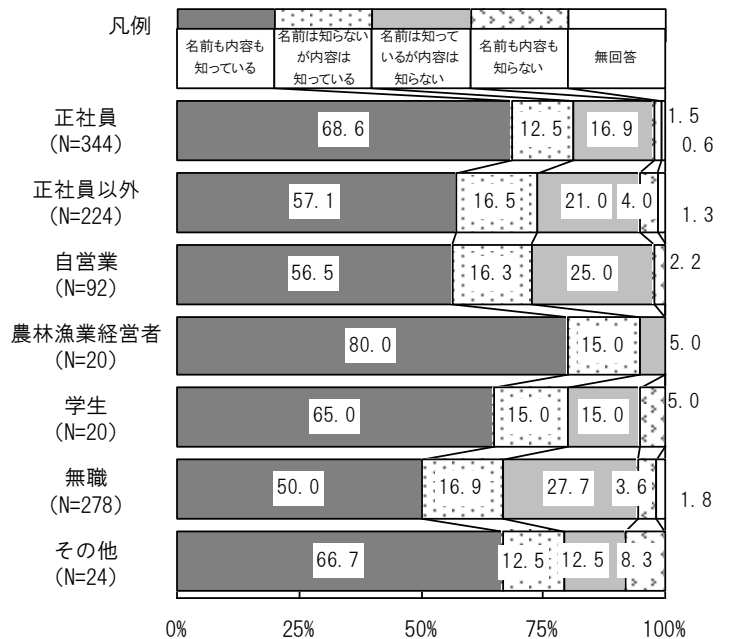
性・年代別でみると、「名前も内容も知っている」は、『女性30代』（78.8%）が最も高く、『男性20代』（73.8%）、『男性40代』（71.4%）で7割を超えている。一方、『女性70歳以上』（32.8%）、『女性60代』（46.4%）、『男性70歳以上』（50.0%）では、半数以下となっている。



緊急地震速報についての認知

<職業別>

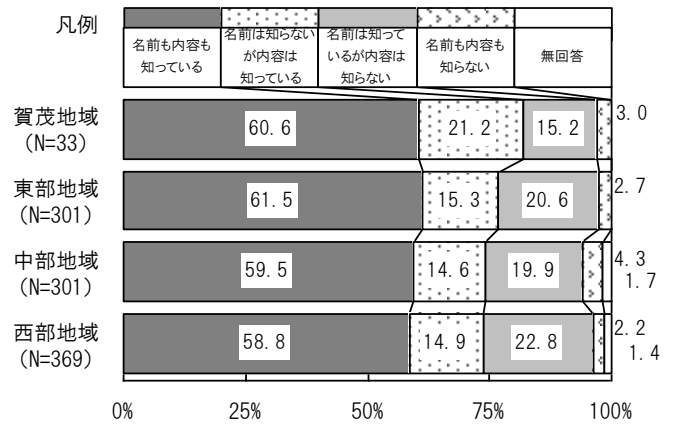
職業別でみると、「名前も内容も知っている」は、『農林漁業経営者』（80.0%）が最も高く、最も低い『無職』（50.0%）とは、30.0ポイントの差が見られる。



緊急地震速報についての認知

<地域別>

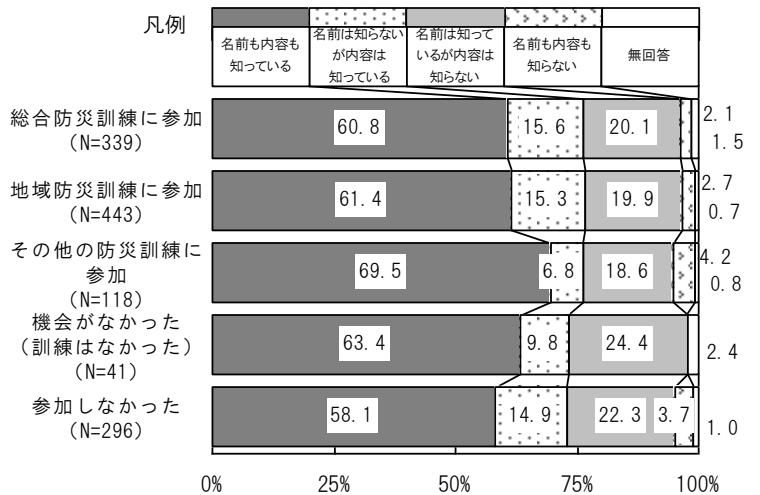
地域別でみると、「名前も内容も知っている」＋「名前は知らないが内容は知っている」は、『賀茂』(81.8%)が最も高く、最も低い『西部』(73.7%)とは8.1ポイントの差が見られる。



緊急地震速報についての認知

<防災訓練参加状況別>

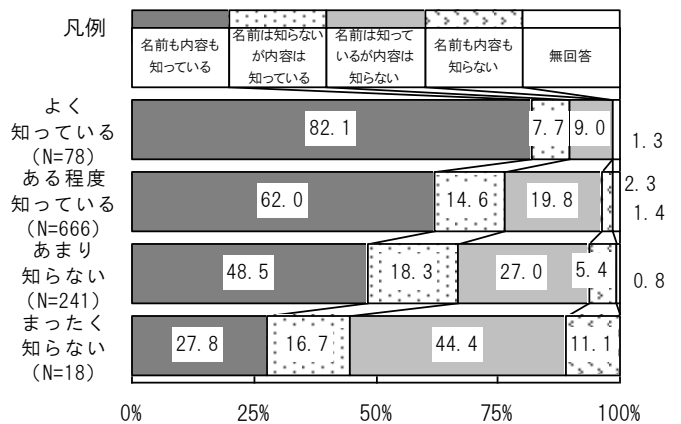
防災訓練参加状況別でみると、「名前も内容も知っている」は、『その他の防災訓練に参加』(69.5%)が最も高く、最も低い『参加しなかった』(58.1%)とは、11.4ポイントの差が見られる。



緊急地震速報についての認知

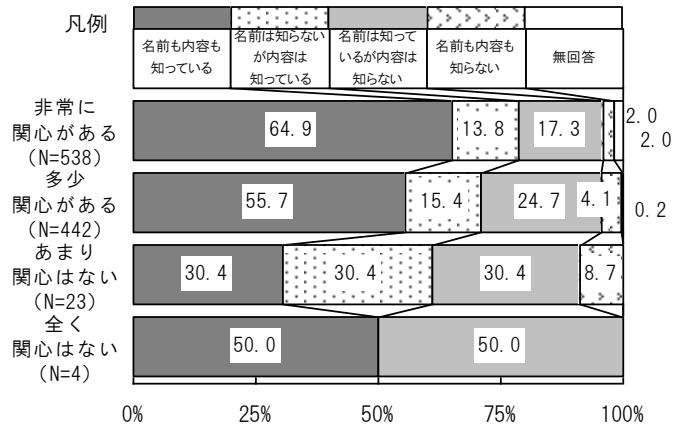
<地震メカニズム認知別>

地震メカニズム認知別でみると、地震メカニズムをよく知っているほど、「名前も内容も知っている」が高くなっており、最も高い『よく知っている』(82.1%)と、最も低い『全く知らない』(27.8%)では54.3ポイントの差が見られる。



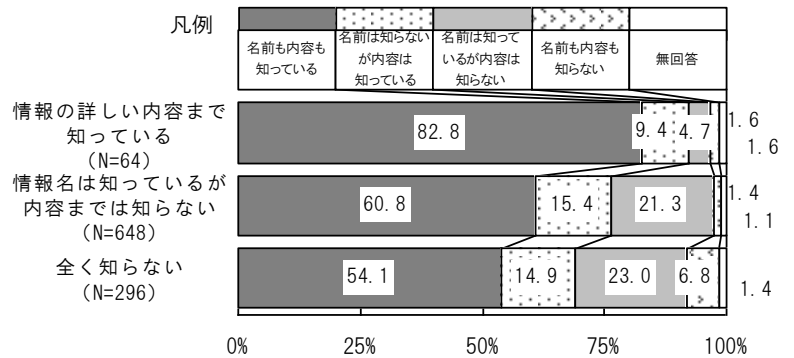
東海地震への関心度別でみると、関心が高くなるにつれて、「名前も内容も知っている」+「名前は知らないが内容は知っている」の割合が高くなっている。

緊急地震速報についての認知 ＜東海地震への関心度別＞



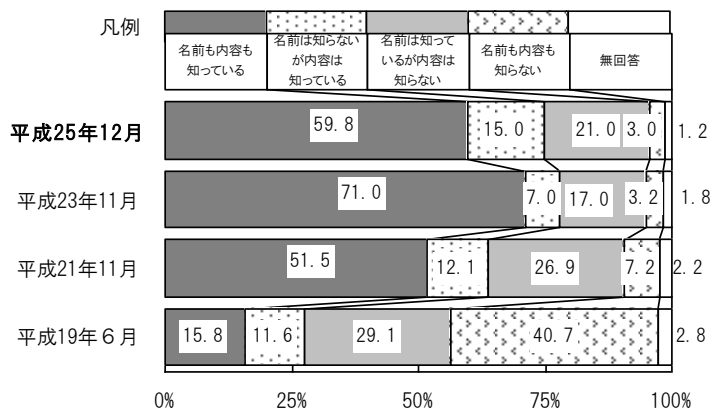
情報体系の認知別でみると、認知度が高くなるにつれて、緊急地震速報についての認知度も高くなっている。

緊急地震速報についての認知 ＜情報体系の認知別＞



経年比較でみると、「名前も内容も知っている」の今回調査 (59.8%) は、前回調査 (71.0%) より11.2ポイント低下している。

緊急地震速報についての認知 ＜経年比較＞



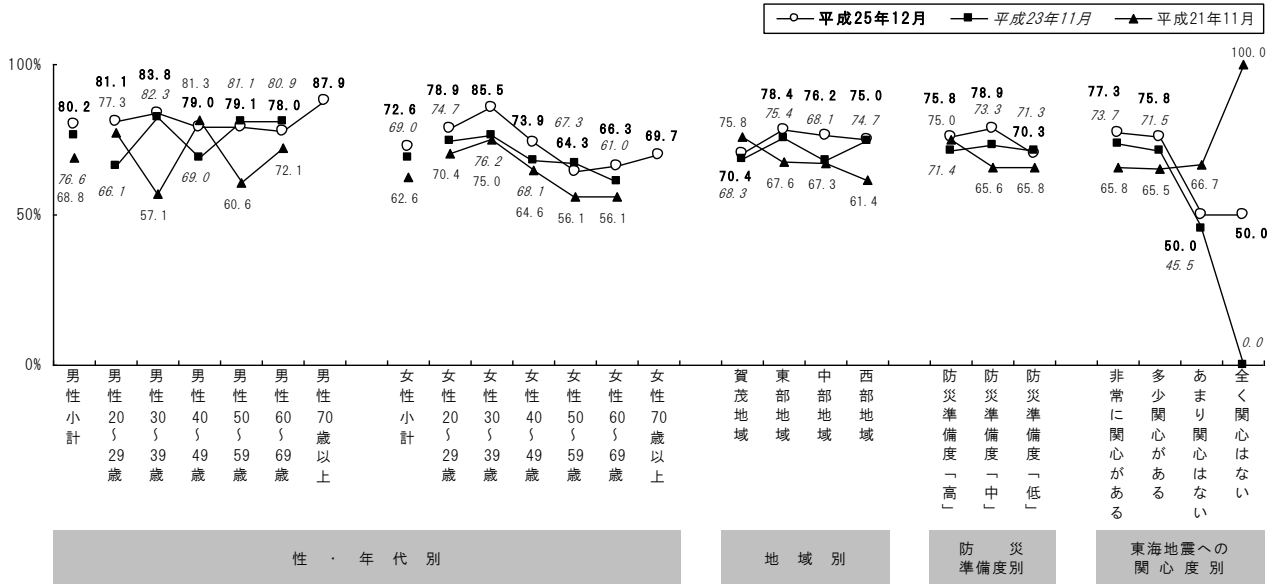
緊急地震速報は、揺れの大きさの予想などに誤差が含まれる情報であることの認知度について性・年齢別でみると、最も高い『男性70歳以上』（87.9%）と、最も低い『女性50代』（64.3%）では23.6ポイントの差が見られる。

地域別でみると、最も高い『東部』（78.4%）と、最も低い『賀茂』（70.4%）では8.0ポイントの差が見られる。

防災準備度別でみると、最も高い『防災準備度「中」』（78.9%）と、最も低い『防災準備度「低」』（70.3%）では8.6ポイントの差が見られる。

東海地震への関心度別でみると、関心が高くなるにつれて、認知度も高くなっている。

緊急地震速報は、揺れの大きさの予測などに誤差が含まれる情報であることの認知度＜属性別＞



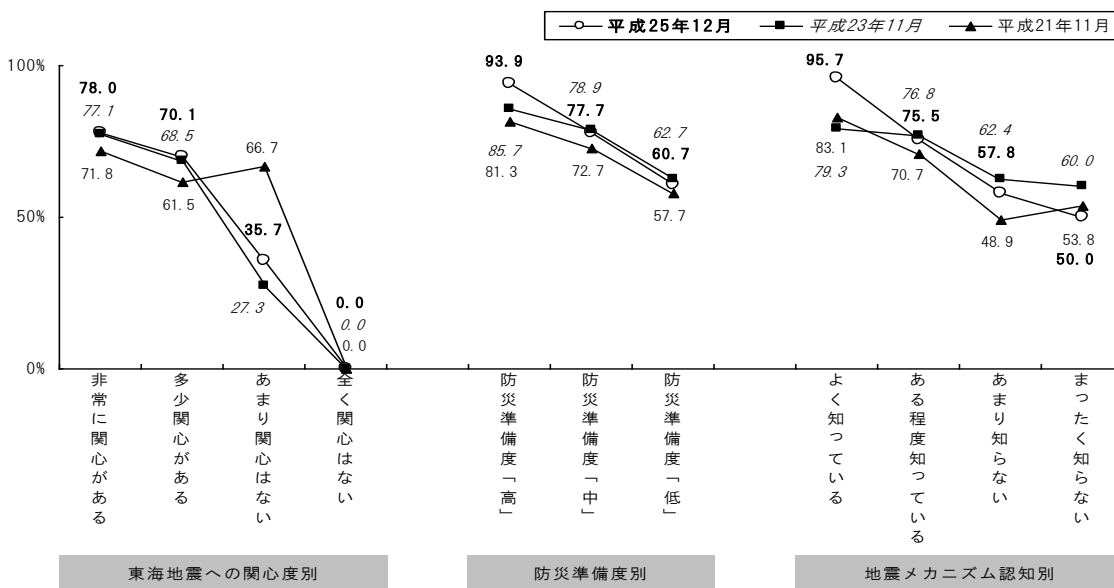
※性・年代別は平成25年度は「70歳以上」を追加。

緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことのあるかについて属性別でみると、東海地震への関心度別では、関心があるほど、「考えたことがある」が高くなっている。

防災準備度別でみると、防災準備度が高いほど、「考えたことがある」が高くなっている。

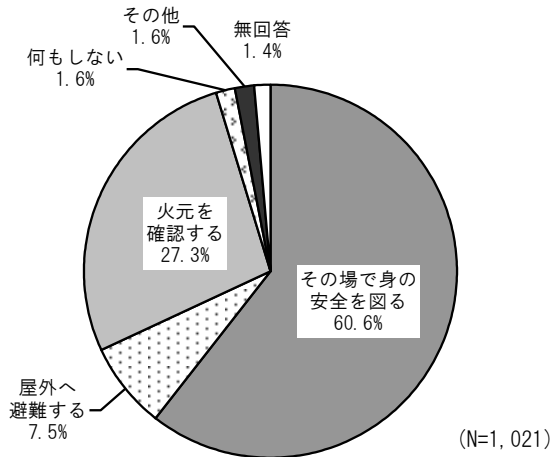
地震メカニズム認知別でみると、知っているほど、「考えたことがある」が高くなっている。

どのように行動すればよいか考えたことがある＜属性別＞



7-8 緊急地震速報入手時の行動

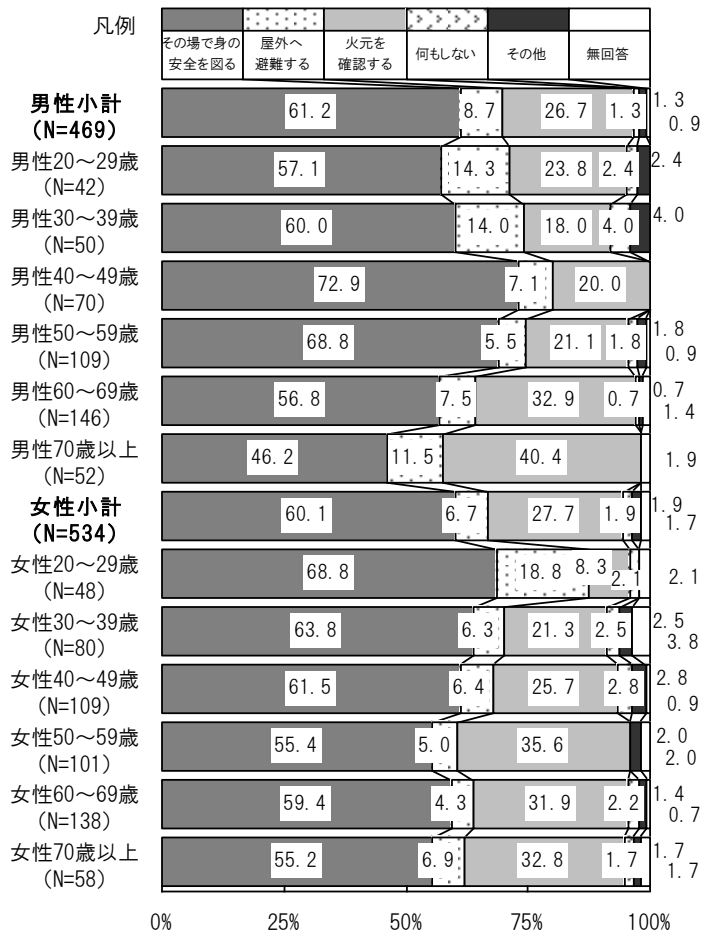
問37 あなたは、屋内で緊急地震速報を受け取ったとき、まずはどのように行動しますか。



緊急地震速報入手時の行動についてたずねたところ、「その場で身の安全を図る」(60.6%)が最も高く、次いで「火元を確認する」(27.3%)、「屋外へ避難する」(7.5%)、「何もしない」(1.6%)の順となっている。

緊急地震速報入手時の行動
＜性・年代別＞

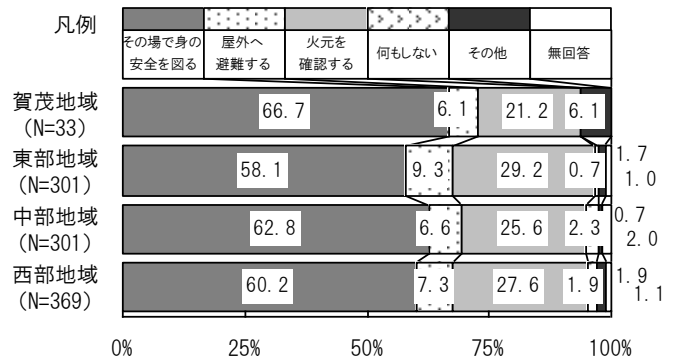
性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「その場で身の安全を図る」が最も多くなっている。また、「火元を確認する」は年齢が上がるにつれて割合が高くなる傾向がある。



緊急地震速報入手時の行動

<地域別>

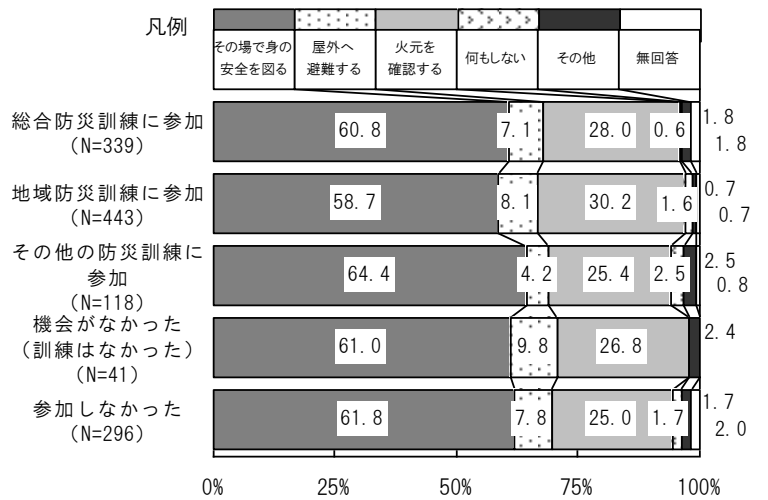
地域別で見ると、「火元を確認する」は、『東部』(29.2%)で他よりも高くなっている。



緊急地震速報入手時の行動

<防災訓練参加状況別>

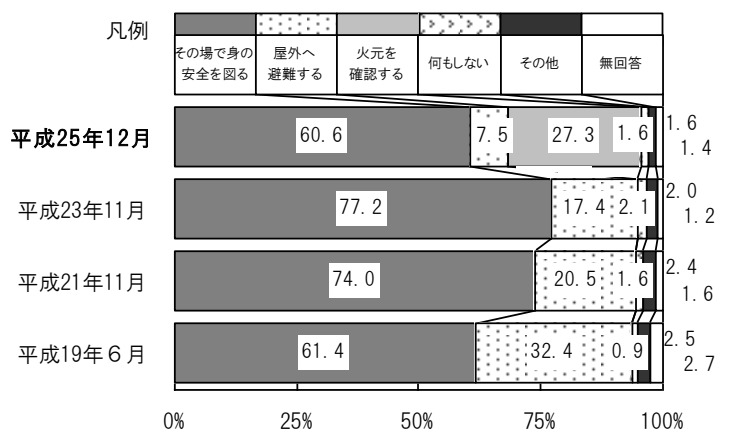
防災訓練参加状況別で見ると、いずれも「その場で身の安全を図る」が6割前後となっている。



緊急地震速報入手時の行動

<経年比較>

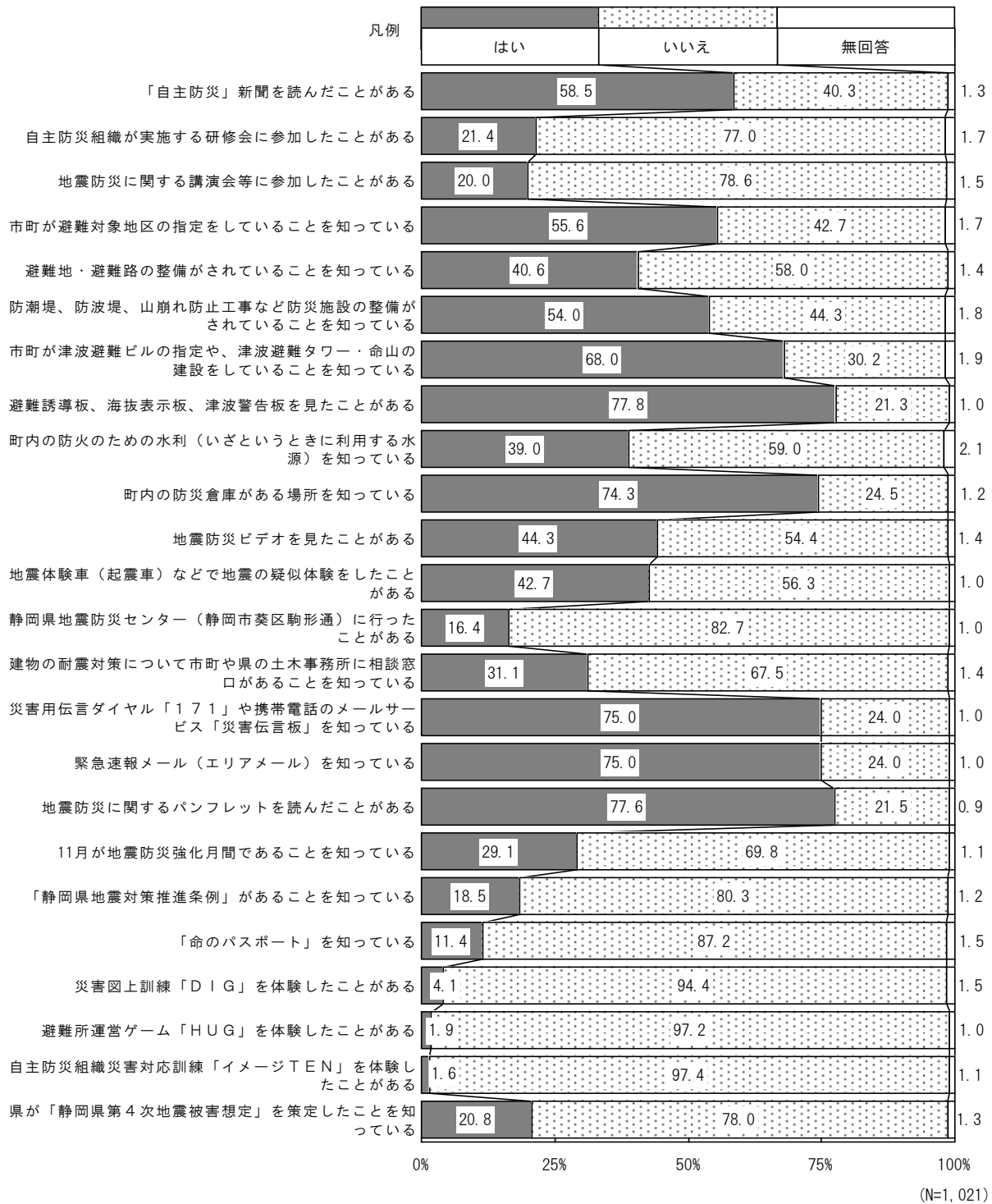
経年比較で見ると、「その場で身の安全を図る」は、今回調査(60.6%)と前回調査(77.2%)では16.6ポイントの差が見られる。



※「火元を確認する」という項目は、平成25年度設定。

7-9 地震防災に必要な情報の入手状況

問38 次の1～24の項目について「はい」「いいえ」の欄に○をつけてください。



地震防災情報の入手については、「避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある」（77.8%）が最も高く、次いで「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」（77.6%）、「災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている」（75.0%）、「緊急速報メール（エリアメール）を知っている」（75.0%）、「町内の防災倉庫がある場所を知っている」（74.3%）、「市町が津波避難ビルの指定や、津波避難タワー・命山の建設をしていることを知っている」（68.0%）の順となっており、これら6項目は6割以上の方が「はい」と答えている。しかしながら、全体的にみると、半数以上が「いいえ」と答えた項目の方が多く、24項目中15項目となっている。

地震防災情報の入手（認知率）を**経年比較**で見ると、「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」、「災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている」を知っている、「町内の防災倉庫がある場所を知っている」については、順位の変動はあるものの、いずれの調査においても上位5項目となっている。また、「市町が津波避難ビルの指定や、津波避難タワー・命山の建設をしていることを知っている」の認知率は、今回調査（68.0%）が前回調査（32.3%）より35.7ポイント、「避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある」の認知率は、今回調査（77.8%）が前回調査（50.3%）より27.5ポイント高くなっている。

地震防災情報の入手（認知率） <経年比較>

順位	地震防災情報	認知率（%）							
		平成25年 12月	平成23年 11月	平成21年 11月	平成19年 6月	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月
1	避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある	77.8	50.3	52.4	54.4	50.8	46.6	45.4	48.3
2	地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	77.6	66.0	71.6	75.0	72.5	69.4	68.3	72.3
3	災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている	75.0	75.2	62.7	62.3	58.0	42.5	24.0	19.5
3	緊急速報メール（エリアメール）を知っている	75.0	-	-	-	-	-	-	-
5	町内の防災倉庫がある場所を知っている	74.3	70.5	73.2	70.3	65.5	69.4	56.0	54.5
6	市町が津波避難ビルの指定や、津波避難タワー・命山の建設をしていることを知っている	68.0	32.3	18.3	19.5	18.1	12.4	12.9	12.6
7	「自主防災」新聞を読んだことがある	58.5	52.1	63.7	68.5	60.2	61.8	62.8	61.5
8	市町が避難対象地区の指定をしていることを知っている	55.6	50.6	54.6	54.6	49.1	56.6	50.8	52.3
9	防潮堤、防波堤、山崩れ防止工事など防災施設の整備がされていることを知っている	54.0	39.6	45.2	45.6	41.4	44.2	39.8	40.1
10	地震防災ビデオを見たことがある	44.3	38.7	39.1	38.8	39.5	41.9	32.9	36.1
11	地震体験車（起震車）などで地震の疑似体験をしたことがある	42.7	40.4	37.3	32.3	33.4	30.8	29.1	30.6
12	避難地・避難路の整備がされていることを知っている	40.6	32.0	35.9	36.5	33.0	32.1	31.1	34.2
13	町内の防火のための水利（いざというときに利用する水源）を知っている	39.0	36.2	37.4	37.6	35.9	39.6	44.8	44.9
14	建物の耐震対策について市町や県の土木事務所に相談窓口があることを知っている	31.1	31.2	32.7	33.1	37.9	38.7	25.7	21.4
15	11月が地震防災強化月間であることを知っている	29.1	19.3	22.6	26.7	22.2	29.8	27.7	24.3
16	自主防災組織が実施する研修会に参加したことがある	21.4	16.8	21.6	20.4	17.7	18.8	19.2	19.2
17	県が「静岡県第4次地震被害想定」を策定したことを知っている	20.8	-	-	-	-	-	-	-
18	地震防災に関する講演会等に参加したことがある	20.0	20.1	21.5	21.6	20.5	20.6	18.0	17.4
19	「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	18.5	13.9	18.5	20.4	20.8	24.5	26.2	27.1
20	静岡県地震防災センター（静岡市葵区駒形通）に行ったことがある	16.4	14.3	11.5	14.7	13.2	13.2	11.9	11.6
21	「命のパスポート」を知っている	11.4	11.1	10.9	12.4	12.2	11.3	12.6	10.1
22	災害図上訓練「D I G」を体験したことがある	4.1	-	-	-	-	-	-	-
23	避難所運営ゲーム「HUG」を体験したことがある	1.9	-	-	-	-	-	-	-
24	自主防災組織災害対応訓練「イメージTEN」を体験したことがある	1.6	-	-	-	-	-	-	-

※「緊急速報メール（エリアメール）を知っている」「県が「静岡県第4次地震被害想定」を策定したことを知っている」「災害図上訓練「D I G」を体験したことがある」「避難所運営ゲーム「HUG」を体験したことがある」「自主防災組織災害対応訓練「イメージTEN」を体験したことがある」の5項目は平成25年度に設定した。

地震防災情報の入手の認知数（24項目のうち「はい」と答えた項目1項目につき1点というポイントを与え、各属性ごとに平均ポイントを算出し、比較を行った。なお、全体平均は9.6ポイントとなっている。）を各属性別でみると、**性・年代別**では、『男性』（10.3ポイント）が『女性』（9.0ポイント）を1.3ポイント上回っている。また、年代が上がるにつれて認知数は高くなる傾向が見られ、最も高い『男性70歳以上』（11.2ポイント）と、最も低い『女性20代』（7.6ポイント）では3.6ポイントの差が見られる。

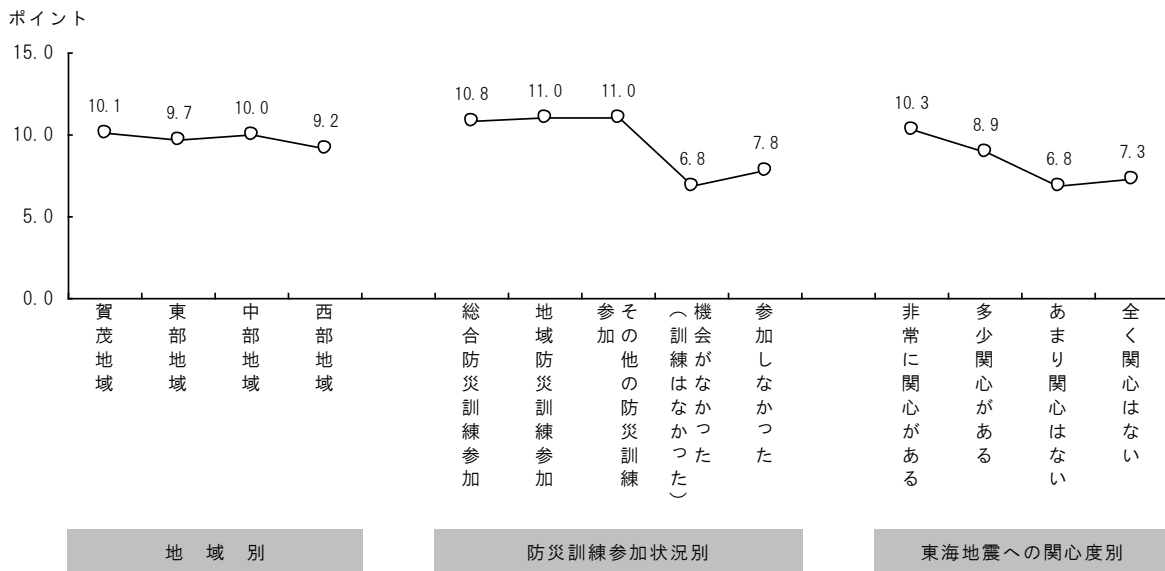
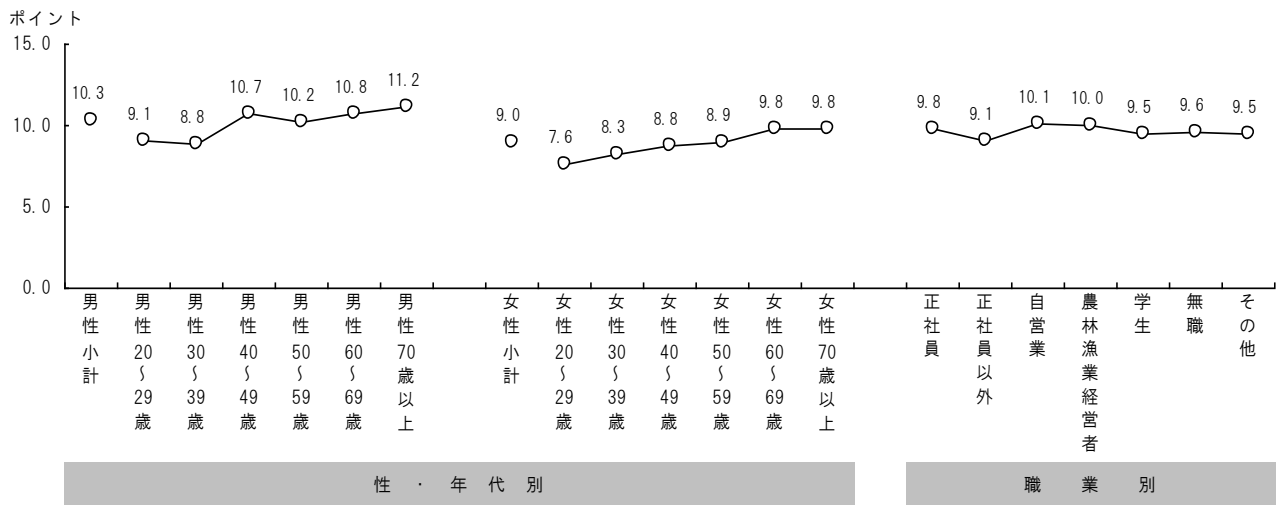
職業別でみると、『自営業』（10.1ポイント）、『農林漁業経営者』（10.0ポイント）が他よりも高くなっている。

地域別でみると、『賀茂』（10.1ポイント）、『中部』（10.0ポイント）が他よりもやや高くなっている。

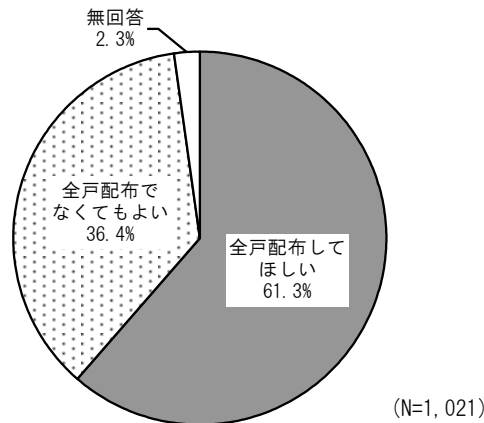
防災訓練参加状況別でみると、いずれかの防災訓練に参加している人は、11ポイント前後であるが、『機会がなかった（訓練はなかった）』（6.8ポイント）と『参加しなかった』（7.8ポイント）は、ポイント数が低くなっている。

東海地震への関心度別でみると、関心度が高い人ほど認知数は高い傾向が見られる。

地震防災情報の入手（認知数 平均） <属性別> 全体平均 9.6



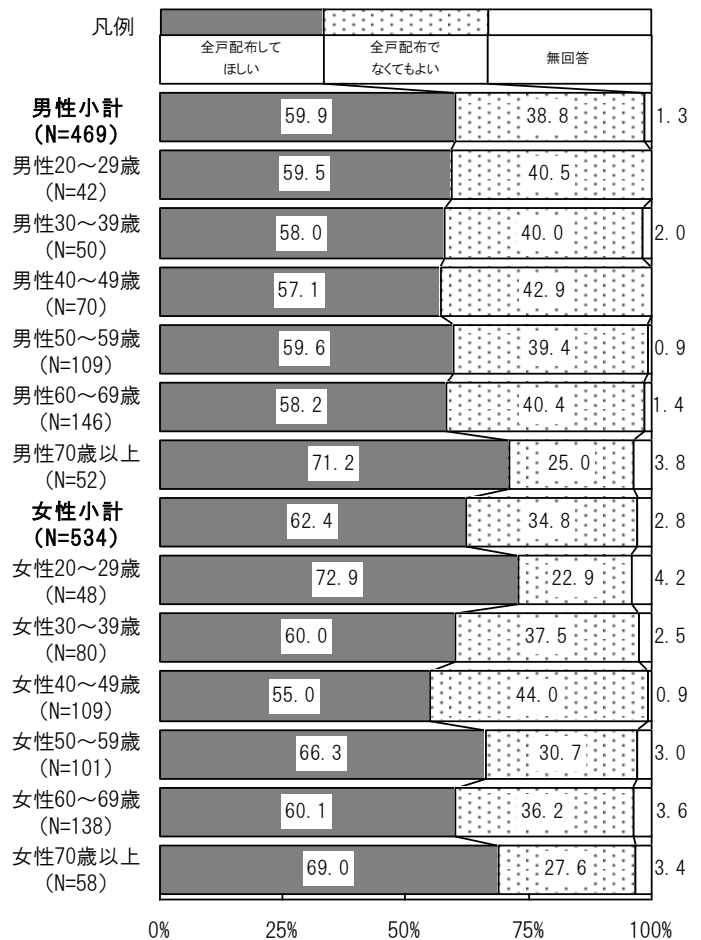
問39 現在、「自主防災」新聞は原則回覧としていますが、全戸配布してほしいと思いますか。



「自主防災」新聞を全戸に配布して欲しいかについてたずねたところ、「全戸配布してほしい」（61.3%）が約6割となっている。

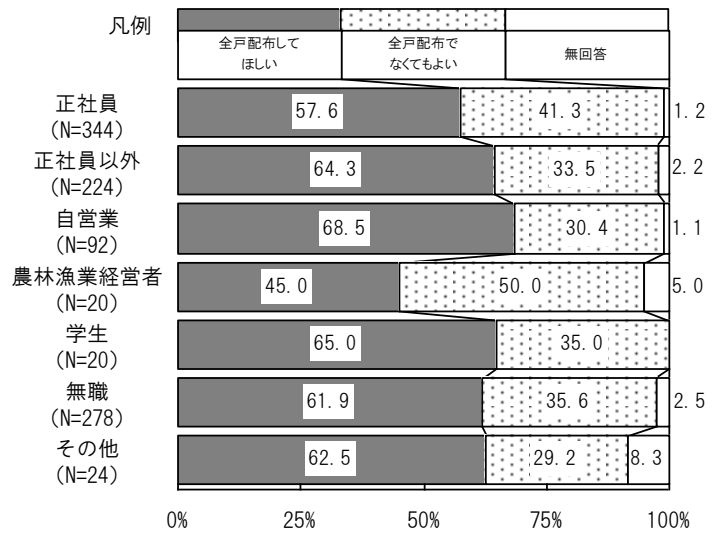
性・年代別でみると、最も高い『女性20代』（72.9%）と、最も低い『女性40代』（55.0%）では17.9ポイントの差が見られる。

「自主防災」新聞配布方法
＜性・年代別＞



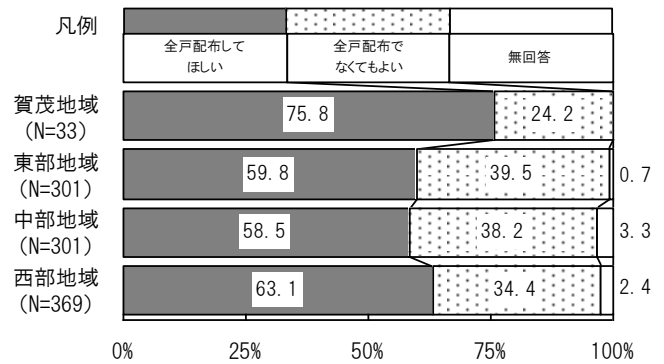
職業別でみると、「全戸配布してほしい」は、最も高い『自営業』（68.5%）と、最も低い『農林漁業経営者』（45.0%）では23.5ポイントの差が見られる。

「自主防災」新聞配布方法 <職業別>



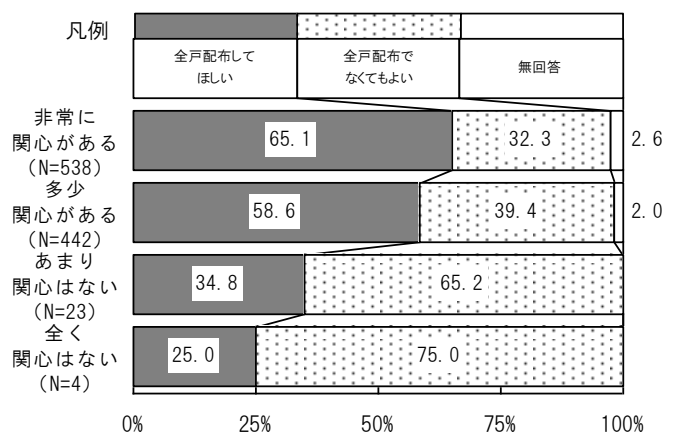
地域別でみると、「全戸配布してほしい」は、最も高い『賀茂』（75.8%）と、最も低い『中部』（58.5%）では7.3ポイントの差が見られる。

「自主防災」新聞配布方法 <地域別>



東海地震への関心度別でみると、「全戸配布してほしい」は、関心があるほど高いポイントとなっている。

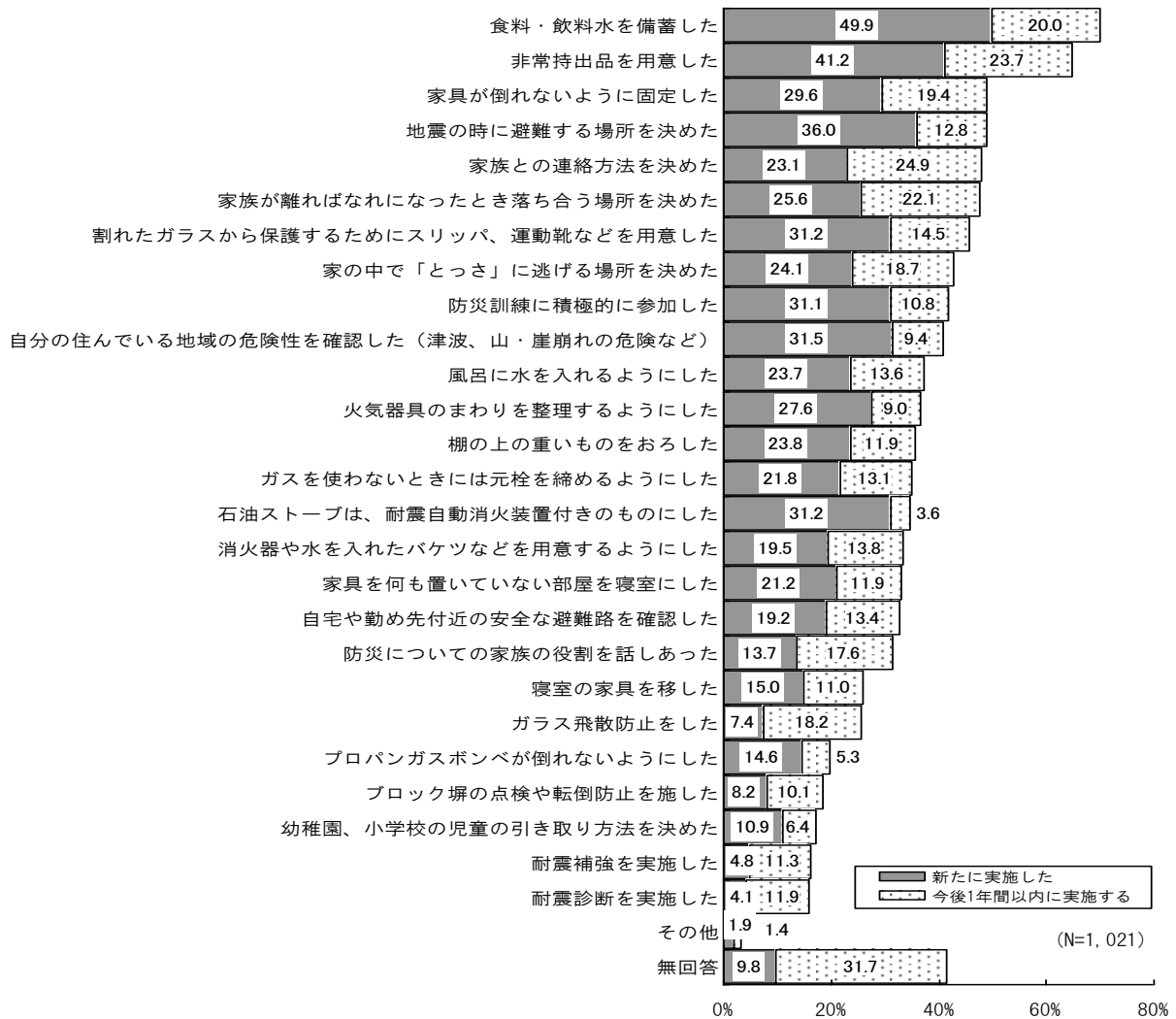
「自主防災」新聞配布方法 <東海地震への関心度別>



8 東日本大震災以降の防災対策について

8-1 新たに実施した・今後1年間以内に実施する予定の準備や行動

問40 あなたは、東日本大震災の後に、新たに実施した防災対策がありますか。次の中からあてはまるものをA欄にいくつでもお答えください。また、今後、1年間以内（平成26年12月まで）にあらためて実施しようと考えている防災対策がありますか。次の中からあてはまるものをB欄にいくつでもお答えください。（M. A.）



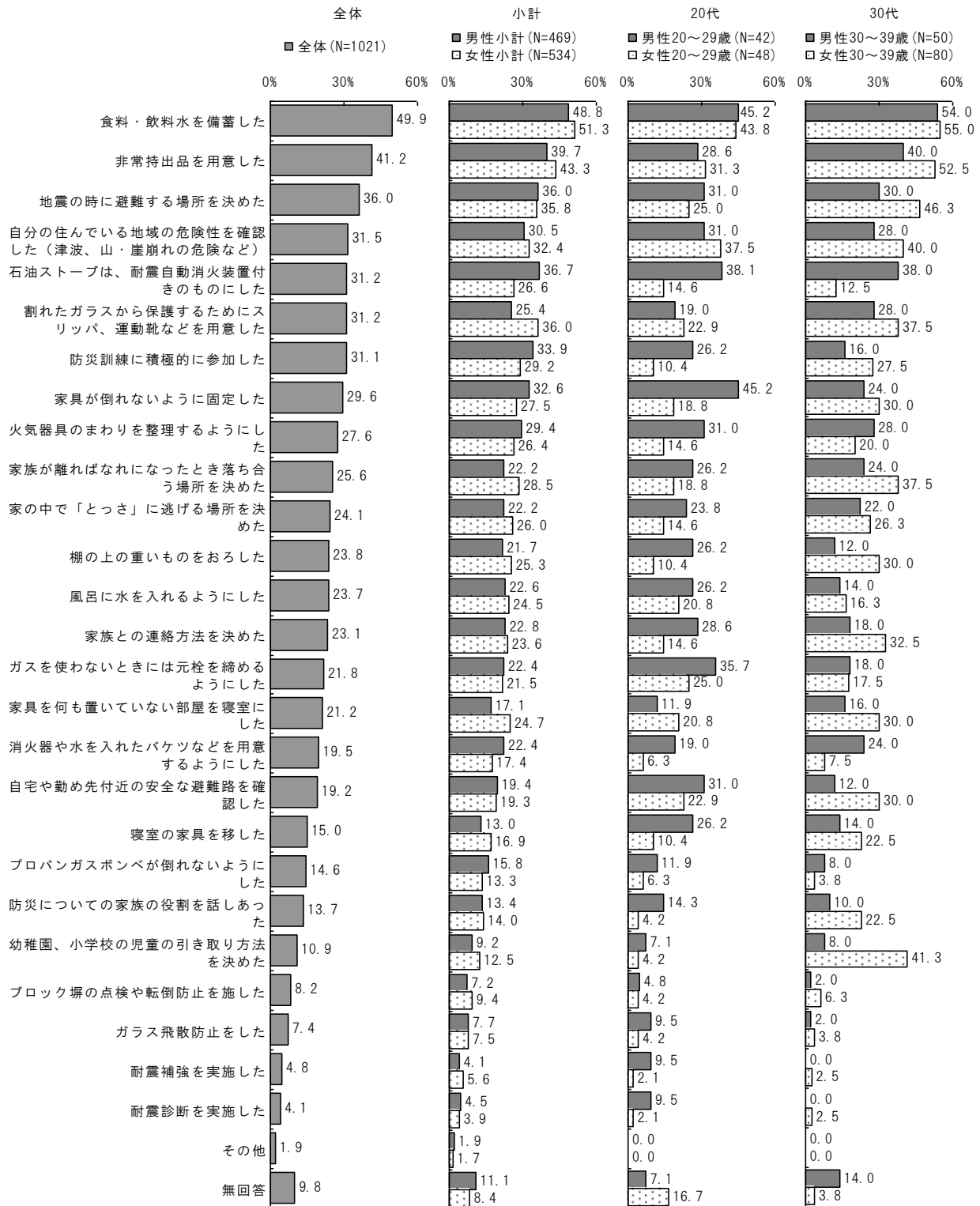
東日本大震災後に新たに実施した準備や行動について、「新たに実施した」の上位5項目をみると、「食料・飲料水を備蓄した」（49.9%）が最も高く、次いで「非常持出品を用意した」（41.2%）、「地震の時に避難する場所を決めた」（36.0%）、「自分の住んでいる地域の危険性を確認した（津波、山・崖崩れの危険など）」（31.5%）、「石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにした」（31.2%）、「割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意した」（31.2%）の順となっている。

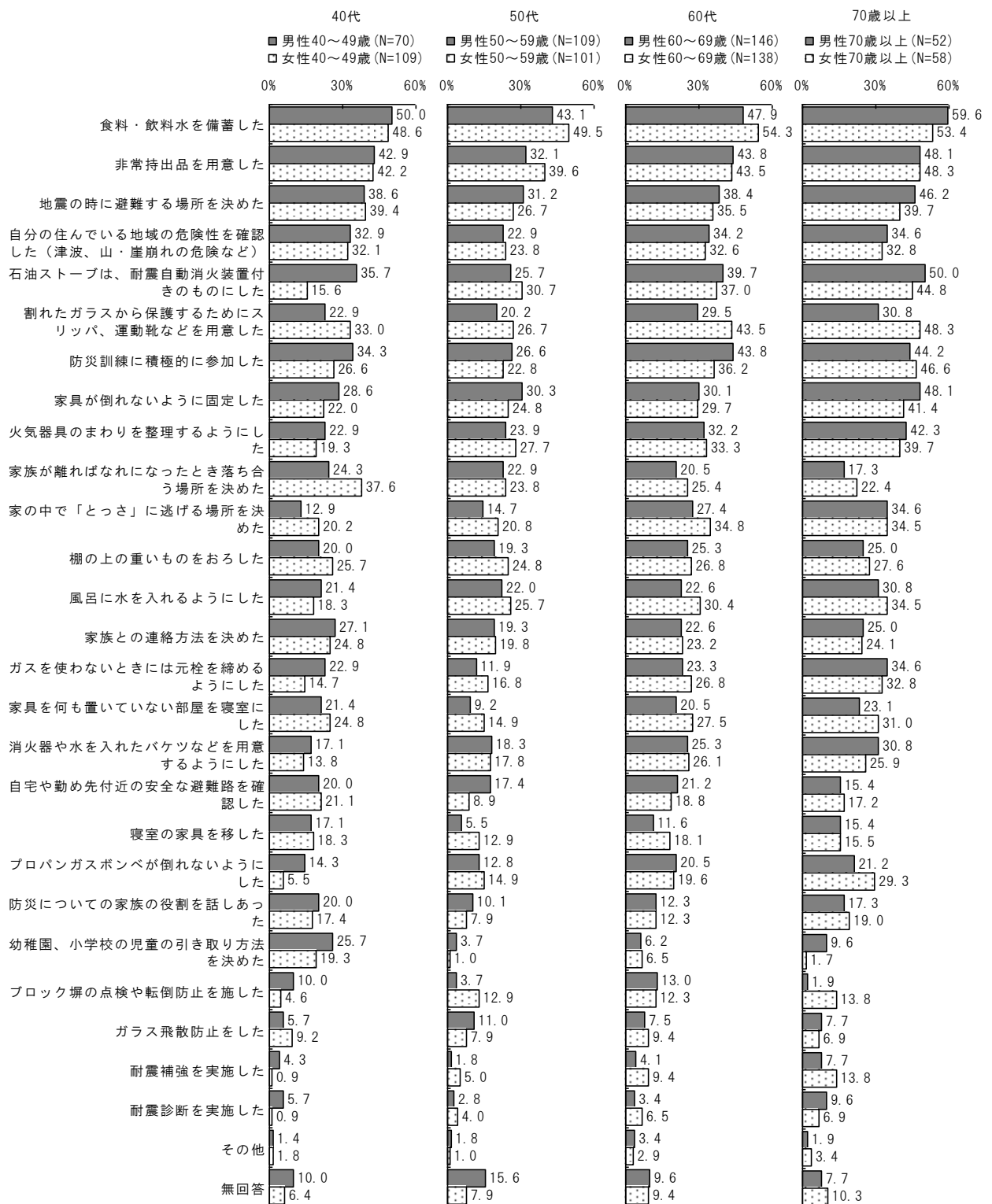
また、「今後1年間以内にあらためて実施する」の上位5項目をみると、「家族との連絡方法を決めた」（24.9%）が最も高く、次いで「非常持出品を用意した」（23.7%）、「家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた」（22.1%）、「食料・飲料水を備蓄した」（20.0%）、「家具が倒れないように固定した」（19.4%）の順となっている。

「新たに実施した」と「今後実施する」の数字を合わせた項目では、「食料・飲料水を備蓄した」（69.9%）、「非常持出品を用意した」（64.9%）の2項目が5割を超えている。

新たに実施した準備や行動について、性・年代別でみると、「食料・飲料水を備蓄した」は、いずれの年代においても最も高くなっている。また、最も高い『男性70歳以上』（59.6%）と、最も低い『男性50代』（43.1%）では16.5ポイントの差が見られる。「石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにした」は、全年代を通して『男性』の方が高い傾向にあり、「割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意した」は、全年代を通して『女性』の方が高い傾向にある。「家具が倒れないように固定した」、「ガスを使わないときには元栓を締めるようにした」は、『男性20代』『男性70歳以上』『女性70歳以上』で高くなっている。

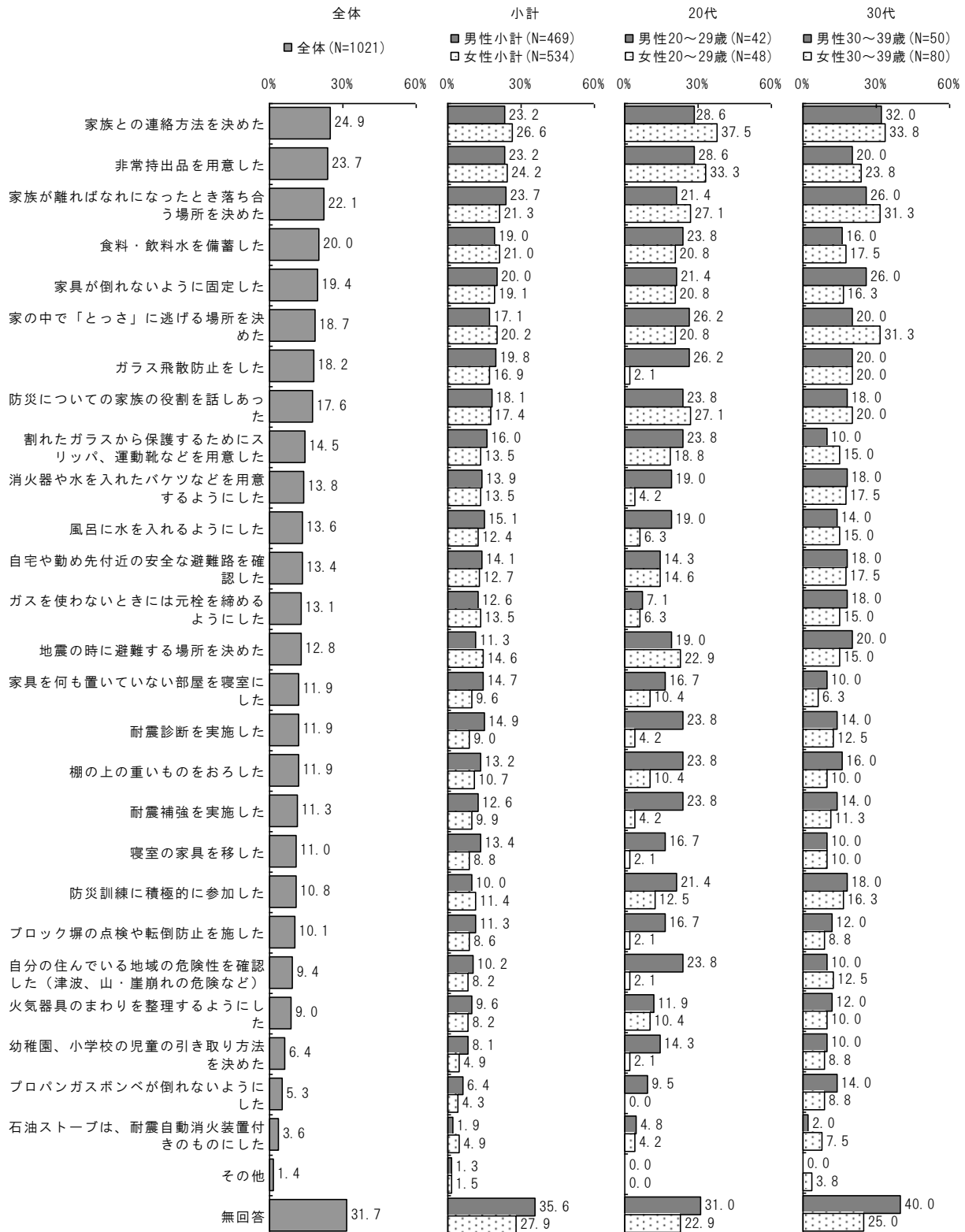
新たに実施した準備や行動 <性・年代別>

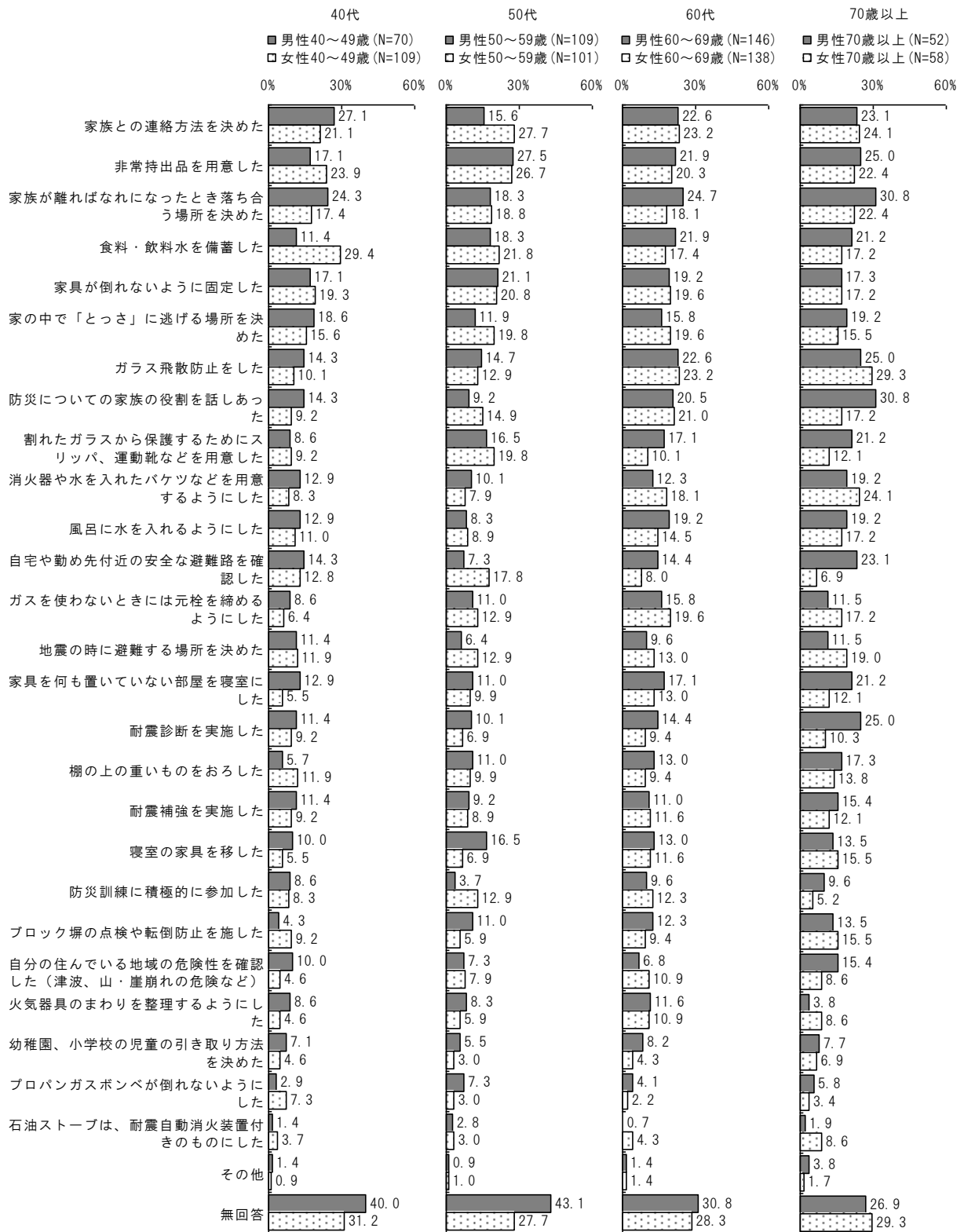




今後1年間以内に実施する予定の準備や行動について、性・年代別でみると、「家族との連絡方法を決めた」は、最も高い『女性20代』（37.5%）と、最も低い『男性50代』（15.6%）では21.9ポイントの差が見られる。「ガラス飛散防止をした」と「消火器や水を入れたバケツなどを用意するようにした」は、『女性20代』で5%未満と他の性・年代に比べ低くなっている。

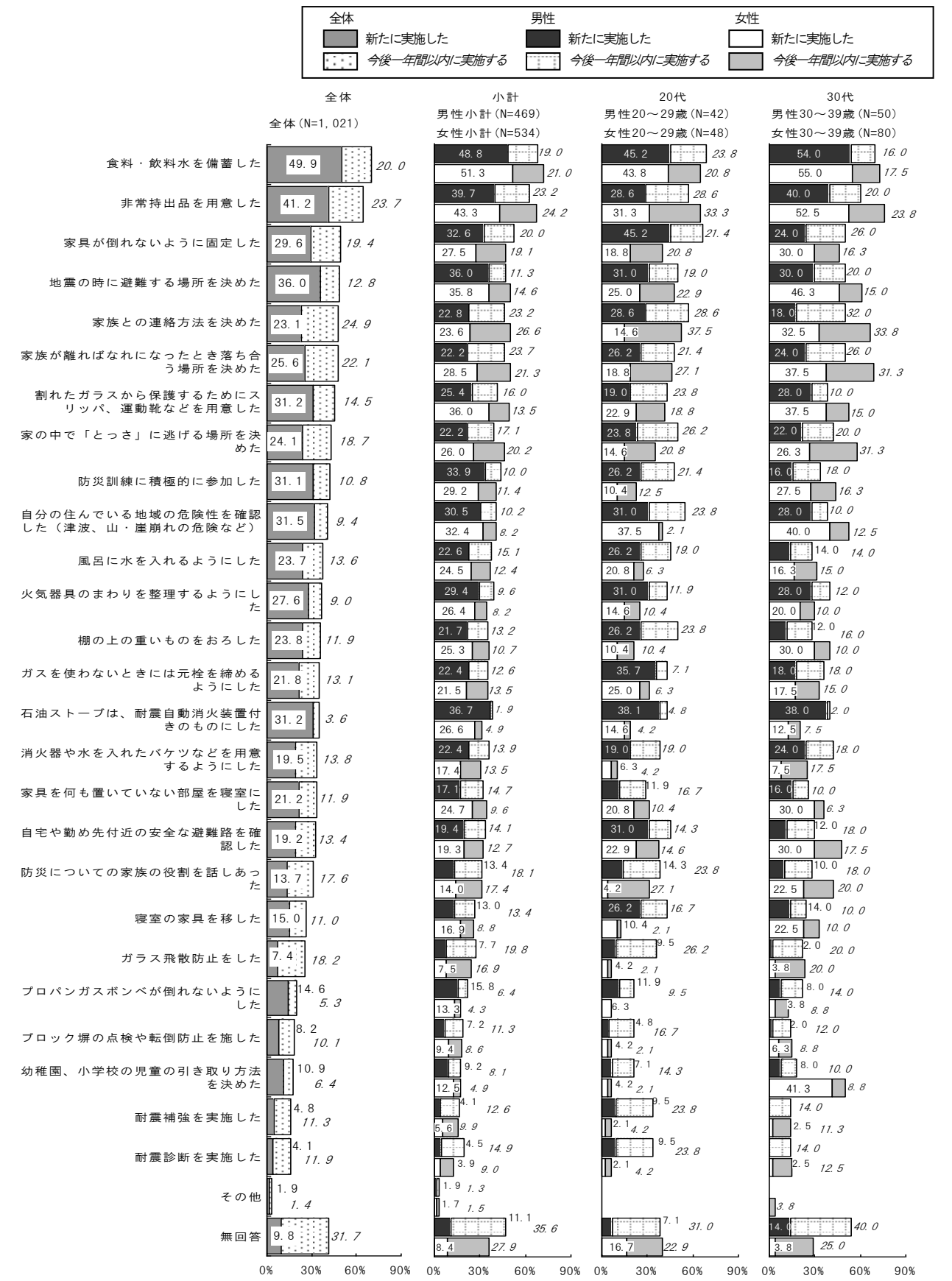
今後1年間以内に実施する予定の準備や行動 <性・年代別>

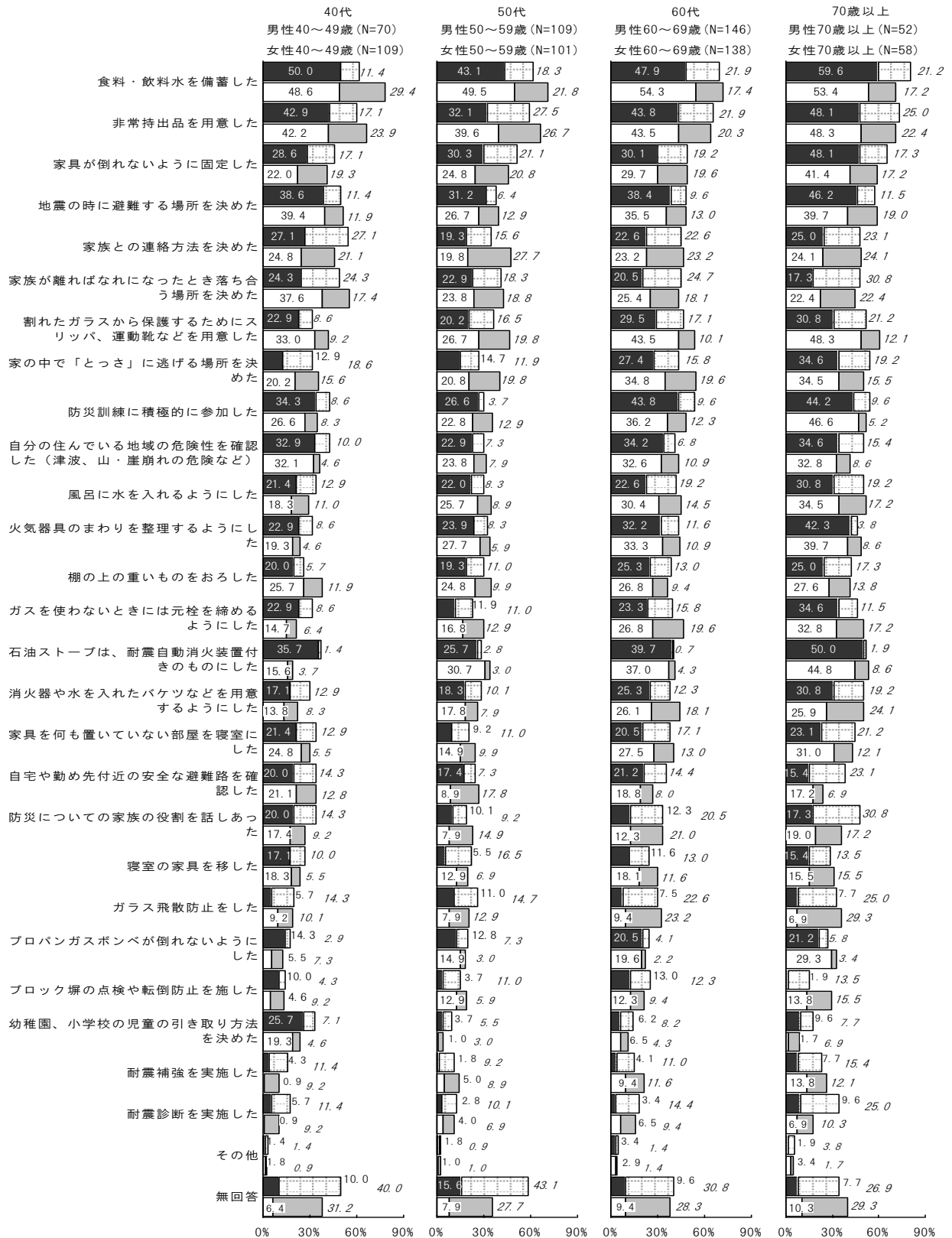
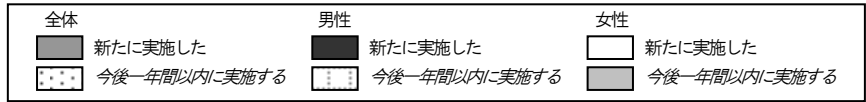




新たに実施した・今後1年以内以内に実施する予定の準備や行動を合わせたものについて、性・年代別でみると、「食料・飲料水を備蓄した」は、『女性30代』、『女性70歳以上』を除き、どの性・年代でも最も高くなっている。また、「非常持出品を用意した」は『女性30代』『男性70歳以上』『女性70歳以上』で7割を超えている。

新たに実施・今後1年以内以内に実施する予定の準備や行動 <性・年代別>

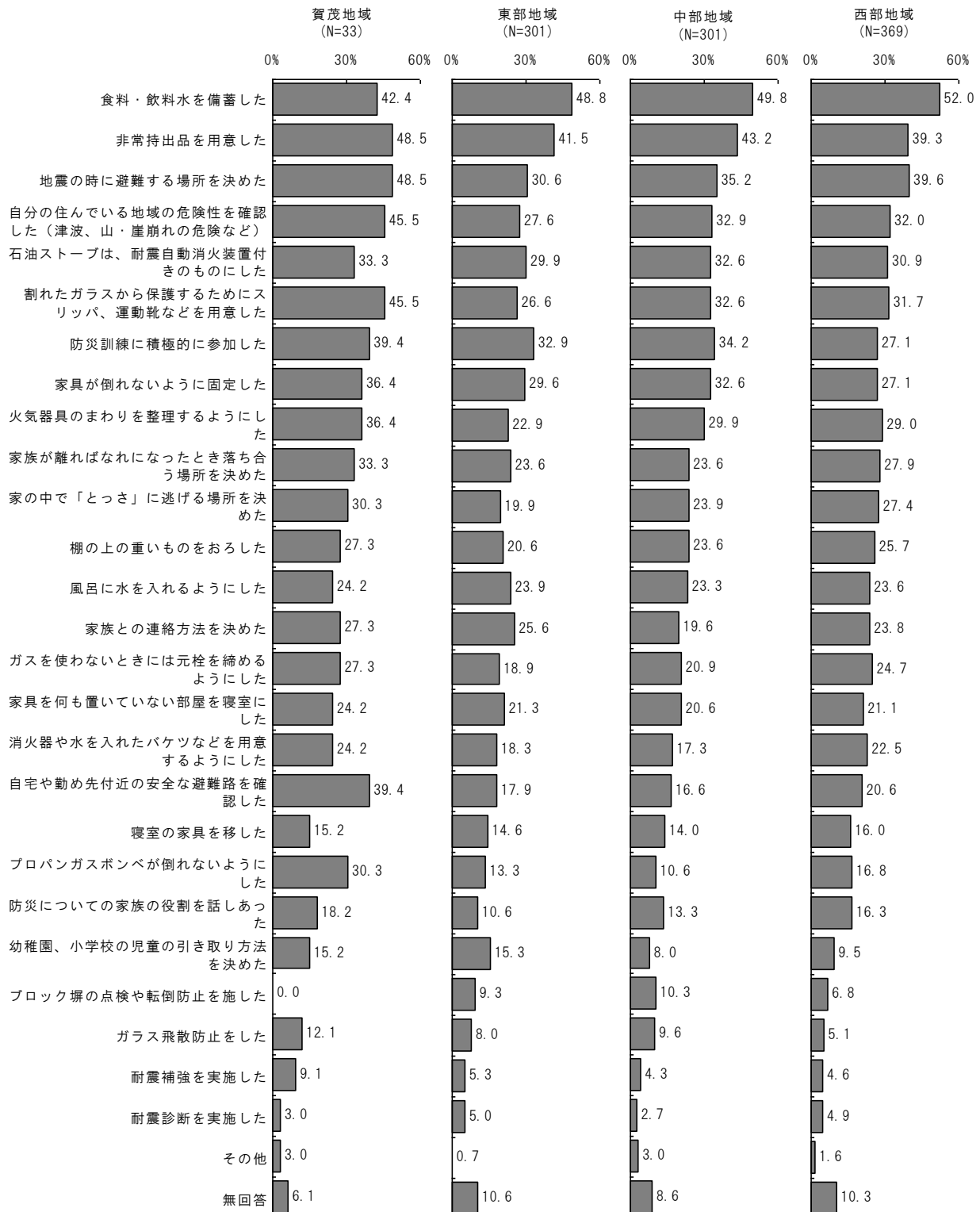




新たに実施した準備や行動について、**地域別**でみると、「食料・飲料水を備蓄した」は、最も高い『西部』(52.0%)と、最も低い『賀茂』(42.4%)では9.6ポイントの差がある。また、「割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意した」は、最も高い『賀茂』(45.5%)と、最も低い『東部』(26.6%)では18.9ポイントの差が見られる。

また、「自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認した」や「プロパンガスボンベが倒れないようにした」は、『賀茂』で他の地域より高く、3割以上となっている。

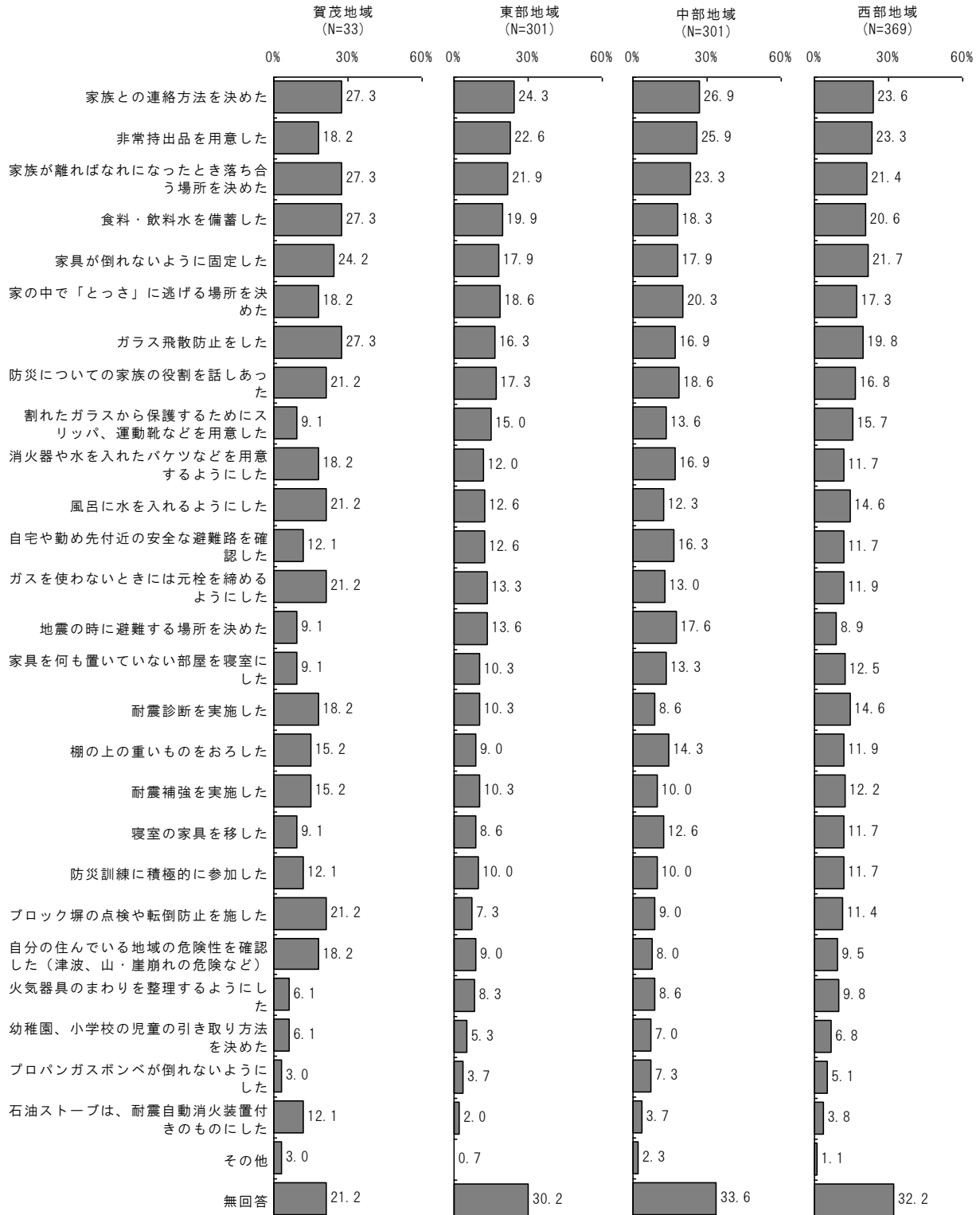
新たに実施した準備や行動 <地域別>



今後1年間以内には実施する予定の準備や行動について、**地域別**でみると、「家族との連絡方法を決めた」は、最も高い『賀茂』（27.3%）と、最も低い『西部』（23.6%）では3.7ポイントの差が見られる。

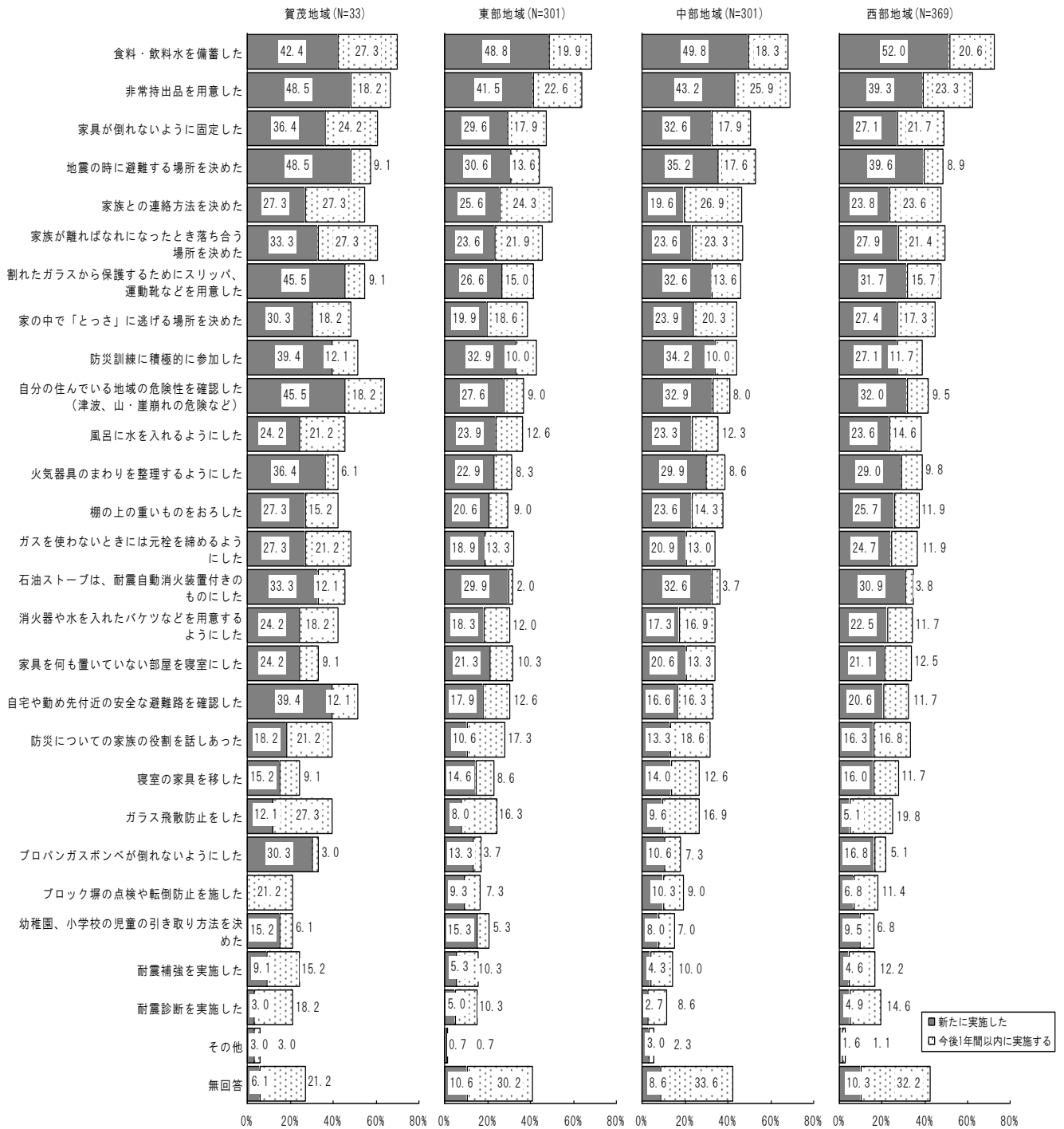
また、「ブロック塀の点検や転倒防止を施した」や「自分の住んでいる地域の危険性を確認した（津波、山・崖崩れの危険など）」、「石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにした」は、『賀茂』が他の地域よりも高くなっている。

今後1年間以内には実施する予定の準備や行動 <地域別>



新たに実施した・今後1年間以内に実施する予定の準備や行動を合わせたものについて、地域別でみると、「食料・飲料水を備蓄した」は、『西部』(72.6%)、『賀茂』(69.7%)、『東部』(68.7%)で最も高くなっている。また、「非常持出し品を用意した」は、『中部』(69.1%)で最も高くなっている。「自分の住んでいる地域の危険性を確認した(津波、山・崖崩れの危険など)」は、最も高い『賀茂』(63.7%)と、最も低い『東部』(36.6%)では27.1ポイントの差が見られ、「自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認した」は最も高い『賀茂』(51.5%)と、最も低い『東部』(30.5%)では21.0ポイントの差が見られる。

新たに実施・今後1年間以内に実施する予定の準備や行動 <地域別>



新たに実施した準備や行動について、**経年比較**で見ると、いずれの項目も前回調査よりもポイントが上回っている。特に「石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにした」は、今回調査（31.2%）では前回（10.8%）より20.4ポイント、「防災訓練に積極的に参加した」は今回調査（31.1%）では前回（13.2%）より17.9ポイント、「家具が倒れないように固定した」は今回調査（29.6%）では前回（16.0%）より13.6ポイントそれぞれ上回っている。

新たに実施した準備や行動 <経年比較>

	平成25年 12月	前回比	平成23年 11月
石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにした	31.2	(20.4)	10.8
防災訓練に積極的に参加した	31.1	(17.9)	13.2
家具が倒れないように固定した	29.6	(13.6)	16.0
火気器具のまわりを整理するようにした	27.6	(12.4)	15.2
割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意した	31.2	(9.3)	21.9
家具を何も置いていない部屋を寝室にした	21.2	(9.3)	11.9
消火器や水を入れたバケツなどを用意するようにした	19.5	(8.7)	10.8
寝室の家具を移した	15.0	(7.7)	7.3
自分の住んでいる地域の危険性を確認した（津波、山・崖崩れの危険など）	31.5	(6.6)	24.9
プロパンガスボンベが倒れないようにした	14.6	(6.6)	8.0
食料・飲料水を備蓄した	49.9	(5.9)	44.0
地震の時に避難する場所を決めた	36.0	(5.4)	30.6
風呂に水を入れるようにした	23.7	(5.3)	18.4
家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めた	24.1	(5.1)	19.0
自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認した	19.2	(4.7)	14.5
ガスを使わないときには元栓を締めるようにした	21.8	(4.6)	17.2
ブロック塀の点検や転倒防止を施した	8.2	(3.8)	4.4
棚の上の重いものをおろした	23.8	(3.7)	20.1
ガラス飛散防止をした	7.4	(3.4)	4.0
耐震補強を実施した	4.8	(2.2)	2.6
非常持出品を用意した	41.2	(1.6)	39.6
幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めた	10.9	(1.3)	9.6
防災についての家族の役割を話しあった	13.7	(1.2)	12.5
家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	25.6	(1.0)	24.6
耐震診断を実施した	4.1	(0.7)	3.4
家族との連絡方法を決めた	23.1	(0.1)	23.0
その他	1.9	(0.8)	1.1
特に何もしていない	—	—	7.9
無回答	9.8	(1.8)	8.0

※「特に何もしていない」は平成23年度のみを設定。

今後1年間以内に実施する予定の準備や行動について、**経年比較**で見ると、「家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めた」は、今回調査（18.7%）では前回（11.8%）より6.9ポイント、「家族との連絡方法を決めた」は今回調査（24.9%）では前回（18.4%）より6.5ポイントそれぞれ上回っている。

今後1年間以内に実施する予定の準備や行動 <経年比較>

	平成25年 12月	前回比	平成23年 11月
家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めた	18.7	(6.9)	11.8
家族との連絡方法を決めた	24.9	(6.5)	18.4
防災についての家族の役割を話しあった	17.6	(6.0)	11.6
消火器や水を入れたバケツなどを用意するようにした	13.8	(5.9)	7.9
ガスを使わないときには元栓を締めるようにした	13.1	(5.3)	7.8
風呂に水を入れるようにした	13.6	(5.0)	8.6
耐震診断を実施した	11.9	(4.8)	7.1
耐震補強を実施した	11.3	(4.7)	6.6
非常持出品を用意した	23.7	(4.5)	19.2
家具を何も置いていない部屋を寝室にした	11.9	(4.4)	7.5
ガラス飛散防止をした	18.2	(4.2)	14.0
棚の上の重いものをおろした	11.9	(4.0)	7.9
家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	22.1	(3.6)	18.5
ブロック塀の点検や転倒防止を施した	10.1	(3.5)	6.6
寝室の家具を移した	11.0	(3.2)	7.8
幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めた	6.4	(2.6)	3.8
地震の時に避難する場所を決めた	12.8	(2.1)	10.7
火気器具のまわりを整理するようにした	9.0	(2.1)	6.9
自宅や勤め先付近の安全な避難経路を確認した	13.4	(2.1)	11.3
防災訓練に積極的に参加した	10.8	(1.9)	8.9
プロパンガスボンベが倒れないようにした	5.3	(1.7)	3.6
自分の住んでいる地域の危険性を確認した（津波、山・崖崩れの危険など）	9.4	(1.5)	7.9
食料・飲料水を備蓄した	20.0	(1.1)	18.9
割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意した	14.5	(0.1)	14.4
家具が倒れないように固定した	19.4	(0.0)	19.4
石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにした	3.6	(-0.7)	4.3
その他	1.4	(0.6)	0.8
特に何もしていない	—	—	3.3
無回答	31.7	(-0.2)	31.9

※「特に何もしていない」は平成23年度のみを設定。

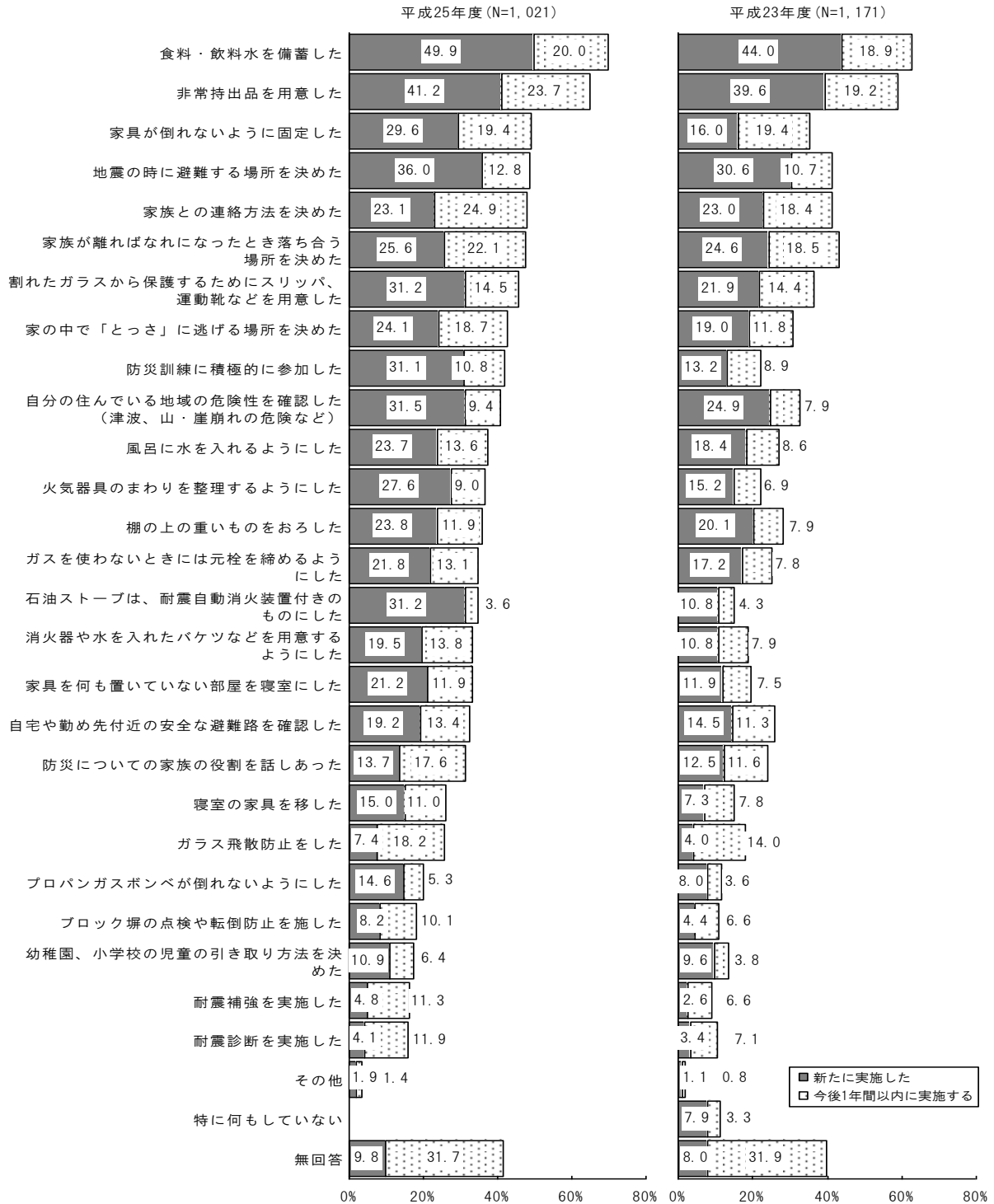
新たに実施した・今後1年間以内に実施する予定の準備や行動を合わせたものについて、**経年比較**でみると、いずれの項目も前回調査よりもポイントが上回っている。特に「防災訓練に積極的に参加した」は、今回調査（41.9%）では前回（22.1%）より19.8ポイント、「石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにした」は今回調査（34.8%）では前回（15.1%）より19.7ポイントそれぞれ上回っている。

新たに実施・今後1年間以内に実施する予定の準備や行動 <経年比較>

	平成25年 12月	前回比	平成23年 11月
防災訓練に積極的に参加した	41.9	(19.8)	22.1
石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにした	34.8	(19.7)	15.1
消火器や水を入れたバケツなどを用意するようにした	33.3	(14.6)	18.7
火気器具のまわりを整理するようにした	36.6	(14.5)	22.1
家具を何も置いていない部屋を寝室にした	33.1	(13.7)	19.4
家具が倒れないように固定した	49.0	(13.6)	35.4
家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めた	42.8	(12.0)	30.8
寝室の家具を移した	26.0	(10.9)	15.1
風呂に水を入れるようにした	37.3	(10.3)	27.0
ガスを使わないときには元栓を締めるようにした	34.9	(9.9)	25.0
割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意した	45.7	(9.4)	36.3
プロパンガスボンベが倒れないようにした	19.9	(8.3)	11.6
自分の住んでいる地域の危険性を確認した（津波、山・崖崩れの危険など）	40.9	(8.1)	32.8
棚上の重いものをおろした	35.7	(7.7)	28.0
ガラス飛散防止をした	25.6	(7.6)	18.0
地震の時に避難する場所を決めた	48.8	(7.5)	41.3
ブロック塀の点検や転倒防止を施した	18.3	(7.3)	11.0
防災についての家族の役割を話しあった	31.3	(7.2)	24.1
食料・飲料水を備蓄した	69.9	(7.0)	62.9
耐震補強を実施した	16.1	(6.9)	9.2
自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認した	32.6	(6.8)	25.8
家族との連絡方法を決めた	48.0	(6.6)	41.4
非常持出品を用意した	64.9	(6.1)	58.8
耐震診断を実施した	16.0	(5.5)	10.5
家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	47.7	(4.6)	43.1
幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めた	17.3	(3.9)	13.4
その他	3.3	(1.4)	1.9
特に何もしていない	—	—	11.2
無回答	41.5	(1.6)	39.9

※「特に何もしていない」は平成23年度のみを設定。

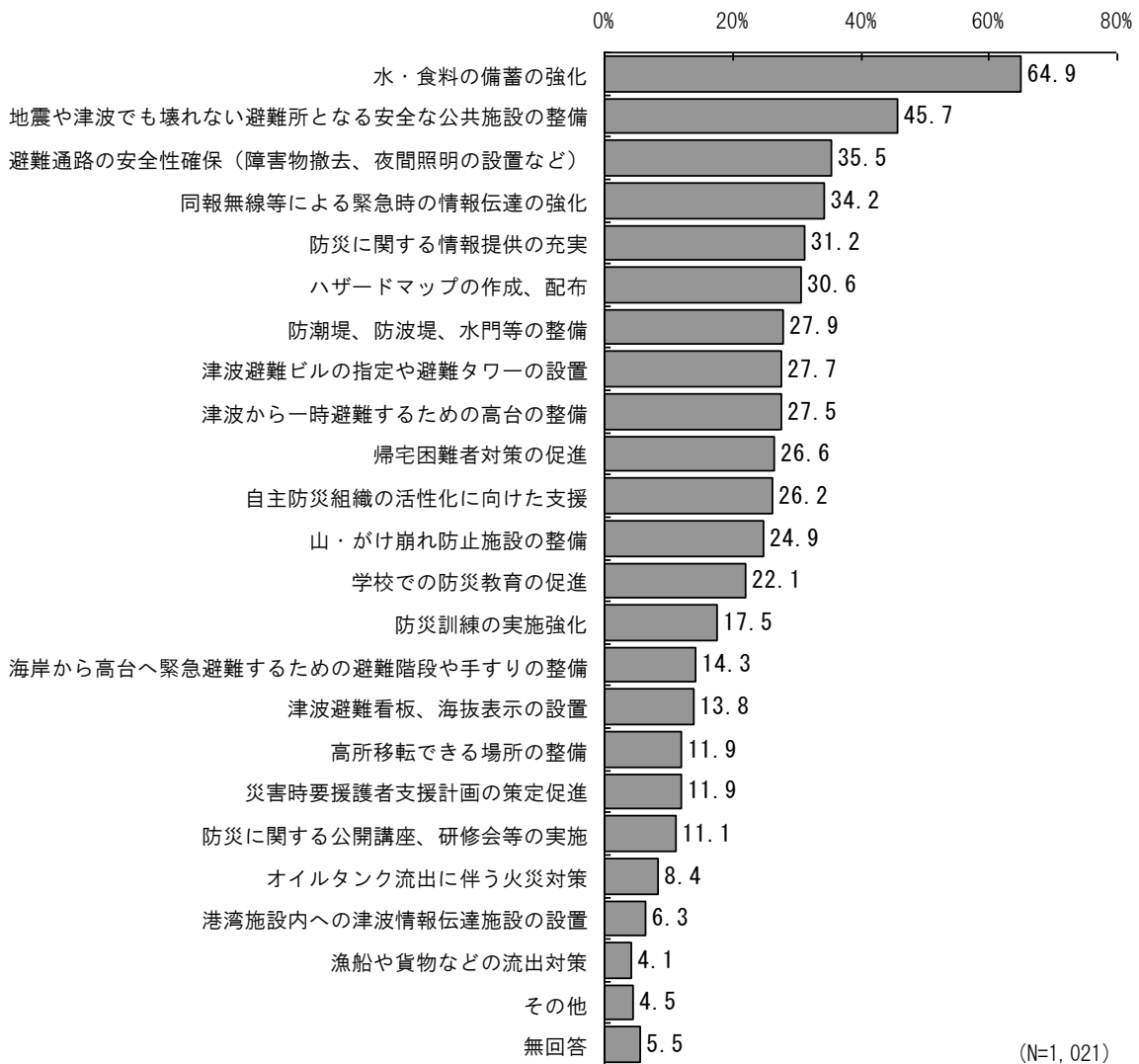
新たに実施・今後1年間以内に実施する予定の準備や行動 <経年比較>



※「特に何もしていない」は平成23年度のみを設定。

8-2 今後の行政への要望

問41 あなたは、東日本大震災の状況をふまえて、今後、県や市町に対して要望することがありますか。次の中からあてはまるものをいくつかでもお答えください。(M. A.)

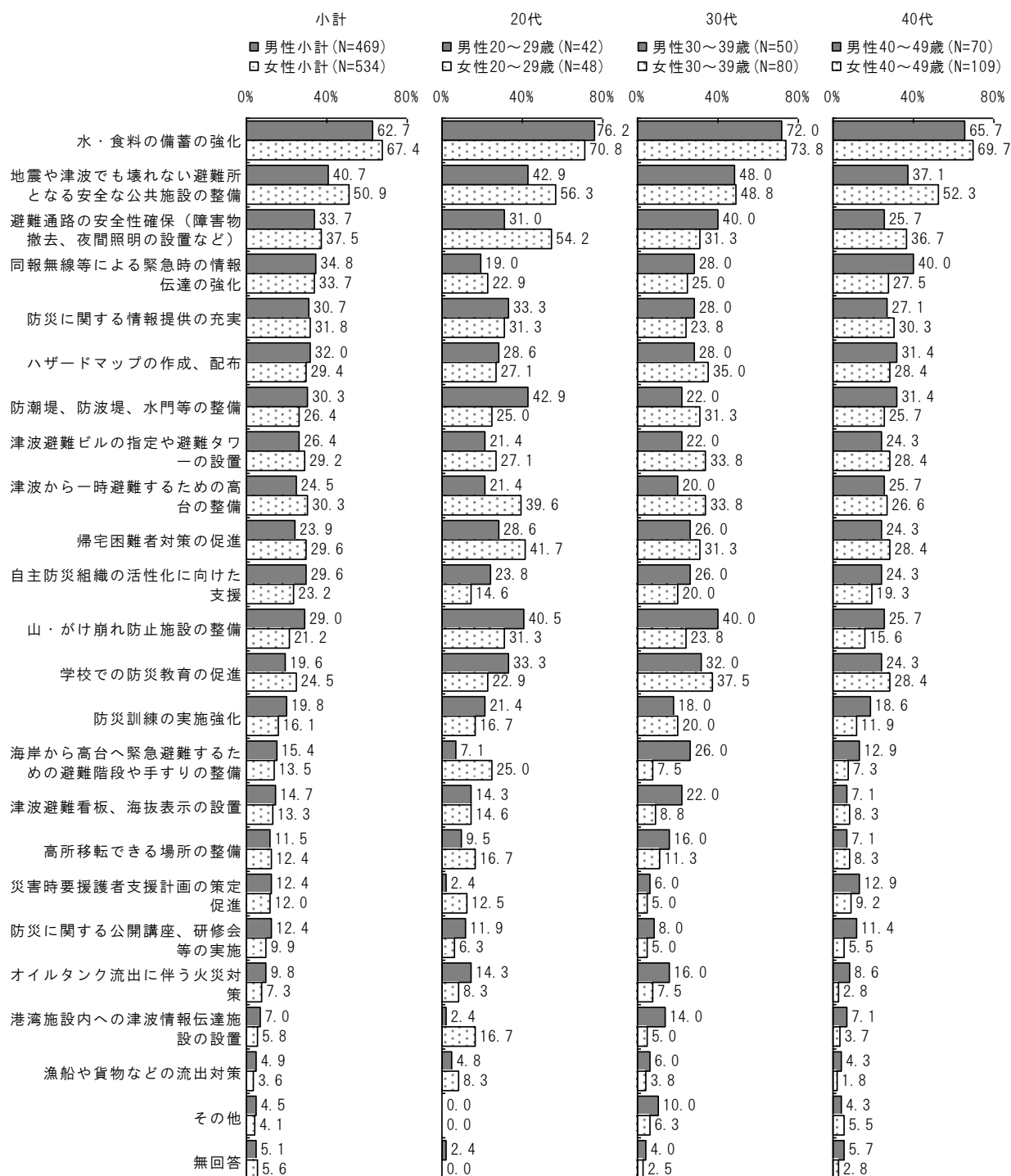


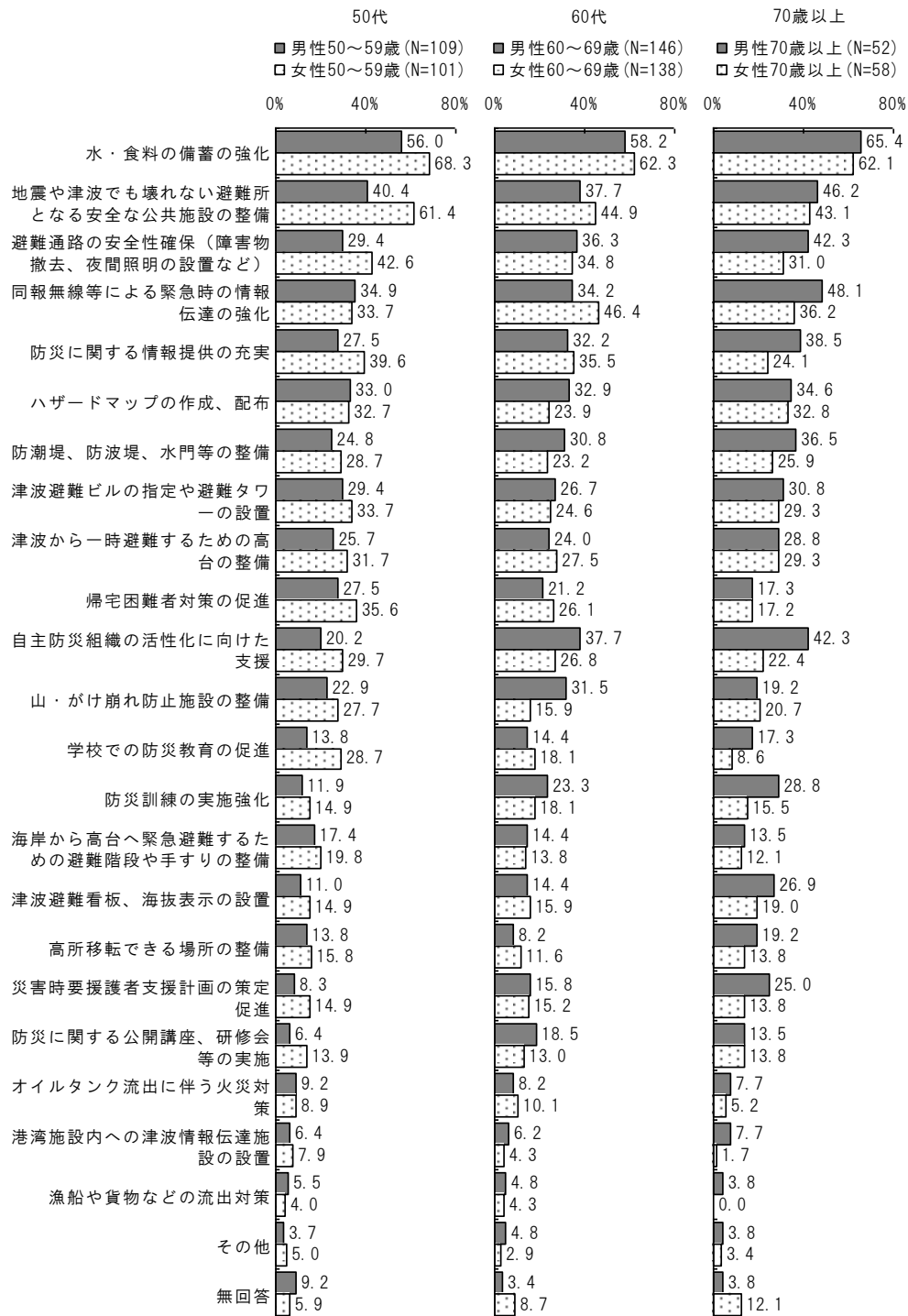
東日本大震災の状況を踏まえて、今後の行政に要望することをたずねたところ、「水・食料の備蓄の強化」(64.9%)が最も高く、次いで「地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備」(45.7%)、「避難通路の安全性確保(障害物撤去、夜間照明の設置など)」(35.5%)、「同報無線等による緊急時の情報伝達の強化」(34.2%)、「防災に関する情報提供の充実」(31.2%)、「ハザードマップの作成、配布」(30.6%)の順となっており、これら6項目が3割を超えている。

性・年代別でみると、いずれも「水・食料の備蓄の強化」が最も高いが、『男性20代』（76.2%）と『男性50代』（56.0%）では20.2ポイントの差が見られる。

また、「避難通路の安全性確保（障害物撤去、夜間照明の設置など）」は『女性20代』（54.2%）、「防潮堤、防波堤、水門等の整備」は『男性20代』（42.9%）、「自主防災組織の活性化に向けた支援」は『男性70歳以上』（42.3%）、『男性60代』（37.7%）で高くなっている。

今後の行政への要望<性・年代別>

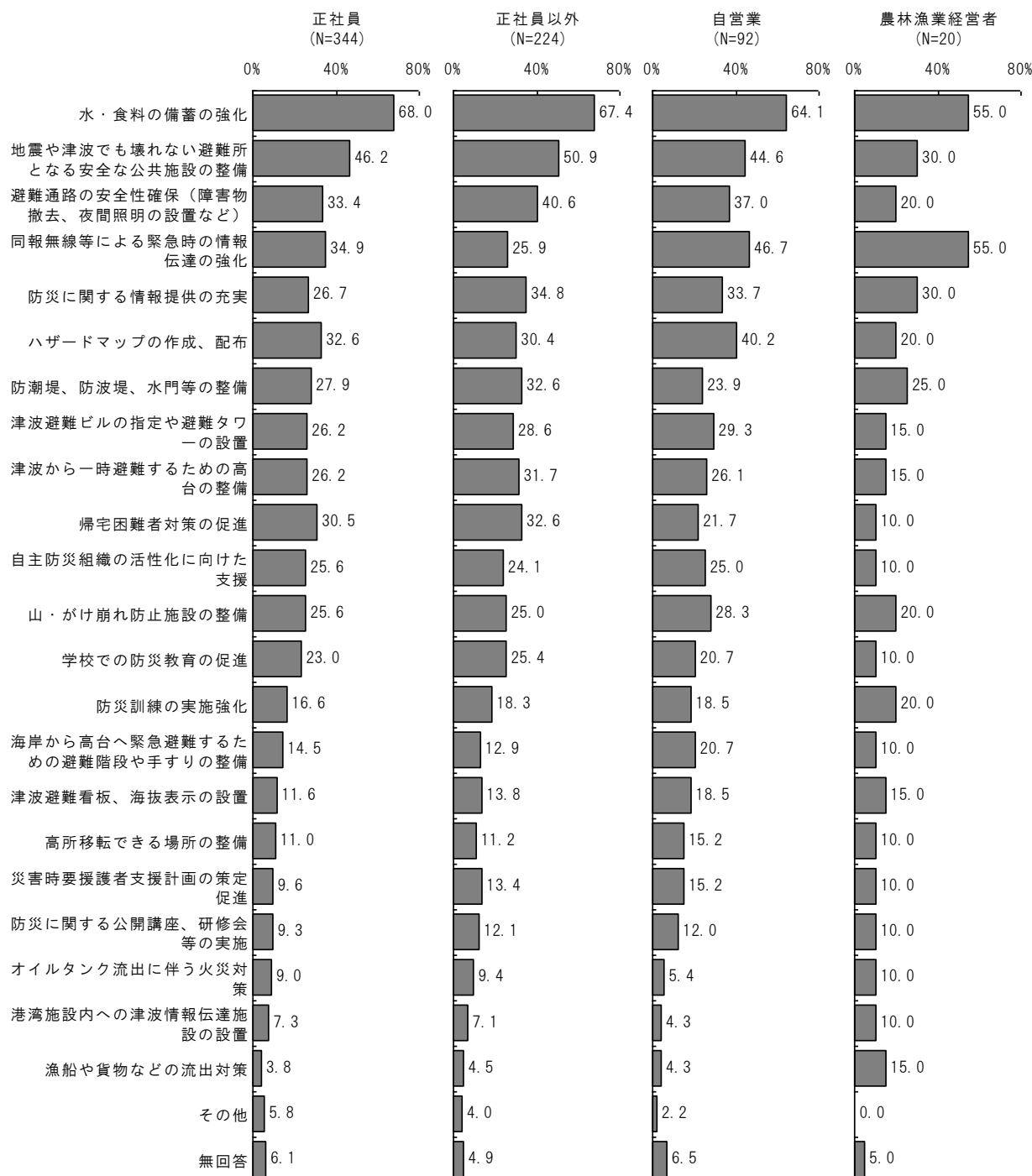


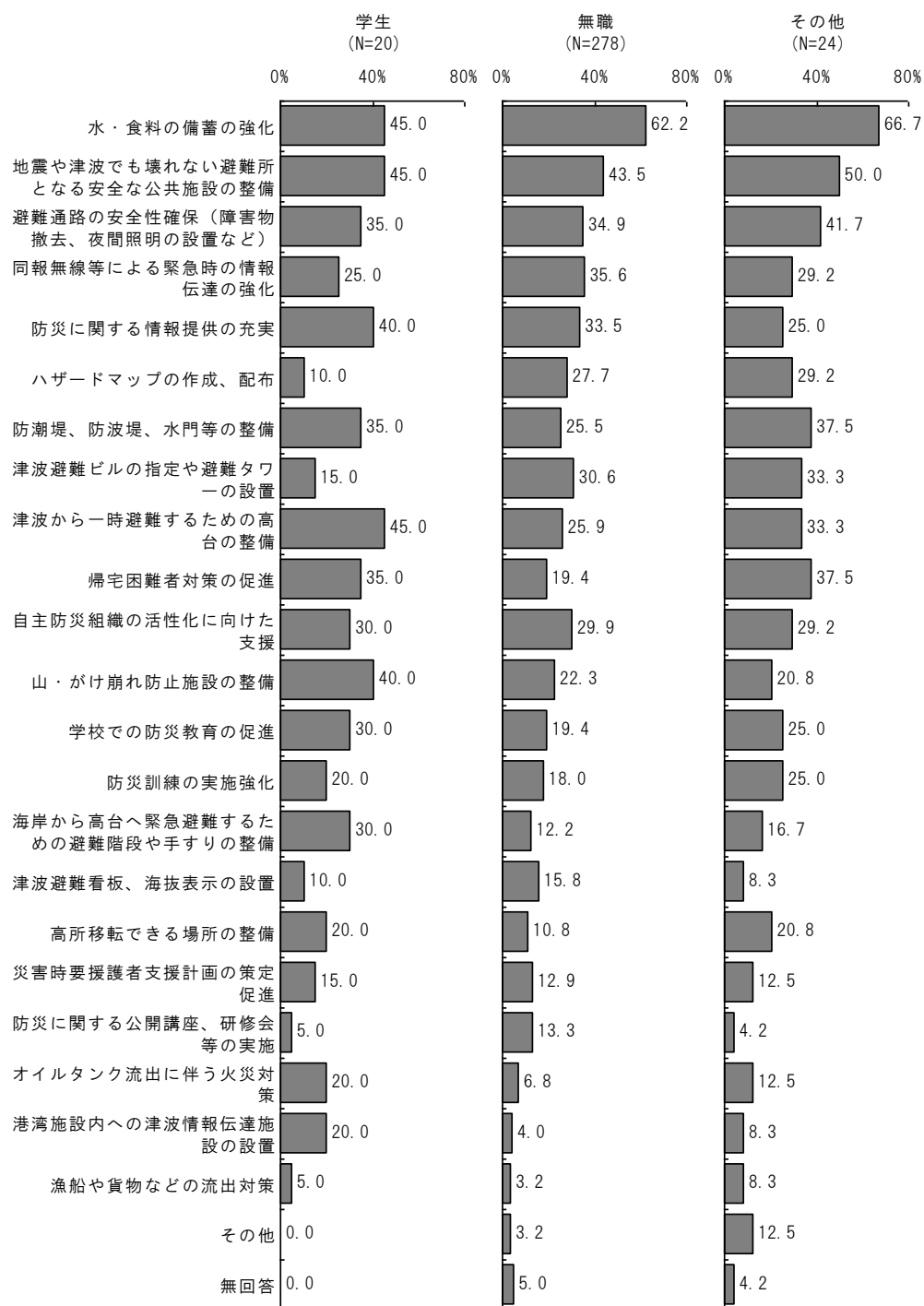


職業別でみると、「水・食料の備蓄の強化」については、最も高い『正社員』（68.0%）と、最も低い『学生』（45.0%）とは23.0ポイントの差が見られる。

また、「同報無線等による緊急時の情報伝達の強化」は、『農林漁業経営者』（55.0%）、『自営業』（46.7%）で他よりも高くなっている。

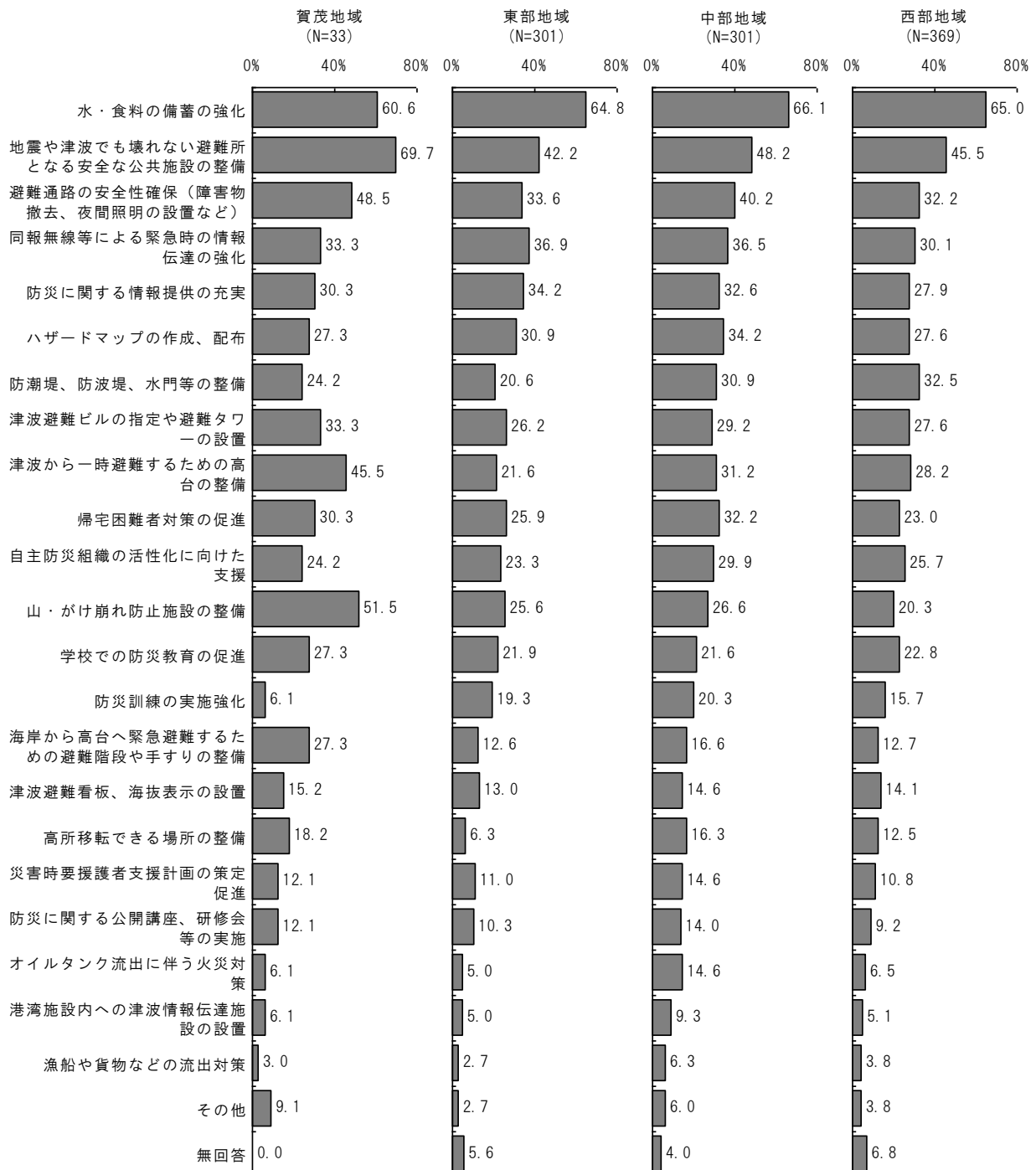
今後の行政への要望<職業別>





地域別でみると、「地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備」については、最も高い『賀茂』（69.7%）と、最も低い『東部』（42.2%）では27.5ポイントの差が見られる。その他、「山・がけ崩れ防止施設の整備」や「津波から一時避難するための高台の整備」、「津波避難ビルの指定や避難タワーの設置」、「海岸から高台へ緊急避難するための避難階段や手すりの整備」について、『賀茂』は他の地域よりも高くなっている。

今後の行政への要望<地域別>



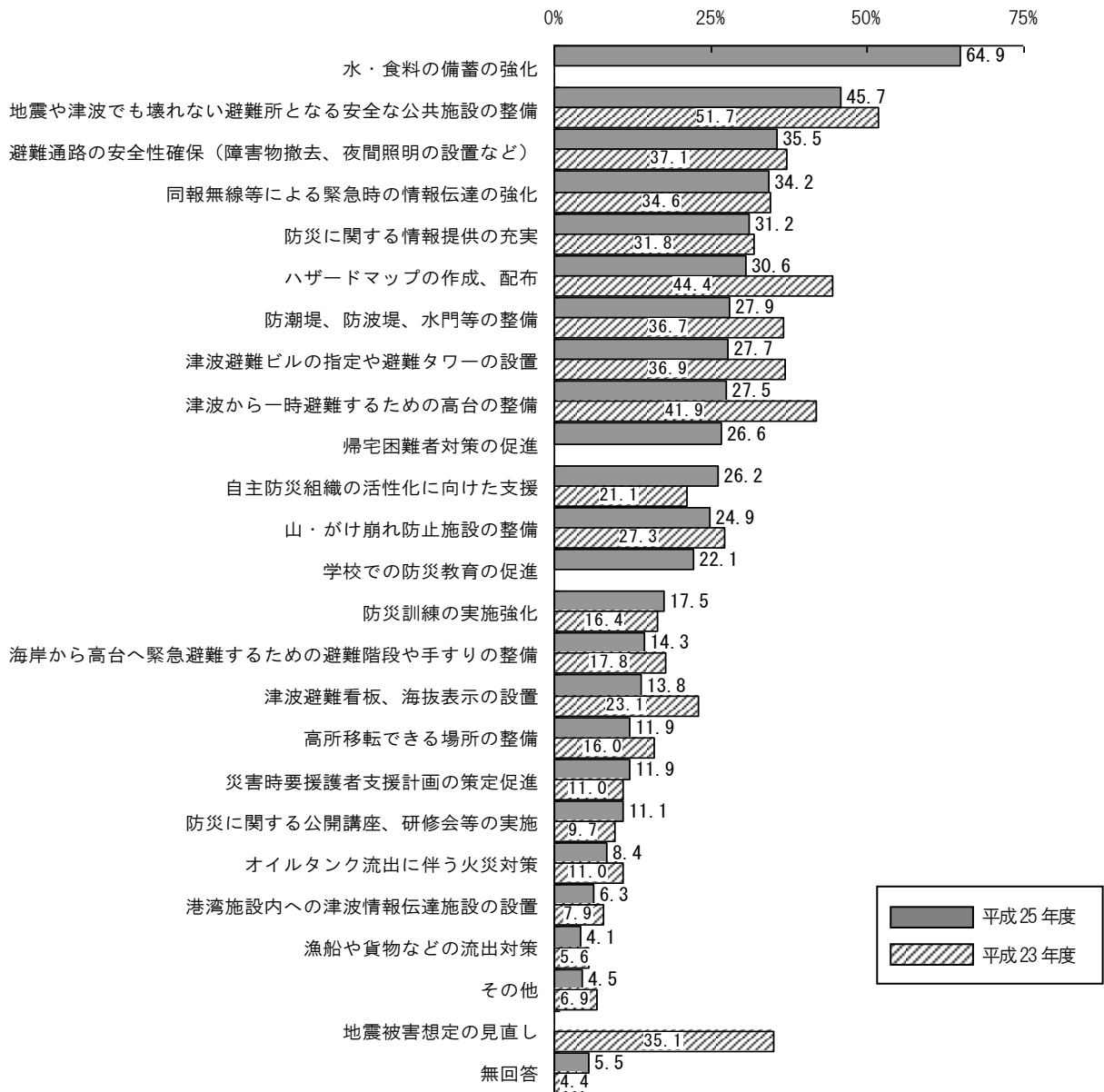
経年比較でみると、「自主防災組織の活性化に向けた支援」は、今回調査（26.2%）では前回調査（21.1%）より5.1ポイント上回っている。一方、「津波から一時避難するための高台の整備」は、今回調査（27.5%）では前回調査（41.9%）より14.4ポイント、「ハザードマップの作成、配布」は、今回調査（30.6%）では前回調査（44.4%）より13.8ポイントそれぞれ下回っている。

今後の行政への要望 <経年比較>

	平成25年 12月	前回比	平成23年 11月
自主防災組織の活性化に向けた支援	26.2	(5.1)	21.1
防災に関する公開講座、研修会等の実施	11.1	(1.4)	9.7
防災訓練の実施強化	17.5	(1.1)	16.4
災害時要援護者支援計画の策定促進	11.9	(0.9)	11.0
同報無線等による緊急時の情報伝達の強化	34.2	(-0.4)	34.6
防災に関する情報提供の充実	31.2	(-0.6)	31.8
漁船や貨物などの流出対策	4.1	(-1.5)	5.6
港湾施設内への津波情報伝達施設の設置	6.3	(-1.6)	7.9
避難通路の安全性確保（障害物撤去、夜間照明の設置など）	35.5	(-1.6)	37.1
山・がけ崩れ防止施設の整備	24.9	(-2.4)	27.3
オイルタンク流出に伴う火災対策	8.4	(-2.6)	11.0
海岸から高台へ緊急避難するための避難階段や手すりの整備	14.3	(-3.5)	17.8
高所移転できる場所の整備	11.9	(-4.1)	16.0
地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備	45.7	(-6.0)	51.7
防潮堤、防波堤、水門等の整備	27.9	(-8.8)	36.7
津波避難ビルの指定や避難タワーの設置	27.7	(-9.2)	36.9
津波避難看板、海拔表示の設置	13.8	(-9.3)	23.1
ハザードマップの作成、配布	30.6	(-13.8)	44.4
津波から一時避難するための高台の整備	27.5	(-14.4)	41.9
その他	4.5	(-2.4)	6.9
水・食料の備蓄の強化	64.9	—	—
帰宅困難者対策の促進	26.6	—	—
学校での防災教育の促進	22.1	—	—
地震被害想定の見直し	—	—	35.1
無回答	5.5	(1.1)	4.4

※「水・食料の備蓄の強化」「帰宅困難者対策の促進」「学校での防災教育の促進」は平成25年度から設定。
また、「地震被害想定の見直し」は平成23年度のみを設定。

今後の行政への要望<経年比較>



※「水・食料の備蓄の強化」「帰宅困難者対策の促進」「学校での防災教育の促進」は平成25年度から設定。
 また、「地震被害想定の見直し」は平成23年度のみを設定。

付 調査票（単純集計入り）

東海地震についての県民意識調査

ご記入にあたってのお願い

- ※ ご記入は、あなた様ご自身がなさるようお願いいたします。
- ※ 全体で20分程度かかります。記入へのご協力をお願いいたします。
- ※ ご記入は、鉛筆又は黒のボールペンでお願いいたします。
- ※ 回答項目が用意されている質問では、当てはまる回答項目の番号を○で囲んでください。
また、「その他（ ）」に当てはまる場合には、ご面倒でも詳しくご記入ください。
- ※ 回答によっては、次の質問をとばしていくところがありますので、ご注意ください。
- ※ ご回答の内容は、統計的に処理を行うこととし、その秘密の保持には十分配慮しますので、ご回答いただいた方に迷惑をかけることは決してありません。
- ※ 記入後の調査票は、誠に恐縮ですが 平成25年12月20日(金)までに、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご返送ください。
- ※ 調査についてのお問い合わせは、次のところをお願いいたします。

静岡県危機管理部危機情報課（担当：金子、油井）

静岡市葵区追手町9番6号

TEL 054-221-3694

E-mail boujou@pref.shizuoka.lg.jp

以下の設問にある「東海地震」については、南海トラフの巨大地震など静岡県で甚大な被害の発生が懸念されている大規模地震をイメージしてお答えください。

1 東海地震について

<全ての方にお伺いします。>

問1 あなたは現在、東海地震にどの程度の関心を持っていますか。(○は1つ)

1 非常に関心がある	52.7%	2 多少関心がある	43.3%
3 あまり関心はない	2.3%	4 全く関心はない	0.4%

1.4%

<全ての方にお伺いします。>

問2 あなたは、東海地震に対して、2～3年前に比べて関心を持つようになりましたか。(○は1つ)

1 2～3年前よりも関心を持つようになった	64.1%	2 変わらない	31.9%
3 2～3年前よりも関心が薄くなった	2.4%	4 わからない	0.3%

1.3%

<全ての方にお伺いします。>

問3 あなたは、東海地震が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。（○は1つ）

1 よく知っている	7.6%	2 ある程度知っている	65.2%
3 あまり知らない	23.6%	4 まったく知らない	1.8%

1.8%

<問3で「1 よく知っている」「2 ある程度知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問3-1 その知識はどこから入手しましたか。（○はいくつでも）

1 テレビ・ラジオ	91.0%	2 新聞	63.0%	3 雑誌・本	16.3%
4 自主防災組織	16.0%	5 事業所	3.2%	6 学校	6.6%
7 県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等	33.3%	8 県・市町の講演会	3.9%		
9 県地震防災センター	6.5%	10 県のホームページ	1.7%	11 インターネット	11.3%
12 その他（具体的に			1.9%		

0.1%

<全ての方にお伺いします。>

問4 東海地震が発生した場合、あなたのお住まいの家は、どのような被害を受けるとお考えですか。（○は1つ）

1 被害はほとんどない	6.3%	2 家の一部が壊れる	44.6%
3 家のほとんどが壊れる	23.3%	4 わからない	24.5%

1.4%

<全ての方にお伺いします。>

問5 駿河湾内で東海地震が発生した場合、津波は、一番はやいところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。（○は1つ）

1 地震発生直後～5分	57.2%	2 6～10分	24.8%	3 11～20分	7.2%
4 21～30分	3.1%	5 31～60分	1.6%	6 わからない	4.4%

1.7%

<全ての方にお伺いします。>

問6 東海地震が発生した場合、あなたの住む地域はどのような被害の発生が予想される地域ですか。（○はいくつでも）

1 津波	33.5%	2 山・がけ崩れ	30.6%	3 液状化	24.8%
4 延焼火災	36.2%	5 特になし	7.4%	6 わからない	10.9%

1.3%

<全ての方にお伺いします。>

問7 東海地震を中心とした情報を定期的に皆様へ提供する方法について、確実に情報が手に入る方法は次のどれですか。（○は3つまで）

1 新聞記事	47.4%	2 パンフレットの全戸配布	36.8%	3 新聞の折り込みチラシ	8.8%
4 インターネット	12.8%	5 Eメール(パソコン)での受信	4.8%	6 Eメール(携帯電話)での受信	27.7%
7 県や市町の広報誌	35.9%	8 テレビによる報道	65.8%	9 ラジオによる報道	16.9%
10 「自主防災」新聞	6.7%	11 その他（具体的に	1.1%		

1.3%

2 日ごろの防災対策について

<全ての方にお伺いします。>

問8 災害時には、非常食（アルファ米・乾パン・缶詰等）だけでなく、日常的に利用する保存・調理が容易な食品（レトルト食品・インスタントラーメン・果物等）も活用ができます。あなたのお宅では、災害時に利用できる食料として家族の何日分を用意していますか。（〇は1つ）

1 用意していない	17.0%	2 1日分	11.0%	3 2日分	20.4%	4 3日分	33.2%
5 4日分	2.6%	6 5日分	6.2%	7 6日分	1.4%	8 7日以上	6.7%

1.6%

<問8で「8 7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問8-1 県では現在、各家庭で災害時に利用できる食料として、家族の7日以上を用意を勧めています。あなたのお宅で現在のところ7日以上を食料を用意してしないのはどのような理由からですか。（〇は1つ）

1 手間がかかるから	8.5%	2 費用がかかるから	12.5%
3 何を準備するとよいかわからないから	7.4%	4 保管する場所がないから	16.6%
5 行政や自主防災組織が用意しているから	3.1%	6 東海地震が起こると思わないから	1.0%
7 7日以上が必要とは知らなかったから	22.0%	8 その他（具体的に	8.6%

20.3%

<問8で「8 7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問8-2 食料が必要となった場合どのようにして確保するつもりですか。（〇は1つ）

1 地震が起きてから準備する	2.1%	2 東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する	13.3%
3 自主防災組織からもらう	9.3%	4 避難所でもらう	27.1%
5 考えていない	21.1%	6 その他（具体的に	10.1%

16.9%

<問8で「1 用意していない」以外を選んだ方にお伺いします。>

問8-3 災害時に利用できる食料として何を用意していますか。（〇はいくつでも）

1 アルファ米	17.9%	2 乾パン	42.6%	3 缶詰	65.9%
4 無洗米	11.1%	5 乾麺（ラーメン・うどん・そば・パスタなど）	65.1%		
6 レトルト食品	61.1%	7 乾物（ドライフルーツ・高野豆腐など）	10.3%		
8 インスタントスープ	33.2%	9 果物	10.8%	10 菓子	42.5%
11 その他（具体的に	9.1%				

11.9%

<全ての方にお伺いします。>

問9 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。
(〇は1つ)

1 備蓄していない	18.7%	2 1日分	12.8%	3 2日分	18.1%	4 3日分	25.3%
5 4日分	4.3%	6 5日分	5.5%	7 6日分	3.0%	8 7日以上	11.8%

0.5%

<問9で「8 7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問9-1 県では現在、災害時に備えて、各家庭で家族の7日以上飲料水の備蓄を勧めています。あなたのお宅で現在のところ7日以上飲料水を備蓄していないのはどのような理由からですか。(〇は1つ)

1 手間がかかるから	9.8%	2 費用がかかるから	8.3%
3 何を準備するとよいかわからないから	1.8%	4 保管する場所がないから	30.9%
5 行政や自主防災組織が用意しているから	3.8%	6 東海地震が起こると思わないから	1.1%
7 7日以上が必要とは知らなかったから	23.9%	8 その他(具体的に)	9.3%

11.2%

<問9で「8 7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問9-2 飲料水が必要となった場合はどのようにして確保するつもりですか。(〇は1つ)

1 地震が起きてから準備する	2.1%	2 東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する	15.4%
3 自主防災組織からもらう	9.9%	4 避難所でもらう	31.6%
5 考えていない	18.8%	6 その他(具体的に)	10.4%

11.8%

<問9で「8 7日以上」を選んだ方にお伺いします。>

問9-3 備蓄方法、保管場所など工夫していることがあれば、自由にご記入ください。

<全ての方にお伺いします。>

問10 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。(〇は1つ)

1 大部分固定している	17.8%	2 一部固定している	51.3%	3 固定していない	30.6%
					0.3%

<問10で「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。>

問10-1 どのような理由からですか。(〇は1つ)

1 建物や家具を傷めるから	4.2%	2 手間がかかるから	20.8%	
3 費用がかかるから	8.0%	4 家具類を置いていない安全な部屋があるから	19.2%	
5 固定しなくても大丈夫だと思うから	7.7%	6 固定をしても被害は出ると思うから	12.5%	
7 東海地震が起こると思わないから	1.3%	8 借家だから	12.2%	
9 その他(具体的に	12.5%)	
				1.6%

<全ての方にお伺いします。>

問11 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。(〇は1つ)

1 点検した	16.3%	2 点検していない	32.1%	
3 ブロック塀や門柱などはない	49.0%	4 以前はあったが、危険なので取り壊した	1.4%	
				1.3%

<問11で「1 点検した」を選んだ方にお伺いします。>

問11-1 点検結果はいかがでしたか。(〇は1つ)

1 安全	72.9%	2 安全ではない	10.8%	3 わからない	15.7%
					0.6%

<問11で「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。>

問11-2 どのような理由からですか。(〇は1つ)

1 点検するまでもなく危険だから	5.2%	2 点検方法が分からないから	31.4%	
3 費用がかかるから	11.6%	4 借家だから	10.1%	
5 手間がかかるから	6.4%	6 点検しなくても大丈夫だと思うから	17.7%	
7 防災対策をしても被害が出ると思うから	5.5%	8 東海地震が起こると思わないから	0.0%	
9 その他(具体的に	11.0%)	
				1.2%

<全ての方にお伺いします。>

問 12 次にあげるものの中で、東海地震に備えてあなたのお宅で行っているものについて、いくつでもお答えください。
(○はいくつでも)

1 防災についての家族の役割を決めている	3.5%	2 家族との連絡方法を決めている	27.7%
3 警戒宣言が発せられた時の家族の行動を決めている			14.0%
4 警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている			37.9%
5 家族が離ればなれになった時の落ち合う場所を決めている			26.4%
6 ガスを使わないときにはガス栓を閉めている	23.8%	7 火気器具の周りを整理している	18.4%
8 風呂に水を入れている	28.5%	9 消火器などを用意している	37.7%
10 幼稚園や小学校と園児・児童の引き取り方法を決めている			12.0%
11 ガラス飛散防止をしている	7.7%	12 ガスボンベが倒れないようにしている	16.3%
13 非常持出品を用意している	57.2%		
14 その他（具体的に	2.2%)
15 特に備えていない	8.2%		

0.9%

<問 12 で「13 非常持出品を用意している」を選んだ方にお伺いします。>

問 12-1 非常持出品として何を用意していますか。(○はいくつでも)

1 携帯ラジオ	70.7%	2 懐中電灯	93.8%	3 予備の乾電池	47.6%
4 ヘルメット・防災頭巾	42.8%	5 非常食	66.4%	6 飲料水	63.0%
7 ティッシュペーパー・トイレトペーパー			58.6%	8 スプーン・はし・カップ	31.2%
9 下着・くつ下	38.9%	10 救急薬品・常備薬	44.0%	11 お薬手帳	16.1%
12 タオル	57.0%	13 手ぶくろ	49.8%	14 現金	27.9%
15 雨具	29.3%	16 毛布又は寝袋	19.7%	17 ビニール袋	42.6%
18 リュックサック	60.4%	19 筆記用具・ノート	21.7%	20 ライター・マッチ	34.4%
21 ナイフ・缶切り	22.9%	22 生理用品・おむつ	17.3%	23 くつ・スリッパ	26.0%
24 その他（具体的に	8.7%)

0.0%

<全ての方にお伺いします。>

問 13 東海地震が予知され警戒宣言が発せられたときや、突然、東海地震が起きたときの避難のため、市町はあらかじめ避難地を指定していますが、あなたの住む地域の避難地をご存知ですか。(○は1つ)

1 どこが避難地であるか知っている	89.2%	2 避難地があることは知っているが場所は知らない	7.0%
3 全く知らない	2.3%		

1.6%

3 住宅の耐震補強について

昭和 56 年以前の木造住宅は、古い耐震基準の建物で、予想される東海地震が発生した場合には、立地する地盤等にもよりますが、大きな被害が起こる可能性があるかと推測されます。このことを踏まえた上でお答えください。

<全ての方にお伺いします。>

問 14 あなたのお住まいの家は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

1 木造住宅	71.4%	2 鉄骨造住宅	17.3%
3 鉄筋コンクリート造住宅	9.1%	4 その他(具体的に	1.1%

1.1%

→木造住宅以外の方は、問 15 (9 ページ) へ進んでください。

<問 14 で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問 14-1 あなたのお住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。(〇は1つ)

1 昭和 56 年 5 月以前	32.1%	2 昭和 56 年 6 月以降	66.5%
-----------------	-------	-----------------	-------

1.4%

→昭和 56 年 6 月以降の方は、問 15 (9 ページ) へ進んでください。

<問 14-1 で「1 昭和 56 年 5 月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問 14-2 市町では、昭和 56 年 5 月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施していることを知っていますか。(〇は1つ)

1 知っている	67.9%	2 知らない	26.9%
---------	-------	--------	-------

5.1%

<問 14-1 で「1 昭和 56 年 5 月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問 14-3 耐震診断をしたことがありますか。(〇は1つ)

1 ある	26.1%	2 検討中	5.1%	3 ない	68.4%
------	-------	-------	------	------	-------

0.4%

問 15 (9 ページ) へ進んでください。

<問 14-3 で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。>

問 14-3-1 耐震診断をしないのはなぜですか。(〇は1つ)

1 診断方法がわからないから	10.6%	2 手間がかかるから	6.9%
3 費用がかかるから	17.5%	4 診断しても大地震の被害は避けられないと思うから	36.9%
5 東海地震が起こると思わないから	0.0%	6 借家だから	10.0%
7 診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから	5.0%		
8 その他(具体的に	12.5%		

0.6%

回答後、問 15 (9 ページ) へ進んでください。

問 14-3-2 (8 ページ) へ進んでください。

<問14-3で「1 ある」を選んだ方にお伺いします。>

問14-3-2 結果はいかがでしたか。(〇は1つ)

1 補強が必要	83.6%	2 補強は不要	11.5%	→ 問15 (9ページ) へ進んでください。
---------	-------	---------	-------	------------------------

4.9%

<問14-3-2で「1 補強が必要」を選んだ方にお伺いします。>

問14-3-3 診断後、補強しましたか。(〇は1つ)

1 した	51.0%	2 検討中	19.6%	3 しない	27.5%
------	-------	-------	-------	-------	-------

2.0%

→ 問15 (9ページ) へ進んでください。

<問14-3-3で「3 しない」を選んだ方にお伺いします。>

問14-3-4 補強をしないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

1 補強のやり方が分からないから	14.3%	2 費用がかかるから	78.6%
3 手間がかかるから	0.0%	4 工事をどこに頼んだらよいか分からないから	0.0%
5 補強しても大地震の被害は避けられないと思うから	14.3%	6 借家だから	0.0%
7 その他 (具体的に	42.9%)

0.0%

<全ての方にお伺いします。>

問 15 現在、静岡県では木造住宅の耐震化促進事業『プロジェクト“^{トウカイ}TOUKAI（東海・倒壊）－0（ゼロ）”』を推進しています。この事業の内容は、①専門家による無料耐震診断 ②耐震補強計画策定への補助 ③耐震補強工事への補助の3つの項目からなっています。あなたは、このことをご存知ですか。（○は1つ）

1	内容までよく知っている	5.8%	2	一部知っている	33.3%	--▶ 問16へ進んでください。
3	名前だけしか知らない	17.7%	4	知らなかった	41.4%	

1.8%

<問15で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問 15-1 あなたは『プロジェクト“^{トウカイ}TOUKAI（東海・倒壊）－0（ゼロ）”』をどのようにして知りましたか。（○はいくつでも）

1	新聞記事	37.3%	2	県や市町の広報誌	60.4%	3	県や市町のパンフレット	29.3%
4	役所に直接聞いた	3.0%	5	自主防災新聞	11.0%	6	テレビ・ラジオ	35.8%
7	回覧板	24.6%	8	県のホームページ	2.8%	9	市町のホームページ	2.3%
10	市町からのアンケート調査	2.5%	11	その他（具体的に	7.0%			

5.3%

<問15で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問 15-2 あなたは『プロジェクト“^{トウカイ}TOUKAI（東海・倒壊）－0（ゼロ）”』を知って、何か行った行動（現在行っている場合を含む）はありますか。次の中からあてはまるものをお選びください。（○はいくつでも）

1	簡易耐震診断を自分で行った	4.8%	2	専門家による耐震診断を実施した	10.0%
3	耐震補強計画を作成した	0.8%	4	自宅の耐震補強工事を実施した	8.0%
5	今後、自宅の耐震補強をしたいと考えている	7.5%	6	今の自宅を建て替えることにした	8.0%
7	自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない				15.5%
8	自宅は木造住宅であるが、耐震性は確保されているので特に何もしていない				21.1%
9	自宅は木造住宅であり、耐震性は確保されていない（または明らかではない）が、特に何もしていない				18.3%
10	その他（具体的に	8.3%			

8.3%

<全ての方にお伺いします。>

問 16 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがありますか。次の中からあてはまるものをお選びください。（○はいくつでも）

1	相談窓口の設置	32.2%	2	地区ごとの説明会の実施	22.1%
3	専門家の派遣	21.3%	4	耐震補強工事に対する助成制度の拡充	47.7%
5	低金利資金による貸付	18.9%	6	アパート等のオーナーに対する指導	10.7%
7	なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット	25.8%	8	その他（具体的に	3.9%

10.5%

4 自主防災組織・防災訓練について

＜全ての方にお伺いします。＞

問17 あなたのお宅は、町内会（自治会）組織に入っていますか。（〇は1つ）

1 入っている	92.3%	2 入っていない	3.1%
3 町内会（自治会）組織はない	0.4%	4 わからない	2.9%

1.3%

＜全ての方にお伺いします。＞

問18 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。（〇は1つ）

1 入っている	73.8%	2 入っていない	7.3%
3 自主防災組織はない	0.3%	4 わからない	16.5%

2.1%

＜問18で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。＞

問18-1 あなた自身は、自主防災組織の活動に参加していますか。（〇は1つ）

1 自主防災組織の会長や副会長、防災委員など、自主防災組織の役員として参加している	8.0%
2 役員以外の自主防災組織内で定まった役割（消火班、避難誘導班など）で参加している	15.1%
3 自主防災組織内で定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している	57.0%
4 参加していない	16.6%

3.3%

＜問18で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。＞

問18-2 あなたの地区の自主防災組織の活動は活発と思いますか。（〇は1つ）

1 活発である	11.9%	2 まあまあ活発である	50.4%	3 あまり活発ではない	20.8%
4 活発ではない	4.4%	5 わからない	7.6%		

4.9%

＜全ての方にお伺いします。＞

問19 自主防災組織が抱える課題は何だと思いますか。（〇はいくつでも）

1 率先して活動するリーダーがいない	16.3%	2 防災訓練の内容がマンネリ化している	48.2%
3 住民の防災に関する理解が不十分である	23.1%	4 地域を構成する世帯や人員の把握ができていない	10.0%
5 住民同士が連帯する意識が希薄である	29.5%	6 行政からの支援やサポートがない	7.5%
7 防災活動に使える予算が少ない	10.0%	8 限られた住民だけの活動となっている	41.4%
9 その他（具体的に	4.6%		
10 自主防災活動に参加していないので、わからない	12.1%		

3.9%

<全ての方にお伺いします。>

問20 自主防災組織の活動をさらに高めるには、県や市町はどのようにすればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

1	自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする	55.5%
2	自主防災組織に活動の場所や施設を提供する	17.2%
3	自主防災組織の役員や指導者に対する教育を行う	25.0%
4	県や市町が実施する防災研修等の受講者が、自主防災組織の会長を補佐して活動を指導する体制をつくる	15.5%
5	自主防災組織が、消防団・近隣事業所・学校など他の機関との連携を進めるような施策を行う	35.3%
6	災害時要援護者(避難等に助けが必要な人)に関する情報を自主防災組織に伝える	21.6%
7	その他(具体的に	5.6%

6.6%

<全ての方にお伺いします。>

問21 あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

1	総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した	33.2%
2	地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した	43.4%
3	その他の防災訓練に参加した	11.6%
4	機会がなかった(訓練はなかった)	4.0%
5	参加しなかった	29.0%

1.5%

<問21で「1 総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した」「2 地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問21-1 その防災訓練はどちらで参加しましたか。(〇はいくつでも)

1	自主防災組織(町内会)での訓練に参加した	80.3%	2	職場や学校での訓練に参加した	28.0%
3	その他(訓練の実施主体を具体的に	2.2%)	

1.9%

<問21で「5 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>

問21-2 参加しなかった理由は何ですか。(〇は1つ)

1	仕事や用事があったから	60.5%	2	訓練実施を知らなかったから	10.5%
3	面倒だったから	5.7%	4	参加の必要性を感じないから	6.1%
5	毎回同じ訓練内容だから	5.1%	6	その他(具体的に	11.1%)

1.0%

<全ての方にお伺いします。>

問22 あなたは避難所で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。次の1～12について、あてはまる項目にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

質 問 項 目	非常に心配	ある程度心配	あまり心配はない	全く心配していない (該当しない)	
1 食料や水の問題	39.0%	45.7%	11.9%	0.5%	2.9%
2 日用品（毛布や下着など）の問題	30.2%	50.7%	15.1%	0.6%	3.4%
3 自分や家族が病気になったときの医療問題	58.9%	32.4%	4.4%	0.4%	3.9%
4 乳幼児、高齢者、体の不自由な者がいるので、一般の人と一緒に生活できるか心配	25.3%	23.6%	19.3%	24.6%	7.2%
5 洗濯や入浴の問題	37.4%	47.4%	11.7%	1.0%	2.5%
6 トイレの問題	60.8%	28.8%	7.5%	0.6%	2.3%
7 応急の仮設住宅がいつ建設されるか心配	36.9%	42.8%	13.6%	2.2%	4.5%
8 不安や精神的なストレスのため体調を崩してしまいそうで心配	35.2%	39.4%	20.2%	2.3%	3.0%
9 プライバシーの問題	40.5%	39.0%	15.4%	1.8%	3.3%
10 離ればなれになった家族や親戚などの安否が気になる	61.7%	26.9%	6.0%	2.1%	3.3%
11 ペット（犬や小鳥など）の問題	18.8%	13.0%	10.1%	51.8%	6.3%
12 避難する場所が少なく（狭く）、全ての避難者を収容できるか心配	38.3%	41.1%	13.5%	1.6%	5.5%
その他、心配なことがありましたら具体的にお書きください。					

5 東海地震が突然発生したときの行動について

以下の質問は、突然、震度6強（固定していない家具類はほとんど倒れ、足元がさらわれ、立っていることができないような揺れ）以上の地震が起こった場合を想定してお伺いします。

<全ての方にお伺いします。>

問 23 平日の午前 11 時頃に突然地震が起こった場合、揺れがおさまったらあなたがまず最初にすることを下記の項目の中から**1つ**選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを**3つ**選んでB欄に○をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にすること (○は1つ)	B欄 その次にすること (○は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	44.7%	39.2%
2 電話で行政に情報を確認する	0.0%	2.2%
3 インターネットで情報を確認する	2.1%	8.3%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする	5.6%	48.6%
5 家の中の整理や火の始末をする	21.5%	33.7%
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	0.6%	19.9%
7 家族の安否を確認する（災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等）	11.5%	49.0%
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	1.4%	11.6%
9 買出しに行く	0.0%	3.0%
10 預金を引き出しに行く	0.1%	1.8%
11 帰宅する	1.5%	14.5%
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	3.0%	10.9%
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	5.9%	36.5%
14 その他	0.8%	2.6%
15 何もしない	0.2%	0.0%
	1.3%	2.8%

<全ての方にお伺いします。>

問 24 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。(○は1つ)

1 参加する	40.9%	2 参加しない	8.2%	3 わからない	47.4%
					3.4%

<問 24 で「参加する」を選んだ方にお伺いします。>

問 24-1 どのような活動に参加することを考えていますか。(○はいくつでも)

1 火災発生時の初期消火	59.8%	2 生き埋め者の救出・救助	41.4%
3 負傷者の応急手当・搬送	50.2%	4 避難の呼びかけ、避難の誘導	60.8%
5 避難所の運営	31.1%	6 その他（具体的に	5.7%
			0.5%

<全ての方にお伺いします。>

問 25 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。(〇は1つ)

1	まず無事だと思う	13.8%	2	軽いけががぐらいはするかもしれない	46.3%
3	大けがをする危険があると思う	12.5%	4	死ぬ恐れもあると思う	24.8%
					2.5%

<全ての方にお伺いします。>

問 26 あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族は一時的に避難しますか。また、避難する場合はどこに避難しますか。(〇は1つ)

1	避難しない	29.5%	2	市町が指定した避難地	47.6%
3	自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所	18.0%	4	親戚、知人宅	1.5%
5	その他(具体的に	2.1%)		
					1.4%

<問26で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺いします。>

問 26-1 避難する理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1	自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから	32.3%
2	自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから	10.8%
3	自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから	15.4%
4	自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)	22.0%
5	自宅の倒壊の危険はないが、不安だから	29.3%
6	その他(具体的に	4.5%
		13.3%

<問26-1で「1 自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」を選んだ方にお伺いします。>

問 26-1-1 地震が起こってから何分後に避難開始しますか。(〇は1つ)

1	地震発生直後~5分	48.7%	2	6~10分	32.0%	3	11~20分	4.4%	
4	21~30分	3.1%	5	31~60分	0.9%	6	60分以上	0.0%	
7	わからない	9.6%							
									1.3%

<問26で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺いします。>

問 26-2 避難するときの交通手段は何ですか。(〇は1つ)

1	徒歩	78.9%	2	自転車	2.7%	3	原付・バイク	0.8%	4	自家用車	7.2%
5	公共交通機関(電車・バス・タクシー等)	0.0%	6	その他(具体的に	0.0%)					
											10.3%

<問26-2で「4 自家用車」を選んだ方にお伺いします。>

問 26-2-1 なぜ自家用車で避難するのですか。(〇は1つ)

1	避難地が遠いから	25.5%	2	子供や高齢者がいるから	39.2%	3	早く避難できるから	7.8%	
4	荷物も運びたいから	13.7%	5	その他(具体的に	13.7%)			
									0.0%

6 警戒宣言が発せられたときの行動について

<全ての方にお伺いします。>

問 27 平日の午前11時頃に警戒宣言が発せられたと仮定して、あなたがまず最初にすることを下記の項目の中から**1つ**選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを**3つ**選んでB欄に○をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にすること (○は1つ)	B欄 その次にすること (○は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	54.7%	29.1%
2 電話で行政に情報を確認する	0.3%	2.3%
3 インターネットで情報を確認する	2.9%	9.3%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする	6.5%	54.3%
5 家の中の整理や火の始末をする	11.3%	40.5%
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	1.1%	31.2%
7 家族と電話で連絡をとる	9.0%	43.6%
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	1.4%	11.5%
9 買出しに行く	0.2%	4.8%
10 預金を引き出しに行く	0.3%	2.4%
11 帰宅する	2.5%	15.6%
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	3.5%	8.2%
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	3.6%	25.7%
14 その他	0.8%	2.0%
15 何もしない	0.5%	0.4%
	1.5%	3.6%

<全ての方にお伺いします。>

問 28 あなたのお宅は、警戒宣言が発せられたとき、避難が必要な地域ですか。(○は1つ)

1 避難が必要な地域	31.4%	2 避難する必要のない地域	29.0%	3 わからない	36.9%
					2.6%

<問 28 で「1 避難が必要な地域」を選んだ方にお伺いします。>

問 28-1 避難が必要となる理由は何ですか。(○はいくつでも)

1 自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから	62.9%	
2 自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから	19.6%	
3 自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから	21.5%	
4 自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)	24.9%	
5 自宅の倒壊の危険はないが、不安だから	17.8%	
6 その他(具体的に	3.1%	
		0.3%

<全ての方にお伺いします。>

問 29 あなたやご家族は、自宅において警戒宣言が発せられた場合、避難しますか。(〇は1つ)

1 市町で指定した避難地	49.3%	2 指定された避難地以外の安全な場所	8.7%
3 親戚、知人宅	1.4%	4 自宅にいる	38.4%
5 その他(具体的に	1.2%)	

1.1%

<問 29 で「1 市町で指定した避難地」「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問 29-1 避難するときの交通手段は何ですか。(〇は1つ)

1 徒歩	83.7%	2 自転車	4.6%	3 原付・バイク	0.5%	4 自家用車	6.6%
5 公共交通機関(電車・バス・タクシー等)	0.0%	6 その他(具体的に	0.0%)			

4.6%

<問 29-1 で「4 自家用車」を選んだ方にお伺いします。>

問 29-1-1 なぜ自家用車で避難するのですか。(〇は1つ)

1 避難地が遠いから	35.0%	2 子供や高齢者がいるから	35.0%
3 早く避難できるから	10.0%	4 荷物も運びたいから	5.0%
5 その他(具体的に	10.0%)	

5.0%

<問 29 で「1 市町で指定した避難地」を選んだ方のみにお伺いします。>

問 29-2 避難地での生活はどのようになると思われますか。(屋外・屋内など)(〇は1つ)

1 屋外でのテント生活になると思う	5.2%
2 体の丈夫な人は屋外になると思うが、お年寄りや病人は屋内での生活になると思う	15.9%
3 体育館や学校校舎など屋内での生活になると思う	61.6%
4 わからない	15.1%

2.2%

<問 29 で「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」「4 自宅にいる」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問 29-3 市町で指定した避難地へ避難しない理由は何ですか。(〇は1つ)

1 避難地が遠すぎるから	7.5%	2 避難地へ行く途中の道に危険なところがあるから	5.9%
3 避難地自体が安全だと思わないから	17.2%	4 避難地での生活が野外のテント生活になると思うから	1.8%
5 どこが避難地なのか知らないから	3.2%	6 避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから	7.3%
7 高齢者や病人がいるから	8.1%	8 自主防災組織などの避難誘導体制が不十分であるから	0.8%
9 避難地ではプライバシーが守れないから	5.3%	10 避難所が狭いから	5.7%
11 その他(具体的に	17.0%)	

20.4%

7 地震に関する情報について

<全ての方にお伺いします。>

問 30 東海地震に関連する情報として「東海地震に関連する調査情報」「東海地震注意情報」「東海地震予知情報（警戒宣言）」の3つがあります。あなたは、このことをご存知ですか。（〇は1つ）

1 情報の詳しい内容まで知っている	6.3%	2 情報名は知っているが内容までは知らない	63.5%
3 全く知らない	29.0%		
			1.3%

<全ての方にお伺いします。>

問 31 あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。（〇は1つ）

1 完全に予知できると思う	0.2%	2 8割以上の確率で予知できると思う	7.0%
3 5割くらいの確率で予知できると思う	17.5%	4 全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う	60.6%
5 予知はできないと思う	14.0%		
			0.7%

<全ての方にお伺いします。>

問 32 「警戒宣言」を発するには至らないが、東海地震の前兆現象が起きている可能性が高いと認められたとき、気象庁から「東海地震注意情報」が発表されます。このような場合に、まず最初にすることを下記の項目の中から**1つ**選び、A欄に〇をつけてください。また、その次にすることを**3つ**選んでB欄に〇をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にすること (〇は1つ)	B欄 その次にすること (〇は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	59.1%	26.3%
2 電話で行政に情報を確認する	1.0%	1.9%
3 インターネットで情報を確認する	4.7%	11.8%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする	9.3%	57.5%
5 家の中の整理や火の始末をする	6.9%	44.4%
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	2.0%	36.8%
7 家族と電話で連絡をとる	7.5%	44.0%
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	1.5%	8.9%
9 買出しに行く	1.2%	12.4%
10 預金を引き出しに行く	0.5%	5.5%
11 帰宅する	1.9%	11.1%
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	1.7%	5.9%
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	1.3%	15.5%
14 その他	0.5%	2.1%
15 何もしない	0.4%	0.9%
	0.8%	2.5%

<全ての方にお伺いします。>

問 33 「東海地震注意情報」が発表された場合、県や市町にどのような対応を望みますか。(〇は2つまで)

1	情報発表後に予想される社会的混乱(交通・通信・物価等)を防止してほしい	44.7%
2	地震発生までの県民のとりべき行動の広報・啓発をしてほしい	40.5%
3	地震が発生した後の県民のとりべき行動の広報・啓発をしてほしい	29.7%
4	避難所の開設準備をすすめてほしい	22.2%
5	緊急物資(食料・飲料水・医薬品等)を準備してほしい	47.3%
6	消防水利や山・がけ崩れ等、地域の安全点検を実施してほしい	5.8%
7	その他(具体的に	0.4%

0.6%

<全ての方にお伺いします。>

問 34 平成 25 年 3 月 7 日から、巨大地震の発生時には予想される津波の高さを「巨大」「高い」という分かりやすい表現で発表するなど、津波警報が改善されました。あなたは、このことをご存知ですか。(〇は1つ)

1	改善内容まで知っている	13.5%	2	改善されたことは知っているが内容までは知らない	58.8%
3	全く知らない	26.2%			

1.6%

●改善後の津波警報・津波注意報の分類と、とりべき行動

	予想される津波の高さ		とりべき行動	想定される被害
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現		
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	<p>沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。</p> <p style="background-color: #ffcccc; padding: 5px; text-align: center;">ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!</p>  <p>津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(気象庁)の1シーン</p>	<p>木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。</p>  <p>(10mを超える津波により木造家屋が流失)</p>
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	 <p>津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(気象庁)の1シーン</p>	<p>標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。</p>  <p>豊頃町提供 (2003年)</p>
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	<p>海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。</p> 	<p>海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。</p> 

<全ての方にお伺いします。>

問 35 平成 25 年 8 月 30 日から、数十年に一度の大災害が起こると予想される場合に発表される特別警報の運用が開始されました。あなたは、このことをご存知ですか。(〇は1つ)

1 発表基準の内容まで知っている	9.1%	2 運用開始は知っているが発表基準の内容までは知らない	56.5%
3 全く知らない	33.4%		

1.0%

●特別警報の発表基準

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

現象の種類	基準
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合 (大津波警報 を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(居住地域)* を特別警報に位置づける)
地震 (地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上) を特別警報に位置づける)

<全ての方にお伺いします。>

問 36 地震の強い揺れが来ることを、揺れる前にお知らせする情報である緊急地震速報が、気象庁からテレビ、ラジオ、緊急速報メール（エリアメール）などを通じて提供されています。あなたは、緊急地震速報について知っていますか。（○は1つ）

1 名前も内容も知っている	59.8%	2 名前は知らないが内容は知っている	15.0%
3 名前は知っているが内容は知らない	21.0%	4 名前も内容も知らない	3.0%

1.2%

<問36で「1 名前も内容も知っている」「2 名前は知らないが内容は知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問 36-1 緊急地震速報は、揺れの大きさの予想などに誤差が含まれる情報であることをご存知ですか。（○は1つ）

1 知っている	76.2%	2 知らない	20.7%
---------	-------	--------	-------

3.1%

<問36で「1 名前も内容も知っている」「2 名前は知らないが内容は知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問 36-2 あなたは、緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことはありますか。（○は1つ）

1 考えたことがある	73.3%	2 考えたことがない	22.9%
------------	-------	------------	-------

3.8%

<全ての方にお伺いします。>

問 37 あなたは、屋内で緊急地震速報を受け取ったとき、まずはどのように行動しますか。（○は1つ）

1 その場で身の安全を図る	60.6%	2 屋外へ避難する	7.5%
3 火元を確認する	27.3%	4 何もしない	1.6%
5 その他（具体的に	1.6%)

1.4%

<全ての方にお伺いします。>

問38 次の1～24の項目について「はい」「いいえ」の欄に○をつけてください。

質 問 項 目	はい	いいえ	
1 「自主防災」新聞を読んだことがある	58.5%	40.3%	1.3%
2 自主防災組織が実施する研修会に参加したことがある	21.4%	77.0%	1.7%
3 地震防災に関する講演会等に参加したことがある	20.0%	78.6%	1.5%
4 市町が避難対象地区の指定をしていることを知っている	55.6%	42.7%	1.7%
5 避難地・避難路の整備がされていることを知っている	40.6%	58.0%	1.4%
6 防潮堤、防波堤、山崩れ防止工事など防災施設の整備がされていることを知っている	54.0%	44.3%	1.8%
7 市町が津波避難ビルの指定や、津波避難タワー・命山の建設をしていることを知っている	68.0%	30.2%	1.9%
8 避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある	77.8%	21.3%	1.0%
9 町内の防火のための水利（いざというときに利用する水源）を知っている	39.0%	59.0%	2.1%
10 町内の防災倉庫がある場所を知っている	74.3%	24.5%	1.2%
11 地震防災ビデオを見たことがある	44.3%	54.4%	1.4%
12 地震体験車（起震車）などで地震の疑似体験をしたことがある	42.7%	56.3%	1.0%
13 静岡県地震防災センター（静岡市葵区駒形通）に行ったことがある	16.4%	82.7%	1.0%
14 建物の耐震対策について市町や県の土木事務所に相談窓口があることを知っている	31.1%	67.5%	1.4%
15 災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている	75.0%	24.0%	1.0%
16 緊急速報メール（エリアメール）を知っている	75.0%	24.0%	1.0%
17 地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	77.6%	21.5%	0.9%
18 11月が地震防災強化月間であることを知っている	29.1%	69.8%	1.1%
19 「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	18.5%	80.3%	1.2%
20 「命のパスポート」を知っている	11.4%	87.2%	1.5%
21 災害図上訓練「DIG」を体験したことがある	4.1%	94.4%	1.5%
22 避難所運営ゲーム「HUG」を体験したことがある	1.9%	97.2%	1.0%
23 自主防災組織災害対応訓練「イメージTEN」を体験したことがある	1.6%	97.4%	1.1%
24 県が「静岡県第4次地震被害想定」を策定したことを知っている	20.8%	78.0%	1.3%

<全ての方にお伺いします。>

問39 現在、「自主防災」新聞は原則回覧としていますが、全戸配布してほしいと思いますか。（○は1つ）

1 全戸配布してほしい	61.3%	2 全戸配布でなくてもよい	36.4%
-------------	-------	---------------	-------

2.3%

8 東日本大震災以降の防災対策について

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災以降の防災対策についておたずねします。

<全ての方にお伺いします。>

問 40 あなたは、東日本大震災の後に、新たに実施した防災対策がありますか。次の中からあてはまるものをA欄にいくつでもお答えください。また、今後、1年間以内（平成 26 年 12 月まで）にあらためて実施しようと考えている防災対策がありますか。次の中からあてはまるものをB欄にいくつでもお答えください。（〇はA・Bの欄にいくつでも）

質 問 項 目	A 欄 実施した	B 欄 今後実施する予定
1 家具を何も置いていない部屋を寝室にした	21.2%	11.9%
2 寝室の家具を移した	15.0%	11.0%
3 ガスを使わないときには元栓を締めるようにした	21.8%	13.1%
4 火気器具のまわりを整理するようにした	27.6%	9.0%
5 石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにした	31.2%	3.6%
6 風呂に水を入れるようにした	23.7%	13.6%
7 消火器や水を入れたバケツなどを用意するようにした	19.5%	13.8%
8 ガラス飛散防止をした	7.4%	18.2%
9 プロパンガスボンベが倒れないようにした	14.6%	5.3%
10 家具が倒れないように固定した	29.6%	19.4%
11 ブロック塀の点検や転倒防止を施した	8.2%	10.1%
12 防災訓練に積極的に参加した	31.1%	10.8%
13 非常持出品を用意した	41.2%	23.7%
14 耐震診断を実施した	4.1%	11.9%
15 耐震補強を実施した	4.8%	11.3%
16 棚の上の重いものをおろした	23.8%	11.9%
17 食料・飲料水を備蓄した	49.9%	20.0%
18 割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意した	31.2%	14.5%
19 防災についての家族の役割を話しあった	13.7%	17.6%
20 自分の住んでいる地域の危険性を確認した（津波、山・崖崩れの危険など）	31.5%	9.4%
21 家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めた	24.1%	18.7%
22 家族との連絡方法を決めた	23.1%	24.9%
23 地震の時に避難する場所を決めた	36.0%	12.8%
24 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	25.6%	22.1%
25 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認した	19.2%	13.4%
26 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めた	10.9%	6.4%
27 その他（具体的に)	1.9%	1.4%
	9.8%	31.7%

<全ての方にお伺いします。>

問 41 あなたは、東日本大震災の状況をふまえて、今後、県や市町に対して要望することがありますか。次の中からあてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも)

1	防潮堤、防波堤、水門等の整備	27.9%
2	津波から一時避難するための高台の整備	27.5%
3	津波避難ビルの指定や避難タワーの設置	27.7%
4	海岸から高台へ緊急避難するための避難階段や手すりの整備	14.3%
5	避難通路の安全性確保（障害物撤去、夜間照明の設置など）	35.5%
6	地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備	45.7%
7	高所移転できる場所の整備	11.9%
8	津波避難看板、海拔表示の設置	13.8%
9	山・がけ崩れ防止施設の整備	24.9%
10	自主防災組織の活性化に向けた支援	26.2%
11	防災に関する公開講座、研修会等の実施	11.1%
12	学校での防災教育の促進	22.1%
13	防災訓練の実施強化	17.5%
14	災害時要援護者支援計画の策定促進	11.9%
15	帰宅困難者対策の促進	26.6%
16	ハザードマップの作成、配布	30.6%
17	水・食料の備蓄の強化	64.9%
18	同報無線等による緊急時の情報伝達の強化	34.2%
19	防災に関する情報提供の充実	31.2%
20	漁船や貨物などの流出対策	4.1%
21	オイルタンク流出に伴う火災対策	8.4%
22	港湾施設内への津波情報伝達施設の設置	6.3%
23	その他（具体的に	4.5%

) 5.5%

9 あなたやお宅のことについて

<全ての方にお伺いします。>

F 1 性別 (○は1つ)

1 男性	46.0%	2 女性	52.3%
------	-------	------	-------

1.7%

<全ての方にお伺いします。>

F 2 年齢 (○は1つ)

1 20~29 歳	8.8%	2 30~39 歳	12.7%	3 40~49 歳	17.5%
4 50~59 歳	20.6%	5 60~69 歳	27.8%	6 70 歳以上	10.8%

1.8%

<全ての方にお伺いします。>

F 3 職業 (○は1つ)

1 正社員として勤務 (会社員、公務員、医療関係を含む)	33.7%		
2 正社員以外として勤務 (パート、フリーターを含む)	21.9%	3 自営業	9.0%
4 農林漁業経営者	2.0%	5 学生	2.0%
6 無職		7 その他 (具体的に	27.2%
			2.4%

1.9%

<全ての方にお伺いします。>

F 4 あなたは、現在のところにお住みになって何年くらいになりますか。(○は1つ)

1 1年未満	3.0%	2 1~10年未満	21.0%	3 10年以上	74.2%
--------	------	-----------	-------	---------	-------

1.8%

<全ての方にお伺いします。>

F 5 あなたのお宅は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 持家 (一戸建て)	84.0%	2 持家 (マンション)	2.4%	3 賃貸 (一戸建て)	3.2%
4 賃貸 (マンション・アパート)	7.8%	5 その他 (具体的に	0.8%		

1.7%

<全ての方にお伺いします。>

F 6 あなたのお宅はどのような建物や家財に関わる保険に加入していますか。(○はいくつでも)

1 火災保険	68.0%	2 地震保険	39.8%	3 農協の建物更生共済 (建更)	22.2%
4 家財等の保険	28.6%	5 加入していない	7.8%	6 わからない	6.8%

2.3%

<全ての方にお伺いします。>

F 7 あなたのお宅には次に該当する方がいますか。(○はいくつでも)

1 小学校に入学する前の子供	12.7%	2 小学生	13.2%	3 65歳以上の方	56.1%
4 日常生活に介護を必要とする方	9.6%	5 妊産婦	1.0%	6 いない	24.8%

4.8%

<全ての方にお伺いします。>

F8 あなたは、近所づきあいをどのようにしていますか。(〇は1つ)

1	ほとんどつきあいがいい	4.4%	2	挨拶をする程度	31.0%
3	ときどき立ち話をする程度	41.6%	4	留守を頼んだり、親しく話をする	21.0%

2.0%

<全ての方にお伺いします。>

F9 あなたのお住まいの市町はどちらですか。(〇は1つ)

1	下田市	1.4%	2	東伊豆町	0.0%	3	河津町	0.5%			
4	南伊豆町	0.7%	5	松崎町	0.0%	6	西伊豆町	0.7%			
7	沼津市	6.2%	8	熱海市	1.1%	9	三島市	2.8%	10	富士宮市	3.6%
11	伊東市	1.5%	12	富士市	6.2%	13	御殿場市	2.2%	14	裾野市	1.5%
15	伊豆市	0.8%	16	伊豆の国市	0.9%	17	函南町	1.0%	18	清水町	0.0%
19	長泉町	1.3%	20	小山町	0.6%						
21	静岡市葵区	7.1%	22	静岡市駿河区	5.9%	23	静岡市清水区	6.0%			
24	島田市	2.4%	25	焼津市	3.8%	26	藤枝市	3.3%			
27	牧之原市	0.9%	28	吉田町	0.0%	29	川根本町	0.1%			
30	浜松市中区	5.5%	31	浜松市東区	3.0%	32	浜松市西区	3.4%	33	浜松市南区	3.4%
34	浜松市北区	2.4%	35	浜松市浜北区	2.4%	36	浜松市天竜区	1.4%			
37	磐田市	5.6%	38	掛川市	3.1%	39	袋井市	2.4%			
40	湖西市	1.6%	41	御前崎市	0.6%	42	菊川市	1.1%	43	森町	0.1%

1.7%

お疲れ様でした。

質問は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

平成25年度 東海地震についての県民意識調査
報 告 書

印刷・発行 平成26年3月

発行：静岡県危機管理部危機情報課
静岡県葵区追手町9番6号
電話 054-221-3694

分析：株式会社サーベイリサーチセンター
静岡県葵区追手町8番1号
電話 054-251-3661